

平成28年度 博士学位論文

談話分析からみた日本語学習者と母語話者の
聞き手言語行動の実証的研究

首都大学東京大学院 人文科学研究科

人間科学専攻 日本語教育学教室

李 舜 炯

博士論文

平成28年4月28日提出

談話分析からみた日本語学習者と母語話者の
聞き手言語行動の実証的研究

首都大学東京大学院 人文科学研究科

人間科学専攻 日本語教育学教室

イ スン ヒョン
李 舜 炯

主査：首都大学東京 ロング ダニエル 教授

副査：大阪府立大学 西尾 純二 教授

副査：首都大学東京 奥野 由紀子 准教授

目次

第 1 部 本研究の背景	1
第 1 章 序論	2
1.1. 研究背景と目的	2
1.2. 本研究の構成	5
第 2 章 先行研究と本研究の位置づけ	6
2.1. はじめに	6
2.2. 日本語の聞き手言語行動の研究の始まり	7
2.3. 話し手の発話部分に対する聞き手言語行動：あいづち表現、繰り返し、言い換え	9
2.3.1. 先行研究における定義	9
2.3.2. 表現形式と機能	10
2.3.3. 頻度とタイミング	14
2.3.4. 変異の生起要因	16
2.3.5. 談話展開の観点	17
2.3.6. 先行研究の課題および本研究の立場	17
2.4. 話し手の非発話部分に対する聞き手言語行動：先取り	18
2.4.1. 先行研究における定義	19
2.4.2. 共話的反応の出現率	24
2.4.3. 表現形式と機能	25
2.4.4. 変異の生起要因	26
2.4.5. 先取りと共話に関する先行研究の成果および残された課題	26
2.5. 本研究における聞き手言語行動の定義と範囲	28
2.5.1. 聞き手とは	28
2.5.2. あいづち的反応とは	30
2.5.3. 共話的反応とは	32
2.6. 本研究の課題および本章のまとめ	40
第 3 章 研究方法と理論的枠組み	42
3.1. 使用・収集するデータ	42
3.1.1. 聞き手言語行動と対話相手との社会的関係を分析するためのデータ	47
3.1.2. 言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを分析するためのデータ	49

3.1.3. 日本語母語話者の共話の展開構造を分析するためのデータ	51
3.1.4. 接触場面における共話の展開パターンを分析するためのデータ	52
3.2. 分析の理論的枠組み	53
3.2.1. 談話・会話分析の方法論	54
3.2.2. ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson)によるポライトネス理論	56
第 2 部 変異生起要因の観点	63
第 4 章 スタイルの観点からみたあいづち表現の使用傾向	64
4.1. はじめに	64
4.2. 先行研究	65
4.3. 本章におけるあいづち表現の定義および分類	66
4.4. 研究の方法	68
4.4.1. 調査の目的	68
4.4.2. 使用データの概要	68
4.5. 分析と考察	69
4.5.1. 対話相手が同年の場合のあいづち表現の使用	70
4.5.2. 対話相手が年上の場合のあいづち表現の使用	72
4.5.3. 丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現の使用傾向	75
4.6. 本章のまとめ	77
第 5 章 対話相手との年齢差・性別差に応じたあいづち表現の使用実態	80
5.1. はじめに	80
5.2. 先行研究	81
5.3. 研究方法	83
5.4. 分析と考察	85
5.4.1. あいづち表現の対人差	85
5.4.2. 感声的あいづち表現の使用状況	87
5.4.3. 概念的あいづち表現の使用状況	90
5.5. 本章のまとめ	96
第 6 章 対人関係に応じた「共話的反応の型」の使い分け	98
6.1. はじめに	98
6.2. 先行研究	100
6.3. 調査の概要	100
6.3.1. 使用データ	100

6.3.2. 調査の範囲	102
6.4. 分析と考察	103
6.4.1. 共話的反応の型の使用状況	103
6.4.2. 対話相手による「共話的反応の型」の機能別使い分け	104
6.5. 本章のまとめ	108
第 3 部 言語能力の観点	110
第 7 章 韓国人日本語学習者の言語能力レベル別にみたあいづち的反応の使用実態	111
7.1. はじめに	111
7.2. 先行研究	112
7.2.1. 学習者の言語能力レベルと表現形式に関する研究	112
7.2.2. 学習者のあいづち的反応と機能分類に関する研究	114
7.3. 研究方法	115
7.3.1. 本章におけるあいづち的反応の種類と機能	115
7.3.2. 調査方法	116
7.4. 分析と考察	118
7.4.1. 初級レベルにおける「理解」「同意」機能のあいづち的反応の出現傾向	118
7.4.2. 各言語能力レベルにおけるあいづち的反応の機能類型別の出現傾向	120
7.5. 本章のまとめ	121
第 8 章 韓国人日本語学習者のあいづち的反応の運用における問題点	123
8.1. はじめに	123
8.2. 先行研究	124
8.3. 母語(韓国語)の影響と考えられるあいづち的反応の問題	125
8.3.1. 母語(韓国語)の使用	125
8.3.2. あいづち的反応が自然と思われる場面での不使用	126
8.4. 目標言語である日本語のスピーチスタイルに起因する問題	128
8.4.1. 初対面の目上の人に対する「なるほどね」	128
8.4.2. 同一会話内における不安定なスピーチレベル	129
8.5. 母語・目標言語双方の影響と考えられるあいづち的反応の問題	130
8.5.1. 同じ表現形式の繰り返し	130
8.5.2. 談話の待遇レベルの不安定さ	131
8.6. バリエーション不足による影響	132
8.6.1. 「はい」の過剰般化と「ええ」の不使用	132

8.6.2. 場面に適さないあいづち的反応.....	134
8.6.2.1. 同意の「そうですね/そうなんです」.....	134
8.6.2.2. 関心や興味の「あー/はあ/へー」などで反応すべきところでの「はい」の使用.....	135
8.6.2.3. 「そう系」あいづち的反応のうち「そうですね」の使用に偏り.....	136
8.7. 本章のまとめ.....	136
第 9 章 韓国人日本語学習者の言語能力レベル別にみた共話的反応の使用実態.....	138
9.1. はじめに.....	138
9.2. 先行研究.....	138
9.3. 研究の方法.....	140
9.3.1. 調査対象者.....	140
9.3.2. 調査項目.....	140
9.4. 分析と考察.....	141
9.4.1. 初級・中級における共話的反応の型および機能の出現状況.....	141
9.4.2. 上級・超級における共話的反応の型および機能の出現状況.....	143
9.4.3. 日本語母語話者における共話的反応の型および機能の出現状況.....	145
9.5. 日本語母語話者との比較からみたKJLの共話的反応の型および機能の使用状況.....	147
9.6. 本章のまとめ.....	148
第 4 部 談話展開の観点.....	150
第 10 章 「先行発話-共話的反応」の有機的關係からみた共話の展開構造.....	151
10.1. はじめに.....	151
10.2. 先行研究.....	151
10.2.1. 成立要因の観点.....	152
10.2.2. 表現形式の観点.....	152
10.2.3. 機能の観点.....	153
10.2.4. 本章の目的.....	153
10.3. 調査データ.....	154
10.4. 共話をなす話し手の先行発話と聞き手の共話的反応の表現形式機能.....	154
10.4.1. 共話をなす先行発話の表現形式.....	154
10.4.2. 共話をなす共話的反応の型および機能.....	157
10.4.2.1. 省略されている話し手の非発話部分に対する聞き手の共話的反応.....	157
10.4.2.1.1. 先取り.....	157
10.4.2.1.2. 問い返し.....	158

10.4.2.1.3. 遮り	159
10.4.2.2. 明示されている話し手の発話部分に対する共話的反応	159
10.4.2.2.1. 言い換え	159
10.4.2.2.2. 繰り返し	160
10.5. 分析と考察.....	161
10.5.1. 共話の出現状況	161
10.5.2. 使用頻度からみた先行発話と共話的反応の有機的關係	162
10.5.3. 成立要因からみた共話の展開構造	163
10.6. 本章のまとめ	166
第 11 章 日・尼接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の運用	168
11.1. はじめに	168
11.2. 先行研究	169
11.3. 研究方法	170
11.3.1. データの概要.....	170
11.3.2. 分析方法	171
11.4. データの分析	172
11.4.1. 共話の出現状況	172
11.4.2. 分析の対象	173
11.4.3. 出現数による先行発話の表現形式および共話的反応の型	175
11.5. データの考察	176
11.5.1. 話し手発話の表現形式「言いさし」	176
11.5.2. 「先取り」の共話的反応の型	177
11.5.3. 日本語母語話者の「確認」とインドネシア人日本語学習者の「補足」の機能	178
11.6. 本章のまとめ	179
第 12 章 日・尼接触場面における談話展開を支える共話的反応	181
12.1. はじめに	181
12.2. 先行研究	182
12.3. 共話的反応の談話展開への影響	183
12.4. 日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の共話展開のパターン.....	185
12.4.1. 話し手と聞き手のコミュニケーション成立の場合	185
12.4.1.1. 母語話者の省略されている非発話部分に対する共話的反応	186
12.4.1.2. 学習者の明示されている発話部分に対する共話的反応	187

12.4.2. 話し手と聞き手のコミュニケーション不成立の場合	189
12.4.2.1. 母語話者の省略されている非発話部分に対する共話的反応	189
12.4.2.2. 学習者の明示されている発話部分に対する共話的反応	190
12.5. 本章のまとめ	192
第 5 部 総論(日本語教育への応用)	194
第 13 章 言語能力レベルを考慮した聞き手言語行動のコラム教材例	195
第 14 章 終章	219
14.1. 各章のまとめ	219
14.1.1. 日本語母語話者の聞き手言語行動が、スタイルや対話相手との社会的関係による変異生 起要因(年齢差・性別差)とどのように関わっているか	220
14.1.2. 日本語学習者の聞き手言語行動が、言語能力レベルによる違いは見られるのか	225
14.1.3. 日本語学習者と母語話者の聞き手言語行動が、いかなる展開構造(展開パターン)を成し ているのか	227
14.2. 日本語教育における本研究の意義	230
14.3. 日本語教育への応用として聞き手言語行動のコラム教材作成が示唆すること ..	231
14.4. 日本語教育における聞き手言語行動研究と今後の課題	233
参考文献	235
巻末資料	254
各章と既発表論文との関係	290
謝辞	292

図の一覧表

図 1 本研究の観点	4
図 2 聞き手言語行動に関する研究の流れ	8
図 3 会話における共話的反応	37
図 4 本研究における聞き手言語行動の枠組み	40
図 5 本研究の全体構成図	41
図 6 調査・分析の流れ	44
図 7 20代大学生の性別差分析のための会話データにおける話者の組み合わせ	48
図 8 20・30代母語話者の性別差・年齢差分析のための会話データにおける話者の組み合わせ	49
図 9 使用データの概要	50
図 10 日本語学習者の言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを論じるための会話データにおける話者の組み合わせ	51
図 11 日本語母語話者の共話の展開構造分析のための会話データにおける話者の組み合わせ	52
図 12 接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の展開パターンが把握できるデータにおける話者の組み合わせ	53
図 13 会話・談話分析の方法論・アプローチ	54
図 14 フェイス侵害度の見積もり公式	58
図 15 FTAを行うための可能なストラテジー (Brown & Levinson1987: 60、田中ほか訳2011: 89)	58
図 16 同年男性同士と同年女性同士のあいづち表現の使用傾向	70
図 17 年上に対する年下女性のあいづち表現の使用状況	72
図 18 年上に対する年下男性のあいづち表現の使用状況	74
図 19 20代のスタイルによるあいづち表現の使用傾向	79
図 20 対人関係からみたあいづち表現の出現数とその割合	86
図 21 小宮(1986)における「はい系」「え系」「あ系」「うん系」の敬意と親しみ	88
図 22 本章における「はい系」「え系」「あ系」「うん系」の敬意と親しみ	88
図 23 20代女性の対同年・対年上女性への感声的あいづち表現の使用状況	88
図 24 20代男性の対同年・対年上男性への感声的あいづち表現の使用状況	89
図 25 30代男性の対同年・対年上男性への感声的あいづち表現の使用状況	90
図 26 30代男性の対同年・対年上女性への感声的あいづち表現の使用状況	90

図 27	20代女性の対同年・対年上女性への概念的あいづち表現の使用状況	91
図 28	20代男性の対同年・対年上男性への概念的あいづち表現の使用状況	92
図 29	30代男性の対同年・対年上男性への概念的あいづち表現の使用状況	92
図 30	30代男性の対同年・対年上女性への概念的あいづち表現の使用状況	93
図 31	会話における共話的反応(図3の再掲)	98
図 32	本研究における聞き手言語行動(図4の再掲)	99
図 33	KJLの各言語能力レベルにおけるあいづち的反応の機能別出現状況	118
図 34	初級レベルの共話的反応の型	図 35 中級レベルの共話的反応の型... 143
図 36	上級レベルの共話的反応の型	図 37 超級レベルの共話的反応の型... 145
図 38	日本語母語話者における共話的反応の型	146
図 39	共話出現数の集計方法と出現状況	161
図 40	共話の展開構造	166
図 41	母語話者の共話展開パターン	図 42 日本語学習者の共話展開パターン... 185
図 43	日・尼接触場面における共話展開の相違	192
図 44	本研究の観点(図1の修正再掲)	219
図 45	20代のスタイルによるあいづち表現の使用傾向(図19の再掲)	221
図 46	ポライトネス・ストラテジーからみたあいづち表現の使用	223
図 47	対人関係による共話的反応の型の使用傾向	225

表の一覧表

表 1	聞き手言語行動の定義に関する先行研究	9
表 2	あいづちの機能に関する先行研究	10
表 3	表現形式に関する先行研究	12
表 4	聞き手言語行動の行うタイミング	15
表 5	聞き手言語行動の変異の生起要因	16
表 6	「はい」と「うん」の変異の生起要因	17
表 7	定義からみた「先取り」	20
表 8	先行研究における共話の出現率	24
表 9	共話の表現形式と機能	25
表 10	先行研究における「聞き手」の定義	29
表 11	機能別にみたあいづち的反応の表現形式	31
表 12	発話完結の有無と抜き取り可否による日本語の会話形態の分類	33
表 13	日本語の会話形態分類の具体例	33
表 14	先行研究で取り扱っている聞き手言語行動の種類	37
表 15	各章における使用・収集したデータ	44
表 16	文字化の記号凡例	46
表 17	本章におけるあいづち表現の分類	67
表 18	あいづち表現のスタイル調査の使用データの概要	69
表 19	同年男性同士と同年女性同士のあいづち表現の使用	70
表 20	丁寧体と普通体のスタイル対応がない場合のあいづち表現の使用	75
表 21	あいづち表現の年齢差・性別差調査の使用データの概要	84
表 22	あいづち表現の調査項目	85
表 23	対人関係による感声的あいづち表現の使用傾向	87
表 24	対人関係による概念的あいづち表現の使用傾向	91
表 25	仮説に基づくあいづち表現の年齢差・性別差による使用状況	94
表 26	共話的反応の年齢差・性別差調査の使用データの概要	101
表 27	従来の研究における共話的反応の型	102
表 28	共話的反応の型および機能の調査項目	102
表 29	対人関係による共話的反応の型の使用傾向	103
表 30	機能別にみた共話的反応の型(20代女性グループ)	105

表 31	機能別にみた共話的反応の型(20代男性グループ).....	106
表 32	機能別にみたあいづち的反応の表現形式(表11の再掲)	115
表 33	KJLのあいづち的反応の調査対象者の内訳	117
表 34	各言語能力レベルにおける感声的あいづちの機能別出現数	120
表 35	各言語能力レベルにおける概念的あいづちの機能別出現数と初出形式.....	121
表 36	「ん」の使用傾向(数字は出現回数).....	132
表 37	「KJL/NS」における「はいええ」の機能別出現傾向	133
表 38	「そう系」あいづち的反応の出現傾向	136
表 39	KJLの共話的反応の型および機能に関する調査対象者(表33の再掲)	140
表 40	KJLの共話的反応の型および機能に関する調査項目	141
表 41	KJLの言語能力レベル別共話的反応の型および機能の使用状況.....	147
表 42	調査データの概要.....	154
表 43	使用頻度からみた先行発話と共話的反応との関係	162
表 44	先行発話の省略・明示に対する共話的反応の成立要因.....	165
表 45	共話運用の調査データの概要	171
表 46	従来の研究と本研究にける共話の種類(表27の修正掲載).....	172
表 47	共話的反応と共話の出現数.....	173
表 48	共話をなす話し手発話の表現形式と聞き手発話の反応の型および機能.....	173
表 49	話し手発話の表現形式の出現数	175
表 50	共話的反応の型の出現数.....	175
表 51	共話的反応の型の機能の出現数	175
表 52	インドネシア人日本語学習者が「先取り」で用いた機能	177
表 53	各言語能力レベル別感声的あいづちの機能別出現数(表34の再掲).....	196
表 54	各言語能力レベル別概念的あいづちの機能別出現数と初出形式(表35の再掲)	197
表 55	KJLの言語能力レベル別共話的反応の型および機能の使用状況(表41の再掲)..	197
表 56	仮説に基づくあいづち表現の年齢差・性別差による使用状況(表25の再掲)	223

第 1 部 本研究の背景

第 1 章 序 論

1.1. 研究背景と目的

日本語非母語話者である筆者が日本語の会話において「話し手もまた聞き手であるはずだ」という考えを持ったのはそれほど昔のことではない。教育現場に携わった際にも、質問者 - 応答者の役割がはっきりと分かれている教科書の会話文を教えることに疑問を持たなかった。ちょうど10年ほど前、円滑なコミュニケーションのための日本語教育を考える雰囲気が広がりを見せたとき、「何を教えるか」を再考するために、使用していた教科書を見直したのが会話における話し手、聞き手の役割に注目するきっかけとなった。現実の会話は話し手、聞き手という役割が固定するものではなく、その場、その場で入れ替わり、役割の区別がなくなる場合が多い。しかし、教科書の会話文が現実のコミュニケーションとかけ離れていること、とりわけ、日本語学習者は言語能力レベルが低ければ低いほど会話のやりとりのなかで話し手よりも聞き手の役割を担うことが多いのに、聞き手の言語行動についてはあまり考慮されていない会話文の構成になっていることに気づき、教育現場で指導する必要があることを改めて実感した。

しかし、具体的にどのように教育に結びつけるかは見当がつかず、ただ、日本語でも韓国語でも「あいづち: 맞장구(マッチャング)」という語は日常的なものとして存在しているので、日本語の会話ではあいづちを打つ頻度が高いことに注意しながら、それ以外は母語を使用する感覚で日本語のあいづちを使用すればいいと考えるだけであった。しかし、『「はいはいはい」と連発するな』、『「オオ」ってなに』、『「李さんの『そうなんですか』に違和感を覚えます』という類の指摘が相次いだ。あまり似ているからその違いに気がつかず、日本語も韓国語も同様だと思っていたのであるが、そうした指摘にショックを受けた。また、円滑にコミュニケーションが取れるほど日本語が上手であるにも関わらず、簡単なあいづちを間違うはずがないという母語話者の誤解があることも分かった。このような現状では円満な人間関係の構築というコミュニケーションの目的は果たされないに違いない。

ここでいう上手な日本語とは、正しい日本語ではなく、ふさわしい日本語のことであろう。ふさわしい日本語は聞き手と話し手の関係、性別、世代、状況などによって決まっていく。これまでの日本語教育現場では、正しい日本語の教育が優先され、ふさわしい日本語については教育が及んでいなかったのではないだろうか。上述の「はいはいはい」、「オオ」、「そうなんですか」は全て日本語のあいづちとして使用される表現である。日本語としては正しいことは間違いないが、その場にふさわしくないということが問題である。現

実の場面での日本語の会話は、聞き手と話し手との協力にもとづく相互作用である。ここで重要なことは、会話は単なる情報のやりとりではなく、人間関係の構築にも関わるということである。ふさわしいあいづちの運用ができず、相手に誤解を与えることはコミュニケーションギャップを作ってしまうことにつながる。そして、そのコミュニケーションギャップの大部分は、「聞き手」としての役割が十分に果たされていないことに起因しており、たとえば、何となくコミュニケーションがうまくいかない、または会話がうまく進まない、ぎこちなさを感じると言われることが多い。あいづちを打たずに相手の話を聞くことに終始してしまったり、日本語母語話者が用いないあいづちを使ったり、またはふさわしいあいづちを用いたものの、それ以上は話が進まず、会話が途切れてしまったりする場合である。反対に、非母語話者である筆者が同じ非母語話者であるインドネシア人日本語学習者と日本語で会話をする時、「なんでこんなに会話が上手なんだろう」、「話の乗りがいい」と感じた理由のひとつに、聞き手としてのふさわしいあいづちの運用ができていることが考えられる。

相手との相互作用である会話では、日本語そのものの知識だけでなく、どのようにコミュニケーションを行うかということが重要になる。実際のコミュニケーションは、刑事ドラマの取り調べの場面のような、日本語教育で用いられている会話文とは異なり、話し手が文の途中に「ね」を挿入して聞き手の反応を求めたり、文が完結しないうちに発話を終えたりする一方、聞き手は話し手の発話を確認、補足したり、時には話し手の発話を引き取って完成させたりしている。このように話し手と聞き手が会話を共同で作り上げていく共話(Co-construction)が日本語の会話形態のひとつになっている。つまり、日本語の会話において話し手と聞き手は、互いのフェイスを守りながらコミュニケーションをとる必要がある。ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)によると、「フェイスは、やりとりの参加者が互いに帰する2つの特定の欲求(『フェイス欲求』)、すなわち、自らの行為を妨げられたくないという欲求(ネガティブ・フェイス)と、認められたいという欲求(ポジティブ・フェイス)からなる(Brown & Levinson1987:13、田中ほか訳2011:17)」という。このような観点から考えると、聞き手のフェイスとは、相手に良く思われたい、好意的な態度を示したいという欲求になるだろう。一方、話し手のフェイスとは、自分の話を理解してもらいたい、またその反応を得たいという欲求(ポジティブ・フェイス)と、相手に邪魔されず自分の発話権を保持したいという欲求(ネガティブ・フェイス)になるだろう。聞き手があいづちなどの言語的な手段で反応することは、話し手のポジティブ・フェイスを満たすことになるといえよう。そこで、本研究においては、発話の効果としてのポライトネスに着目し、あいづちなどの聞き手の言語行動がどのような発話の効果を発揮するのかも

合わせて考察する。

日常会話において、私たちは相手との社会的関係に応じて、意識的であれ無意識的であれ、言語行動を敏感に選択、調整している。そこで、本研究では、談話分析を通して会話参加者の相互行為を詳細に分析し、言語と社会構造の関係性を見出し、それが実際のコミュニケーションにどのような影響をもたらすかを観察する。

本研究の目的は、聞き手が会話に参加する際に使用する「はい、ええ、そうですね」などのあいづち表現や、「もうそろそろ…」という発話を引き取り「帰りましょうか」とつなげるように、2人以上の話者が共同でひとつの発話を作りあげる共話における聞き手の反応などに焦点を置き、日本語母語話者、日本語学習者(韓国人、インドネシア人)がどのように聞き手言語行動を用いてそれぞれ会話に参加しているのかを調べ、その使用実態を明らかにすることである¹。具体的には以下の3点を中心に分析する。

1. 日本語母語話者の聞き手言語行動が、スタイルや対話相手との社会的関係による変異生起要因(年齢差・性別差)とどのように関わっているか。
2. 日本語学習者の聞き手言語行動が、言語能力レベルによってどのように異なるのか。
3. 日本語学習者と母語話者の聞き手言語行動が、いかなる展開構造(展開パターン)を成しているのか。

以上を図示すると以下の図1のようにまとめられる。

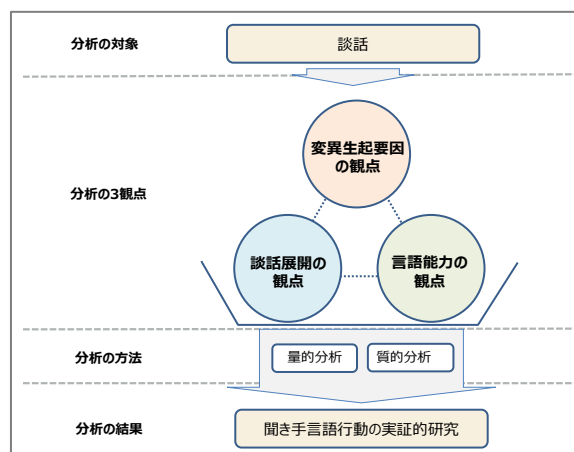


図 1 本研究の観点

¹ 日本語学習者は、韓国人とインドネシア人のみを対象にしているが、それは英語圏の学習者と中国人学習者に比べ聞き手言語行動に関する研究成果が多くないこと、また、日本語学習者数が世界第2位と3位という状況から日本人との接触場面の増大が予想されるからである。本研究でいう聞き手言語行動とは、笑いやうなずきなどの非言語的な行動ではなく、聞き手がある発話を受けて反応する言語的な行動のことであるが、詳細は2.5.で述べる。

1.2. 本研究の構成

第1部では、本研究の背景として、本章では、本研究の背景と目的について述べた。第2章では、聞き手言語行動に関する先行研究について概観した後、本研究における聞き手言語行動の定義を行い、本研究の課題を提示する。そして、第3章では、本研究で実施した調査方法と分析対象及び分析手順について説明し、本研究における理論的枠組みである談話・会話分析とポライトネス理論について説明する。そして、分析結果として、第2部では、日本語母語話者の変異生起要因からみた聞き手言語行動を使用実態について、第4章で、対人関係によるあいづち表現のスタイルに着目しその使用傾向の違いについて、第5章で、対話相手との年齢差・性別差に応じたあいづち表現の使用実態について明らかにし、第6章で、対人関係に応じた共話的反応の型の使い分けについて考察する。そして、第3部では、日本語学習者の言語能力の観点からみた聞き手言語行動の使用実態として、第7章で、言語能力レベル別にみた韓国人日本語学習者のあいづち表現の使用実態を明らかにし、第8章で、母語話者と異なる運用上の特徴と問題点を取り上げ、その背景を分析する。そして、第9章で、言語能力レベル別にみた韓国人日本語学習者の共話的反応の型の使用実態を分析し、日本語学習者も共話の運用ができることを主張する。また、第4部では、日本語母語話者と日本語学習者の談話展開の観点からみた聞き手言語行動の使用実態を、第10章で、母語話者が運用する談話における話し手の先行発話と聞き手の共話的反応(後行発話)の機能的関係に注目し共話の構造を明らかにし、第11章で、日本語学習者が運用する共話の構造について考察する。そして、第12章で、接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の展開パターンを比較し、考察する。最後に、第5部では、日本語教育への応用と総論として、第13章で、日本語教育への応用として聞き手言語行動のコラム形式の教材例集を提示、第14章で、本研究のまとめを行い、分析結果から得られた結論と、今後の課題について述べる。

第 2 章 先行研究と本研究の位置づけ

2.1. はじめに

日本語の「聞き上手は話し上手」、「あいづち美人」などのことばから、初対面の人と話す時、日本人はあまり直接的にいろいろ尋ねるようなことはせずに、間接的な質問やあいづちやうなずきを上手く利用した「共話的」会話の運び方により、相手への関心や会話への参加をしている(任・井出2004 : 67)ことが窺える。

会話という「相互作用」に関心が持たれはじめて以来、水谷(1980、1988a、1990、2001)は「聞き手が積極的に話し手に協力する」協調的な会話スタイルを「共話」と名づけ(水谷1988a : 10)、日本語には共話的な話し方が多く見られることを主張してきた。具体的には、「あいづちの多用」、「文の共同完結」、「話者による文の意図的な未完結」などを取り上げ、日本人の話し方の特徴として位置づけている。水谷の研究をきっかけに、共話的な話し方が、コミュニケーションのスタイルとして盛んに研究されるようになった。水谷が指摘した日本語の共話的な話し方のうち、「話者による文の意図的な未完結」は話し手によるものであるが、「あいづちの多用」や「文の共同完結」は、次の会話例1)、2)のBの発話のように、会話の主導権を握っている話し手の発話に対する聞き手によって行われるものである(会話例の先頭→ : 聞き手言語行動の部分を目指す(以下、同様))。

会話例1) 水谷1993 : 4-5の例文

- 1 A : このあいだのお話なんですが…
→2 B : ええ
3 A : 三ヶ月ぐらいあればと申しあげましたけど…
→4 B : はあ
5 A : ちょっと事情がかわりまして…
→6 B : はい
7 A : もう少し時間をいただく…
→8 B : はあ
9 A : わけにはいきませんか

会話例2) 堀口1997 : 95の例文

- 1 A : ひなが2羽かえったら必ず
→2 B : 1羽しかね

3 A : 育たないですね。

水谷が指摘している共話的な話し方の分類として、ほかに次の会話例3)、4)のような「繰り返し」、「言い換え」なども挙げられる。

会話例3) 堀口1997 : 65の例文

1 A : 僕はね、車の物真似をした鳥の声を聞いたことはないけど

→2 B : 物真似ねえ。

3 A : でも、ブーとかいうのが出てくる可能性はありますよ。

会話例4) 水谷1988a : 9の例文

1 A : 雨が多いとか、地震がよくあるとか、そうした自然環境…

→2 B : というか風土…

3 A : うん、そういうものの影響が強んじゃないかな。

本節では、上記会話例1)~4)の、発話Bのような「あいづち表現(従来の研究でいうあいづち詞)」、「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」などの聞き手による言語的反応を一括して「聞き手言語行動」と名づけ、従来の研究でどのように研究が進められてきたかをまとめ、本研究の課題を提示する²。

2.2. 日本語の聞き手言語行動の研究の始まり

日本語における聞き手言語行動の研究は1980年代まではほとんどなされていなかったが、聞き手に焦点を当て、あいづちについて初めて論じたのは宮地(1959)である。宮地(1959)は「やりとり」における話し手の「やり」に対する聞き手の「とり」を考察している。品詞の分類や主に話し手の発話を中心に分析がされていた頃に、聞き手に焦点を当て、話し手とのやりとりを分析した宮地の研究は画期的であったといえる。

以後、1960年代から70年代には、日本では特に聞き手言語行動について研究が深められることはなかったものの、日本国外ではバックチャンネル(back-channel)の研究が進められていた。Yngve(1970:568)は、バックチャンネル(back-channel)を「発話権を持っている話し手が自分の発話権を譲らずに聞き手から受け取る「yes」や「uh-huh」などの短い

² 本研究では「あいづち」ではなく、広義の「聞き手言語行動」と名づけているが、便宜上、場合に応じて、それぞれの先行研究が使用している用語を用いることとする。また、従来はうなずき、笑いなどの非言語的反応も「あいづち」として取り上げられる場合があるが、本研究では聞き手の言語的反応のみを対象とするので、「聞き手言語行動」と称する。詳細な聞き手言語行動の定義と範囲については2.5.で後述する。

メッセージ」と述べており、Duncan(1974:166)は、バックチャンネル(back-channel)の概念を広くとらえ、文を完結する表現(sentence completions)、説明要求(requests for clarification)、短いメッセージ(brief statements)を追加し、更に頭の縦振りと横振りなどの非言語行動もあいづちの一種として捉えている。堀口(1997)のいう、「言い換え」、「先取り発話」と共通する。また、Bruner(1979)は、笑いもバックチャンネル(back-channel)としての機能を果たす点を談話資料から統計的に検証している。

以上のように日本国外で談話分析的観点から進められていたバックチャンネル(back-channel)に関する研究の影響を受け、日本国内でも1980年代に入り談話分析的手法を取り入れた聞き手言語行動の研究(堀口1988、松田1988、水谷1988a、杉藤1993、メイナード1993など)が行われるようになり、日本語教育、言語能力、他言語との対照などの観点からの研究(畠1988、楊1997、窪田2000a、村田2000など)もみられるようになった。しかし、あいづちに関しては、頻度やタイミングなど、量的研究が中心に行われ、あいづち表現の意味・機能に焦点を当てた研究、実際にあいづち表現がどのように使われているかに関する質的研究はまだ少ない。

以上の聞き手言語行動に関する研究の流れは以下の図のように、まとめることができる。

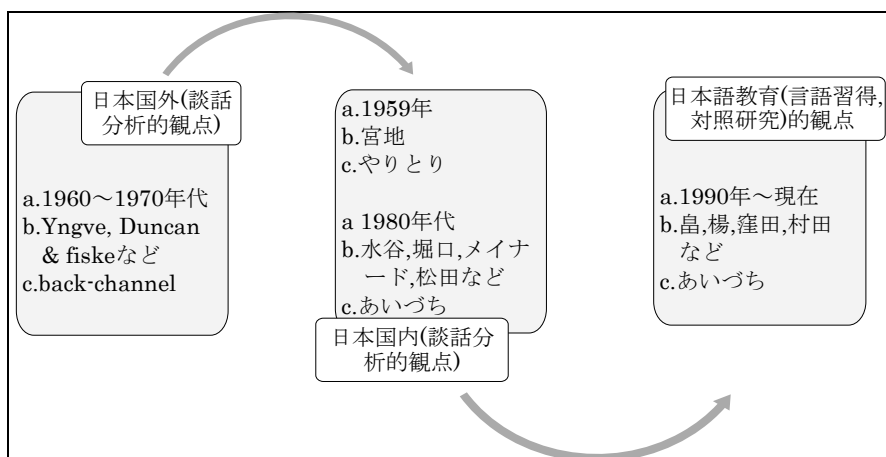


図 2 聞き手言語行動に関する研究の流れ (a:年代 b:研究者 c:概念)

以下に本章の流れを示しておく。日本語の談話分析的観点、日本語教育の観点からの聞き手言語行動に関する研究の流れにもとづき、2.2.では話し手の発話部分(話し手が言った部分のことで、以下「発話部分」と称する)に対する聞き手言語行動(あいづち表現、繰り返し、言い換え)と、2.3.では話し手の非発話部分(話し手が出ていない部分のことで、以下「非発話部分」と称する)に対する聞き手言語行動(先取り)に分けた上で、①定義、②表現形式と機能、③あいづちの頻度とタイミング、④変異生起の要因、⑤談話展開の5つの観点についての先行研究を概観する。

2.3. 話し手の発話部分に対する聞き手言語行動：あいづち表現、繰り返し、言い換え

2.3.1. 先行研究における定義

聞き手言語行動の定義に関して、各研究者の記述は様々であり、認識が統一されているとは言えない。以下の表1は聞き手言語行動の定義について記述している先行研究をまとめたものである。

表 1 聞き手言語行動の定義に関する先行研究

水谷1983	話す人が話しやすいように、話の進行を助けるために打つもの
小宮1986	応答表現の中で、話し手の発話に対し、自由意志に基づいて、肯定・否定の判断を表明することなく、単に「聞いている」「分かった」という意味で用いられているもの
黒崎1987	話者の発話に対して、賛否等の判断を表明することなく、ただ単に「聞いていますよ」「分かりますよ」という信号を送る段階の応答表現
劉1987	談話の進行を促すため、相手の発話に調子を合わせる聞き手の行動
水谷1988a	話の進行を助けるために、話の途中に聞き手が入れるもの
水野1988	聞き手が話し手に対して、話し手の話を聞いているということを伝える機能だけを持つ信号
杉戸1989	判断・要求・質問など聞き手 ³ に積極的なはたらきかけもしないような発話
メイナード1993	話し手が発話権を行使している間に聞き手を送る短い表現(非言語行動を含む)で、短い表現のうち話し手が順番を譲ったとみなされる反応を示したものは、あいづちとしない
堀口1997	話し手が発話権を行使している間に、聞き手が話し手から送られた情報を共有したことを伝える表現
楊1999	話し手が発話権を行使している間に、または話し手の発話が終了した直後に、聞き手が自由意思に基づいて送る(非言語行動を含む)短い表現
村田2000	ターンの始まる部分
水谷2001	問いかけに対する受け答えでなく、話し手の話の流れを助けるために聞き手が主として区切れごとにさしはさむもの
陳2001	発話順番中である発話の間に聞き手によって送られた短いメッセージで、ターンを取る働きがないもの
吉本2001	発話権が行使されている間、または発話権が終了した直後に、発話権を持たない聞き手を送る談話形式上の機能を持った短い表現。さらにこれらの表現への反応として送られる短い表現

表1の聞き手言語行動の定義からみると、以下の(1)~(3)については概ね一致している。

³ ここでいう「聞き手」とは、あいづちをする者が「話し手」として捉えており、その場であいづちをされる側、つまりターン(tune)を維持して話をしている者が「聞き手」となっている。

- (1) 質問に対する応答ではないこと
- (2) 聞き手が行うものであること
- (3) 「聞いている」ことを相手に伝えること

しかし、以下の(4)～(8)に関しては、定義に含めるかどうか、先行研究ごとに見解が異なる。

- (4) 話し手の発話中に行うものかどうか
- (5) 非言語行動を含むかどうか
- (6) 談話の進行に関わるかどうか
- (7) 「聞いている」こと以外の機能を含むかどうか
- (8) 短い表現かどうか

上記のうち、(5)は本研究では言語的反応だけを対象にしているの、対象外となるが、それ以外については、聞き手の会話の中で果たす機能とその表現形式の観点から取り上げている先行研究について概観することで、問題をより明確にできるだろう。以下では、聞き手言語行動の表現形式と機能についての先行研究をまとめる。

2.3.2. 表現形式と機能

以下の表2は聞き手言語行動の機能に関する先行研究をまとめたものである。

表 2 あいづちの機能に関する先行研究

観点	先行研究	機能										
		傾聴表示	理解表示	同意表示	感情表示	否定表示	間持たせ	情報要求	情報追加	情報訂正	終了 注目表示	
談話分析	黒崎1987	●	●									
	水谷1988a	●	●									
	堀口1988	●	●	●	●	●						
	松田1988	●	●	●	●	●	●					
	メイナード1993	●	●	●	●			●	●	●		
	ザトラウスキー1993	●	●	●	●	●	●	●				●
	今石1993	●	●	●	●	●						
言語能力	Mukai1999	●	●	●	●							
	村田2000	●	●	●	●				●			
	楊1997、2001	●	●	●	●							
	吉本2001	●	●	●	●	●						

(●：それぞれの研究で認めている機能を示す(以下、同様))

上記表2を見ると、「傾聴表示」、「理解表示」、「同意表示」、「感情表示」の4つの機能はほぼ共通して認められている⁴。また、「否定表示」に関しては認める側とそうでない側の2つに見解が分かれる。「否定」という語から、これは話の展開の妨げになると考えられがちであるが、これは話し手の言うことを聞いて理解した上で、賛成ではないあるいは納得できないということを表示するものである。したがって、「否定表示」の機能を持つ聞き手言語行動を受けた話し手は、時には話の展開を変えざるを得ないこともあるが、常に話の展開を変えなければならないという訳ではない。そこで、本研究では「否定表示」も、聞き手言語行動の機能として認める立場をとる。

次に、「間持たせ」、「情報要求」、「情報訂正」、「終了注目表示」に注目したい。まず、2.3.1.の聞き手言語行動の先行研究における定義で言及したように「聞き手が行うものであること」という観点から考えた場合、「間を持たせる」ということは聞き手が行うものではなく、話し手の言いよどみの一種とも考えられる言語行動であり、聞き手言語行動として認めるのは難しい。また、「情報要求」、「情報訂正」、「情報追加」については、聞き手が話し手から発話権を奪って話し手に代わってしまう可能性や、話し手の話の進行の妨げになる可能性があるため、聞き手言語行動として認めるのには無理がある。さらに、「終了注目表示」は、聞き手言語行動の定義で言及した(3)の『『聞いている』ことを相手に伝えること』という条件を満たしておらず、話し手の発話を終わらせてしまう可能性があることから、聞き手言語行動と認めるのは難しい。

このような傾向は、談話分析的観点からの研究であれ、日本語学習者の言語能力を対象にした日本語教育の観点からの研究であれ、ほぼ同様の傾向を示している。

以下、聞き手言語行動の表現形式についての先行研究をまとめると次の表3の通りである。

⁴ 「理解表示」は、「傾聴」をしながら理解した時に、「分かった」という事を言語表現で表出するので、時には「傾聴表示」と明確に切り離すことが難しいことも多い。また、「同意表示」は、「傾聴」、「理解」した上にさらにそれに「同意表示」をするわけなので、実際はそれらの区別は容易ではない。

表 3 表現形式に関する先行研究

観 点	表現形式 先行研究	あいづち 表現		繰り 返し	言い 換え	先取り	その他 ⁵ (意見・感想)
		感 声 的	概 念 的				
談 話 分 析	水谷1984	●		●	●		
	小宮1986	●	●	●			
	黒崎1987	●		●			●
	メイナード1993	●		●	●	●	
	堀口1988	●		●	●		
	水谷1988a	●		●	●		
	松田1988	●		●	●		
	杉戸1989	●		●			
	ザトラウスキー1993	●					
	久保田1994	●		●	●	●	
言 語 能 力	山本1992	●		●	●	●	
	渡辺1994	●		●	●	●	
	楊1997、2001	●		●	●	●	●
	Mukai1999	●		●	●	●	
	窪田2000a	●		●	●	●	

聞き手言語行動の表現形式としては、「あいづち表現」、「繰り返し」、「先取り」、「言い換え」、「その他(意見・感想)」などが言及されている。

従来、品詞論の観点から「はい/ええ/そう/うん/なるほど」などは、応答詞、感動詞と分類されてきたが、堀口(1988)、松田(1988)では、別の枠に入れた方が扱いやすいとしてひとつにまとめ、「あいづち詞」としている。また、小宮(1986)ではあいづちの表現類型を「感声的表現」と「概念的表現」の2つに分け、前者の「はい」、「えー」、「ん」などはそれ自体で直接に感情を表す表現で、後者の「なるほど」、「ほんと」などは概念を表す言語形式と定義している。さらに、黒崎(1987)では、①感声的表現(感声的な応答詞による表現、うん、ふーん、ふん、ふんふんなど)、②ソー形式の表現(中称の指示詞「ソー」にかかわる表現。あーそーか、あーそー、そーかなど)、③なぞりの表現(相手の問いかけ、訴えかけのことばをそのまま、あるいは主要部分をなぞって応答のことばとして用いる表現)、④その他の表現(①～③に含まれない表現、「ほんま、うそ、なるほど」など)の4つに分類している。研究者によってその名称には多少違いがあるものの、それらの名称で呼ばれているものはおお

⁵ Clancy et al.(1996)では、ターン(tune)の開始点で表出される非語彙的な、あいづち的な発話を「resumptive opener(再開的な型)」として扱い、広義のあいづちの一種として捉えている。

むね同じである。本研究では、これらをまとめて「あいづち表現」と名づけ、あいづちの表現形式に関する研究をまとめる。

次に、「繰り返し」については、「相手の直前の発話の一部または全部を繰り返す(堀口1997:63)」にしたがい表現形式のひとつとした。「言い換え」とは「他の語句による言い換え(堀口1997:68)」、水谷(1984)では「補強型」と名づけているものである。「その他(意見・感想)」に含まれるのは、楊(2001:48)では岡崎(1987)を参考に「話し手の発話に対して、コメントを述べるような短い発話(たとえば「よかった」「大変だね」「偉いじゃん」等)」としているものである。表3を見ると、「あいづち表現」については、ほぼすべての研究者が聞き手言語行動として認めており、異論はない。しかし、「繰り返し」については、上昇イントネーションで発話されて情報要求、繰り返し発話要求となる場合があることから、そして、「先取り・言い換え・その他(意見・感嘆)」については実質的な発話⁶であることから、それぞれ発話権を握っているとも考えられ、あいづちと定義しにくいことが見解の相違を生じさせていると考えられる。

「先取り」については「聞き手は話し手が話している途中でその先まで予測して、それを話し手が言う前に先取りをして行ってしまうこと(堀口1997:90)」という定義を採用する。「先取り」も、聞き手言語行動と認めるかどうかについては見解を異にすることが多い。たとえば、同一の研究者であっても、水谷(1984)では「完結型」とともに広義のあいづちとして取り上げているが、水谷(1988a)では「あいづちと共通した性格を持つものだが、あいづちの中にも含めることは無理だ」としている。このような「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」についての判断の相異は、本研究のように、聞き手言語行動を話し手の言った部分に対する聞き手言語行動と、話し手の言っていない部分に対する聞き手言語行動に二分することにより解決できる。先取りについては、2.4.で詳述する。

一方で、談話分析的観点からの研究の傾向と、言語能力の観点からの傾向における見解の差はなかった。英語母語学習者を対象にしたMukai(1999)、窪田(2000a)、中国語母語学習者を対象にした楊(1997、2001)はもちろん、中国語・英語・韓国語という異なる母語をもつ話者たちを対象にした山本(1992)、渡辺(1994)の研究においても、「あいづち表現」、「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」の表現形式の使用が見られた。

ただし、ここで、中国語・英語・韓国語という3つの異なる母語を持った日本語学習者を

⁶ 杉戸(1989)では、「ハー、アー、ウン、ソーデスカ」など応答詞を中心とした発話を「あいづち的な発話」とし、あいづち的な発話以外の実施的な内容を表す言語形式を含んで、判断、説明、質問、回答など、事実の叙述や聞き手への働きかけをする発話を「実質的な発話」としている。

対象に、初級・中級・上級の言語能力レベルと聞き手言語行動の使用頻度をほぼ同じ条件で分析した山本(1992)と渡辺(1994)の研究の結果には、疑問の余地がある。山本(1992)は中国語、韓国語、英語を母語とする9名の学習者(初級3名・中級4名・上級2名)を調査した結果、若干の例外を除けば、学習段階が上の学習者はあいづちの出現頻度及び種類が増えていると報告している。渡辺(1994)は中国語・韓国語・英語を母語とする学習者19名(初級6名・中級8名・上級5名)および日本語母語話者3名の電話会話を資料とし、分析を試みた。その結果、学習者の発達段階や母語に関係なく、「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」のあいづちについて、学習者の誤用が共通して現れる傾向が認められた。言語能力と頻度には相関があると結論を出している山本に対し、渡辺は言語能力と頻度には相関がないという結論を出している。

また、堀口(1990)は、7組14人(韓国8名・タイ1名・台湾4名・エジプト1名)の上級日本語学習者同士の会話を分析し、それらを松田(1988)と比較した結果、学習が進めば、あいづち表現の頻度、種類、適切さのどの点においても日本語母語話者に近づくが、頻度については日本人の5分の1にしかならなかったと述べている。Mukai(1999)は日本人と英語を母語とする上級学習者2名ずつからなる5組と、日本人同士5組の会話を録音・録画して分析を行った。上級学習者のあいづち表現の使用は日本語母語話者とほぼ同じ頻度で、堀口(1990)と同じ結果となった。一方、あいづち表現の使用機能および頻度について、日本人との差が見られた。即ち、学習者の話し手の話を単に受け取った、または理解したこと(simple acknowledgments)を示すあいづち表現は日本人より高く、話し手の話に対する聞き手の態度(attitudes)を示すあいづち表現の使用頻度は日本人より低かった。村田(2000)は初級後半から上級のイギリス人学習者10名に調査を行った。結果として上級学習者が初級学習者よりあいづち表現を頻繁に使用していることや上級学習者があいづち表現によって態度、感情をより頻繁に示していることが分かった。

2.3.3. 頻度とタイミング

聞き手言語行動の頻度は、時間当たりの回数だけでなく、聞き手言語行動間の発話の長さや時間を基にした回数、音節数に対する割合、総発話数に対する聞き手言語行動の比率に至るまで、様々な尺度で計測され、研究されてきた。時間当たりの回数を計測した水谷(1998)は、個人差や相手との関係や場面によって違いがあるが、平均すると1分あたり15～20回の聞き手言語行動が確認されたと報告している。あいづち間の発話の長さや時間を基に計測した小宮(1986)は、テレビ番組を対象に、対談番組では9.6秒に1回、電話相談では6.1秒に1回の聞き手言語行動が見られたと報告している。音節数に対する割合を計測した

水谷(1984)は、話し手が平均約24音節話すごとに、聞き手言語行動を行うと報告している。総発話文数に対する聞き手言語行動の比率を計測した黒崎(1987)は、少年12.1%、壮年19.3%、老年20.7の割合で聞き手言語行動を行っているとして報告している。

以上のようにあいづち表現の頻度には個人によって差が大きく、平均を出しても、性別、年齢、人間関係、話題、対面か電話会話かなどの要因によって頻度に差異が見られる。

一方、あいづちはいつでも打てるというわけではなく、打つタイミングがあり、適切なタイミングで打たなければ、あいづちとして機能しない。杉藤(1993)は聞き手が適切なタイミングで打つあいづちは、話し手を励まし、雄弁に語らせるもので、そこにあいづちの本質があると指摘している。

先行研究が明らかにしている適切なタイミングについては、以下の表4のようにまとめられる。

表 4 聞き手言語行動の行うタイミング

観点	先行研究	タイミングに関する記述
談話分析	水谷1984	話し手の側に音声的な弱まりが現れる時
	水谷1988a	<ul style="list-style-type: none"> ・「て」「けど」「から」などで終わるところ ・その後に「ね」が添えられた「てね」、「けどね」、「からね」などで終わるところにあいづちが入りやすい
	杉藤1993	話者が区切りを表示すると考えられる声下げのイントネーションの後
	黒崎1987	音声的な弱まりの現れる箇所で、文末詞の「ナー」や「ノー」が用いられた後
	メイナード1993	<ul style="list-style-type: none"> ・ある決まったコンテキストがある時送られるもので、特に話し手の行動が聞き手のあいづちをうながすと思われるコンテキストを作り出す場合、タイミングよく聞き手があいづちを挟む ・話者が話の間をとる時、しかもその間は文の終わり、ポーズによって区切られる語句、即ち PPU(Pause-bounded Phrasal Unit)末付近、終助詞、間投助詞や話し手の頭の動きを伴う時に送られることが多い
	今石1994	<ul style="list-style-type: none"> ・あいづち挿入が義務的なのは、尻上がり型イントネーションによる各形式と上昇型イントネーションによる終助詞・間投助詞「ね」の後 ・あいづち挿入が可能であるが随意的なのは、下降型イントネーションによる終助詞・間投助詞「ね」や接続助詞の後
言語能力	窪田2000a	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者(初級・上級)にとって、話し手の発話中にあいづちを打つことは難しい ・(初級)学習者のあいづちは主に話し手発話終了後(文末)に集中する傾向があり、学習段階が進むにつれて、日本語母語話者に近い場所(話し手発話途中)でも打てるようになる

要するに、適切なタイミングというのは、音声的な弱まり、イントネーションの変化、ポーズ、間投詞、頭の動きなどが話し手側にある時であるとわかる。また、あいづちには話し手からあいづちを要求されて打つ義務的なあいづちと、聞き手の自由意思に基づいて打つ随意的なあいづちがあるということがわかる。

2.3.4. 変異の生起要因

先述したように、あいづちの使用頻度、表現形式、タイミングなどに年齢、性別、話し手との関係、談話の内容・目的などの様々な要素が絡んでいることはすでに明らかになっている（水谷1984、1988a、小宮1986、黒崎1987など）。主な変異生起の要因をまとめると、以下の表5の通りである。

表 5 聞き手言語行動の変異生起の要因

使用傾向	変異の生起要因
あいづちの頻度	聞き手の年齢・性別、話し手と聞き手の上下関係・親疎、談話の目的・内容、流れ、聞き手の使用する文末詞など
表現形式	聞き手の年齢・性別、話し手と聞き手の上下関係、談話の目的、内容、流れなど
タイミング	聞き手の年齢・性別
あいづちの改まりの度合い	話の進行、談話状況の差(オーディエンスの存在、対面か電話か、マイクの有無)、話しのムード(雑談的か討論的かという話しのタイプ、好意的・対立的、気楽・緊張感)、フォーマリティ(場面差)、地域差など

聞き手言語行動の変異生起に関わる要因は多様であり、しかもそれぞれの要因が相互に関わり合っている。聞き手言語行動の変異生起の要因を明らかにする際に重要なのは、特定の表現形式がどのような社会的要因に影響されるのか、その原因を明らかにすることによりその実態がより分かりやすくなる。しかし、日本語母語話者の言語行動が会話者間の社会的関係に影響を受けやすいことは広く知られているところであるが、聞き手言語行動に焦点をあてて社会的関係からその実態を捉えた研究には特筆すべきものがほとんどみられない。そうした中で、中島(2000)は、聞き手言語行動の具体的な表現形式を持ってその社会的要因について調べ、次の表6のような結果を報告している。

表 6 「はい」と「うん」の変異生起の要因

	はい	うん
出現頻度	21.61%	53.7%
改まり度と待遇度	フォーマル場面多用	フォーマル/インフォーマルのどちらの場面でも多用
世代差	中高年層>若年層	中高年層>若年層
性別関係	女性が男性に対する時に多用	女性同士の対話の時に多用
上下関係	同年齢同士の時	年齢が下の人から上の人に対しては使用が避けられる
親疎関係	フォーマル場面では疎遠の関係の時に多用	フォーマル/インフォーマル場面とも親しい関係の時に多用

日本語母語話者の女性同士の自然談話データにもとづき分析した中島(2000)は、あいづちの「はい」と「うん」の出現頻度を測り、その差の生じる要因を「改まり度と待遇度・世代差・性別関係・上下関係・親疎関係」の5つの面から示唆的な考察結果を出している。

2.3.5. 談話展開の観点

談話展開の観点からあいづちを分析した研究としては吉本(2001)があげられる。吉本(2001)は日本に2年から10年定住しているベトナム人難民を対象とし、彼らの日本語のあいづちが談話の中でどのように使用され、それによってどのように談話が展開されるか、その特徴・問題点を考察し、定住年数が5年未満の被験者には自分の談話権を放棄し、相手に発話権を委ねながら談話を展開する傾向が見られた一方、定住5年以上の被験者は発話権を継続させ、あいづちを用いて積極的に談話展開を行っていることが明らかになったと報告している。

2.3.6. 先行研究の課題および本研究の立場

以上のあいづちに関する先行研究をまとめると、まず、あいづちの定義に関しては、研究者によってどの範囲までをあいづちとするかはそれぞれであるが、機能面から見た場合は「聞いている/理解している/同意/感情の表出」の4つに関してはほぼ共通して認められること、形式面から見た場合は「あいづち詞(本研究でいうあいづち表現)」を中心に「繰り返し/先取り発話/言い換え」もあいづちとして含まれることが確認できた。

しかし、聞き手言語行動の研究には以下のような課題も残されている。日本語学習者が使用するあいづちの機能については、英語、中国語を母語とする学習者ともに、「聞いている」ことを示す機能での使用は日本語母語話者とほぼ同程度の頻度で確認されるが、「理解、

同意、感情の表出」を表す機能での使用については日本語母語話者よりも頻度が低く、学習が進むにつれて、それらの使用も増えることが報告されている。これについては、学習者の言語能力を考慮して条件を統制したデータ(たとえば、OPIデータなど)を用い、聞き手言語行動の表現形式と機能をともに考察することによって、実態をより明確に記述できると考えられる。またその際、母語話者も同条件で分析することにより、使用傾向をより明確にすることが必要であろう。また、山本(1992)と渡辺(1994)のように、英語・中国語・韓国語という母語のそれぞれ異なる日本語学習者を対象にした研究では、言語能力レベルと聞き手言語行動の頻度の増加との相関関係についての指摘は一貫していない。各研究の被験者の出身がアジア系、欧米系と異なり、それぞれの母語による影響があるのではないかと思われる。

日本語教育における言語能力に着目して聞き手言語行動を考える際には、学習者の聞き手言語行動調査は数量的な分析だけではなく、日本語母語話者、日本語学習者の母語、それぞれの会話を詳細に観察し、質的に分析することが欠かせない。それにも関わらず、これまでの研究では聞き手言語行動の機能と表現形式を切り離して論じられてきた傾向がある。本研究では、どういう表現形式の聞き手言語行動がどのような機能を担っているかを分析することで、両者の結びつきを確認する(7章、8章で詳述する)。

また、聞き手言語行動に焦点をあてて社会的関係からその実態を捉えた研究については、特筆すべきものがほとんどなく、先述した中島(2000)の研究にしても、対象は女性同士の会話における「はい」と「うん」の感声的あいづち表現に限られている。そして、それらの各表現形式間にどのような相違点があるのかについての分析も不十分である。前掲の表6で確認したように、頻度もタイミングも表現形式も待遇性も、年齢と性別という共通の要因との相関関係がある。本論では、母語話者の聞き手言語行動の運用を把握するために、年齢・性別を統制した自然談話を対象に、どういうスタイルの聞き手言語行動が対話相手の年齢や性別によってどのように使い分けられているのかについての量的・質的分析を行う(4章・5章で詳述する)。

2.4. 話し手の非発話部分に対する聞き手言語行動：先取り

先述したように、水谷(1980、1988a、1990、2001)が「聞き手が積極的に話し手に協力する協調的な会話スタイルを共話(1988a: 10)」と名づけ、日本人の話し方の特徴として位置づけて以来、共話は、欧米型の「対話的な」話し方とは対照的な、コミュニケーションのスタイルとして盛んに研究されてきた。具体的には、会話の分析に非言語行動の観察を加えて、共話の成立過程を分析したザトラウスキー(2000)や、接触場面において非母語話

者への「助け舟」として機能している共話を扱った研究(森本2002)、話し手と聞き手の相互作用としての共話がコミュニケーションにおいて果たす役割とその対人調節機能を、話者間の協調的言語行動という観点から考察した宇佐美・木林(2002)、宇佐美(2006a)などが挙げられる。

しかし、共話が日本語に特徴的なものであると指摘するこれらの研究とは対照的に、欧米の言語にも同様の特徴がみられると指摘する研究も多い。宇佐美(2006a)によれば、欧米でも、社会学の一派から生じた会話分析研究の成果の影響を受けて、2名以上による文の「共話(Co-construction)」が注目を集めるようになり、言語学においてはトンプソン(Thompson)らを中心に、構文論研究に新たな視点を持ち込むことを主眼とした研究がなされるようになってきているという。実際に、ラーナー(Lerner: 1991)は、話者交替の観点から共話を捉え、この現象をより広い意味での「共同産出 (Joint-production)」の一種と位置付け、後続発話が発せられる契機を分析しており、フェラーラ(Ferrara:1992)は、心理セラピー・セッションにおける共同発話の機能に注目し、それを談話ストラテジーのひとつとして位置づけている。観点は様々であるが、これら英語における研究で扱われている事例は、水谷が日本人の会話スタイルの特徴とした共話の現象が、英語話者の会話にも見られることを示している。

水谷のいう共話は、ひとりの話者の発話が完結する前に、他の話者が完結させたり発話の続きを言ったりする現象のことで、主に聞き手の「先取り」という表現形式によって成り立つものである。水谷の研究で、コミュニケーションは話し手の意図を伝達するという面だけを持つのではないことや、発話は話し始めた話者だけのものではなく、相互作用の中で話者同士がともに作り上げることがあるということなどが強調されて以来、語用論的・相互作用的観点から分析する研究が多くなされるようになった。

本節では、話し手の非発話部分に対する聞き手言語行動である「先取り」の表現形式によって成り立つ共話に関する先行研究を概観し、定義、表現形式と機能、出現頻度と出現位置、変異生起の要因などの観点からまとめる。

2.4.1. 先行研究における定義

先述したように「共話」の提唱者である水谷は「先取り」について、水谷(1984)では「完結型」と広義のあいづちとしているが、水谷(1988a)では、「あいづちと共通した性格を持つものだが、あいづちの中にも含めることは無理だ」としている。ここで、従来の研究で「共話」がどのように呼ばれ定義されてきたのかについて概観すると、「Joint-production(Lerner 1991 ; Ferrara 1992)」、「Co-construction(Ono & Yoshida 1996)」、「Joint u

utterance construction(Hayashi 2003)」、「共話(水谷1980、1993)」、「先取り発話(堀口1997)」、「共同発話(ザトラウスキー2000、2003など)」、「引き取り(串田2002a、2002b、森本2002、2004)」等、研究者によって様々な呼び方が使われ、研究されてきた。ここで、研究における定義を取り上げ、どのような現象が共話として扱われてきたのかを確認する。

表 7 定義からみた「先取り」

呼び方	先取りおよび共話の定義
Joint-production : ラーナー (Lerner1991: 441)	本報告の主題は、2人(あるいはそれ以上)の話し手のトークにまたがって産出されるひとつの文を特徴づけることである。進行中のターンの聞き手が、まだ終わっていないターンの完結を産出するものである。(The central task of this report is the characterization of single sentences that are produced across the talk of two (or more) speakers. This can be seen in Example (1), where the recipient of an ongoing turn produces a completion for the not-yet-completed turn.)
共話 : 水谷(1988a: 9,1993: 6)	話し手が言い始めた文を完結させず相手に委ね、聞き手がこれを引き取って完結させるような会話スタイルである。
先取り発話 : 堀口(1997: 90)	聞き手は話し手が話している途中でその先まで予測して、それを話し手が言う前に先取りをして行ってしまうことである。
引き取り : 串田(2002a: 39-43)	本研究で注目する「引き取り」とは、一人が産出中のターン構成単位が完結可能点に達する前に、それに統語的に連続するようにデザインされた発話が別の話者によって開始される現象である。「最低限必要なのは、語と語の連続性を作り出すこと」、「ターン構成要素が完結可能点に達する前」ということを定義に入れている。
引き取り : 森本(2004: 197)	聞き手による後続発話が相手の先行発話を統語的に引き継ぐようデザインされたものである。
Joint utterance construction : Hayashi(2003: 1)	共同発話構築とは、ある話し手が、他の話し手によって始まった進行中の発話に対して、文法的な続きとしてデザインされた(ときどき完結としての)発話を作る、実践の領域のことである。(Joint utterance construction here refers to a domain of practices by which a speaker produces an utterance that is designed to grammatically continue (and sometimes complete) an ongoing utterance initiated by another speaker.)
共同発話 : ザトラウスキー (2003: 50)	二人以上の話者が作り上げる統語上の単位(句、節、文、複文)からなるもので、後の話者が先の話者の発話に付け足したり、その発話を完結させたり、先取りしたり、自分の発話に取り込んで言ったり、言い換えたりする発話と定義する。

共同発話 ；植田(2004: 16)	ザトラウスキーが示した「二人以上の参加者によって作り上げられる名詞句や節、短文、複文等(2000: 44)」を修正し、会話参加者が二人またはそれ以上により、共同でひとつの発話を統語的・意味的・語用論的に完成させるため、単語から複文レベルまで補完または拡張することと定義する。
共同発話文 ；宇佐美(2001a: 163)、宇佐美・木林(2002: 15)	複数の話者によって作り出される(完結される)ひとつの発話文。先行話者の発話を後行話者が完結させようとしたが、実際には完結まで至らなかったものや先行話者の発話を、先行話者自身と後行話者自身と後行話者がそれぞれ個別に完結させるものも含む。ただし、倒置形式の文、つまり従属節や主節(主部)が後から補われたものは含まない。

上記、表7の共話の定義からみると、以下の(9)～(11)については概ね一致している。

- (9) 二人以上の話者により成り立つひとつの発話であること
- (10) 先行話者の発話が完結していないこと
- (11) 後行話者の発話によって完結されること

しかし、以下の(12)～(16)に関しては、定義に含めるかどうか、先行研究ごとに見解が異なる。

- (12) ターンの完結を産出するものかどうか
- (13) 話し手の発話の途中でその先まで予測して行うものかどうか
- (14) 統語的・意味的に完結するものかどうか
- (15) 先取り以外の表現形式を含むかどうか
- (16) 先行話者と後行話者がそれぞれ完結したものを含むかどうか

上記のように、定義には各研究者の視点が反映されており、共話とみなす範囲がそれぞれ異なることがわかる。本研究における共話の定義については2.5.3.で後述する。

ここでさらに、共話の定義をどのようにするかによりその分類が異なる場合を概観する。まず、共話の定義によるその展開の型进行分类している研究から見てみたい。堀口(1997: 91-97)は「先取り発話」という呼び名で共話を定義し、その展開の型について次のように4分類している。

[聞き手の先取り発話で完結する]

会話例5)

1 A: 桑の実なんか都会の子はもう

2 B: しらないでしょうねえ。

[聞き手の先取り発話の後、さらに話し手が続けて完結する]

会話例6)

1 A: その裏にはねえ、その製糸工場で働く方たちの暗い

2 B: そしてたいへんなね

3 A: 人生もあったわけですよねえ。

[聞き手の先取り発話の後、それに対して話し手が反応を示す]

会話例7)

1 A: そういうお子さんには添い寝をね、

2 B: しています。

3 A: あ、やっていますか。

[聞き手の先取り発話の後、それに対して話し手が反応を示し、さらに発話を続けて完結する]

会話例8)

1 A: カラスが食べちらかした残りをね

2 B: ドバトだとかね

3 A: そうそう、ほかの鳥が食べちゃう。

また、森本(2002、2004)、串田(2002a、b)、宇佐美・木林(2002)、宇佐美(2006a)などは上記のような定義を踏まえて、音声の重複、発話要素の繰り返しのより、以下のように共話を4分類している。(以下、会話例9)~10)は宇佐美2006a: 109-110から引用)

[1類: 音声的重複や先行話者の発話要素の繰り返しがなく、後行話者が文を完結させているもの]

会話例9)

1 BF05 6時半ぐらいでも、もうみんな立ってますから、だからかえって、時間がかかるけれども座れるという意味では....。

2 YF02 楽ではいらっしゃるわけですね。

[2類: 先行話者の発話要素の繰り返しはないが、音声的重複を伴って後行発話が文を完結させているもの]

会話例10)

3 BF02 後でわからないところだけ、

4 OF01 書き加える。

5 BF02 自分で聞くという…。

[3類：音声的重複はないが、後行話者が先行話者の発話の一部を繰り返して文を完結させているもの]

会話例11)

1 SF01 あれ、持ってなくても…？

2 BF03 持ってなくてもなれるんですよ。

[4類：後行話者が、先行話者の発話の一部を繰り返し、さらに音声的重複を伴って文を完結させているもの]

会話例12)

1 R 二万—出せば結構いいよねー

2 L 二万出せばいいのが買える。

上記の研究においては、共話の定義とその分類のあいだにはつながりが無い。また、共話の認定においては話し手と聞き手の二つの発話だけでは認めにくいところもあるので、話し手発話の2回以上のターンがある発話のみで判断する必要があるだろう。たとえば、宇佐美(2006a)の3類、4類の繰り返しがある場合は特にそうである。また、2類では話し手発話に2回以上のターンがある会話が例に挙げられている。発話権をもっている3 BF02の発話「後でわからないところだけ、」の後に、「書き加える」の4 OF01は無理なくつながる。しかし、その次に続く5 BF02の発話「自分で聞くという…。」をみると、4 OF01の発話がなくとも文は完結する。4 OF01の発話は3 BF02の発話意図と一致しておらず、ひとつの発話文を作りあげるのに必要な一部分を話者OF01が担っているとは言い難い。これは、堀口(1997)の例(2)の場合も同様である。

共話の定義の違いにはそれぞれの研究の観点の違いが反映されてもいる。まず、串田(2002a、2002b)は、「引き取り」のような統一体の産出可能性そのものが、話し手と聞き手の間で交渉されうる機会であると述べている。ザトラウスキー(2003)はより具体的に、日本語の共話は、参加者間の一体感を作るために用いられるが、参加者同士が対立しあっている場合には、発話の完結がひとりになされる傾向があり、共話に対する遮断もある、と述べている。そして、宇佐美(2006a)は、ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson 1987)

のポライトネス理論から共話を解釈し、共話は会話参加者が互いに好かれない、認められたいと思う欲求を満たす行為であり、「ポジティブ・ポライトネス」の機能を果たしている」と述べている。共話は、「共一参加者による完結(Co-participant completion: Hayashi2003)」や「共語り手(co-teller)(Hayashi、Mori & Takagi2002 ; 森本2004)」といった観点から論じられ、協調的な言語行動として捉えられることが多い。

2.4.2. 共話的反応の出現率

共同発話文に関する先行研究の多くは、母語話者同士の会話を対象としている。母語話者と日本語学習者の会話を対象にしているのは宇佐美・木林(2002)、木林(2014)のみである。それぞれの研究では韓国語母語話者(中級)と中国語母語話者(中級・超級)を調査対象にしている。先行研究の会話データにもとづき、会話に使用される言語、会話場面、会話話者の母語、共話出現率を以下の表8に示す。

表 8 先行研究における共話の出現率

観点	先行研究	会話場面	使用言語	出現率	会話者母語
談話分析	Ono & Yoshida1996	自然なインフォーマルな会話	日本語	2例(稀である)	日本語
	Clancy et al.1996	対面友人議論場面	日本語 中国語 英語	0%(日本語) 15.6%(中国語) 15.6%(英語)	日本語 中国語 英語
	古内2003	初対面母語場面 友人母語場面	日本語	2.3%(全体) 3.9%(異性友人)	日本語
	Suzuki&Usami2006	初対面母語場面	日本語 英語	2.1%(日本語) 0.9%(中国語)	日本語
	李宇霞2009	初対面非母語話場面	日本語 中国語	3.54%(日本語) 1.94%(中国語)	中国語
言語能力	宇佐美・木林2002	初対面接触場面 初対面母語場面	日本語	1.0%(接触場面) 1.3%(母語場面)	中国語 韓国語 日本語
	木林2014	初対面母語場面 初対面接触場面	日本語	2.27%(日-日) 2.11%(日-中中級) 1.76%(日-中超級)	日本語 中国語(台湾)

(母語場面：母語話者同士の会話場面、非母語場面：非母語話者同士の会話場面)

日本語では共話の出現率が低いと主張する研究(Ono & Yoshida1996、Clancy et al.1996)、日本語学習者であれ、母語話者であれ、会話の使用言語が日本語である場合に共話の出現率が上がると主張する研究(Suzuki & Usami(2006)、李宇霞(2009))、接触場面より母語話者同士の場面の方が共話の出現率がやや高いと主張する研究(宇佐美・木林(2002)、木

林(2014))がある。異なる言語の母語話者同士の会話場面であれ、接触場面であれ、日本語での会話において共話の出現率が上がるということは日本語の共話的性格を裏付けるものである(本研究11章で詳述する)。異なる言語(英語・日本語等)あるいは異なる場面(初対面・友人同士等)における共話を比較したこれらの研究は、日本語学習者同士の会話における共話を取り上げた李宇霞(2009)以外は、ほとんどにおいて母語話者同士の会話を対象としている。

2.4.3. 表現形式と機能

共話のタイプと機能に対しては様々な考察が行われている。先行研究で挙げられている共話の表現形式と機能は、研究の視点によって多種多様である。主なものを、次の表9にまとめて示す。

表 9 共話の表現形式と機能

観 点	表現形式・機能	助	補	先	共	質	言	発	確	叙	答	発	発
		け	足	取	感	問	い	話	認	述	え	話	話
		舟		り			換	促				復	代
	先行研究						え	進				唱	行
談話分析	水谷1993			●								●	
	Ferrara1992			●				●					
	黒崎1995	●	●	●	●	●	●						
	Hayashi&Mori1998	●	●										
	Hayashi2003	●	●		●								
	古内2003	●	●	●	●	●							
	植田2004	●	●		●				●	●			
笹川2007	●	●	●	●			●						
言語能力	宇佐美・木林2002					●			●	●	●		

上記の表を見ると、研究者によって観点の違いがあり、定義もその範囲も一様ではないため、表現形式と機能の認定にはかなりの違いがある。共話の表現形式と機能に関しては、談話分析的観点からの研究が圧倒的に多く、日本語教育における言語能力の観点からの研究は宇佐美・木林(2002)が代表的である。宇佐美・木林(2002)は、中級程度の日本語能力を持つ学習者の共話には「先取り」も見られること、後行発話の機能としては「叙述」が最も多く、「答え」、「確認」の機能を果たす後行発話は見られないこと、「質問」の機能においては母語場面より接触場面の方での出現割合が4倍ほど高いことを報告している。

談話分析的観点に立つ諸研究においては、「助け舟」、「補足」、「先取り」、「共感」などは、共話の表現形式ないしは機能として、比較的共通して認められている。しかしながら、表

現形式として分類されているものの中に機能的な色彩が濃いものがあり、また、反対に機能として分類されているものの中にも表現形式として分類した方がよいものがある。たとえば、黒崎(1995)は共話の種類として上記の表に示した「助け舟、補足、共感、先取り、問い返し、言い換え」などを提示しているが、前者の「助け舟、補足、共感」は「先取り、問い返し(質問)、言い換え」の表現形式が担う機能として区別した方がよいように思われる。また、宇佐美・木林(2002)は共話の機能として「質問、答え、確認、叙述」をあげているが、このうち、「確認」以外は機能としては認め難い。

2.4.4. 変異の生起要因

聞き手言語行動に関する研究では、あいづち表現を中心とした考察が主流であるが、古内(2003)、植野(2011)などは共話的反応の型に関する考察を行っている。

ただし、これらの研究では、後行発話(本稿でいう共話的反応)の下位分類として「先取り」を取り上げているが、古内(2003)は男性が多用すると指摘している一方、植野(2011)は年上(先生)が対年下(学生)に多用するなど、男女差も上下差も見られその出現傾向の分析結果が一様ではない。

2.4.5. 先取りと共話に関する先行研究の成果および残された課題

以上で見てきたように、共話に関する先行研究の多くは定性的な研究に集中しており、会話の中で共話が果たす役割について一定の知見を示している。

従来の研究では、ポライトネス理論の観点から、共話を協調的な言語行動として捉えていることが多い。しかし、一方で、会話の参加者が相手と反対の立場を主張する際などは、協調的とはいえない(ザトラウスキー2003、Hayashi2003、森本2004)。したがって、共話がポジティブ・ポライトネスの機能を果たさない場合もあると考えられる。ポライトネス理論の観点を参考にする際には、ポジティブ・ネガティブの両方を念頭に置き考察する必要がある。本研究では、従来の研究が着目してきたポジティブ・ポライトネスの機能で説明しきれない部分を、ネガティブ・ポライトネスの機能にも着目しつつ考察する(本研究6章で詳述する)。

また、共話の表現形式と機能に関しては、従来の研究では共話の表現形式と機能が混同されている。どのような表現形式がどのような機能を果たすのかについて、両者をはっきりと分けた上で再検討する必要がある。共話の定義を厳密にした上で、実際の自然談話を分析し、そこから導かれた表現形式や機能を体系的に探り、日本語の共話の展開構造を明らかにする必要がある(本研究10章で詳述する)。

なお、共話は一方的な行為で成り立つものではなく、話し手と聞き手の相互作用によっ

て構築されるものであり、会話者間の社会的関係に影響を受けやすいにもかかわらず、母語話者間の社会的関係はこれまで十分考慮されてこなかった。宇佐美(2001c、2008a)は、話者・対話者の年齢、社会的地位、性別等の社会・文化的要因など、当該会話内における言語体系外の「グローバルな」要因による影響も考慮に入れ、双方の観点から分析を行う必要があると述べている⁷。グローバルな観点から分析を加えるためには、条件をある程度統制した会話データを用いる必要がある。宇佐美(2008a)が述べるようなグローバルな観点からの定量的分析を加えることで、日本語会話の相互作用における共話を体系的に捉えることができると考える(本研究6章で詳述する)。

最後に、共話は接触場面においても言語能力レベルの最も高い超級話者よりは中級話者との会話での出現率が高い(木林2014)ことから、しばしば、言語能力レベルとは無関係であるかのように考えられることがある。しかしながら、木林2014で分析対象とされた中級と超級学習者に限らず、OPIに基づく初級から超級までの日本語学習者の言語能力レベルを考慮した分析が必要である。日本語学習者については、これまでに中国語母語話者、韓国語母語話者、英語母語話者が主な対象になっているが、本研究ではインドネシア人日本語学習者も対象としている。その理由は、近年日本語学習者が急増しその学習人口が約87万人と世界第2位になり、インドネシア国内における日本への関心が高まり日・尼接触場面の増大が予想されるからである⁸。実際、EPAなどの制度により母語話者との接触機会も増えているのが現状である。文化が異なればそれに伴う言語行動も当然異なるだろうし、異文化コミュニケーションにおける違和感を覚える可能性も高くなる。そこで、インドネシア人日本語学習者との会話も念頭に置く必要がある(本研究9章で詳述する)。

⁷ 宇佐美(2008a: 152)では、談話研究における相互作用の分析において「ローカル分析」「グローバル分析」という2つの観点を取り上げ、これらの観点を含む会話の分析を「総合的会話分析(言語社会心理学的アプローチ)」と称している。2つの観点の詳細は以下の通りである。

- ・「ローカル分析」とは、会話というやりとりの中における「個々の発話の機能」を、当該の発話の前後の文脈程度のローカルな要因を考慮に入れながら、質的に分析、解釈すること。
- ・「グローバル分析」には、定量的分析、定性的分析の2つの側面がある。定量的分析とは、話者の年齢や性などの当該会話外の要因の影響を考慮に入れたグローバルな分析を指すが、ここでは、世論調査のように大量の質問紙調査のデータを定量的に分析するものは含まず、あくまで、「総合的会話分析」において、グローバルな観点を考慮に入れた定量的分析のことを指す。また、定性的分析とは、当該の会話の流れやその結末などを考慮に入れたグローバルな観点からの定性的な分析を指すという。

⁸ 国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」

https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf(2015年12月25日アクセス)

2.5. 本研究における聞き手言語行動の定義と範囲

日本語会話における聞き手行動の研究は、1980年代以降の談話分析、語用論の確立に伴い、あいづちの使用に焦点を当ててなされてきた。先述の通り、水谷(1988a)は、日本語会話の特徴のひとつとして、聞き手があいづちを頻繁に打ち、話の流れに積極的に参加していることを指摘した。さらに水谷(1988a)は、「うん」、「ええ」などのあいづちに加えて、繰り返しや言い換えによって聞き手が話し手の発話を補強、補完しようとする日本語会話の性格を「共話」という語を用いて表した。日本語のあいづち使用の頻度の高さは、他言語との対照研究からも実証されている(メイナード1993、Clancy et. al. 1996)。メイナード(1993)は、英語のあいづちが文の終わりに起こるのに対して、日本語のあいづちは文の終わりのほか、相手の発話中の短いポーズや終助詞、間投助詞に伴って起こり、その頻度は英語の約2倍(1993)であることを明らかにした。こうした結果は日本語の共話的性格を裏付けるものである。堀口(1988、1997)は、聞き手が行うあいづち的発話として、「うん」、「ええ」などのあいづちのほか、先取り、確認の行為を取り上げ、聞き手は単に発話を受けるだけでなく、発話を理解、解釈、想像、予測するといった積極的な活動を行っている」と指摘した。近年のあいづち研究は、うなずき等の非言語行動との関係に着目した論考(Szatrowski 2000)や、共起する終助詞との関係に着目した論考(Kita& Ide 2007)へと拡がりをみせている。

話しことばにおける聞き手は伝達された情報の受け手であり、したがって、「聞く」ことは受動的な行為と考えられがちである。しかし、聞き手は相手の言っていることを音声、語彙、文法の知識を動員して理解すると同時に、前後関係や場面に合わせて解釈したり、知識や記憶に照らして考えたり想像したり、さらには相手がまだ言っていないことまで予測したりしながら聞くことを行っている。話し手が話を進めていくためには、聞き手からの反応や働きかけや助けが必要であり、話しことばによるコミュニケーションは聞き手の積極的な参加によって成立するものである。このような聞き手からの反応や働きかけや助けは、笑いやうなずきなどによって非言語的に表れることもあれば、あいづちや応答や質問などによって言語的に表れることもある。

2.5.1. 聞き手とは

日本語会話における聞き手行動の研究では、1980年代以降の談話分析、語用論の確立に伴い、あいづちの使用に焦点が当てられてきたのは先述の通りである。

また、相手の語りを聞く立場にある者としての聞き手を扱った研究には、串田(2006、2009)の論考がある。串田(2006、2009)は会話分析(Conversation Analysis)の立場から、聞

き手が語りの進行を促進する方法を分析している。李麗燕(2000)、西川(2005)は、親しい者同士の会話における語り手と聞き手の相互行為を分析し、語り手が語り手だけの一方的な行為で成り立つものではなく、聞き手の協働的な参加によって構築されるものであることを論じている。本節では相互行為における聞き手がどのように扱われてきているのかを述べる。先行研究における「聞き手」の定義をまとめたものが、次に示す表10である。

表 10 先行研究における「聞き手」の定義

先行研究	定義
Shannon & Weaver1964	聞き手は受け身的存在
Goodwin1980	会話は聞き手(受け手)の存在により影響
Sacks1974、1992	
Sperber & Wilson1995	
水谷1988a、メイナード1993、Clancy et. al. 1996	あいづち的反応者
堀口1997	発話を受けるだけでなく、発話を理解、解釈、想像、予測するといった積極的な活動を行う者
森本2002	「話し手」、「聞き手」の役割の交替に注目
串田2006	
ザトラウスキー2000	会話参与者 相互行為者としての聞き手 実質的発話者
森本2004	
串田2009	
李麗燕2000	
西川2005	

上記の表に見られるように、一口に「聞き手」といってもその定義により様々な種類のものが含まれるということである。それゆえ、「聞き手」、「聞き手言語行動」が「どのような種類のものであるか、明確にする必要がある(伝2009:477)」という伝(2009)の指摘にもとづき、本研究では以下のように「聞き手」と「聞き手言語行動」を定義し、論を進める。

「聞き手」とは、発話の主導権をもっている話し手の話を受け、あいづち的反応だけでなく、「先取り」「言い換え」「繰り返し」「問い返し」「遮り」などの共話的反応を返す者であると定義する。また、「聞き手言語行動」とは、このような聞き手が話し手に対して行うあいづち的、共話的反応の型を用いて行う反応であると定義する。

表10にもよく表れているように、実際のやり取りにおいては、話し手の発話の産出それ自体も決して理想的なものとは言えない。たとえば、話し手の発話産出の途中で聞き手が

聞き返すことによって、発話が途中で途切れることや、発話の展開が大きく変わることもある。また、話し手・聞き手という参与役割の構造なども、その場その場で常に変わりうる存在なのである。

2.5.2. あいづち的反応とは

従来の研究において、「会話の進行を支援するために話し手の発話途中で聞き手が挿入すること(水谷1988a: 4)」、「話し手が発話権を行使している間に聞き手が送る短い表現(メイナード1993: 58)」、「話し手が発話権を行使している間に、聞き手が話し手から送られた情報を共有することを伝える表現(堀口1997: 42)」というあいづちの定義からも窺えるように、ある特定の言語形式がもつ機能だけでなく、談話レベルでの機能も考慮に入れることが一般的になってきている⁹。そこで、本研究では、先ほどの堀口の「話し手が発話権を行使している間に、聞き手が話し手から送られた情報を共有することを伝える表現」という定義に基づいて、「ええ、うん、ほんとう、そうですね、なるほど、繰り返し、言い換え、先取り」などの聞き手言語行動を研究の対象とする。

一方で、完全な応答の性格が強い「はい」のような応答詞または笑いや首の動きのような非言語聞き手行動は研究の対象外とする。ただし、水谷の「会話の進行を支援するために話し手の発話途中で聞き手が挿入すること」という定義も考慮する。そして、本研究では以上の従来の定義にもとづき、あいづち的反応を以下のように定義する。

「あいづち的反応」とは、現在進行中の話し相手の発話を継続させるために行う聞き手の反応である。それは、「傾聴」、「理解」、「同意」、「否定」、「感情表出」の役割を果たす表現であり、話し手に聞き手の発話に対する応答を求めないものに限られる。

従来の研究で明らかになったあいづち的反応の下位分類として、あいづち表現、言い換え、繰り返し、先取りを取り上げ、その機能別表現形式をまとめて示したのが次の表11である。ここでは、機能別に感声的あいづち(A)と、概念的あいづち(B)に分けて提示する。このように提示することにより、どういう機能でどういう表現形式が使われるのかがより明確になり、その使われ方の把握が容易になるからである。

⁹ 例えば、杉戸(1987:50)は、あいづちを「実質的な内容」を含まない言語形式としたのに対し、メイナード(1993:58)は、聞き手のあいづちに続いて発話の順番が入れ替わったものはあいづちとはみなさないとした。このように言語形式や内容で捉えるか、相互作用で捉えるかで見方が変わる。

表 11 機能別にみたあいづち的反応の表現形式

機 能		(代表)表現形式
上位カテゴリー	下位カテゴリー	
(1)傾聴表示	①「話しについていっている」の表示	「感」： はい↘ はあ↘、え↘、ふん↘ 「概」： (オウム返し、単純な聞きかえしの)繰り返し
	②情報確認の表示	「感」： ええ↘、ふーん→ 「概」： そう系(そう↘ そうか→ そうなんだ↘ そうですね↘ そうですか↘ そうなんですか↘)、ほんとう系(ほんと↗ ほんとですか↗)、言い換え系↗、繰り返し系↗
(2)理解表示	③気持ち了解の表示	「感」： んん↘、ええ↘ えー↘ 「概」： 繰り返し↘ 言い換え↘ 先取り↘
	④知識共有の表示	「感」： あー↘ 「概」： そう系(あ、そうか↘ あ、そうかそうか↘ そうか↘ そうだそうだ↘ ああ、そうですか↘ あ、そうですか↘ そうでしたか↘)
(3)同意表示	⑤共感の表示	「感」： うん↘、ええ↘ 「概」： そう系(そう↘ そうそう↘ そうそうそう↘ そうね↘ そうです↘ そうですね↘ そうですよね↘ そりゃそうです(よね)↘)、文末系(ねえ↘)、ほんとう系(ほーんと↘ ほんとにそうですよね→ 確かに↘)、言い換え系↘、繰り返し系↘、先取り系(先取り↘ 先取りあいづち↘)
	⑥納得の表示	「感」： あー↘ 「概」： なるほど系(なるほど↘ なるほどね↘ やっぱ↘)
(4)否定表示	⑦否定的な気持ち、疑いの表示	「感」： あー↗ 「概」： いや系(いえ↗ いや↗)、そう系(そう↗ そうか↗ そうなの↗ そうかねー↗ そうですか↗ あそうですか↗ そうなんですか↗)、ほんとう系(ほんとー↗ ほんとに↗)、言い換え系↗、繰り返し系↗
(5)感表表出	⑧興味・関心の表示	「感」： へーえ↗ 「概」： そう系(そうですか↘ そうなんですか↘)、ほんとう系(あ、ほんとー↘ ほんとー↗)、繰り返し系(繰り返し↘ (文中部分) 繰り返し↘ (文末モダリティ形式部分))、言い換え系↘、先取り系(先取り→)
	⑨感情の表示	「感」： えー↗(違和感)、へー↗ (驚き)、ほー↗ (驚き) 「概」： そう系(そう↗ (驚き) あー、そうですか↗ (驚き))、文末系(でしょ↗ (喜び))、ほんとう系(まじー↗ (驚き))、うそ系(うそー↗ (意外))、すごい系(すごい↗ (驚き))、繰り返し系↗ (疑い)

※ 「感」： 感声的あいづち 「概」： 概念的あいづち

あいづち的反応の表現形式に相当する具体例を示すと次の通りである。

[あいづち表現の例]

会話例 13) 水谷2001 : 46の例文

- 1 A : きのうひさしぶりに松本さんに会ったら、
→2 B : ええ。
3 A : なんだか急にふけこんじゃって、
→4 B : そう。
5 A : こっちもあんなふうになってるのかなって思っちゃってね、
→6 B : うん。

[言い換えの例]

会話例 14) 堀口1997 : 68の例文

- 1 A : 同じ年にはいったんですけど
→2 B : 同期生

[繰り返しの例]

会話例 15) 堀口1997 : 64の例文

- 1 A : カワウが飛んでたんですよ。
→2 B : カワウが飛んでた。

[先取りの例]

会話例 16) 水谷1984 : 270の例文

- 1 A : きのう熱海のほうで大きな地震が...
→2 B : ええ、ありましてね

2.5.3. 共話的反応とは

共話とは、たとえば「木の葉っぱが赤くなって…」と話し始めた相手の発話を引き取って、「いつの間にか秋になりましたね」というように、会話において2人以上の話者がひとつの発話を作り上げる現象のことである。水谷(1980)は共話を「2人以上の話者同士が共同で作り上げる発話(水谷1980:32)」としている。ザトラウスキー(2000)は、「言い換えや先取りや補充により発話を完成させるタイプをあいづちの共同発話(ザトラウスキー2000: 44)」とみなしている。

本研究では、先行研究を参考にした上で、「共話」を会話の中で話し手と聞き手が共同で

ひとつの発話を作り上げ、話し手の発話が話し手または聞き手により中途終了しており、聞き手の発話が抜き取られると話の前後の流れが分からなくなる会話形態と定義する。このように共話を定義すると、会話形態を以下の表12のように分類できる。この分類においては、話し手の発話が完結しているか否か、聞き手の発話を抜き取っても話の前後の流れが分かるか否かによって、1. 共話、2. 疑似共話、3. 質問・応答会話、4. 対話に分けられる。

表 12 発話完結の有無と抜き取り可否による日本語の会話形態の分類

		聞き手の発話を	
		抜き取ると話の前後の流れが分からない	抜き取っても話の前後の流れが分かる
話し手の発話が	完結していない	1 共話	2 疑似共話
	完結している	3 質問-応答会話	4 対話

上記表12の会話形態の分類に相当するそれぞれの具体例は次の表13に示す。

表 13 日本語の会話形態分類の具体例

会話例17) 共話	1 7)発話(4B)なしの場合、話の前後の流れが分からない
1 A: 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安っていうか	1 A: 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安っていうか
2 B: あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。	2 B: あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。
3 A: 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら	3 A: 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら
4 B: 専門学校で資格とるとかね	4 B:
5 A: そうそう。そういう人と違うスキル持ってないとこれからはだめですよ。	5 A: そうそう。そういう人と違うスキル持ってないとこれからはだめですよ。
6 B: まあ、これからは大卒だけじゃ武器にもならないしね。	6 B: まあ、これからは大卒だけじゃ武器にもならないしね。

<p>会話例18) 擬似共話</p> <p>1 A : 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安ていうか</p> <p>2 B : あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。</p> <p>3 A : 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら</p> <p>4 B : 専門学校で資格とるとかね</p> <p>5 A : 人と違うスキル持たないとこれからはだめかなって思いますね。</p> <p>6 B : まあ、これからは大卒だけじゃ武器にもならないしね。</p>	<p>18) 発話(2B)なしの場合でも話の前後が分かる</p> <p>1 A : 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安ていうか</p> <p>2 B : _____</p> <p>3 A : 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら</p> <p>4 B : 専門学校で資格とるとかね</p> <p>5 A : 人と違うスキル持たないとこれからはだめかなって思いますね。</p> <p>6 B : まあ、これからは大卒だけじゃ武器にもならないしね。</p>
<p>会話例19) 質問一応答会話</p> <p>1 A : 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。〇〇さんも将来について不安とかありませんか。</p> <p>2 B : うん、もちろんあるよ。でも私は結局実家の家業継ぐから将来は決まってるんだよね。</p> <p>3 A : ご実家はなにされてるんですか？</p> <p>4 B : 佐渡で旅館やってるの。</p> <p>5 A : 佐渡ってあの、トキで有名な佐渡ですか？</p> <p>6 B : そう、冬は寂しいけど、いいところだから今度うちの旅館泊まりにおいでよ。</p>	<p>会話例20) 対話</p> <p>1 A : 僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安なんです。</p> <p>2 B : あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。</p> <p>3 A : 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通うだけじゃ足りないと思うんです。</p> <p>4 B : 専門学校で資格とるとかね</p> <p>5 A : 人と違うスキル持たないとこれからはだめかなって思ってるんですよ。</p> <p>6 B : まあ、これからは大卒ってだけじゃ武器にもならないしね。</p>

本研究での共話の定義にあてはまるのは、具体的には表13の会話例17)で共話を成している3Aの後に続く4Bの発話である。ここで4Bの発話がないと3Aの発話と5Aの発話はいま

くつながらず、話の前後の流れが分かりにくいところがある。ということは、4Bの発話は3Aの発話意図と一致しているということであり、ひとつの発話文を作りあげるのに必要な一部分を話者Bが分担したということになる¹⁰。このことによって、この発話は相手の話している内容に対する理解をアピールする働きを持つことになる。5Aの「そうそう。そういう人と違うスキル持ってないとこれからはだめですよ。」という発話からも、その意図が相手に伝わっていることがうかがえる（会話例の左中かっこ（{}）は、先行発話である話し手発話と、後行発話である聞き手の共話的反応で成り立つ共話をなす発話を示す（以下、同様））。

会話例21)

- { 3 A : 何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら
4 B : 専門学校で資格とるとかね
5 A : そうそう。そういう人と違うスキル持ってないとこれからはだめですよ。

擬似共話は、表13の会話例18)の1A～3Aのような発話である。従来の研究では、主に次の会話例22)の発話文の話し手1Aと2Bだけを取り上げ、共話をなすと取り扱われてきた。つまり、2Bの発話に対する3Aの発話については目を向けられてこなかった。しかしながら、一連の発話から2Bを抜き取っても1Aと3Aの発話は自然につながる。単文レベルではなく、2回以上の発話の主導権の譲り渡しがある談話レベルで、話の前後の流れをみることにより、共話と認められる範囲も異なるものになる。

2Bの発話がなくても1Aの発話と3Aの発話は無理なくつながる。ということは、2Bの発話が必ずしも1Aが言おうとしていることを引き継いでいるとは限らないということであり、2Bの発話がなくても文が完結するということである。2Bは1Aの発話を聞きながら相

¹⁰ 本研究で使用する会話データのひとつである BTSJ(2011 年版)では、発話文について以下のように定義し、認定している。

「実際の会話の中で発話された文」という意味で「発話文」という用語を用い、基本的な分析の単位としている。これは、日本語では、スピーチレベルの分析など、「文」単位でコーディングをする必要があるものが存在するためである。「発話文」の定義は、会話という相互作用の中における「文」とする。そして、以下のように認定する。基本的に、ひとりの話者による「文」を成していると捉えられるものを「一発話文」とする。しかし、自然会話では、いわゆる「1 語文」や、述部が省略されているもの、あるいは、最後まで言い切られない「中途終了型発話」など、構造的に「文」が完結していない発話もある。そのような場合は、話者交替や間などを考慮した上で「1 発話文」であるか否かを判断する。つまり、「発話文」の認定には、「話者交替」、「間」という 2 つの要素が重要になる。<http://www.tufs.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj2011.pdf> (2015 年 12 月 25 日アクセス)

手の意図だと思われる発話をしたものの、3Aは2Bの発話とは関係なく元々自分で話そうとした内容の発話で話を通してている。これにより2Bの発話は必ずしもひとつの発話文を作り上げるのに必要な部分を分担しているとは言い難い。

会話例22)

- 1A：僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安ていうか。
2B：あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。
3A：何のスキルもないし。何というか・・・大学に通いながら

表13の会話例19)の質問 - 応答会話は、日本語教科書の会話文や刑事ドラマの取り調べ場面などでよく見かける会話形式で、話し手1A～6Bのような発話が典型的な例である。質問形の話し手の発話が終わってから応答形の聞き手の発話が始まるというパターンである。次の例(23)から分かるように、2Bの発話を抜き出すと話の前後の流れが分かりにくい。

会話例23)

- 1A：僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。○○さんも将来について不安と
かありませんか。
2B：うん、もちろんあるよ。でも私は結局実家の家業継ぐから将来は決まってるんだよね。
3A：ご実家は何かされてるんですか？
4B：佐渡で旅館やってるの。

表13の会話例20)の対話は、話し手の発話が遮られることなく完結した後に、聞き手の発話が始まる場合である。また、次の会話例24)からも分かるように、聞き手2Bの発話を抜き出しても話の前後の流れがわかることが質問 - 応答会話との違いである。

会話例24)

- 1A：僕、来年卒業なんですけど就職するかまだ迷ってて。将来について不安なんです。
2B：あー、わかる。私もこのまま就職しちゃっていいのかなって思う。
3A：何のスキルもないし。何というか...大学に通うだけじゃ足りないと思うんです。
4B：専門学校で資格とるとかね。

上記表13の進路問題で話し合っている学部生A、B同士の共話がみられる会話例は以下の図3のようにまとめられ、4Bのような発話が本研究でいう「共話的反応」に相当する。

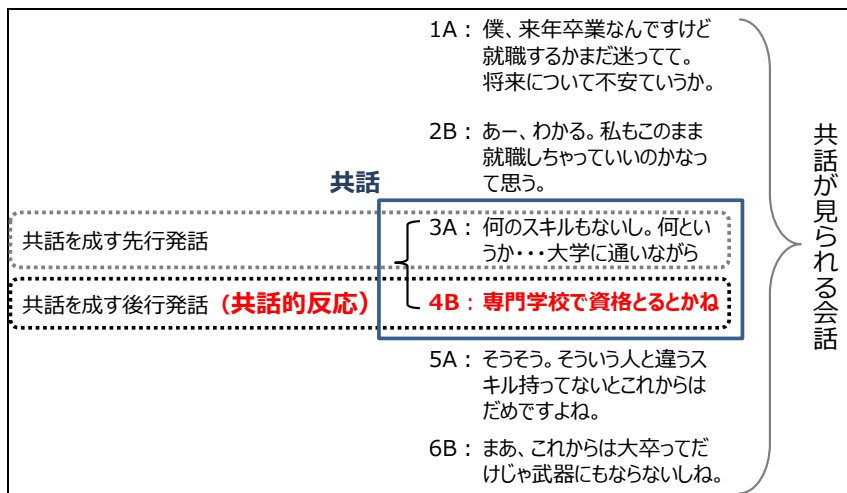


図 3 会話における共話的反応

本研究で対象としている共話的反応は、従来の研究においてあいづち表現とも共話的反応とも言われてきた部分である。ここで、先行研究で取り扱っている聞き手言語行動の種類をまとめておく(表14)。表の中の白い○はあいづち表現を示し、網掛け■は、共話的反応の型を示す。しかし、研究者によってはその認め方が必ずしも一致せず、特に表の点線枠がクロスする部分で確認できるように「繰り返し」「言い換え」「先取り」は、あいづち表現か共話的反応の型かで見解が分かれる。

表 14 先行研究で取り扱っている聞き手言語行動の種類

種類	あいづち表現				あいづち表現と共話的反応の型の間で揺れ有			共話的反応の型										
	感声的表現	概念的表現	ソ形式表現	その他	繰り返し	言い換え	先取り	問い返し	助け舟	共感	確認	情報要求	感想	答え	叙述	補足	遮り	
先行研究																		
水谷 1983							○										○	
水谷 1984		○			○	○	○											
小宮 1986	○	○			○													
黒崎 1987	○		○	○	○													
水谷 1988		○			○	○	○											
堀口 1988		○			○	○												
松田 1988		○			○	○	○											
ザトラウスキー 1991		○																
メイナード 1993		○			○	○	○											
堀口 1997		○			○	○	○				○							
黒崎 1995							○	○	○								○	
ザトラウスキー 2000							○		○	○	○	○						
宇佐美・木林 2002										○				○	○	○		
古内 2003							○	○	○					○		○		
本研究の立場	○	○			○	○	○	○									○	

先述したように、水谷(1984)は、「言い換え」を「補強型」、「先取り」を「完結型」のあいづちとして取り上げている。水谷(1988a)では「先取り」を「聞き手が積極的に話し手に

協力し、話に参加しようとする態度を表すものとしては、あいづちと共通した性格をもつもののあいづちに含めるのは無理(水谷1988a: 10)」だと指摘している。

そこで、本研究では、表に示したように、あいづちの反応を感声的あいづち、概念的あいづち、(あいづち的)言い換え、(あいづち的)繰り返し、(あいづち的)先取りに分類する。また、共話的反応については共話的言い換え、共話的繰り返し、共話的先取り、問い返し、遮りを聞き手言語行動の下位分類とする。

聞き手言語行動のうち、「言い換え」、「繰り返し」、「先取り」はあいづち的反応とも共話的反応とも捉えられるが、本研究の共話の定義に従ったもののみを共話的反応として扱う。以下の会話例25)~29)はその具体的な例である¹¹⁾。たとえば、会話例25)は1Aで「でも「先生1姓」先生だったら、英語も…できるから…」というように途中で発話を中断し、2Bで「そうですね、「先生1姓」先生英語すごいですね」と言い換え、話し手発話を引き取りひとつの発話を作り上げるといった共話的に使用された場合である。この場合、2Bの共話的反応がなければ1Aと3Aの発話のつながりは分かりづらい。

[言い換への例]

会話例 25) 授業担当の先生についての話 : A-B(20代男性同士)の会話

- {
- 1 A: でも「先生1姓」先生だったら、英語も…できるから…
 - 2 B: そうですね、「先生1姓」先生英語すごいですね<笑い>。
 - 3 A: もうホントに、すらすらとこう、原文、読んでいらっしゃるじゃないですか(うーん)?
辞書もこう読まないで<笑い>

¹¹⁾ 3.1.の表 16 で詳述するが、本研究では「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011 年版」の文字化の原則を援用する。BTJS から引用した会話例 25)~29)で使われている記号を中心にその基準を提示すると以下の通りである。

- ①… : 文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。
- ②< >{<} : 同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ 2 つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に{>}をつける。
- ③【 】 : [全角] 第 1 話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第 2 話者の発話が始まり、結果的に第 1 話者の発話が終了した場合は、「【 】」をつける。
- ④ () : 短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。

[繰り返しの例]

会話例 26) SARSで一時帰国した時の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: =うん、たまたま、なんかね、<SARSの騒ぎで>{<}<笑い>。
- 2 B: <SARSで>{>}<笑いながら>。
- 3 A: そう、1回ね、帰らされたみたい(あー)感じなんですけど、もうね

[先取りの例]

会話例 27) 受講した言語の授業の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: あの一、あっちの、なんだっけ??、オロチョン語とかなんか(うんうんうん)、なんか
- 2 B: ツングース語ね。
- 3 A: ツングース言語,,

[問い返しの例]

会話例 28) ベトナムの食べ物の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: でもフォーよりもっとおいしいものとかも、あるんですけどー
- 2 B: あ一、(うん)麺類で?
- 3 A: うん麺類で(へー)。

[遮りの例]

会話例 29) 旅行地のトイレの話：BF03(20代前半女性)-OF01(年上女性)の会話

- 1 BF03 あ一、でもけっこう、一般住宅とか入ると、(うんうん)けっこう、あんまりまだ衛生面そんなに<充実>{<} 【】。
- 2 OF01 【】 <ちょっとね、>{>}1本入るとね 【】。
- 3 BF03 【】 1本入ると、あれ?とか…。

そして、本研究では以上の従来の流れを参考に、共話的反応を以下のように定義する。

「共話的反応」とは、共話をなす先行発話に対する後行発話による聞き手の反応である。それは、抜き取られると話の前後の流れが分からなくなるので、共話をなすための必然的な要素である。「共話的言い換え」、「共話的繰り返し」、「共話的先取り」、「問い返し」、「遮り」などで表される。

以上をまとめた本研究における聞き手言語行動の枠組みを図4に示す。

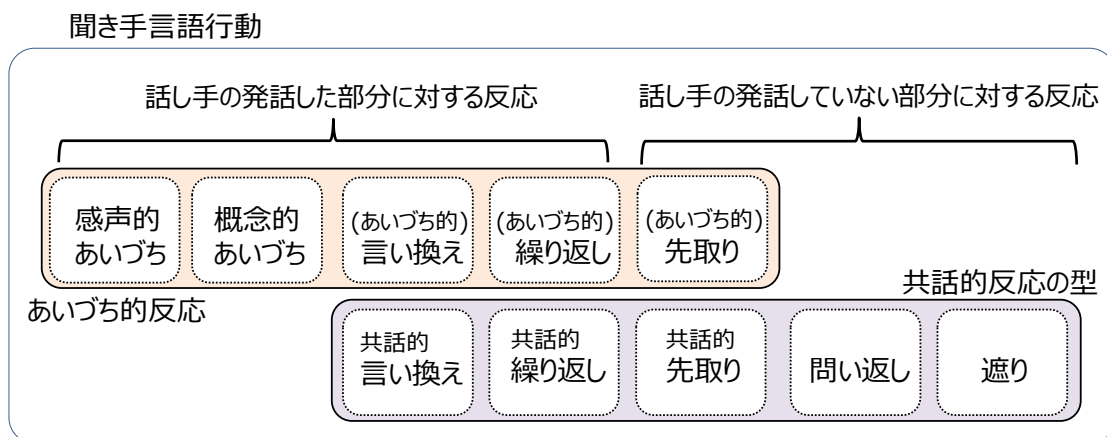


図 4 本研究における聞き手言語行動の枠組み

2.6. 本研究の課題および本章のまとめ

本研究における課題3点を下記にて示す。

1. 日本語母語話者の聞き手言語行動が、スタイルや対話相手との社会的関係による変異生起要因(年齢差・性別差)とどのように関わっているか。
2. 日本語学習者の聞き手言語行動が、言語能力レベルによってどのように異なるのか。
3. 日本語学習者と母語話者の聞き手言語行動が、いかなる展開構造(展開パターン)を成しているのか。

以上、本章では、本研究に関連する先行研究を、「話し手の発話部分に対する聞き手言語行動：あいづち表現、繰り返し、言い換え」、「話し手の非発話部分に対する聞き手言語行動：先取り」の2つの観点から概観し、「本研究における聞き手言語行動の定義と範囲」という形で本研究の位置づけを述べた。そして、以上のような課題解決のために、本研究では、次のような構成で議論を進める。第一に、日本語母語話者の聞き手言語行動が対話相手との社会的関係とどのように関わっているのかについて明らかにする(第4章、第5章、第6章)。第二に、日本語学習者の言語能力レベルの差による聞き手言語行動の違いは見られないのかを考察する(第7章、第8章、第9章)。そして、第三に、日本語母語話者同士の会話場面における共話的反応の展開構造はいかなるものであるかを究明する(第10章)。そして最後に、接触場面における共話的反応の展開パターンはいかなるものであるのかについて考察する(第11章、第12章)。構成を視覚的により分かりやすく示したものが、次の図5である。

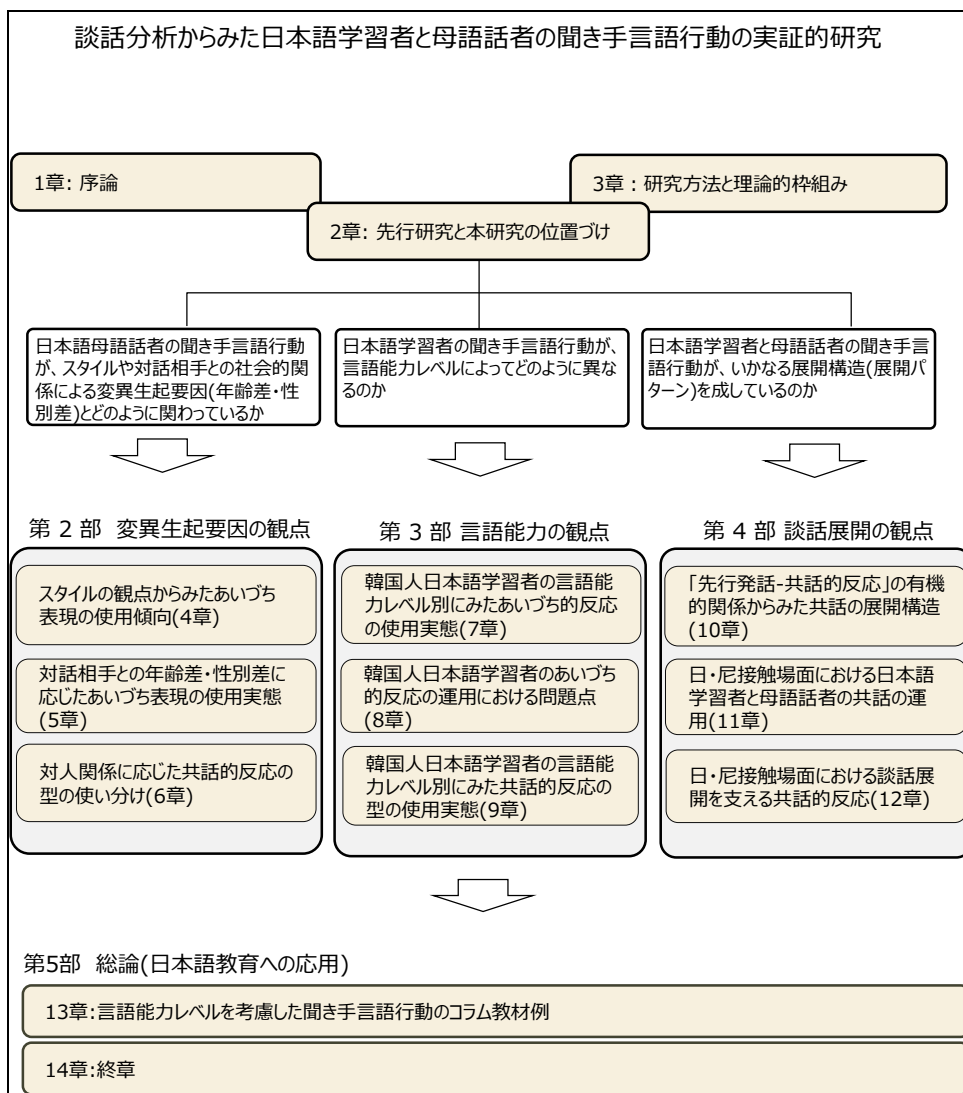


図 5 本研究の全体構成図

次章ではデータの収集方法、分析方法を含めた本研究の研究方法について述べる。

第 3 章 研究方法と理論的枠組み

第2章では聞き手言語行動に関する先行研究を概観し、残された課題を指摘し、本研究の位置づけを述べた。本章では、本研究で使用したデータの特徴、収集したデータの特徴、データの概要、分析の理論的枠組みについて述べる。

3.1.では本研究で使用・収集したデータの特徴とデータの概要について提示する。3.2.では本研究の分析の理論的な枠組みを概観する。

3.1. 使用・収集するデータ

従来あいづち研究、共話研究としてそれぞれ行われてきたものを本研究では両者を聞き手言語行動としてまとめ分析の対象とした。先述の第2章(2.6.)で言及した通り本研究の課題は、「1. 母語話者の聞き手言語行動が、対話相手との社会的関係とどのように関わっているか」、「2. 日本語学習者の聞き手言語行動が、言語能力レベルによってどのように異なるのか」、「3. 母語話者同士の会話における共話の展開構造はいかなるものであるか」、「4. 接触場面における日本語学習者と母語話者の共話的反応の展開パターンはいかなるものであるか」の4点を明らかにすることである。本研究では、以上の課題を解決するために、次の(1)~(4)のような特徴を持つデータを使用・収集することとした。各データが持つ詳細な特色については3.1.1.~3.1.4.で述べる。

(1) 聞き手言語行動と対話相手との社会的関係(性別差・年齢差)を考慮したデータ

会話において、対話相手との性別差・年齢差という社会的要因によって聞き手言語行動がどのように違ってくるのかを論じるためのデータを使用する。

(2) 日本語学習者の言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを論じるためのデータ

日本語学習者の言語能力レベルの差による聞き手言語行動の違いを明らかにするため、初級、中級、上級、超級という言語能力レベルの差が確認できるデータを使用する。その際、母語話者の使用傾向も合わせてみるために同様な状況で行われた母語話者のデータも使用する。

(3) 母語話者同士の会話における共話の展開構造が把握できるデータ

共通理解が少ない初対面母語話者同士の会話における母語話者の共話の展開構造を明らかにできるデータを使用する。

(4) 接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の展開パターンが把握できるデータ

共通理解の少ない初対面接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の展開パ

ターンが把握できるデータを収集する。

特に、日本語母語話者のデータを使用する際は、以下(5)～(9)のような言語学研究の応用や日本語のコミュニケーション教育のための実践方法に関する提言も考慮した。

- (5) 外国語教育における言語学研究の応用を考える際に、教師の主観的、印象的な説明ではなく、客観的なデータ分析に基づいた談話分析などの研究成果の応用が有効(ロング2003 : 10-11)
- (6) 言語には使う者の年齢相応の表現があり、世代の異なる教師が使う日本語をそのまま学習者に強いることは避けなければならない(メイナード2005 : 15)
- (7) 大学生くらいの若者にも男女差が依然としてある、適切なコミュニケーションのためには、話しことばの男女差を知っていることは必須(小川2006 : 50)
- (8) 母語話者の自然談話を素材とする「自然会話」の教材化(宇佐美2012 : 80-81)
- (9) 作り物ではなく本物を使う、現実のコミュニケーションを観察する(品田2012 : 148-155)

また、談話分析のために本研究でコーパス¹²を使用する際には、既成の公開されたコーパスを使用しつつ、公開コーパスで得られない資料については直接収集する手法をとることとする。本研究では第4章～第6章、第10章では公開されている「基本的な文字化の原則(BTSJ: Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版」の音声付き文字化資料を使用した(以下、使用データ①と称する)。また、第7章～9章では公開されている国立国語研究所の学習者会話データベース(使用データ②と称する)と上村コーパスの音声付き文字化資料を使用した(使用データ③と称する)。次に、第11章と第12章では筆者が調査のための録取した音声を文字化したデータも採用した(以下、収集データと称する)。これらの資料を表にまとめると以下の表15の通りである。ここでは使用・収集したデータの種類を示すだけに止め、データの詳細な特色に関しては3.1.1.以降で述べる。

¹² コーパスの用語については斎藤ほか(2005)が詳しい。斎藤ほかでは「言語分析のために、分析対象となる言語またはさまざまな言語変種を代表するように収集され、コンピュータ処理可能な状態にされた実際に話されたり書かれたりしたテキストの集合体」と定義している。

表 15 各章における使用・収集したデータ

使用データ①(BTSJ)	第4章、第5章、第6章、第10章
使用データ②(国研学習者コーパス)	第7章、第8章、第9章
使用データ③(上村コーパス)	第7章、第8章、第9章
収集データ(TMU-UPIデータ)	第11章、第12章

そして、本研究の各章で使用するデータについては、いずれも次の図6のような流れに沿って分析、考察を行った。

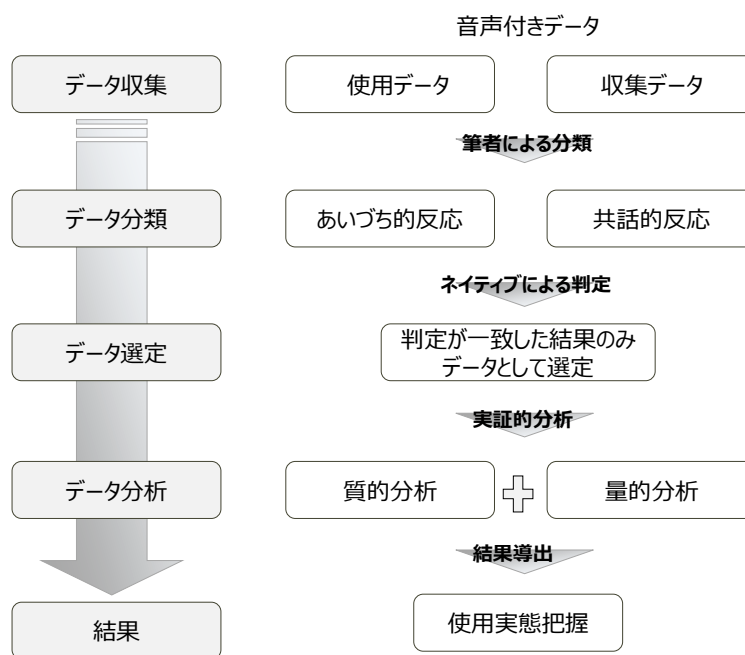


図 6 調査・分析の流れ

さらに、本研究で対象としている聞き手言語行動のうち、あいづちの文字化については、使用データ①、②などでその原則について以下のように定められているので、記しておく。

使用データ①(BTSJ)の場合：

あいづちの場合、話者の発話に重なる短い、小声のあいづち(えーえー、あー等)は、それが相互作用において、相手の話を聞いているということを示す以上の積極的な機能を持たない限り、()に入れて、発話中の最も近いと思われる場所に挿入する(以下の具体例で、波線(~~~~~)で示す)。ただし、あいづちの中でも、発話者の発話と重ならないものや、理解や感嘆を示すなどの積極的な機能を持っていると判断されるもの(以下の具体例で→で示す)は、改行して1行取る。

BTSJのあいづち表記の具体例

→1A まー、まー自分自身がもう、学校でたら、ねー、こういう学問の世界とは(<笑い>)<笑いながら>ちょっと関係ない身分にあります(えーえー)ので、実用の世界にいる関係もありまして(あー)、なんかそういう研究され続けてるといのは。

→2B ははは<笑い>。

3B 研究してるのかなー<笑い>という、ちょっとなんかのほほーんとやっておりますが。

→4A いえいえいえ。

5B あれですか、どういった関係のお仕事ですか?。

6A あ、あのー会社自体はあのー食品を製造しているということで、ところで。

→7B へー。

使用データ②(国立国語研究所の日本語学習者コーパス) :

一般的にあいづちとみなされる発話は、〈 〉で相手の発話の中のおおよその位置に挿入する。あいづち等の語形は、「ん、んー(んーんー)、はい、はー(はーはー)、えー(えーえー)、あー(あーあー)、そう、ほー(ほーほー)」に示すように統一する。また、相手の発話と完全に重なるあいづちは、その発話の区切りにまとめて示すか、別々の発話として立てることも可とする。

なお、文字化記号については以下のような記号凡例が使用されている。使用データ①の「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版」から抜粋し、提示すると次の表16のようにまとめられる¹³。本研究における会話例の提示の際は、BTSJで用いた凡例記号を省略し分析に支障がない場合に限って、あいづち的反応を示す記号、()以外を取り除いた形となっている。必要な部分についてはBTSJで用いている記号を省略せずの本来のまま表記してある。

¹³ 「基本的な文字化の原則 (BTSJ) 2011 年版 : p.15-16」
<http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj.htm>(2015 年 12 月 25 日)より引用したものである。

表 16 文字化の記号凡例

● 発話文の認定に関する記号

。	[全角] 1発話文の終わりにつける。
,,	発話文の途中で相手の発話が入った場合、前の発話文が終わっていないことをマークするためにつけ、改行して相手の発話を入力する。 なお、入力の際を妨ぐために、発話文が終了したラインには「*」、発話文が終了していないラインには「/」を、「発話文終了」の列に入れる。従って、「。」と「*」、「, ,」と「/」の対応関係をチェックすることができるようにしてある。
*	発話文が終了するごとに、「*」を「発話文終了」セルに記入する。つまり、発話文番号と発話内容中の句点「。」と「*」の数は必ず一致する。このように、「発話文終了」と「発話内容」と2つのセルで二重に確認する。
/	発話文が終了していないラインの「発話文終了」セルに記入する。発話内容中の「, ,」と「/」の数は必ず一致する。定できるように、沈黙を破る発話のラインの冒頭に記す。

● 発話内容の記述に関する記号

,	[全角] 1発話文および1ライン中で、日本語表記の慣例の通りに読点をつける。なお、慣例として表記する箇所に短い間がある場合には、「,」をつける。 (次の説明を参照)
,	[全角] 発話と発話のあいだに短い間がある場合につける。
‘ ’	①[全角] 複数読み方があるものを漢字で表す場合、最も一般的な読み方ではなく、特別な読み方で発せられたことを示すために、その読み方を平仮名で“”に入れて示す。②[全角] 通常とは異なる発音がなされた場合など、音の表記だけでは意味が分かりにくい発話は、“”の中に正式な表記をする。
『』	[全角] 視覚上、区別した方が分かりやすいと思われるもの、たとえば、本や映画の題名のような固有名詞や、発話者がその発話の中で漢字の読み方を説明したような部分等は、『』でくくる。
“ ”	[全角] 発話中に、話者及び話者以外の者の発話・思考・判断・知覚などの内容が引用された場合、その部分を“ ”でくくる。
?	疑問文につける。疑問の終助詞がついた質問形式になっていなくても、語尾を上げるなどして、疑問の機能を持つ発話には、その部分が文末(発話文末)なら「?。」をつける。倒置疑問の機能を持つものには、発話中に「?、」をつける。
??	確認などのために語尾を上げる、いわゆる「半疑問文」につける。
[↑][→][↓]	イントネーションは、特記する必要があるものを、上昇、平板、下降の略号として、[↑][→][↓]を用いて表す。
《少し間》	話のテンポの流れの中で、少し「間」が感じられた際につける。
《沈黙秒数》	1秒以上の「間」は、沈黙として、その秒数を左記のように記す。沈黙自体が何かの返答になっているような場合は1発話文として扱い1ライン取るが、基本的には、沈黙後に誰が発話したのかを同
= =	改行される発話と発話の間(ま)が、当該の会話の平均的な間(ま)の長さより相対的に短いか、まったくないことを示すためにつける。これは、2つの発話(文)について、改行していても音声的につながっていることを示すためである。その場合、最初のラインの発話の終わりに「=」をつけてから、句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。そして、続くラインの冒頭に「=」をつける5。
…	文中、文末に関係なく、音声的に言いよんだように聞こえるものにつける。

< >{< < >{>	同時発話されたものは、重なった部分双方を< >でくくり、重ねられた発話には、< >の後に、{<}をつけ、そのラインの最後に句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。また重ねた方の発話には、< >の後に、{>}をつける。
【】	[全角]第1話者の発話文が完結する前に、途中に挿入される形で、第2話者の発話が始まり、結果的に第1話者の発話が終了した場合は、「【】」をつける。結果的に終了した第1話者の発話文の終わりには、句点「。」の前に【】をつけ、第2話者の発話文の冒頭には】をつける。
[]	文脈情報。その発話がなされた状況ができるだけわかりやすくなるように、音声上の特徴(アクセント、声の高さ、大小、速さ等)のうち、特記の必要があるものなどを[]に入れて記しておく。
()	短く、特別な意味を持たない「あいづち」は、相手の発話中の最も近い部分に、()にくくって入れる。
<>	笑いながら発話したものや笑い等は、<>の中に、<笑いながら>、<2人で笑い>などのように説明を記す。笑い自体が何かの返答になっているような場合は1発話文となるが、基本的には、笑いを含む発話中か、その発話文の最後に記し、その後句点「。」または英語式コンマ2つ「,,」をつける。
(< >)	相手の発話の途中に、相手の発話と重なって笑いが入っている場合は、短いあいづちと同様に扱って、(<笑い>)とする。
#	聞き取り不能であった部分につける。その部分の推測される拍数に応じて、#マークをつける。
「」	[全角]トランスクリプトを公開する際、固有名詞等、被験者のプライバシーの保護のために明記できない単語を表すときに用いる。

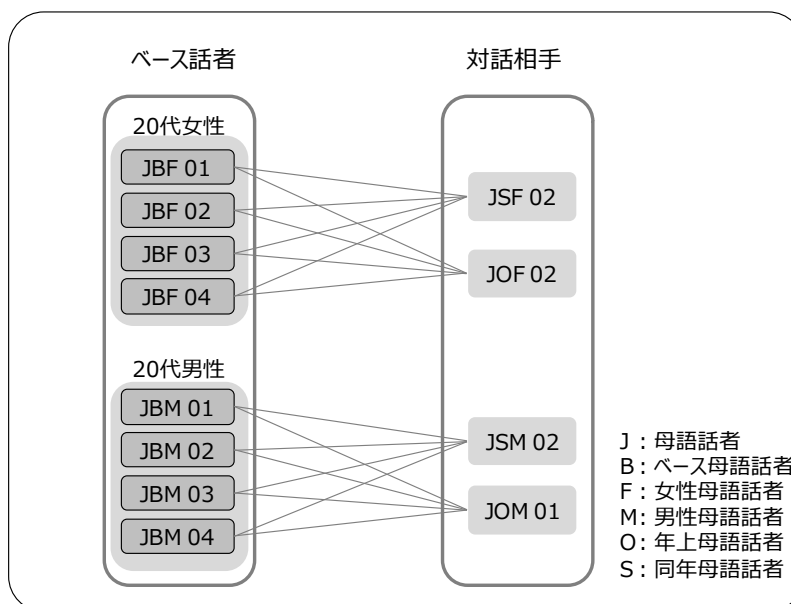
以下、3.1.1.~3.1.4.では、先に触れたように、それぞれの会話データにおける話者の組み合わせおよび特色について詳述する。

3.1.1. 聞き手言語行動と対話相手との社会的関係进行分析するためのデータ

本研究では、20代の男性・女性、30代の男性話者などを分析の対象とする。従来の研究では、全体的に調査が女性についてのものに偏ることが多かった。だが、それでは男性の使用傾向を十分に明らかにすることができない。また、年齢という要因を考慮していても、20代を分析の対象としているのが少ないため、その使用傾向が十分に把握できていないのが現状である。そして、20代の日本語母語話者が現実で使用している聞き手言語行動を同年代の学習者も使い分けができるようにすることは、日本語教育におけるひとつの学習目標でもある。以上のことが、本研究が20代を調査の対象とする積極的な理由である。

ここでは「相手が同性であるか、異性であるかはあいづち表現や発話の頻度には影響しない(大浜2002:4)」という指摘に基づき、「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版」に収録されている20代前半大学生・大学院生をベースにした「初対面同性同士雑談(男・女)」の会話データを調査資料とした。収録されている会話のうち、初対面会話191~206までの日本語母語話者同士の会話データを使用した。

具体的には、①20代女性(JBF01-04)ベース話者4名に同年齢(以下、「同年」と称する)・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計8会話)、②20代男性(JBM01-04)ベース話者4名に同年・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計8会話)の全部で16会話である。会話の組み合わせを図にすると以下の通りである。



次の図8は、20代と30代の母語話者の性別差・年齢差の把握のためのデータにおける会話の組み合わせである。ここで用いるデータも、「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版」に基づくものである。収録されている会話のうち、初対面の日本語母語話者同士の会話データを使用した。その際、20代と30代の使用実態の比較のために、ベース話者数を両方同様に統制した上で調査対象とした。20代との比較のために30代を分析の対象にした理由は、「30代になってから言葉遣いが変わった」「30代になってから「ええ」というあいづち表現が使えるようになった」など、歳とともに使用語彙が変わるといふ経験談を聞いたからである。20代と30代では年齢差による聞き手言語行動の使い分けが予想されるのではないか。

具体的には、①20代女性(JBF01、03、04)ベース話者4名に同年・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計6会話)、②20代男性(JBM01、03、04)ベース話者3名に同年・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計6会話)、③30代男性(BM01-03)ベース話者3名に同年・年上×同性・異性同士の母語話者4名をそれぞれ一対一で4通り(計12会話)の会話で、20代12会話、30代12会話、全部で24会話である。会話の組み合わ

せを図にすると以下の通りである。

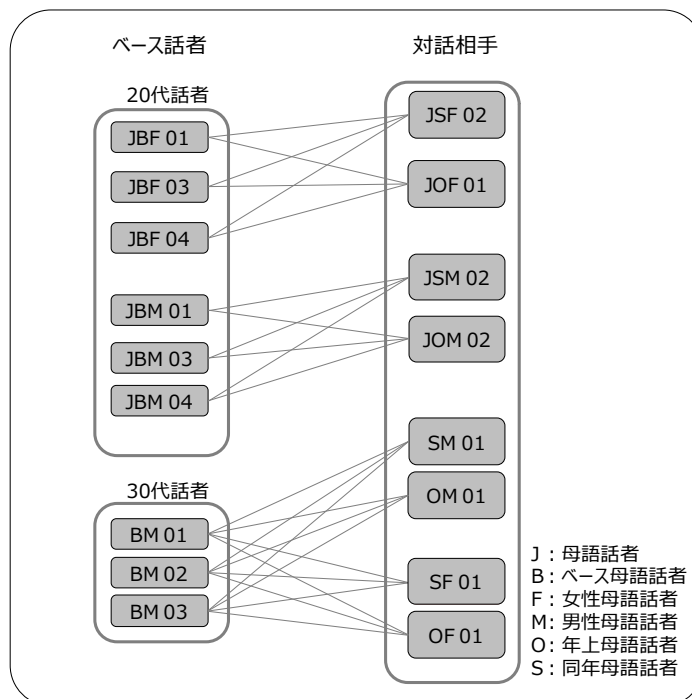


図 8 20・30代母語話者の性別差・年齢差分析のための会話データにおける話者の組み合わせ

3.1.2. 言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを分析するためのデータ

日本語学習者の言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを論じるためのデータとしては、国立国語研究所の学習者コーパス(「日本語学習者会話データベース」と日本語母語話者コーパス(上村コーパス)の二つのOral Proficiency Interview(OPI)データを用い、両者を比較調査する。前者の学習者コーパスは日本語教育研究、言語習得研究、会話分析など、研究活動のための基礎資料として「外国語母語話者と日本語母語話者の生の会話データ」を提供することを目的として公開している「日本語学習者会話データベース」を用いる。このデータベースは、学習者言語に関わるさまざまな研究に資することを目的としてACTFL-OPIの口頭能力試験の方式を利用して収集されたもので、データ数は合計390件、1データは約30分である。そのうち、339件の文字化データと215件の音声データで構成されている。データの収集時期は、2007年2月～2008年1月までである。後者の日本語母語話者コーパスは会話モードとロールプレイモードの両方からなり、会話能力の判定ではなく、多くの発話サンプルを採集することを目的としている。また上村コーパスには、10代から60代までの大学生、大学教職員、日本語教師、主婦、会社員などに対して行ったインタビューデータが収録されている。会話モードでは、被験者が大学生の場合は名前、専攻分野、将来の仕事について、社会人の被験者の場合は、名前、仕事、住居などについて質疑応答

を行っている。ロールプレイは、ごみの捨て方、映画／旅行の誘い、友人との約束の変更、アルバイトの面接の4種類の場面設定で行われている。

学習者コーパスと母語話者コーパスの詳細は以下の図9のようにまとめられる。

日本語学習者コーパス	母語話者コーパス
<p>「日本語学習者会話データベース」(オンライン)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語学習者と日本語母語話者である面接者(インタビュアー・テスター)による、1データあたり約30分の会話を集めたもの ■ 会話の文字化データ339件とその音声データ215件 ■ 学習者の日本語レベル、年齢、性別、出身国、母語、職業、日本語滞在期間等からデータの検索が可能 ■ インタビューの方法及びレベル判定には、ACTFL(全米外国語教育協会)の面接式口頭能力テスト(ACTFL-OPI)の形式を採用 ■ 国立国語研究所 https://dbms.ninjal.ac.jp/nknet/ndata/ 	<p>「インタビュー形式による日本語会話データベース(上村コーパス)」(CD-ROM)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 日本語母語話者(54名)と非母語話者(56名)の発話パターンの比較分析と、日本語教育向けの基礎資料となるコーパス構築を目的として収集されたもの ■ 会話モードとロールプレイモードの二つの要素によって構成される日本語OPIの文字化テキスト及び音声を収録 ■ 10代から60代までの大学生、大学教職員、日本語教師、主婦、会社員などに対して行ったインタビューデータが収録 ■ ロールプレイは、ごみの捨て方、映画／旅行の誘い、友人との約束の変更、アルバイトの面接の4種類の場面設定 ■ (元)北九州市立大学 国際環境工学部情報メディア工学科 上村隆一研究室

図 9 使用データの概要

ここで用いるOPIデータは、全て音声付きデータ会話で、①初級3名、②中級3名、③上級3名、④超級3名ずつと、日本語母語話者4名の全部16会話である。会話時間を総60分以上と統制したデータを用い、聞き手言語行動の機能と表現形式などについて調査した¹⁴。会話の組み合わせを図にすると以下の通りである。

図の左側の日本語学習者のデータにあるK1～K8は韓国人日本語学習者を示し、T1～T6は日本語母語話者のインタビュアーを示している。また、図の右側の母語話者のデータにあるJ1～J4は日本語母語話者インタビュアーを、T1、T2は日本語母語話者インタビュー

¹⁴ 国立国語研究所の学習者コーパス(日本語学習者会話データベース)は、基本的には音声データと文字化資料が同時に公開されているが、音声データに関しては全てのデータが公開されているわけではない。例えば、本研究で対象としている超級日本語学習者の場合は、全体で3名のデータしか公開されていない。ゆえに、データの活用できる数には限界がある。そこで、本研究では、会話参加者数ではなく、会話の長さに着目し、分析対象とした。その際、レベルごとに総会話時間は60分以上を基準とした。60分は会話の長さとして十分であると判断したからである。日本語母語話者のデータの長さは15分以上、4名を対象とし、会話の総時間を60分以上に揃えた。

ーを示している。

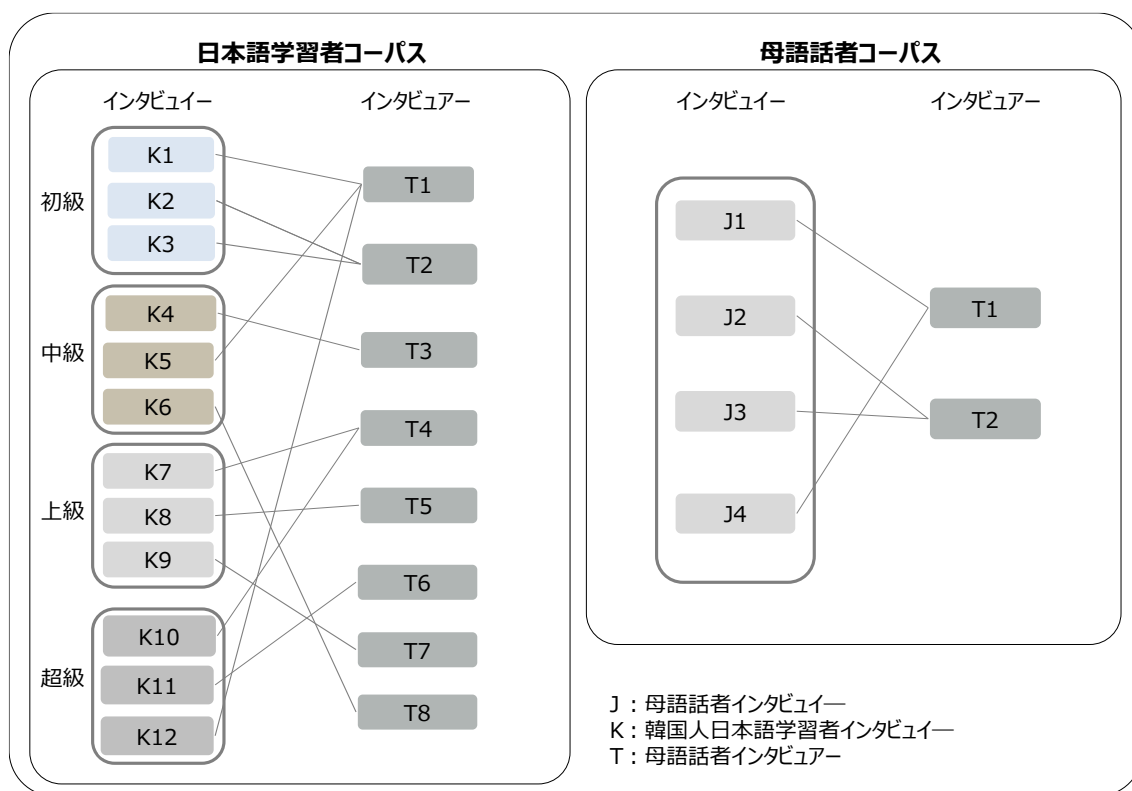


図 10 日本語学習者の言語能力レベルによる聞き手言語行動の違いを論じるための会話データにおける話者の組み合わせ

3.1.3. 日本語母語話者の共話の展開構造を分析するためのデータ

次の図11は母語話者同士の自由会話で共話の展開構造が把握するために本研究で用いるデータをまとめたものである。ここで用いるデータは、「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版」に基づくものである。収録されている会話のうち、初対面会話173～206までの日本語母語話者同士の会話データを使用した。

具体的には、①20代女性(JBF01-04)ベース話者4名に同年・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計8会話) ②20代男性(JBM01-04)ベース話者4名に同年・年上同性同士の母語話者2名をそれぞれ一対一で2通り(計8会話) ③30代男性(BM01-03)ベース話者3名に同年・年上・年下×同性・異性同士の母語話者6名にそれぞれ一対一で6通り(計18会話)の会話であるため、全部で34会話である。会話の組み合わせを図にすると以下の通りである。

図11から分かるように、ベース話者11名と対話話者10名による会話データで、話し手と

聞き手の役割が固定しているわけではないが、聞き手役を果たす話者によって成り立つ共話の展開構造を調査した。そして、話し手役は聞き手役の発話対し、共話成立のためにどのように先行発話を行うのかについて合わせて調べた。

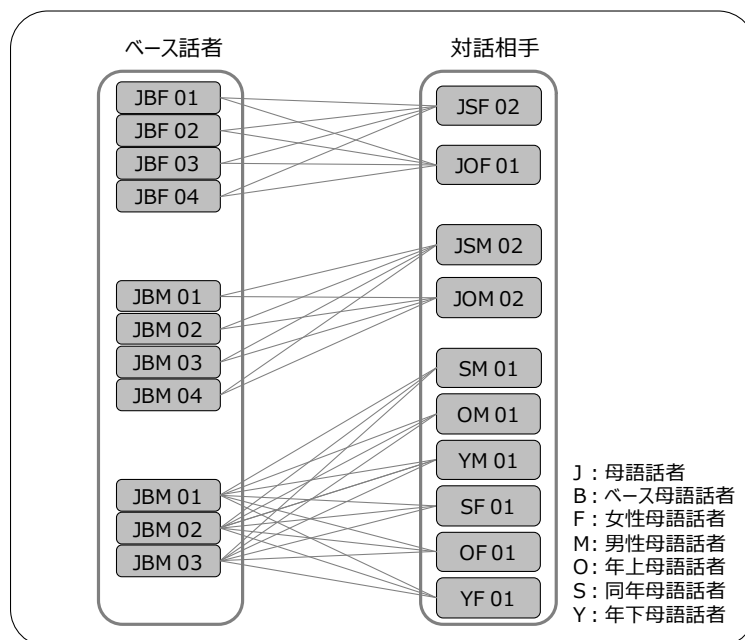


図 11 日本語母語話者の共話の展開構造分析のための会話データにおける話者の組み合わせ

3.1.4. 接触場面における共話の展開パターンを分析するためのデータ

2014年9月、筆者は3週間に渡り首都大学東京・インドネシア教育大学大学院生研究交流プログラムに参加しインドネシアに滞在した。その際、印象的だったのは非漢字圏のインドネシア人日本語学習者の会話の流暢さである¹⁵。当初は「なぜこのようにあいづちが上手なのか、なぜ話の展開の仕方が上手いのか」等の疑問が沸いたが、時間が経つにつれ、あいづちを含めた日本語の会話スタイル全体に関わる特徴をうまく掴んでいるのではないかという考えに至った。そこで、インドネシア人日本語学習者の聞き手言語行動の運用について調査する必要を感じ、接触場面における母語話者と日本語学習者の共話の展開パターンが把握できるデータ収集のために、インドネシアのバンドンにあるインドネシア教育大学で調査に着手した。調査ではICレコーダーを使い、各組15分程度録音した。総録音時間は66分で、総発話数は1430であった。協力者は20代から50代の日本語母語話者(J1~J5)5名と、20代から40代のインドネシア人日本語学習者(I1~I5)5名であり、それぞれの初対

¹⁵ クンチャラニングラット編(1980)は「インドネシアには大小あわせて300以上の民族集団、そして250以上の言語を認知できる(1980:6)」と述べている。本章の調査対象者は、出身地と母語が一律ではないが便宜上「インドネシア人日本語学習者」と称する。

面の雑談会話を記録した。ここで用いる談話データは日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の1対1の会話を録音し、文字化した音声付きデータである。会話の組み合わせを図にすると以下の通りである。

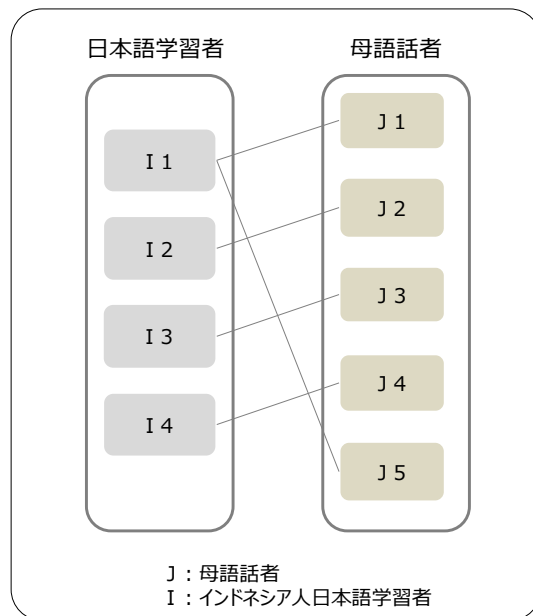


図 12 接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の展開パターンが把握できるデータにおける話者の組み合わせ

次節では、本研究で用いる方法論、分析の理論的枠組みなどについて述べる。

3.2. 分析の理論的枠組み

3.1において、本研究の使用・収集したデータの概要について述べた。3.2では、コミュニケーションの相互作用として聞き手言語行動を研究するための分析の理論的枠組みとなる談話¹⁶・会話分析の方法論、ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライト

¹⁶ 「談話(discourse)」の定義は、「使用された言語そのもの」(Brown & Yule 1983)や、「何らかのまとまりのある意味を伝える言語行動の断片」(メイナード1997)、「コミュニケーションを行うための言語の運用プロセス」(砂川2005)など、話し言葉と書き言葉の双方を含むものが多い。また、藤井(2005:175)は話しことばであれ、書きことばであれ、統一された全体を構成しているひとまとまりの語、句、節、あるいは文の集合を意味するとしている。談話の長さの基準は特にないが、一文よりも大きな単位、一文の境界を超えて展開した文の集合である場合が多い。つまり、談話とは、あるまとまりを持って展開された言語行動であり、広義のコンテキストの中で捉えられる言語単位である。そこには、言語とは、孤立して働くものではなく、あるつながりを持った談話として、実際の言語使用の場面で機能し、そこに関わる話し手(書き手)や聞き手(読み手)による動的・社会的・相互作用的な関わりが具現化されたものであるという前提で存在する(藤井2005:175)と述べている。

ネス理論について述べる。

3.2.1. 談話・会話分析の方法論

本研究では、聞き手言語行動を体系的に捉えるために、質的分析、量的分析の双方を含む手法を用いる。それに伴い、会話データのトランスクリプトも「改訂版：基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」(宇佐美2007～2011年版、以下BTSJと呼ぶ)に従って文字化したものを使用する。また、収集したデータについてもこれに従って文字化し、使用する。

『日本語教育』162号(2015.12)では、「日本語教育の研究手法—『会話・談話分析』という切り口—」について特集寄稿が掲載された。その特集では、質的、量的、またはその両方を取り入れる多用な方法論が紹介されている。特に宇佐美(2015)は質的分析、量的分析という観点から従来の会話・談話分析の方法論を6つに分けて概観した上で、質的分析と量的分析の融合を主張している。「総合会話分析」という手法とともに「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」をその活用法として提案している。その主な内容をまとめると以下の図のように示すことができる。

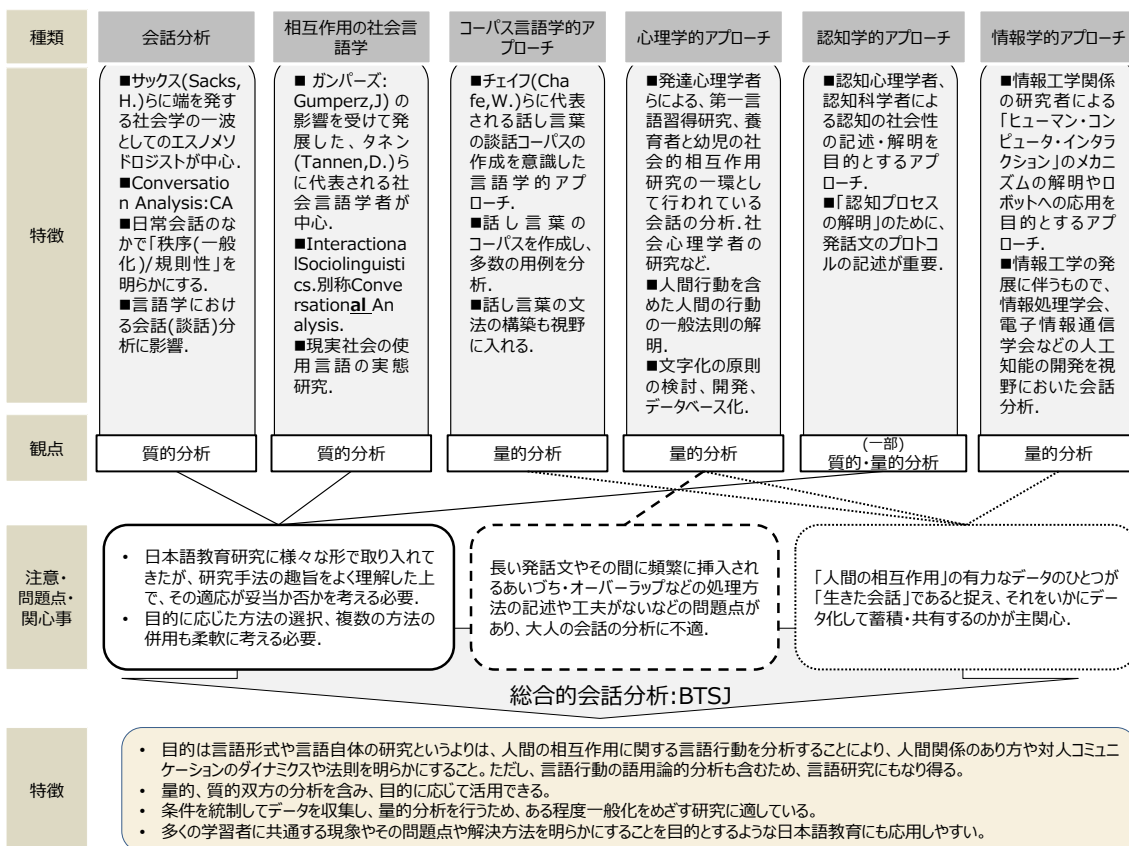


図 13 談話・会話分析の方法論・アプローチ

上記図13から窺えるように、コミュニケーションのための言語行動の研究手法として、会話参加者の相互行為を詳細に分析し、一見無秩序に見える会話の中にある規則や秩序(一般化)を明らかにしようとする会話・談話分析的な手法が存在する。1960年代から70年代にかけてエスノメソドロジーを出発点として、サックス(Sacks)、シュエグロフ(Schegloff)、ジェファーソン(Jefferson)などが提唱し、社会学の分野で発展してきた「会話分析(Conversation Analysis: CA)」もそのひとつである。会話分析は、コミュニケーションにおける「相互行為」の原理を解明する研究であり、会話の構造を明らかにしていこうとするものである(林2008)。これらの研究では、日常の自然な会話データが分析対象とされ、一つ一つの発話や発話連鎖が詳細に分析される。厳密な会話分析では量的な比較は行われず、会話参加者の意識的な面についての調査も行われない。さらに、会話の研究には、相互作用の中で発話が果たす機能あるいは役割に焦点を当てたものもあり、このような研究では話者の情報処理過程、心理状態の他、発話権の管理を分析するものがある(林2008)。会話の方略として使われるこれらの様々な行為や言語表現については、「談話分析(Discourse Analysis)」において分析される。関連領域である社会学、語用論、心理言語学などにおいても、この手法が用いられている。会話分析においては、非常に詳細な発話の分析により、会話の構造パターンが明らかにされる。一方、談話分析においては、会話分析の手法を一部取り入れながらも、その他の関連領域の手法(社会学におけるフォローアップインタビュー、心理学における実験手法など)も扱い、多方面からの分析を行っているといえる。

聞き手言語行動の機能、特徴を明らかにするためには、様々な形式を持つあいづちがどのような場面で発話され、会話参加者の相互行為の中でどのような機能を果たしているのか、会話資料を細かく調べる必要がある。その分析の方法論として会話・談話分析の方法論は有効であると考えられる。特に、そのなかでも質的分析・量的分析の両方を視野に入れることは、「人間の相互作用に関する聞き手言語行動の分析」、「質的、量的分析を通してある程度一般化ができる」、「日本語学習者に共通する特徴や運用背景を明らかにし日本語教育に応用しやすい」という面から、日本語教育の研究手法として適していると考えられる。

以上のことから、本研究では宇佐美(2015)の「総合的会話分析」という名は用いないものの、質的分析と量的分析の両方の観点から見ていく。

本研究で用いる自然談話は、宇佐美(2008a)も述べているように、収集者が協力者の承諾を得て会話場面を設定し、録音・録画した会話は、厳密な意味での自然会話とは言えない。しかし、テレビドラマのような創作された会話とは違って、会話参加者の言語行動自体は統制されていないものである(宇佐美2008a)。また、量的分析がしやすいように文字化資料

を作成する必要がある。その際、本研究では宇佐美(2011)「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ(2011年版))」を用いる。この資料作成方法に則ることで、分析項目をコーディングして、定量的処理が可能になる。つまり、「人間の相互作用としての会話」における現象を質的に分析するばかりではなく、その結果をコーディングすることによって数値を出し、量的な処理ができるようになる。それゆえ、BTSJは質的・量的分析の両方を取り込む分析手法に用いられる(木林2014、宇佐美2015)。

聞き手言語行動の分析に用いる統計的分析と質的分析は独立したものではなく、相互に補完し合い、関連性を持つものである。本研究では両方の手法を用いた分析により、母語場面、接触場面における母語話者・日本語学習者の変異生起要因、言語能力、談話展開の観点から聞き手言語行動の使用実態を明らかにする。

3.2.2. ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson)によるポライトネス理論

ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)は、言語形式の意味や機能だけではなく、人間関係、社会・心理的距離、相手にかかる負担の度合い等、複雑に絡み合う社会的諸要因を考慮に入れ、それらが総合的に反映された「ポライトネス行動」についての理論を展開している。この「ポライトネス理論」について、宇佐美(1998、2002)は、「ポライトネス行動」を、人間の「フェイス処理行動」、すなわち、「対人コミュニケーション行動」として、より包括的、かつ、ダイナミックに捉えたと評価している。

社会学者であるゴフマン(Goffman : 1967 / 浅野訳1986 : 5)は、フェイスを、ある特定の出会いの際、ある人が打ち出した方針、その人が打ち出したものと他人たちが想定する方針にそって、その人が自分自身に要求する積極的な社会的価値であり、認知されているいろいろな社会的属性を尺度にして記述できるような、自分をめぐる心象(イメージ)であると説明している。ゴフマン(Goffman)のフェイスの概念を導入したブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)は、ポライトネスを相手のフェイスの侵害を最小限にし、相手との対立や葛藤をなくし、円滑な人間関係を保つための言語的なストラテジーとして誰にも適応できる普遍的な概念であると捉え、社会・文化的な相違によってポライトネスの言語的な表現方式は変わってくると説明している。更に、人間には「ポジティブ・フェイス(Positive Face)」と「ネガティブ・フェイス(Negative Face)」の2つの基本的な欲求があると想定している。

以下では、宇佐美(2001b、2002)を参考にしながら、彼らの鍵概念となる1)人間の基本的な欲求であるフェイス、2)フェイス侵害行為とストラテジーの選択、3)ポジティブ・ポライトネスとそのストラテジー、4)ネガティブ・ポライトネスとそのストラテジー、5)オフ・

レコードとそのストラテジーを中心に説明していく。

1) 人間の基本的な欲求であるフェイス

ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987) は「ポライトネス理論」を説明するためにモデルパーソン(Model Person)を立てている。モデルパーソンは、ひとつの自然言語を流暢に話すという資質を備えており、「合理性(rationality)」と「フェイス(face)」を賦与されているという。「合理性」とは、ある目的(ends)を達成するための手段(means)を導き出す推論の厳密に定義可能な方式(mode)を利用することができる能力を指す。フェイスは、「他人にじゃまされたくないという欲求」の「ネガティブ・フェイス(negative face)」と「他人に認められたいという欲求」の「ポジティブ・フェイス(Positive Face)」の2種類があるが、フェイスは人間の持つ基本的な欲求という普遍性を持つものであり、その中身は文化によって異なると述べている。ポジティブ・フェイス(Positive Face)は、他者に理解されたい、好かれたい、賞賛されたい、他人に近づきたいというプラス方向(外向)への欲求であり、ネガティブ・フェイス(Negative Face)は、賞賛されないまでも、少なくとも、他者に邪魔されたくない、立ち入れたくないという、マイナス方向(内向)に関わる欲求である。

2) フェイス侵害行為とストラテジーの選択

ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)は、相手のフェイスを脅かす行為である「フェイス侵害行為(FTA : Face Threatening Acts)」をせざるを得ないときに、「相手のフェイス侵害[FT(Face Threat)]度」を軽減するためにとる言語ストラテジーをポライトネスとして捉えている。FTA が持つフェイス侵害の度合いは「 $W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$ 」のような公式によって見積もられ、FTA_x の重さ(W_x)は、話し手(S)と聞き手(H)の社会的距離の見積もり(D)、H がS に対して持っている力の見積もり(P)、その文化におけるFTA_x の負担の度合いの見積もり(R_x)を合わせて測定するという。D は対称的な社会的要素であり、P は非対称的な社会的側面である相対的力関係を意味する。R_x は、行為者の自己決定への欲求と是認されたいという欲求(つまり、NF 欲求とPF 欲求)がどの程度侵害されることになると考えられるかによる、文化的かつ状況的に規定される負担の序列のことである(Brown & Levinson1987 / 田中他訳2011: 99-100)。ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson) は、フェイス侵害度を見積もる基準を以下のような公式で表している。

$$W_x = D(S, H) + P(H, S) + R_x$$

W_x : フェイス侵害度 (FT 度) S : 話し手 H : 聞き手
 D : 話し手 (Speaker) と聞き手 (Hearer) の「社会的な距離 (Social Distance)」
 P : 聞き手 (Hearer) の話し手 (Speaker) に対する「力 (Power)」
 R_x : 特定の文化において、ある行為 (x) が聞き手にかける負担の度合い
 (absolute ranking of imposition in the particular culture)

図 14 フェイス侵害度の見積もり公式

ブラウンとレビンソンは、同一の話し手が場面や状況、相手によって違う言語行動をとるのは、その場その場における話し手の見積もりの結果が違うからであり、ある言語行動が文化によって違う評価を得るのは、文化によって重要に扱うものが違うからであると説明している。

フェイス侵害の度合いが見積もられたら、話し手はその度合いによって、まずその行為を行うか(Do the FTA)行わないか(Don't do the FTA)を決定し、FTA を行う場合はフェイス侵害度によって、明示的に表現するか(on record)、ほのめかすか(off record)を決める。そして、前者の場合は、軽減行為を行わずに明さまに表現するか(baldly)、軽減行為を行うか(positive politeness またはnegative politeness)を選択する。ある行為を効果的に、または緊急に伝えたいという欲求が強い状況で、話し手は「軽減行為を行わず、あからさまに言う」といった戦略を使用するが、それ以外の状況では、聞き手に対して何らかの軽減行為を行う。これらの戦略の番号が大きくなるにつれ、フェイス侵害度は低くなる。上記のプロセスは次の図15のようにまとめられている。

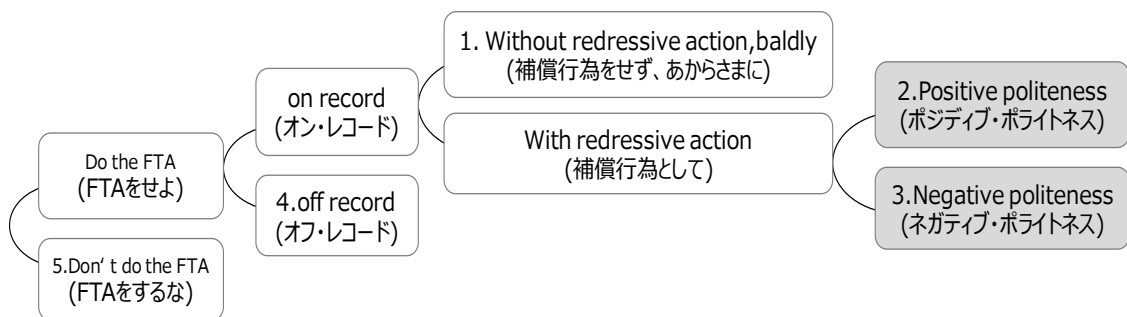


図 15 FTA を行うための可能な戦略 (Brown & Levinson1987: 60、田中ほか訳 2011: 89)

3) ポジティブ・ポライトネスとその戦略

ポジティブ・ポライトネス(Positive Politeness)とは、相手のポジティブ・フェイス(Positive Face)に向けられた補償行為を指し、聞き手の永続的な欲求(欲求から出た行為、その結果に入れた物や評価)が常に望ましいものであると認められたい、という願望に沿うものである。同様の欲求(またはその一部)がこちらにもあることを伝えることにより、相手のそうした願望を満たす、といった行為などがそれに当たる。FTAにより侵害されるフ

エイズ欲求の補償であるというわけではなく、ポジティブ・ポライトネスにおける補償には、一般的に他者の欲求を認めたり、自・他の欲求の類似性を言及したり、といった行為も含まれる。ポジティブ・ポライトネスのストラテジー(Positive Politeness Strategies : PPS)は15種類で、各ストラテジーは以下のようにまとめられる。

話し手が聞き手との共通の基盤を主張せよ

- ・ストラテジー1 (PPS1) : 聞き手(の興味、欲求、ニーズ、持ち物)に気づき、注意を向けよ
- ・ストラテジー2 (PPS2) : (聞き手への興味、賛意、共感を)誇張せよ
- ・ストラテジー3 (PPS3) : 聞き手への関心を強調せよ
- ・ストラテジー4 (PPS4) : 仲間ウチであることを示す標識を用いよ
- ・ストラテジー5 (PPS5) : 一致を求めよ
- ・ストラテジー6 (PPS6) : 不一致を避けよ
- ・ストラテジー7 (PPS7) : 共通基盤を想定・喚起・主張せよ
- ・ストラテジー8 (PPS8) : 冗談を言え

話し手と聞き手は協力者であることを伝えよ

- ・ストラテジー9 (PPS9) : 話し手は聞き手の欲求を承知し気づかっていると主張せよ、
もしくは、それを前提せよ
- ・ストラテジー10 (PPS10) : 申し出よ、約束せよ
- ・ストラテジー11 (PPS11) : 楽観的であれ
- ・ストラテジー12 (PPS12) : 話し手と聞き手両者を行動に含めよ
- ・ストラテジー13 (PPS13) : 理由を述べよ(もしくは尋ねよ)
- ・ストラテジー14 (PPS14) : 相互性を想定せよ、もしくは主張せよ聞き手の何らかのX に対する欲求を満たせ
- ・ストラテジー15 (PPS15) : 聞き手に贈り物をせよ(品物、共感、理解、協力)

このようなポジティブ・ポライトネスのストラテジーがポライトネスの理論に取り込まれていることは、「ポライトネス理論」の最も斬新な点として評価されている(宇佐美、2001b、2002、Usami2002)。

4) ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー

ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー(Negative Politeness Strategy)は本質的に回避されるストラテジーであり、10種類が提示されている。

- ・ストラテジー1(NPS1)：慣習的に基づき間接的であれ
- ・ストラテジー2(NPS2)：質問せよ、ヘッジを用いよ
- ・ストラテジー3(NPS3)：悲観的であれ
- ・ストラテジー4(NPS4)：負担Rx を最小化せよ
- ・ストラテジー5(NPS5)：敬意を示せ
- ・ストラテジー6(NPS6)：謝罪せよ
- ・ストラテジー7(NPS7)：話し手と聞き手を非人称化せよ
- ・ストラテジー8(NPS8)：FTA を一般的規則として述べよ
- ・ストラテジー9(NPS9)：名詞化せよ
- ・ストラテジー10(NPS10)：自分が借りを負うこと、相手に借りを負わせないことを、オン・レコードで表せ

5) オフ・レコードとそのストラテジー

オフ・レコード(off record)についても15種類のストラテジーが挙げられている。ネガティブ・ポライトネス・ストラテジーよりも聞き手のネガティブ・フェイスを満たすことができ、このストラテジーを使うことによって、話し手は行為に対する責任を避けることができる」と説明される。オフ・レコードには、「会話による含意を促せ」と「曖昧にまたは多義的に言え一様式の行動指針に違反せよ」という2つがあるが、ストラテジー1～10は前者に、11～15は後者に属する。

- ・ストラテジー1：ヒントを与えよ
- ・ストラテジー2：連想のための手掛かりを与えよ
- ・ストラテジー3：前提に語らせよ
- ・ストラテジー4：控えめに言え
- ・ストラテジー5：大きさに言え
- ・ストラテジー6：同語反復を使え
- ・ストラテジー7：矛盾したことを言え
- ・ストラテジー8：アイロニーを使え
- ・ストラテジー9：メタファーを使え
- ・ストラテジー10：修辞疑問を使え
- ・ストラテジー11：多義的に言え
- ・ストラテジー12：曖昧に言え
- ・ストラテジー13：過度に一般化せよ

- ・ストラテジー14：相手(H)を置き換えよ
- ・ストラテジー15：最後まで言うな、省略せよ

本研究で対象としている聞き手言語行動のうち、聞き手の共話的反応により成り立つ共話について、宇佐美(2006a)は、ポライトネス理論の観点から、共話は相手のポジティブ・フェイスを満たすポジティブ・ポライトネスだと解釈している。なぜなら、共話は、Ono & Yoshida(1996)で論じられたように構文論的制約や語用論的制約を受けながら成立するというよりは、むしろ聞き手による会話参加である(水谷1988a、1993、メイナード1993、Clancy et al.1996)と捉えられるからである。また、共話は、話し手に対する聞き手の理解という役割を果たすことがある(Hayashi & Mori1998 ; Hayashi2003 ; 宇佐美・木林2002 ; 宇佐美2006a)。このことを考えると、共話は、会話参加者が互いに他人(相手)に好かれたい、認められたいと思う欲求を満たす行為であり、ポジティブ・フェイスを満たすポジティブ・ポライトネスであるといえる。

しかし、後行発話が先行話者に承認されないこともある(ザトラウスキー2000、串田2002b)。串田(2002b)は、たとえば、発話は開始されたが、相互行為上は「なかったもの」として扱われる(発話の流産)、引き取られ手が引き取り後に相手の発話の一部を反復することにより、それを「発話」としては受けていないが「言葉」として採用する場合(相手を著者としてのみ利用すること)が指摘されている。その一例として串田は次のような例を挙げている(→：引き取られた発話、⇒：引き取り発話)。

会話例30)【なごりおしそうに】

→1B：だって思わずな

⇒2A：なごりおしそうに

3B：なごりおしそうにあーって

4C：あっはっはっはっはっは (串田2002b：58より引用)

会話例31) 商品の受注発注の話：YM01(年下男性)-BM01(30代男性)の会話

1 BM01：数量も価格も全部そこへ(あの一)入ってるわけだから、(はいはいはい)あれで発注から何までを全部、1つの体系にしてしまうとか…。

2 YM01：だから、それも、業種によると思うん<ですよ>{<}。

3 BM01：<業種に>{>}よるんですか。

4 OF01：んー。 (BTSJ 会話番号178より引用)

また、上記の会話例31)のように、共話をなしている1OF01と2BM01の発話で、波線(〰)で示した共話をなす後行発話である共話的反応の2YM01は不同意の「反論」の機能を果たしている。このように、相手のフェイスを考慮したといえない後行発話や不同意などはブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)が本質的なフェイス侵害行為として挙げている行為でもある。つまり、共話は場面や文脈に応じて、ポジティブ・ポライトネスにも、フェイス侵害行為にもなりうる。そのことを考えると、共話をポライトネスの観点から解釈するためには、どういう状況でポジティブ・ポライトネスになるのか、またどういう状況でネガティブ・ポライトネスになるのか、さらにそれには社会的要因は関与しなしのかなど再考する必要があると考えられる。

本章では、本研究の研究方法与理論的枠組みについて述べた。次章からは、変異生起要因、言語能力、談話展開の観点からみた聞き手言語行動の実証的研究について見ていく。

第 2 部 変異生起要因の観点

第4章 スタイルの観点からみたあいづち表現の使用傾向

4.1. はじめに

第1部、1章で研究の背景と目的について、第2章では先行研究を、「話し手の発話部分に対する聞き手言語行動：あいづち表現、繰り返し、言い換え」、「話し手の非発話部分に対する聞き手言語行動：先取り」の2つの観点から概観し、「本研究における聞き手言語行動の定義と範囲」という形で本研究の位置づけを述べた。第3章では次の4つの課題遂行に必要なデータと研究方法理論的枠組みなどについて概観した。第2章の先行研究で言及したように、聞き手言語行動の変異生起に関わる要因は多様であり、しかもそれぞれの要因が相互に関わり合っている。聞き手言語行動の変異生起の要因を明らかにする際に重要なのは、特定の表現形式がどのような社会的要因に影響されるのか、その原因を明らかにすることである。それによりその実態がより分かりやすくなる。日本語母語話者の言語行動が会話者間の社会的関係に影響を受けやすいことは広く知られているところであるが、聞き手言語行動に焦点をあてて社会的関係からその実態を捉えた研究はそれほど多くない。

近年、日本語教育では、隣接する分野、特に社会言語学を取り入れながら「方言、若者言葉、性別差(ジェンダー)、文体差(スタイル)」など日本語のバリエーションを扱おうとする考え方や動きが盛んになっている。たとえば、2007年発行の『日本語教育』134号での特集、「日本語のバリエーションと日本語教育」に掲載された一連の研究が挙げられる(杉戸2007、鈴木2007、高木・丸山2007他)。

その中でも特に、コミュニケーションや自己表現において大きな役割を果たしている日本語のスタイルに関する研究は大きな注目を浴びている。渋谷(2008: 19-20)は、スタイルを考えるときには個々のスタイルを特徴づける具体的な言語項目に注目する必要があるとし、「人称詞(自称詞、対称詞)、推量形式(デショとダロ・ヤロ・ベ)、否定形式(ナイとネー・ン・ヘン)、終助詞・間投助詞(ネとノ・ナ・サなど)、丁寧語(デス・マスなどの使用・不使用)、あいづち(ハイとウンなど)、……」などを提示している。ここから、あいづち表現も、ほかの言語項目と同様にスタイルとして機能することが窺える。すなわち、あいづち表現は自然談話のなかで使用頻度も高く、多種多様なあいづち表現が相手や場面によって使い分けられているということである。

そこで、本章では、日本語教育でシラバスとして取り上げられることの少なかった丁寧体と普通体というあいづち表現のスタイルに焦点を当て、20代の大学生・大学院生の初対面同士の会話のなかでの、対話相手が年上かどうかによる使用傾向の違いを男女別に明ら

かにする。実際、初対面の場面では何をどのようにいえば良いのか分からず、精神的負担が大きいため、相手に関係なく丁寧体あいづち表現の使用が予想されるが、使用実態に基づいた日本語教育を考える際には、対人関係を考慮した上で、量的な調査だけではなく質的な分析も必要となるだろう。

以下に本章の流れを示しておく。4.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。4.3.ではスタイルの違いによるあいづち表現を分類し、4.4.では分析に使用するデータを提示する。4.5.では丁寧体と普通体というあいづち表現のスタイルに焦点を当て、対話相手が同年か年上かによる使用傾向について考察を進め、4.6.では本章をまとめる。

4.2. 先行研究

日本語のあいづち表現は日常会話で使用頻度が高く、使用される表現形式も多様で、円滑なコミュニケーションのために必要な要素のひとつと考えられてきただけに、その研究成果も多い。本節では、本章と関連があるあいづち表現の丁寧体と普通体のスタイルおよび対人関係について言及した研究を検討しその問題を提起する。丁寧体と普通体のスタイルとして機能するあいづち表現に関する研究としては、窪田(2000b)、内藤(2003)、大塚(2013)などが挙げられる。

窪田(2000b)は、日本語学習者が若者、年配者という異なる年代の日本人との会話において、それぞれどのような「あいづち表現」を使用しているのか、その習得状況と待遇性の問題について分析した。その主な結果は次の4点にまとめられる。①初級・上級学習者いずれも年配者に対して「丁寧体あいづち表現」の使用割合が増加する。②初級・上級学習者いずれも若者に対しては、より多く「普通体あいづち表現」を用い、逆に年配者に対しては「丁寧体あいづち表現」を多く用いる。③習得状況をみると、上級になっても「丁寧体あいづち表現」の使用率が非常に低く、年配者に対して待遇性を考慮して「あいづち表現」を使用することができない学習者もいる。一方、初級学習者でも年配者に対する「丁寧体あいづち表現」の使用率が大幅に増加している場合もある。④待遇性の問題点として「そう系」のあいづち表現を使用する際、待遇性の低い形で使用している。

内藤(2003)は、専攻またはサークルが同じである大学生・大学院生同士の日本語母語話者とJFL環境にある韓国人日本語学習者の日本語会話において、どのようなあいづち表現がどの程度使用され、どのような場合にスピーチレベルのシフトが起こるのかを検討し、次の3点を結果として報告している。①あいづち表現のスピーチレベルについては、日本語母語話者ではほぼ一定してカジュアルスタイルであったのに対し、韓国人学習者は一定していない。②レベルシフトについては、日本語母語話者の場合、わずかではあるが会話の

開始部と何らかの談話の単位の終結部にレベルシフトが起こる。③韓国人学習者についてはレベルシフトが多く見られたが、そこに顕著な傾向を見出すことはできなかった。

大塚(2013)は、初対面の3人の会話における文体シフトの効果をディスコース・ポライトネスの観点から分析を行い、次の2点を指摘している。①あいづちを打つことは聞き手への共感を誇張することになるので、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジーである。②普通体のあいづちのほとんどは、独話的に打たれたものである。

あいづち表現と対人関係に関しては、大浜(2002)の研究が挙げられる。

大浜(2002)は、社会的地位や性の異なる対人関係(同年代：年上、同性：異性)によってあいづちの使用頻度や表現にどのような変化が現れるのかを調べ、次の①から⑨をその結果として示している。①「うん」、「あー」、「繰り返し」などがその使用の5割以上を占める。②あいづち表現の使用頻度は、どの相手グループに対してもほぼ一定である。③年上より同年の相手に対して、あいづち表現以外の発話が多くみられる。④異性の相手と同性の相手にはあいづち表現以外の発話の量に違いはみられない。⑤あいづちの使用数と表現の種類数は比例している。⑥年上の相手には賛同する表現(あ系、そう系、本当系)の使用が多く、対同年では違和感を表明し自らのターン取得のシグナルを送る「え系」が多く使用される。⑦年上には丁寧な「はい系」が多く、同年にはくだけた「うん系」が多く使用される。⑧同性には同意賛同の「本当系」の使用が多く、異性には相手の発話を重視する「あ系」及び「え系」が多く使用される。⑨あいづち表現には「あ系+α」の形をとる一定のルールがある。

これらの先行研究は、初対面の母語話者のあいづち表現や話す相手が年上かどうかによって見られる男女別の使用傾向に着目することによって、さらに発展することができると思われる。とりわけ本論では、次の3つの問いに答える。

- (1)日本語学習者の場合は、使用されるあいづち表現の丁寧度が、相手が年上かどうかによって異なる(窪田2000b)と報告しているが、日本語母語話者の場合は、どのような使用傾向があるのか。
- (2)年上には丁寧な「はい系」が多く、同年代の相手にはくだけた「うん系」の使用が多い(大浜2002)というが、性別による使用傾向の違いはみられないのか。
- (3)普通体のあいづち表現のほとんどは独話的に打たれもの(大塚2013)と指摘されているが、独話的でない場合はどういう用法で使われるのか。

4.3. 本章におけるあいづち表現の定義および分類

本章では聞き手言語行動であるあいづち表現を、「話し手が発話権を持っている間に聞

き手が送る短い発話」と定義する。これは従来の水谷(1988a)、堀口(1988)、松田(1988)、メイナード(1993)などと同様の定義である。また、これらの従来の研究を踏まえて、あいづち表現を聞き手言語行動の一種類として扱っている。具体的には「あいづち表現、繰り返し、言い換え、先取り」を取り上げ、あいづち表現については特に、①意味内容が認められない感声的で概念を指さない感声的あいづち(はい、ええ、うん、へーえ...)と、②意味内容が認められる概念的あいづち(そうですか、そうですね、なるほど、すごい...)に再分類している。本章ではこの分類に則って、丁寧体と普通体というスタイルとして機能するあいづち表現に着目し、以下の表17のように分類した。

表 17 本章におけるあいづち表現の分類

1. 丁寧体と普通体のスタイルの対応があるあいづち表現		
	丁寧体あいづち表現	普通体あいづち表現
A. 感声的	はい系(は、は一は一、はあ、はいはい…)、ええ系(え、えー、ええ、ええええ…)	うん系(うー、うん、んー、うーん、うんうん…)
B. 概念的	そうです系(そういうことです、そうなんです、そうなんですよ、そうだったんですか、そうですね、そうですよね、そうなんです、そうなんですよね…) そうです系以外(本当ですよ、本当ですよ、すごいですね、いいですね、いいんじゃないですか、でしょ、ですね、ですよ)	そう系(そう、そうそう、そうだよ、そうなんよ、そうかね、そうか、そっか、そっかそっか、そうね、そうよね、そうやね、そうやな、そうだね…) そう系以外(本当、本当に、本当だよ、ね、いいよ、いいじゃん、いいね、だろう、だろうね、だよ、ねー…)
2. 丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現		
A. 感声的	あ系(あ、あー、あーあ、あーあー、あーは)	
	ふーん(ふーん、ふんふん)、へー(へえー、へーえ)、ほー(ほー、ほーほー)	
B. 概念的	いや、いやいや、なるほど、なるほどなるほど、確かに、確かに確かに…	

まず、あいづち表現を普通体と丁寧体の対応の有無により「普通体と丁寧体の対応があるあいづち表現」と「普通体と丁寧体の対応がないあいづち表現」に二分した後、さらにそれぞれをA.感声的あいづち表現と、B.概念的あいづち表現に分類した。次に、あいづち

表現の丁寧度によって、それらをさらに、丁寧体あいづち表現と普通体あいづち表現に分類した。

4.4. 研究の方法

本節では、調査の目的及び使用データの概要について述べる。

4.4.1. 調査の目的

4.2.の先行研究の検討の結果、浮き彫りになった問いに答えるため、以下の2点を明らかにすることを調査の目的とする。

- a. 丁寧体と普通体のスタイルの対応があるあいづち表現では、男女の性別によって、丁寧体あいづち表現と普通体あいづち表現の使用にどのような違いがみられるか。
- b. 丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現の場合、どのような使用の特徴があるのか。また、男女の性別によって、その使用にどのような違いがみられるか。

それぞれ、会話参加者の社会的地位の上下関係(年齢の上下)による違いも合わせて調査する。

4.4.2. 使用データの概要

本章では「相手が同性であるか、異性であるかはあいづち表現や発話の頻度には影響しない(大浜2002:4)」という指摘にもとづき、『改訂版基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese : BTSJ)(宇佐美2011)』に収録されている20代前半大学生・大学院生をベースにした「初対面同性同士雑談(男・女)」の会話データを調査資料とした。詳細な概要は以下の表18の通りである¹⁷。また、「年下」は年齢に関わる属性であるのに対して、「目下」は社会的地位に関わる属性であり、それぞれ異なる概念であるが、本章では「年下」の話者を「目下」の話者と捉え、「年上」の話者を「目上」の話者と捉える。

¹⁷ 「あーなるほどねー／確かにそうですね／あ、へー」のように、形式の異なるあいづちが重なる場合は、それぞれ別のあいづちとして分類し、その数をカウントした。ただし、「そうそうそう」「確かに確かに」のように同形のあいづちが重なる場合は、ひとつのあいづちとして分類し、その数を数えた。また、平均17分前後の発話時間、グループ間の同一人物を相手にしているにもかかわらず、発話数に偏りがある理由のひとつとして個々の発話の長さが考えられる。実際、4グループのうち、上下男性同士の場合、発話数は少ないが、個々の発話が長いことが分かった。さらに、日本語のあいづちは発話のターン交替と関連性が高いので、基本的には発話数とあいづち頻度が比例する可能性は高い。しかし、日本語のあいづちの特徴のひとつとして、相手の発話の途中でのあいづちなど、発話のターン交替に関わらないあいづちが存在する。したがって、発話数が必ずしもあいづち表現の数に影響するとは限らないと思われる。

現に、BTSJの会話資料では「年下(目下)」というかたちで、話者の属性が示されている。

表 18 あいづち表現のスタイル調査の使用データの概要

[協力者の記号 ; JB:ベース話者, JS:同年, JO:目上, F/M : 女/男]

人間関係	会話NO	協力者	発話		あいづち(1発話当たりのあいづち数)				
			時間分/秒	出現数	出現数	下→上	上→下		
同年 女性 同士	191	JBF01 -JSF02	16/27	358	1387	241	1016 (0.733)		
	193	JBF02 -JSF02	17/01	414		332			
	195	JBF03 -JSF02	11/39	257		202			
	197	JBF04 -JSF02	15/43	358		241			
同年 男性 同士	199	JBM01 -JSM02	15/44	239	1427	231	1142 (0.800)		
	201	JBM02 -JSM02	18/23	413		266			
	203	JBM03 -JSM02	15/52	250		214			
	205	JBM04 -JSM02	19/57	525		431			
上下 女性 同士	192	JBF01 -JOF01	16/29	365	1474	227	1145	471 (0.639)	674 (0.915)
	194	JBF02 -JOF01	18/32	394		335			
	196	JBF03 -JOF01	17/0	334		304			
	198	JBF04 -JOF01	17/03	381		279			
上下 男性 同士	200	JBM01 -JOM02	17/06	218	1089	147	723	367 (0.673)	356 (0.653)
	202	JBM02 -JOM02	16/14	301		180			
	204	JBM03 -JOM02	20/58	256		173			
	206	JBM04 -JOM02	18/10	314		223			

4.5. 分析と考察

上記の表18に示した1発話当たりのあいづち数を見る限り、対同年では女性同士は0.733、男性同士は0.800で、あまり性差がみられない。対年上でも女性同士は0.639、男性同士は0.673で、同様の傾向が確認できた。一方、対年下では女性同士は0.915、男性同士は対0.653で、性差が大きいことが分かった。以下では、4.4.で説明した調査にもとづき、より具体的に20代前半の大学生・大学院生の対人関係によるあいづち表現の使用傾向を実証的に分析、考察する。特に、対話相手が年上かど

うかによってあいづち表現をどう使い分けているのかに注目し、性別ごとに調査、分析する。丁寧体と普通体のスタイルの対応があるあいづち表現について、4.5.1.では対話相手が同年齢(同年)の場合、4.5.2.では対話相手が年上の場合のあいづち表現の使用傾向を分析、考察する。初対面という負担のある堅苦しい場面であるため、一貫した丁寧体あいづち表現の使用が予想されたが、異なる対人関係で使用されるあいづち表現の使用実態はそれとは異なっていた。

4.5.1. 対話相手が同年の場合のあいづち表現の使用

本節では対話相手が同年の場合のあいづち表現の使用傾向をみるため、「同年女性同士」のグループと「同年男性同士」のグループの使用傾向を比較考察した。図16の下のグラフの同年女性同士の場合は、白で示した「うん」系による感声的普通体あいづち表現の使用が31.4%で最も多く、上のグラフの同年男性同士の場合は、黒で示した「はい」系、「ええ」系による感声的丁寧体あいづち表現の使用が30.7%で最も多いことが確認できた。

表 19 同年男性同士と同年女性同士のあいづち表現の使用

対人関係 表現	同年女 性同士	ベース 話者(B)	対話相 手(S)	同年男 性同士	ベース 話者(B)	対話相 手(S)
感声的丁寧体	10.9	12.1	10.5	30.7	29.8	29.9
概念的丁寧体	6.9	4.9	8.1	10.5	11.9	10.0
感声的普通体	31.4	37.4	27.7	11.3	11.4	11.6
概念的普通体	9.9	9.0	10.5	2.8	2.7	2.4
感声的	37.2	32.5	39.8	40.3	40.0	41.6
概念的	3.6	4.1	3.3	4.4	4.4	4.5

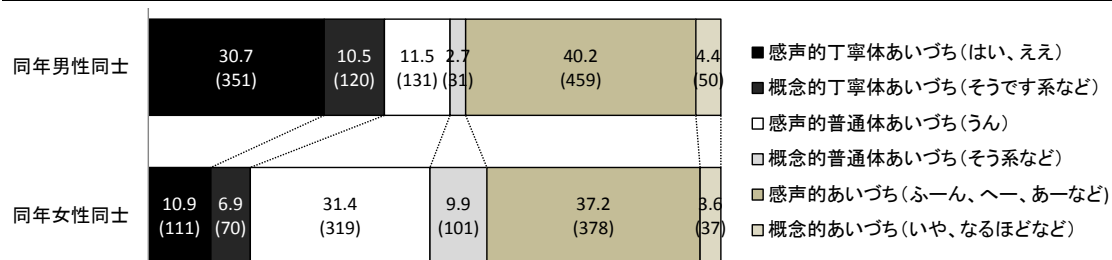


図 16 同年男性同士と同年女性同士のあいづち表現の使用傾向

ここで、具体的な会話例を見ておくことにする。次の会話例30)には、同年女性同士の自然談話に現れた「うんうんうん」、「そうそうそう」など、感声的、概念的普通体あいづち表現が確認できる。会話例32)の波線部のような普通体あいづち表現を多用することにより、相手と良好な関係を保つために仲間意識を示し、相手との心的距離を縮めようとした

ことが窺える。

会話例32) 受講した授業の話：BF-SF(日本人同年女性同士)の会話

- 1 BF3 東アジアの(うんうんうんうん)、なんかリレー講義の(うんうんうん)言語の、あれとってて。
2 SF2 もしかしてそれ、2年生の時にとりました?
3 BF3 とりました。
4 SF2 あ、じゃー、緒だ、私も<2人で笑い>。
→5 BF3 そうそう、写真見ましたよね。
6 SF2 見ました、見ました。
→7 SF2 ねー、やっぱりね、そのときだ、うんうんうん
→8 BF3 スライドで、なんか(うんうん)、他の授業みんな眠ってるのに、あの授業だけ笑
ってたって感じの <笑いながら>。
→9 SF2 そうそうそうそう。

一方、同年男性同士の会話例33)の派線部の「はい」、「はいはいはい」、「ですよね」、「そうですそうです」のように、感声的・概念的丁寧体あいつち表現を多用することで相手との距離を保持し丁寧さを保とうとしていることが確認できた。

会話例33) 大学の場所の話：BM-SM(同年男性同士の会話)

- 1 BM もう、「大学名2略称」もともと、「駅名6」に
→2 SM ですよね。
→3 BM はい。
→4 SM そうですそうです。
5 BM あの、飯盛山?
→6 SM あー、でしたっけ、はいはいはい(<笑い>)。
7 BM 白虎隊の。
→8 SM あー、はいはい、そうです(はい)。

これまで、女性の方が一般に「丁寧さ」に対して敏感であると言われてきた(Ide and McGloin1991)。宇佐美(2006b)は日本語や英語だけではなく諸言語において「男性に比べると、女性は、柔らかく、丁寧に、あまり断定しないで、同意をもとめるような話し方をする(2006b:31)」と指摘している。今回の調査での、初対面の大学生・大学院生の同年女性同士のあいつち表現の使用傾向は、宇佐美のこれらの指摘とは相反する結果となった。

また、近年、敬語の使用や文末のスピーチレベルなどを対象にした研究(宇佐美2001c、三牧2002、吉岡2004など)において、若年層を中心に、上下関係にとらわれない気さくで、対等な人間関係を志向する傾向があるという指摘がなされている。今回の同年女性同士の使用傾向はこれらの研究とおおむね一致する結果となったが、同年男性同士は丁寧体あいづち表現の使用が多いことが示され、従来の研究とは異なる結果が出た。すなわち、若年層を一括りにせず、男女別に分けて考えた場合は、異なる使用傾向がみられるということである。

4.5.2. 対話相手が年上の場合のあいづち表現の使用

本節では対話相手が年上の場合のあいづち表現の使用傾向をみるため、「上下女性同士」のグループと「上下男性同士」のグループの使用傾向を比較考察した。次の図17と図18は、年齢および社会的地位(大学生か教師・社会人か)の差がある上下女性同士、上下男性同士のあいづち表現の使用状況を示した上で、下の立場の話者(目下)と上の立場の話者(目上)が用いるあいづち表現の使用状況をさらに詳細した。

まず、次の図17の上下女性同士の場合から見てみよう。全体的傾向としては、白で示した感声的普通体あいづち表現の使用が目立つ。しかし、吹き出しの中に示した目下女性のグラフをみると、使用頻度が高いものから順に、「感声的普通体あいづち表現(23.8%)>感声的丁寧体あいづち表現(23.1%)>概念的普通体あいづち表現(12.7%)>概念的丁寧体あいづち表現(11.3%)」という結果になった。このような結果から、対話相手が年上の場合、目下女性は目上女性に対し丁寧体であれ普通体であれ、感声的あいづち表現(46.9%)をより多く使用する傾向があることが分かった。

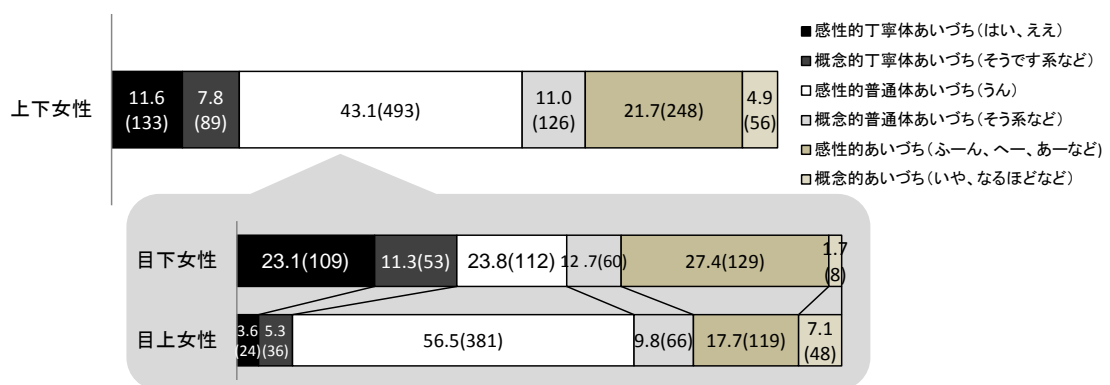


図 17 年上に対する年下女性のあいづち表現の使用状況

具体的には、次の会話例34)からも分かるように目下女性の場合、目上女性に対し初対面という堅苦しいそれも目上の対話相手という負担の度が増した場面で、「はい」系、「え

え」系や「うん」系の感声的あいづち表現を多用していることが分かった。特に会話例32)の目上の5JOFの発話の際、年下相手であるJBFは、「ええええええ」の感声的丁寧体あいづち表現を反復することによって同意の程度を強調して相手に伝達していることが窺える。

会話例34) 仕事の話：JBF(年下女性)-JOF(年上女性)の会話

- 1 JOF 私、1番最初は、(はい)あの、それこそ家電メーカーで、(はい)うん、勤務してたんですけど。
- 2 JBF あ、そうなんですか。
- 3 JOF うん、10年弱くらいね<笑い>。
- 4 JBF へえー。
- 5 JOF そう、でも、(はい)その時はー、うん...やっぱり景気がよかったからか、すごい大量に採用されてたんですよ(ええええええ)、うん。

また、次の会話例35)の目上1OFの「～自分も勉強になりますよね」という発話に対する目下2BFのあいづち、「うんうんうん」は、実際に音声を聞いてみると、反復はしているものの声が高くなっているわけでもないことから、聞き手の存在を意識したものではなく、相手の話に対する自分の中での納得が自然と表れたものであることが分かる。感声的普通体あいづち表現「うんうんうん」が独話的な用法で使われている一例である。これは、その次の4JBF01における目下のBFの自己納得を表すあいづちである「そっか」に繋がっていて、これも同様に対話相手に自分の意図を伝達しているわけではないようである。

会話例35) 日本語教師体験の話：BF(年下女性)-OF(年上女性)の会話

- 1 JOF01 うん、そのほうが、うん、なんかやっぱり自分も勉強になりますよね。
- 2 JBF01 うんうんうん。
- 3 JOF01 あ、だから『間違えるんだ』、とか(うん)ねえー、うん。
- 4 JBF01 そっか。

さらに、感声的普通体あいづち表現「うんうんうん」は次の会話例36)でも確認できる。この場合は目上が目下の相手にあいづちを打っているが、先ほどの会話例35)とは異なり目下の発話に対する同意と理解を伝達している。1BFの「～中国から来てる人多いんで」という発話に対する2OFの「うんうんうん」は「分かる、そうだよね、多いよね」の意味である。また、3BFの発話に現れる「うんうんうん」も「あなたの話し聞いているよ、話を続けて」という意図を伝えていることが窺える。

会話例36) ゼミの話：BF(年下女性)-OF(年上女性)の話

- 1 BF 同級生、中国から来てる人多いんで。
- 2 OF うんうんうんうん。
- 3 BF こう、横で喋ってるのを聞いてはいるんですけど、(うんうんうん)なんかあんまり、すごくみんな日本語が上手な(うん)私は日本語で返すというすごいよく分からない
- 4 OF 分かります、分かります。

つまり、会話例35)、36)で目下と目上が使う「うんうんうん」の感声的普通体あいづち表現はその形式は同様であるが、その使用機能は、前者が「独話的」であるのに対して、後者は「理解・同意」であるというように、幾分異なっていることが分かった。

日本語教育で活用の際には、このような上下女性同士の会話にみられる感声的普通体あいづち表現の使用傾向について、形式と機能の双方を合わせて言及する必要があるだろう。

一方、次の図18に示した通り、上下男性同士の場合、全体的傾向としては、黒で示した感声的丁寧体あいづち表現の使用が目立つことが分かった。そして、目下男性と目上男性のそれぞれを確認すると、目下男性のあいづち表現は、「感声的丁寧体あいづち表現(28.1%)>概念的丁寧体あいづち表現(22.1%)>感声的普通体あいづち表現(16.3%)>概念的普通体あいづち表現(1.9%)」の順に多いことがわかった。

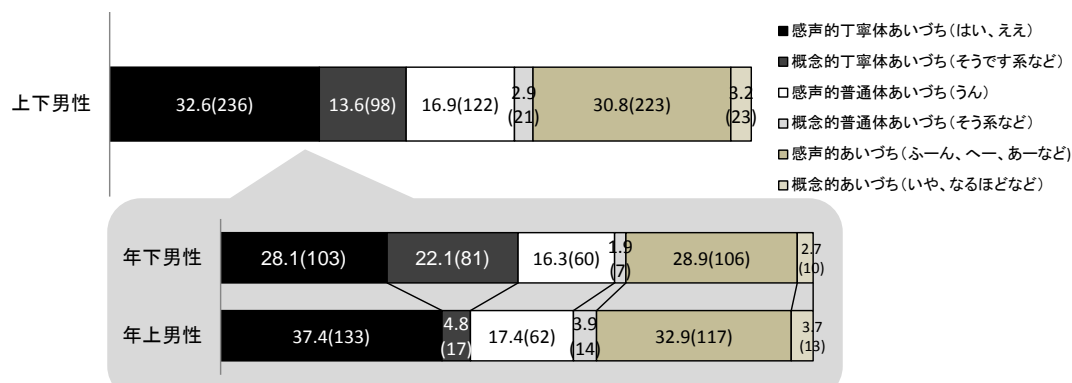


図 18 年上に対する年下男性のあいづち表現の使用状況

このような結果から、目下男性は目上男性に対し、感声的であれ概念的であれ、丁寧体あいづち表現(50.2%)をより多く使用する傾向があることが分かった。目下男性は、目上男性に対し、初対面という心的に堅苦しいそれも目上の対話相手という負担の度合いが増した場面で、「はい」系、「ええ」系、「そうです」系の丁寧体あいづち表現を使用することにより円満な人間関係を維持していることが窺える。

ここで、対話相手の同年、上下による男女の違いについて、ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライトネス理論を援用しつつその背景を考えてみたい。まず、同年女性同士の自然談話に現れた「うんうんうん」、「そうそうそう」などの感声的、概念的普通体あいづち表現使用が多い傾向は、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー4の「仲間うちであることを示す指標を用いよ(Use in-group identity markers)」に該当するものと考えられる。普通体あいづち表現を多用することにより、相手と良好な関係を保つために仲間意識を示し、相手との心的距離を縮めようとしているのである。いわゆるポジティブ・ポライトネスを尊重する態度として理解できる。また、男性同士の「はい」、「そうです」、「すごいですね」、「ですよ」などの丁寧体あいづち表現の多用については、ネガティブ・ポライトネス・ストラテジー5の「敬意を示せ(Give deference)」で説明できる。相手と一定の距離をおき、相手との摩擦をさけ、相手を尊重する態度で、良好な人間関係を築こうとしていると考えられる。

日本語を学習する韓国の大学生のために作成された教材11種を対象に、教科書のあいづち表現の種類と出現頻度を分析した李舜炯(2011a)は、『『はい』のあいづち表現が最も多く、『そうですか(117例)』のあいづち表現がその次に多い(李舜炯2011a:343)』と指摘した。このような日本語教育の現場事情を勘案すると、今回明らかになった結果から、初対面20代の同年男性同士の会話であれ、上下男性同士の会話であれ、日本語教育に活用する際には、現行の通りに丁寧体あいづち表現による会話構成で問題はなからう。

4.5.3. 丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現の使用傾向

本節では、次の表の太枠線の部分にあたる丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現に注目して、その使用状況について見てみたい(表20)。

表 20 丁寧体と普通体のスタイル対応がない場合のあいづち表現の使用 (%)

対人関係 表現	同年 女性 同士	ベー ス話 者	対話 相手	同年 男性 同士	ベー ス話 者	対話 相手	上下 女性 同士	年下 女性	年上 女性	上下 男性 同士	年上 男性	年下 男性
感声的丁寧体	10.9	12.1	10.5	30.7	29.8	29.9	11.	23.1	3.6	32.6	37.4	28.1
概念的丁寧体	6.9	4.9	8.1	10.5	11.9	10.0	7.8	11.3	5.3	13.6	4.8	22.1
感声的普通体	31.4	37.4	27.7	11.3	11.4	11.6	43.1	23.8	56.5	16.9	17.4	16.3
概念的普通体	9.9	9.0	10.5	2.8	2.7	2.4	11.0	12.7	9.8	2.9	3.9	1.9
感声的	37.2	32.5	39.8	40.3	40.0	41.	21.7	27.4	17.7	30.8	32.9	28.9
概念的	3.6	4.1	3.3	4.4	4.4	4.5	4.9	1.7	7.1	3.2	3.7	2.7

丁寧体と普通体のスタイルの対応がない場合は、「あ」系と「ふーん、へー、ほー…」など、感声的あいづち表現の使用が目立つ。注釈7で述べたように、異種のあいづち表現が重なる場合、それぞれ分けて分類した。その中でも「あ、なるほど」、「あーうんうん」など、「あー」との組み合わせが最も多く、グループ間の使用数の偏重が少なく、ほとんどのグループで高い割合で使用されているのが特徴的である。

ここで具体的な使用例を見てみたい。次の例文(37)にみられる「ふうーん」、「へえー」、「へー」などは、先述した感声的あいづち表のうち、特に「興味・関心の表示または感情の表示による「感情を表出する」機能を果たす」とされるあいづち表現である。

会話例37) 研修先の話：BF-SF(同年女性同士)の会話

- 1 BF で、2人1部屋。
- 2 SF ふうーん、えー、じゃあスウェーデン語少しできるんですか？。
- 3 BF うん、ちょっと、(へえー)もう忘れちゃった。
- 4 SF へー、そうなんだ。
- 5 BF うん、ほんと。
- 6 SF いいなー。

初対面という負担のある堅苦しい場面で、同年女性は、興味・関心の表示することの多い「ふうーん」、「へえー」、「へー」など、より親密な関係で使われる感声的あいづち表現をより多く使用することにより、相手との良好な関係を保とうとしているようである。これはポライトネス・ストラテジーとの関連から取り上げると、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー2の「H(聞き手)への興味、賛意、共感を誇張せよ(Exaggerate interest, approval, sympathy with H)」に相当する。

また、上記例文(37)の□の「そうなんだ」「うん、ほんと」「いいなー」は2節の課題③で指摘した、「独話的用法の普通体あいづち表現(大塚2013)」に該当する普通体あいづち表現である。ここでは、大塚の指摘通りに独話的に用いられているのか、違う用法があるのかについて検討したい。

3BFの「うん、(スウェーデン語が)ちょっと(できたけど)、もう忘れちゃった」という情報の提示に対する4SFの「へー、そうなんだ」は、理解・納得を示す独話的用法というよりは確認を聞き手BFに示していると読み取れる。もし、ここで相手の「忘れちゃった」という控えめの相手発話に対し、そのまま納得の態度を示せばかえって相手に失礼になるだろう。吉田(1998)は「そうなんだ」を「確認」の表現効果をもつあいづち表現とし、「聞き手に関することがらについて聞き手本人の目の前で自ら納得して見せて、そのことを以て

聞き手への確認ともする表現である(吉田1988:51)」と述べている。また、ザトラウスキー(1993)は『『そうなんだ』、『そうか』、『ほんと?』などのあいづち的発話は先行する発話の繰り返しによる確認、またはそこから導かれる結論を確認する<確認の注目表示>機能を持ち、それに対する『うん』のようなく同意の注目表示>がよく観察される(ザトラウスキー1993:70)」と報告している。実際、4SFの「そうなんだ」の次の5BFの「うん、ほんと」の反応から4SFは相手に確認を取っていることが窺える。さらに、メイナード(2009:101)は意図的に相手に向けた表現ではなく、半分自分に向けた内面のつぶやきに近いものである場合、「そうなんだ」を「そうなんです」の形式にするのは不自然であるという。4SFの「へー、そうなんだ」は「へー、そうなんですね/そうなんですか」など、相手を意識した表現にしても会話の流れは不自然にならない。その次に続く5BFの「うん、ほんと」も「はい、ほんとうです(よ)」と置き換えられることから聞き手SFの意図を伝達しようとしていると解することもできて、独話的であると断定することはできない。

さらに、6SFの「いいなー」の普通体あいづち表現は、「スウェーデン語ができる」という情報に対し、「(うわ、すごいです)いいなー」と相手に伝達する意図を持っているとも受け止められるし、「(私もそうなれたら)いいなー」のように、相手に伝達する意図を持たずに、発話時に自分が思ったことや心情をただ表出する独話的なものであるとも考えられる。ここで、普通体あいづち表現の相手を意識しない独話的用法と相手を意識する伝達的用法の存在を確認した上で、普通体を使っているBFと同じスタイルを選んでいるSFの発話に注目したい。2SFの「～少しできるんですか?」と丁寧体を選んでいたSFは、その次に続く3BFの「～忘れちゃった」の普通体に合わせ、4SF、6SFでは「そうなんだ」「いいなー」という普通体あいづち表現を選んでいることが分かる。このことは、石黒(2013:105)で紹介した「相手との親しさを示すために、聞き手の使っている言葉に同調させ、そこに自分の言葉を拘束させていくアコモデーション理論(Giles et al.1991)」によって、SFは親しさを示す有効な手段として普通体あいづち表現を使っているのだと説明できる。

4.6. 本章のまとめ

本章では、日本語学習者の日本語コミュニケーションの向上のために、現実の母語話者のコミュニケーションを観察することが重要であるという観点に立ち、その一例として、初対面20代の同性同士を対象に、同年対話相手、目上対話相手といった対人関係におけるあいづち表現の使用について分析した。

まず、丁寧体と普通体のスタイルの対応があるあいづち表現については、以下のことが明らかになった。

1. 同年対話相手のあいづち表現使用については、同年女性同士は、「うん」系、「そう」系などによる普通体あいづち表現の使用により相手と良好な関係を保つために仲間意識を示すことで相手との心的距離を縮めようとするのに対し、同年男性同士は「はい」系、「ええ」系、「そうです」系などによる丁寧体あいづち表現を多用することにより、相手との距離を保持し丁寧さを保とうとすることが確認できた。また、同年対話相手のあいづち表現の使用傾向には性別による、選択されるあいづち表現には上記の違いがあるものの、円満な対人関係を維持するために用いられる言語行動であるという点では共通していることが明らかになった。
2. 年上対話相手に対するあいづち表現の使用については、女性が、「うん」系の感声的普通体や「はい」系、「ええ」系の感声的丁寧体といった、スタイルにかかわらず感声的あいづち表現を多用している一方、男性は、「はい」系、「ええ」系といった感声的か、「そうです」系といった概念的かに関係なく、丁寧体あいづち表現を多用していることが明らかになった。そして、丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現については、以下のことが明らかになった。
3. 「あ」系や「ふーん、へー、ほー…」など、意味内容のない感声的あいづち表現の使用が男女共に目立った。親密な関係でより多く使われるこれらのあいづち表現を用いることで、相手との良好な関係を保とうとしていることが分かった。

実際、本章で着目した聞き手言語行動である「あいづち表現」はこれまで日本語教育現場で教えられることが少なく、後回しにされてきた¹⁸。その理由は、定形化した文法項目などの言語形式すら定着していない学習者に対して、相手との対人関係にかかわる言語形式を導入すると、男女差・上下差・年齢差など複雑な要因が絡むために、学習者の負担が大きくなり、混乱が生じかねないことへの配慮があるのではないかと考えられる。

近年、日本語のコミュニケーション教育の方法として「作り物ではなく本物を使う、現実のコミュニケーションを観察する(品田2012:148-155)」、「言語には使う者の年齢相応の表現があり、世代の異なる教師が使う日本語をそのまま学習者に強いることは避けなければならない(メイナード2005:15)」、「大学生くらいの若者にも男女差が依然としてある、適切なコミュニケーションのためには、話しことばの男女差を知っていることは必須(小川2006:50)」、「母語話者の自然談話を素材とする『自然会話』の教材化(宇佐美2012:80-81)」など、説得力のある提言がなされている。本章で明らかにした対人関係によるあいづ

¹⁸ 最近、実際的なコミュニケーション指導を目指す教科書では、学習項目として取り上げられているようである。

ち表現の選択様相も、現実の母語話者の自然談話という本物から得られた、会話参加者の性別や社会的地位の上下(年齢の上下)を考慮した上で把握されたものである。本章で確認した次の図19のような結果は、何を教えるか(シラバス)を考える際に参考になるであろう。特に20代の日本語母語話者が現実で使用しているあいづち表現を同年代の学習者も使い分けができるようにするのは、日本語教育におけるひとつの学習目標でもあろう。

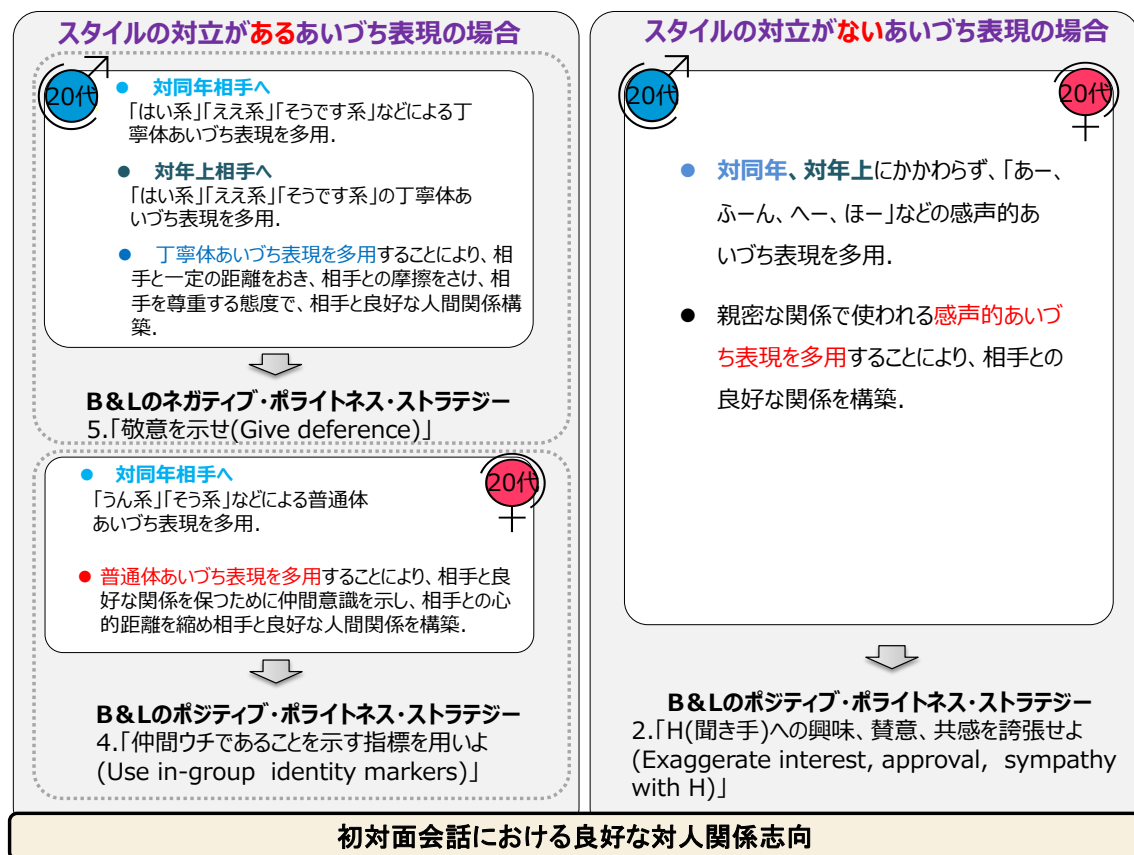


図 19 20代のスタイルによるあいづち表現の使用傾向

今回の結果をどの学習段階でどのように教えるか、今後、研究を具体的に反映した教材作成にも取り組んで行く必要がある。そのためにも、母語話者の範囲を大学生・大学院生に限らず、社会人などに広げてさらに分析を進める必要がある。今回は、感声的丁寧体あいづち表現として「はい」系、「ええ」系を一まとめにして使用数をカウントしたが、実際には、「ええ」は「はい」に比べて使用頻度がかなり少ないことが分かった。これについても再検討する必要がある。そこで、次章では、会話者の対象を広げ、あいづち表現の調査項目を個別に分けて分析、考察する。

第5章 対話相手との年齢差・性別差に応じたあいづち表現の使用実態

5.1. はじめに

前章では、初対面20代の同性同士を対象に、対話の相手が同年あるいは年上である場合のあいづち表現の使用について、丁寧体や普通体といったスタイルの有無によって区分した上で分析し、その特徴を次のように報告した。まずスタイルの対立のあるあいづち表現のうち、①同年女性同士の場合は、「うん系」の感声的普通体あいづち表現の使用が最も多い。②同年男性同士の場合は「はい系」、「ええ系」、「そうです系」などによる丁寧体あいづち表現を多用する。年上相手のあいづち表現の使用においては、③女性の場合、「うん系」や「はい系」の感声的あいづち表現が多用される。④男性の場合、「はい系」、「ええ系」や「そうです系」の丁寧体あいづち表現が多用される。また、スタイルの対立のないあいづち表現のうち、男女、上下にかかわらず「あー」「ふーん」「へー」などの感声的あいづちが「いや」「なるほど」などの概念的あいづちより多いことが明らかになった。

日本語は、「話し手と聞き手の区別はなく、聞き手も話の流れを作る作業に参加する(水谷1988a: 10)」という指摘もあるように、あいづち表現や共話的反応などの聞き手言語行動の多用がみられる。このような現象を受け、日本語の聞き手言語行動に関する研究は多様な角度から行われつつある。特に、話し手との性別差、上下関係(社会的地位・年齢)や親しさの程度などの社会的要因の影響を受けることが報告されている(小宮1986、黒崎1987、杉戸1987、内田1993、堀口1997、大浜2002、宮崎2002など)。4章の結果もこれらの研究を支持するものとなっている。

あいづち表現は、行う回数も使う表現形式も人によって異なり、また同じ人でも談話の内容や相手との関係などによって使い分けるのが一般的である。しかし、このように対人関係によってあいづち表現の使用傾向が異なるとしても、会話の流れを円滑に運び相手との良好な関係を保とうとする点では共通している。たとえば、20代前半のあいづち表現を調べた前章では、男性に使用が多い丁寧体あいづちはネガティブ・ポライトネス・ストラテジーであると指摘した。一方、女性に使用が多い普通体あいづちと感声的あいづちはポジティブ・ポライトネス・ストラテジーとして機能することを指摘しているが、両者ともに円満な人間関係構築のための使用である点では変わらない。

歳とともに使用語彙が変わるということは、誰でも経験があるだろう。あいづち表現の使用にも年齢による違いがあると考えられる。しかし、たとえば、「30代になってから「ええ」が使えるようになった」というような場合、これは誰に対しても「ええ」を使うよう

になったわけではなく、会話相手との関係に応じて使い分けるようになったのではないだろうか。

そこで、本章では、年齢の異なる20代話者と30代話者による初対面雑談会話において、同年および年上という対人関係があいづち表現の使用にどのように影響を及ぼしているかを示すことを目的とする。そして、その際、主にどのようなポライトネス・ストラテジーが機能するのかも合わせて提示する。

以下に本章の流れを示しておく。5.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。5.3.では分析に使用するデータと調査項目を提示する。5.4.では20代前半話者と30代半ば話者が対話相手の違いによる感声的あいづちと概念的あいづちの使用傾向について考察を進め、5.5.では本章をまとめる。

5.2. 先行研究

日本語の会話における聞き手言語行動に関しては、その使用話者、会話の相手、話題、目的、場面、媒体などによっても、頻度や表現の種類が異なることが確認されている。特に、小宮(1986)、黒崎(1987)、杉戸(1987)、宮崎(2002)などが、使用話者や会話の相手に応じてあいづちの使用様相が変化することを指摘している。

まず、小宮(1986)は、対談と電話相談の2つのテレビ番組の資料から、感声的あいづちが女性に特に多いと報告している。

黒崎(1987)は、兵庫県滝野方言について同年代同士の自由会話30編を文字化し、あいづちと位相との関係を調査した結果、あいづちに年層差・男女差がみられるとし、具体的には、以下の3点を報告している。①男性より女性の方が高いあいづち率を占め、特に、壮年女性、老年女性のあいづち率が高い。②あいづち表現の異なり数は年齢と共に増加し、女性および壮年以上の層で使用頻度が高い。③あいづちの頻度に年齢層差も影響しており、少年の平均12.1 %に比べ、壮年19.3%、老年20.7%と、高い数値を示す。④低年齢層は「ウン」、「フーン」など感声的あいづちを、壮年、老年層は「ソー」形式の表現を多用する傾向がある。

杉戸(1987)は、東京(内藤)で親しくない関係にある男性2人、女性2人、司会者1人(内藤談話)と、大阪(米津)で親しい関係にある男性3人、女性1人、司会者1(米津談話)の会話を録音し、文字化した資料をもとに分析を行った。その結果、親しくない関係にある内藤談話であいづち的発話が多く見られたと報告している。

大浜(2002)は、社会的地位や性の異なる対人関係(同年代：年上、同性：異性)によってあいづちの使用頻度や表現にどのような変化が現れるのかを調査し、次の3点を結果として

提示している。①年上の相手に対しては賛同する表現(あ系、そう系、本当系)の使用が多く、同年代に対しては違和感を表明し自らのターン取得のシグナルを送る「え系」が多く使用される。②年上に対しては丁寧な「はい系」が多く、同年に対してはくだけた「うん系」が多く使用される。③同性に対しては同意賛同の「本当系」の使用が多く、異性に対しては相手の発話を重視する「あ系」および「え系」が多く使用される。

宮崎(2002)は、35歳の女性話者が、それぞれ女性のみで構成される、年下の独身者からなるグループ、同年または年下の既婚者からなるグループ、年上の既婚者からなるグループについて、電話と対面会話という媒体の違う計6つの談話資料に基づいて調査、分析した。その結果、電話会話の方が対面会話よりもあいづちの頻度が高いこと、および、同世代、年下の方が年上よりあいづちの頻度が高いことを報告している。

以上から対人関係と聞き手言語行動のあいだに相関があることはある程度判明しているが、まだ発展の余地がある。本論では、以下の3つのアプローチによって、その発展に取り組む。

- a. 年齢という要因に言及した黒崎によれば、小学生から高校生まで10代の低年齢層では「感声的あいづち」の使用が、35～45歳、65歳以上の高年齢層では「そう系」の概念的あいづちの使用が報告されているが、この結果から、比較的low年齢である20代では「感声的あいづち」の使用が、30代では「概念的あいづち」の使用が多いことが予想される。黒崎の調査で対象としていない20代の場合はどうのような使用傾向があるのか考察を試みる。
- b. 小宮(1986)、黒崎(1987)などにより、「感声的あいづち」が低年齢層、女性などとの会話で多用されることが確認できた。だが、たとえば大浜は、同年代に対しては違和感を表明し自らのターン取得のシグナルを送る「え系」が多く使用されるとしている一方、4章では男性が目上相手に対し、丁寧なあいづちの一種として「え系」を多用していると述べている。そこで今度は、感声的あいづちを一括せず、表現形式を個別に分け、対人関係を考慮して考察する。
- c. 男性の使用傾向が同条件のもとで調査できる資料をもとに再考する。従来の研究は、全体的に調査結果の言及が女性についてのものに偏っていた。

これまでの研究結果にばらつきがあるのは、調査対象として扱った事例が比較的少なかったり、また、大量のコーパスを利用している場合でも特定の年齢層に制限したりしていることが一因であろう。そこで、本章では従来の研究で主に対象としてきた20代に加え、30代の話者の自然談話データも分析の対象にいれ、会話相手が年上か同年かによって会話者

たちにどのようなあいづち表現の使用様相の変化が見られるのかを明らかにする。その際、社会的な規範も念頭に置き、以下の(1)～(5)を仮説として立てて検証した。

- (1) 初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い。
- (2) 会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合に丁寧なあいづちの使用が多い。
- (3) 会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくださったあいづちの使用が多い。
- (4) 「はい系」「え系」は対年上に、「うん系」は対同年にその使用が多い。
- (5) 「そうです系」は対年上に、「そう系」は対同年にその使用が多い。

5.3. 研究方法

本章で用いるデータは、「基本的な文字化の原則(BTSJ : Basic Transcription System for Japanese)」による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版)に基づくものである。収録されている会話のうち、「初対面同性同士雑談(12会話)」と「初対面男性ベース雑談(12会話)」の日本語母語話者同士の会話を調査対象とした。

本調査においては、対話相手との年齢差・性別差がいかに関き手言語行動に影響を与えるかを分析するために、会話参加者を以下の基準にしたがい、計8組に分類した¹⁹。20代前半ベース(女性・男性3人ずつ)の「対同年」「対年上」の計4通り合計12会話を分析した。また、35歳ベース(男性3人)の、同性、異性「対同年(35歳)」「対年上(45歳)」計4通り12会話を分析の対象とした。会話の平均長さは15分10秒で、総発話数の平均は931回、そのうち、ベース話者と対話相手との発話平均数は442回と488回であった。

本章は、対話相手の年齢差と性別差に応じて、ベース話者の聞き手言語行動にどのような違いが生じるのかを考察するものである。表21の網掛けで示したベース話者の発話に出てきた聞き手言語行動のみを分析の対象とした。

¹⁹ 本章で用いた調査データは、20代の場合は男・女の同性同士のグループになっているのに対し、30代は男性の同性・異性のグループになっている。表2に示したように男女の組み合わせにおいて統制がとれていない。しかし、本章では、対話相手が同年か年上かに応じた聞き手言語行動の使用実態を把握するのが主目的であるため、有効なデータであると判断した。ただし、男女の組み合わせまで考慮されたデータであれば、考察結果の客観性はより高くなるであろう。データの精緻化は今後の課題である。

表 21 あいづち表現の年齢差・性別差調査の使用データの概要

[協力者の記号 ; B(F/M):ベース話者(女/男), S (F/M):同年(女/男), O(F/M):年上(女/男)]

人間関係		会話 番号	協力者		長さ (分/秒)	発話		
			B	S/O		総出現数	B	S/O
20 女 女 グ ル ー プ	①対同年	191	JBF01	JSF02	16/27	973	470	503
		195	JBF03		11/39			
		197	JBF04		15/43			
	②対年上	192	JBF01	JOF01	16/29	1080	503	577
		196	JBF03		17/00			
		198	JBF04		17/03			
20 男 男 グ ル ー プ	①対同年	199	JBM01	JSM02	15/44	1012	467	545
		203	JBM03		15/52			
		205	JBM04		19/57			
	②対年上	200	JBM01	JOM02	17/06	788	383	405
		204	JBM03		20/58			
		206	JBM04		18/10			
30 男 男 グ ル ー プ	①対同年	176	BM01	SM01	19/52	790	406	384
		182	BM02		14/30			
		188	BM03		15/00			
	②対年上	174	BM01	OM01	19/22	1059	478	581
		180	BM02		16/49			
		186	BM03		20/05			
30 男 女 グ ル ー プ	①対同年	175	BM01	SF01	15/00	904	387	517
		181	BM02		13/30			
		187	BM03		15/53			
	②対年上	173	BM01	OF01	15/00	839	445	394
		179	BM02		17/30			
		185	BM03		20/00			
				平均	15/10	931	442	488

調査項目としては、次の表22に示したあいづち表現(感声的あいづち・概念的あいづち)で、感声的あいづち表現としては「あ系、うん系、え系、はい系、ふーん系、へー系、ほー系」を、概念的あいづち表現としては「そうです系、丁寧な文末系(略称、ですね文末系)、そう系、くだけた文末系(略称、ね文末系)、いや系、なるほど系、確かに系」などをそれぞれ調べた。

表 22 あいづち表現の調査項目

<p>感声的 あいづち 表現</p>	<p>① あ系 :あ、あー、あーあー、など ② うん系:うん、うんうん、ん、うーん、など ③ え系 :え、えー、ええ、など ④ はい系:はい、はいはい、はあ、はーはー、など ⑤ ふーん系:ふーん、ふん、ふんふん、など ⑥ へー系:へえ、へー、など ⑦ ほー系:ほー、ほーほー、など</p>
<p>概念的 あいづち 表現</p>	<p>① そうです系:そういうことです、そうなんです、そうなんですよ、そう だったんですか、そうですね、そうですよね、そうなんです、そうなん ですよ、など ② 丁寧な文末系(以下、ですね文末系と称す):本当ですよ、本当 ですよ、す ごいそうですね、いいですね、いいんじゃないで すか、でしょ、ですね、です よね、など ③ そう系:そう、そうそう、そうだよ、そうなんよ、そうかね、 そうか、 そっか、そっかそっか、そうね、そうよね、そう やね、そうやな、そうだね、など ④ くださった文末系(以下、ね文末系と称す):本当ね、本当にね、 本当だよ、いいよ、いいじゃん、いいね、だろう、だろう ね、だよ、ねー、など ⑤ いや系:いえいえ、いや、やー、など ⑥ なるほど系:なるほど、なるほどね、なるほどなるほど ⑦ 確かに系:確かに、確かにね、確かに確かに</p>

5.4. 分析と考察

本節では、5.3.で説明した調査にもとづき、20代前半話者と30代半ば話者の対人関係による①感声的あいづち、②概念的あいづち使用傾向について実証的に分析する。特に、20代の同性同士の会話では、男女のそれぞれが、会話相手が自分より年上かどうかによってあいづち表現をどのように使い分けているのかに注目し、また、30代男性のあいづち表現については、会話相手の年齢や性別にも注目し、分析する。具体的には5.4.1.ではあいづち表現の使用についての対人差について、5.4.2.では感声的あいづち表現について、5.4.3.では概念的あいづち表現について、それぞれ分析、考察する。

5.4.1. あいづち表現の対人差

次の図20は、年齢の異なる2代会話者(20代女性同士、20代男性同士)と、3代会話者(30代男性同士、30代異性同士)による同年および年上の相手に対するあいづち表現(感声的あいづち、概念的あいづち)の使い分けの使用傾向を示したものである。

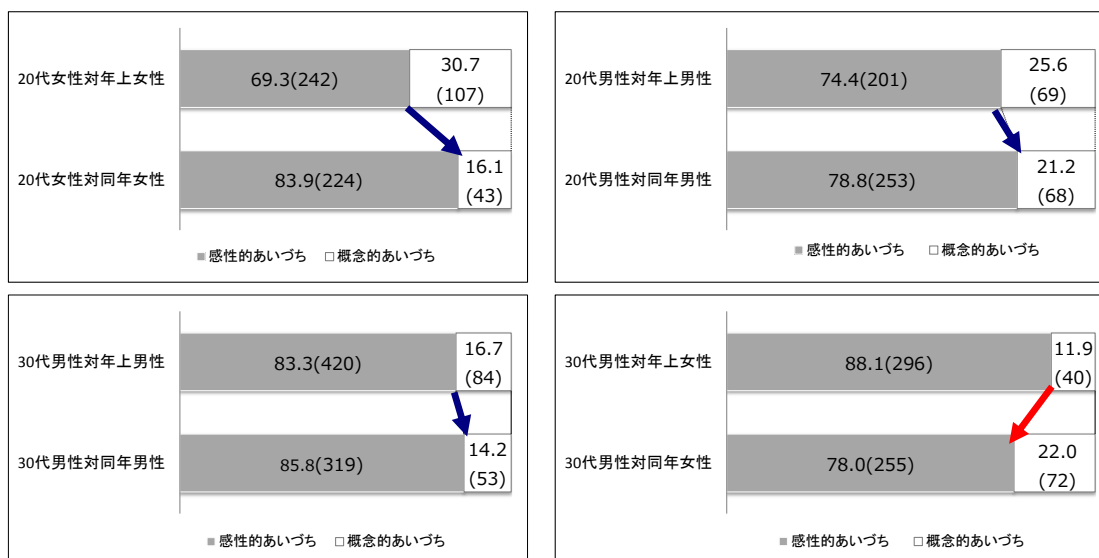


図 20 対人関係からみたあいづち表現の出現数とその割合

まず、全体的な傾向として、どのグループにおいても感声的あいづち>概念的あいづちの順にその出現数が多かった。ここで注目したいのは感声的あいづちの多用である。3.で先述した通り、「小宮(1986)、黒崎(1987)などにより、「感声的あいづち」が低年齢層、対女性などに多用されることが確認できた」。従来の研究により感声的あいづちの下位分類が合致するわけではないが、小宮、黒崎などは本章とほぼ同種類の感声的あいづちを考察の対象としている。しかし、図20からも確認できるように、20代や、30代でも感声的あいづちの使用が69.3%~87.1%の割合で圧倒的であることから10代の低年齢層に限られた傾向ではないことが分かった。また、従来の指摘通り、女性の使用はもちろん多いが、男性も多用していることが確認できた。

一方、その出現数が多い感声的あいづち表現は、20代女性同士、20代男性同士、30代男性同士の会話においては、対年上相手への使用が少なかった。これは、水谷(1988b)の「目上に対してあいづちが少なくなる(水谷1988b: 94)」という指摘とも一致する。また、30代異性同士の会話においては、男性による同年相手より年上相手への使用が多かった。Usami(2002)は初対面会話におけるあいづちと実質的発話の割合について、「話者が相手を社会的上位者と認識している場合、あいづちの割合が高くなる(Usami2002:105)」としているが、30代異性同士の場合の男性による使用傾向のみがこれを支持する結果となった。会話相手が年上か同年かという年齢とともに、会話相手が同性か異性かという性別差の要因によっても、あいづち表現の使用に変化があることが確認できた。

本章のように感声的あいづちと概念的あいづちに細分して対人差をみることで従来とは異なる使用傾向が確認できたと考えられる。「あいづち」を「あいづち表現」とまとめて

考えるか、「感声的あいづち・概念的あいづち」、「系別」、「個別表現形式別」に考えるかは重要な問題である。系別でみると、「あ」と「あー」、「はい」と「はいはい」、「うん」と「うんうん」、「え」と「えー」などをまとめてしまうことになり、その点で問題がないわけではない。しかしながら、本論の目的は対人関係に応じて、個々の表現の機能的差異を明らかにすることではなく、日本語のあいづちという現象が会話の中でいかに機能しているかということ明らかにすることであるので、5.4.2.からは系別にまとめて、分析、考察する。

5.4.2. 感声的あいづち表現の使用状況

本節では対人関係による感声的あいづち表現の使用傾向を比較分析するため、感声的あいづちを「はい系」「え系」「あ系」「うん系」「ふーん系」「へー系」「ほー系」の表現形式別に分類した。詳細結果は次の表23のようにまとめられる。

表 23 対人関係による感声的あいづち表現の使用傾向 (実数：%)

対人関係		あいづち					合計
		はい系	え系	あ系	うん系	ふーん、へー、ほー系	
20代女性	①対同年女性	10.3(23)	5.4(12)	27.7(62)	54.5(122)	2.2(5)	100(224)
	②対年上女性	17.4(42)	0	34.7(84)	42.6(103)	5.4(13)	100(242)
20代男性	①対同年男性	18.2(46)	13.0(33)	45.8(116)	17.0(43)	5.9(15)	100(253)
	②対年上男性	20.4(41)	12.9(26)	38.3(77)	21.9(44)	6.5(13)	100(201)
30代男性	①対同年男性	16.3(52)	36.4(116)	28.8(92)	11.3(36)	7.2(23)	100(319)
	②対年上男性	18.1(76)	38.6(162)	29.3(123)	3.3(14)	10.7(45)	100(420)
	①対同年女性	21.6(55)	26.3(67)	27.8(71)	10.6(27)	13.7(35)	100(255)
	②対年上女性	4.4(13)	35.5(105)	45.6(135)	9.1(27)	5.4(16)	100(296)

全体として出現頻度から「はい系」「え系」「あ系」「うん系」が感声的あいづちの中心をなしていて、「ふーん系」「へー系」「ほー系」の使用は少ないことが分かった。あいづち表現を感声的表現と概念的表現に二分した小宮(1986)は、「はい系、え系、あ系、うん系のあいづちは、この順に敬意が減り、親しみが増すという一般的な傾向がある(小宮1986:51)」と指摘している(図21)。小宮の主張を踏まえると敬意が増すと「はい系」「え系」は年上相手に、敬意が減り、親しみが増す「うん系」は同年相手に使用することが予想できる。

しかし、ここで上記の表23の白で示した①対同年相手、網かけで示した②対年上相手への使用傾向を確認すると、太枠線で囲んだ、20代女性の「え系」の対年上への使用がない、30男性の「はい系」対年上女性への使用が少ない、20代男性の「うん系」の対同年に少ないことを除いてはほとんど予想通りの傾向を示している。だが、20代女性と20代男性では「はい系」が、30代男性では「え系」の使用が全体的に多く、今回の使用傾向から「はい

系」と「え系」の間に敬意の差があるとは言いがたい。そして、「うん系」は小宮の指摘通りに敬意が減り、親しみが増すことが確認できた。「あ系」は20代男性の同年相手に多い場合を除いては全体的に年上相手に多いことが確認できた(図22)。

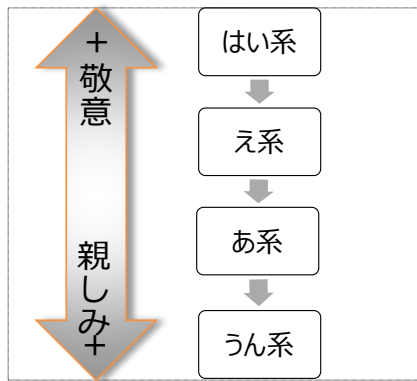


図 21 小宮(1986)における「はい系」「え系」「あ系」「うん系」の敬意と親しみ

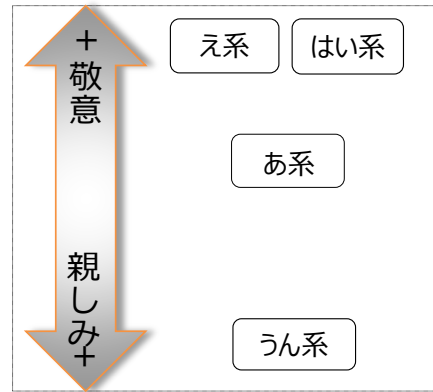


図 22 本章における「はい系」「え系」「あ系」「うん系」の敬意と親しみ

さらに、同性グループである20代女性、20代男性、30代男性と30代男性異性グループにおけるそれぞれの使用傾向について詳述する(あいづち表現の使用状況を示す()内の数字は割合(%)を表す(以下、同様))。

まず、20代女性の場合は、年上相手と同年相手の会話における感声的あいづちのうち、敬意が最も低く、その代わり親しみが最も高い「うん系」の使用頻度が高いことが分かった(図23)。このような結果から5.3.で立てた仮説(1)の「初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い」という結果にはならず、初対面における従来の社会的規範から逸脱していることが確認できた。ここで注目したいのは対同年と話す場合は「え系」「うん系」「ふーん系」「へー系」を使用する割合が増えることである。「え系(4.9)」以外は「くだけたあいづち」としてまとめられる。このような結果は、仮説(3)(4)を支持する結果となり年齢という社会的要因が聞き手言語行動に影響を及ぼしていることが確認できた。

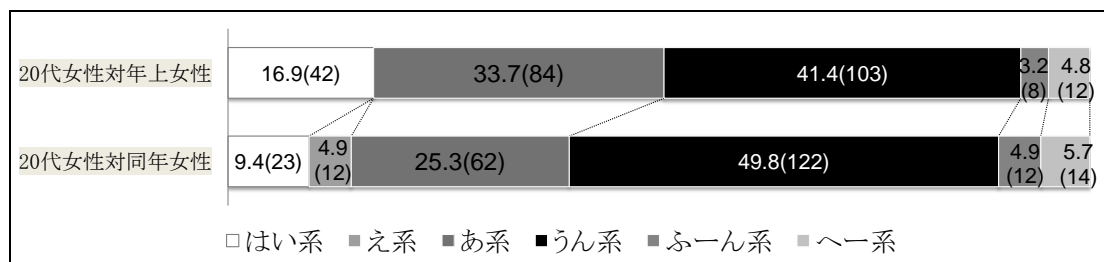


図 23 20代女性の対同年・対年上女性への感声的あいづち表現の使用状況

宇佐美(2001b)は、「相手を心地よくさせるために使われる言葉は、くだけた言語形式を使っている、『ポジティブにポライトだ』と考える捉え方が、ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライトネス理論の斬新な点である(宇佐美2001b:23)」と指摘している。今回、初対面における従来の社会的規範から逸脱している「うん系(49.8)」「ふーん系(4.9)」「へー系(5.7)」の「くだけたあいづち使用」を交える頻度が、20代女性同年同士に60.4%という割合で有意に多かったという結果が示唆するのは、20代前半の若い女性がポジティブ・ポライトネスをより表しやすいということである。「初対面でも、格式張らない、気さくで、対等な人間関係を構築するために、くだけたあいづち表現を用いること」、これが20代の同年女性同士の初対面会話においてふさわしいと考えられる聞き手言語行動になっているようである。くだけたあいづち表現は20代の同年女性同士の会話でより頻繁に使われている。後述する30代では使用が確認できない(図25、26)。これは20代にしかみられない現象である。年齢が上がるにつれて社会的に低いとされるくだけたあいづち表現は少なくなるので見かけ上時間における変異(age grading)といえるであろう。

次に、20代の男性の場合は、年上相手と同年相手の会話における感声的あいづちのうち、中立的な「あ系」の使用が両者ともに最も多いことが分かった(図24)。一方、年上の男性に対しては「はい系」「え系」の「丁寧なあいづち」が34.3%、同年の男性に対しては32.5%の割合を示し、年上相手の会話における使用の方が若干多いことが分かった。仮説(2)の通りに年上の相手に対しては敬意の高い丁寧な表現を使うという社会的規範から逸脱することなく、同年相手より年上相手の場合に丁寧なあいづちの使用頻度が高いことから、年齢という社会的な要因があいづち表現の使用に影響を及ぼしていることが確認できた。また、全体的に見た場合、「くだけたあいづち」より「丁寧なあいづち」の方が少ないので、20代男性同士の会話ではネガティブ・ポライトネスが表れやすいと考えられる。

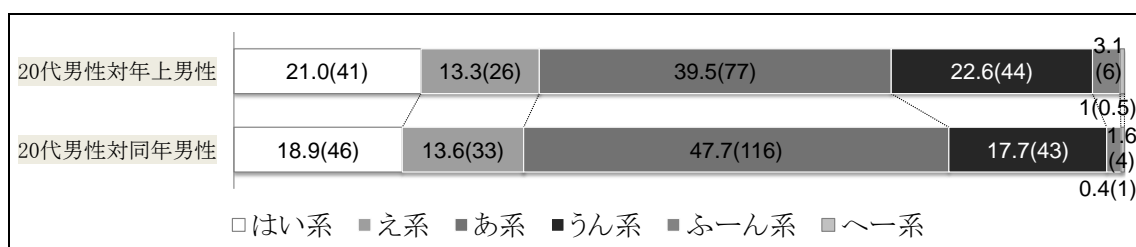


図 24 20代男性の対同年・対年上男性への感声的あいづち表現の使用状況

さらに、次の図25の30代男性同性同士の場合、年上の男性相手、同年の男性相手における感声的あいづちについては、両者ともに「え系」の使用が42.6%と37.7%の割合で最も多かった。一方、「はい系」「え系」の丁寧なあいづちが年上の男性相手に62.6%、同年の

男性相手に54.6%の割合を示している。5.2.で立てた仮説(1)(2)(3)の通り、社会的規範から逸脱することなく、場面(初対面)と年齢という社会的要因が聞き手言語行動に影響を及ぼしていることが確認できた。このような結果から30代男性同性同士の会話ではネガティブ・ポライトネスが最も表れやすいことが分かった。

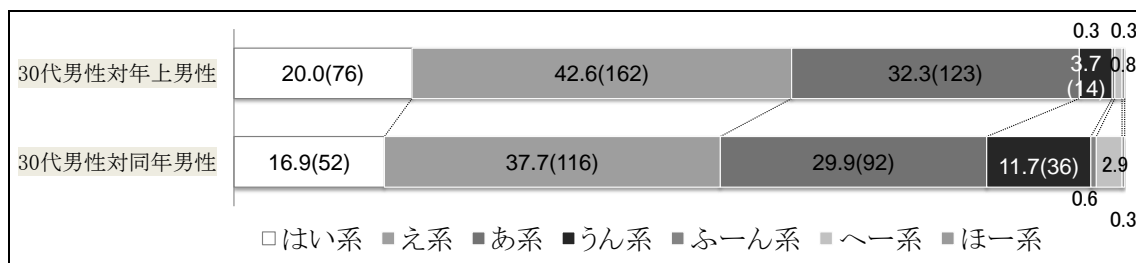


図 25 30代男性の対同年・対年上男性への感声的あいづち表現の使用状況

なお、図26の30代男性異性同士の場合、年上の女性、同年の女性に対する感声的あいづちの使用のそれぞれについて、「あ系」の使用が44.0%、31.4%の割合で最も多かった。一方、「はい系」「え系」の丁寧なあいづちが年上の女性相手に44.0%、同年の女性相手に54.1%の割合を示している。30代男性異性同士の場合、仮説(1)の場面(初対面)という社会的要因に関しては社会的規範から逸脱することなく、その影響がみられることが分かった。しかし、年上より同年に対し、丁寧なあいづちの使用が多いことから、「会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合丁寧なあいづちの使用が多い」という仮説(2)に合致しない結果となり、年齢という社会的要因には必ずしも影響されないことが確認できた。全体的に「くだけたあいづち」より「丁寧なあいづち」が多いことから、30代男性異性同士の会話でもネガティブ・ポライトネスが表れやすいといえよう。

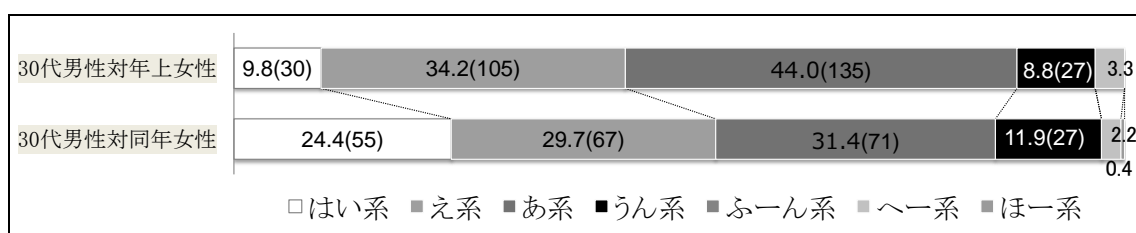


図 26 30代男性の対同年・対年上女性への感声的あいづち表現の使用状況

5.4.3. 概念的あいづち表現の使用状況

本節では対人関係による概念的あいづち表現の使用傾向を比較分析するため、概念的あいづちを「そうです系」、「ですね文末系」、「そう系」、「ね文末系」と語彙的あいづちである「いや系」、「なるほど系」、「確かに系」、「なるほど系」などのそれぞれの表現形式に分けて分析した。詳細な結果は、次の表24のようにまとめられる。

表 24 対人関係による概念的あいづち表現の使用傾向

対人関係		あいづち	そうです系	ですね文末系	そう系	ね文末系	いや系	なるほど	確かに	なるほどね	合計
20代女性	① 対同年女性		16.3 (7)	0.0 (0)	62.8 (27)	9.3 (4)	4.7 (2)	4.7 (2)	2.3 (1)	0.0 (0)	100 (43)
	② 対年上女性		34.3 (36)	1.9 (2)	47.6 (50)	4.8 (5)	5.6 (6)	4.7 (5)	0.9 (1)	0.0 (0)	100 (105)
20代男性	① 対同年男性		53.7 (36)	4.5 (3)	19.4 (13)	4 (6.0)	13.2 (9)	2.9 (2)	0.0 (0)	0.0 (0)	100 (67)
	② 対年上男性		72.5 (50)	7.2 (5)	8.7 (6)	0.0 (0)	10.1 (7)	0.0 (0)	1.4 (1)	0.0 (0)	100 (69)
30代男性	① 対同年男性		54.7 (29)	3.8 (2)	1.9 (1)	0 (0.0)	22.6 (12)	13.2 (7)	3.8 (2)	0.0 (0)	100 (53)
	② 対年上男性		45.2 (38)	3.6 (3)	0.0 (0)	1.2 (1)	21.4 (18)	17.9 (15)	9.5 (8)	1.2 (1)	84 (100)
	① 対同年女性		41.7 (30)	4.2 (3)	4.2 (3)	1.4 (1)	26.4 (19)	15.3 (11)	4.2 (3)	2.8 (2)	100 (72)
	② 対年上女性		47.5 (19)	5.0 (2)	7.5 (3)	0.0 (0)	25.0 (10)	10.0 (4)	2.5 (1)	2.5 (1)	100 (40)

全体として「そうです系」の多用が目立つが、年上相手か同年相手かという年齢が要因となり、その使用の割合も一律ではないことが分かった。より詳細な傾向は対人関係および形式別に説明する必要がある。

まず、図27の20代女性の年上女性および同年女性に対する概念的あいづちの使用状況をみると、「そう系、ね文末系」の「くだけたあいづち」が20代女性は年上に52.4%、同年に72.1%の割合で最も多かった。このような結果は初対面において丁寧なあいづちを使用する社会的規範があるとする仮説(1)とは相反するが、「会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくだけたあいづちの使用が多い」という仮説(3)とは合致している。感声的あいづちの「うん系」の使用傾向と同様に、20代女性の会話ではポジティブ・ポライトネスが表れやすいことが再確認できた。一方、同年相手(16.3%)より年上相手(34.3%)に「丁寧なあいづち」が多いことは、仮説(2)と合致しており、年齢という社会的要因が聞き手言語行動に影響を及ぼしているといえよう。

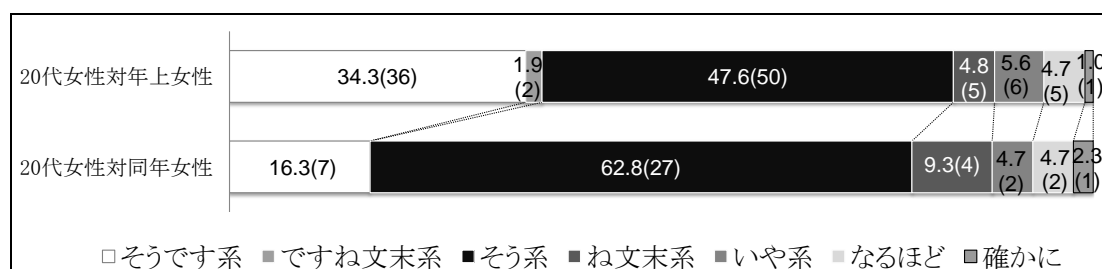


図 27 20代女性の対同年・対年上女性への概念的あいづち表現の使用状況

次に、図28の20代男性の使用状況であるが、「そうです系」「ですね文末系」による「丁寧なあいづち」が年上相手の場合、同年の場合とも多かった。このような事実から、20代男性同士の会話ではネガティブ・ポライトネスが表れやすいことが分かった。一方、丁寧なあいづちが年上相手に79.7%、同年相手に58.2%の割合で用いられており、年齢という社会的要因が聞き手言語行動に影響を及ぼしていることが分かった。この結果は仮説(1)(2)(5)と合致している。

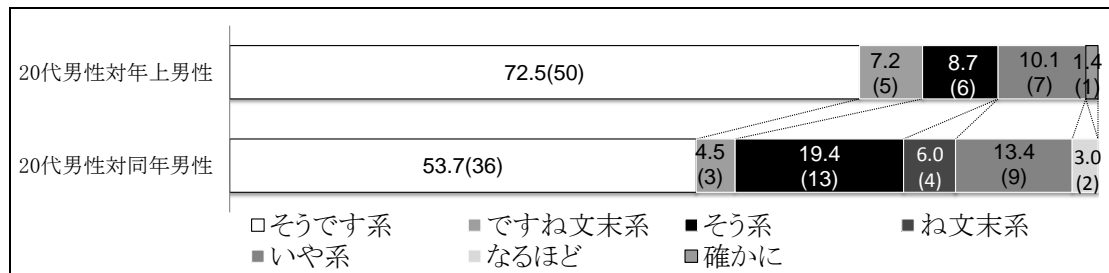


図 28 20代男性の対同年・対年上男性への概念的あいづち表現の使用状況

さらに、図28の30代男性同士の場合も20代男性同士の場合と同様に仮説(4)の初対面という社会的規範から逸脱することなく、「丁寧なあいづち」の「そうです系」「ですね文末系」の使用が最も多いことから、ネガティブ・ポライトネスが表れやすいといえる。ただし、これらのあいづちは同年相手に58.5%、年上相手に48.8%の割合で用いられており、対年上より対同年にその使用が多かったため、年齢という社会的な要因が聞き手言語行動に影響を及ぼすとは限らないようである。これは、仮説(2)(5)に反する結果である。

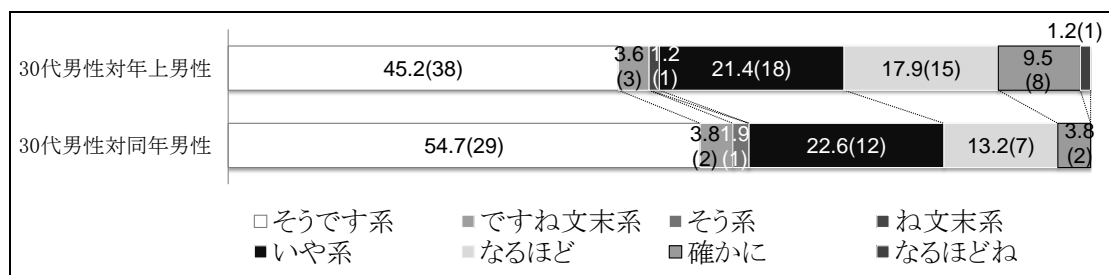


図 29 30代男性の対同年・対年上男性への概念的あいづち表現の使用状況

なお、図30の30代異性同士の場合を確認すると、「そうです系」「ですね文末系」の「丁寧なあいづち」が年上に52.5%、同年に45.9%の割合で最も多かった。この結果から、30代異性同士の会話でもネガティブ・ポライトネスが表れやすいことが確認できた。一方、同年相手より年上相手に丁寧なあいづちの使用が多いことから、年齢という社会的な要因が聞き手言語行動に影響を及ぼしていることが分かった。この結果

は、仮説(1)(2)(5)と合致する。

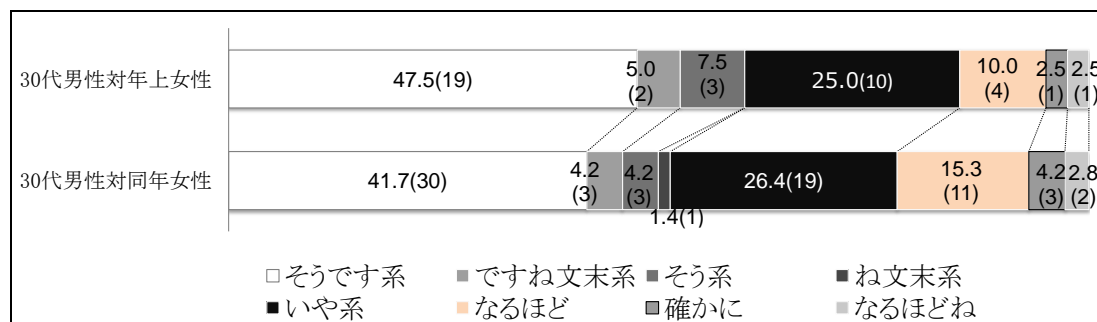


図 30 30代男性の対同年・対年上女性への概念的あいづち表現の使用状況

一方、30代では語彙的あいづち表現である「いや系」「確かに系」「なるほど系」の使用が多く、30代男性同性同士では年上相手に、異性同士では同年相手に多く用いられることが確認できた。特に注目したいのは、以下の会話例38)、39)にみられるように、見下した感じを与えるために、年上に対する使用には違和感があるとされる「なるほどね」の使用が確認できたことである。30代男性が年上の男女両方に使用していることが確認できたが、実際は次の例からも分かるようにBM01の同一話者によるものであり、使用傾向として一般化することは難しいと考えられる。

会話例 38) 部下社員の配慮の仕方の話 BM01(30代男性)-OM01(40代男性)の会話

- 1 OM01 <笑い>ただね、ま、できるだけこう、細かいところに(うん)、こう(うん)、それこそかゆいところに(うん)、手の届くようなね(はい)、まあ、配慮をすればね、まあ、商社さんも生きる道がね
- 2 BM01 そうですね。
- 3 OM01 [息を吸う音]でてるかな(うん)、と思うんですけどね(うん)、ええ。
- 4 BM01 なるほどねー。

会話例39) 教員採用の年齢制限の話：BM01(30代男性) - OF01(40代女性)の会話

- 1 BM01 えー[深い一呼吸]、だって50から先生なんて。
- 2 OF01 幅広い人材を登用(あー)するということで、
- 3 BM01 なるほど。
- 4 OF01 いろんな経験を積んだ方が(あ)、先生になるのもいいんじゃないでしょうかね。
- 5 BM01 なるほどね(ん)、そっか。

以下の表25は、感声的・概念的あいづちの使用状況を仮説(4)～(8)に対応させてまとめた

ものである。

表 25 仮説に基づくあいづち表現の年齢差・性別差による使用状況

仮説	20代女性の同性相手へ	20代男性の同性相手へ	30代男性の同性相手へ	30代男性の異性相手へ	
(1)初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い	×	○	○	○	
(2)会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合に丁寧なあいづちの使用が多い	○	○	○	×	○
(3)会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくださったあいづちの使用が多い	○	×	○	○	
(4)「はい系」「え系」は対年上に、「うん系」は対同年にその使用が多い	*1 え系	*2 うん系	○	*3 はい系	
(5)「そうです系」は対年上に、「そう系」は対同年にその使用が多い	○	○	*4 そうですね	○	

上記、表では仮説通りの結果については○を、仮説に反する結果については×で示した。また、分割されているセルの左側は感声的、右側は概念的あいづちを示す。さらに、特定表現に付き仮説に反する場合は*1～*4のように記号を付けたうえで、特定表現を共に記した。

上記表から読み取れることのひとつは、初対面、年齢という社会的規範を考慮し立てた仮説(1)～(3)に反する行動が見られること、またそれらの結果からポライトネス・ストラテジーが機能していることである。たとえば、仮説(1)、(2)で網掛けした20代女性の同性相手へ、30代男性の同性相手へ、30代男性の異性相手へくださったあいづちを多用することにより、相手と良好な関係を保つために仲間意識を示し、相手との心的距離を縮め相手と良好な人間関係を保とうとしていることがうかがえる。また、仮説(3)で網掛けした20代男性の同性相手へ丁寧なあいづちの多用することにより相手と一定の距離をおき、相手との摩擦をさけ、相手を尊重する態度で、相手と良好な人間関係構築しようとしていることがうかがえる。前者はブラウンとレビンソン(Brown & Levinson 1987)のポジティブ・ポライトネス「4.仲間うちであることを示す指標を用いよ(Use in-group identity markers)」に相当し、後者は「5.敬意を示せ(Give deference)」というネガティブ・ポライトネスにそれぞれ相当するものである。

全体的に初対面、年齢、丁寧なあいづち、くださったあいづちだけでは単純に説明しきれない部分があるようである。ここでは上記表の仮説(4)(5)に反する結果が出た個別表現形式*1～*4について触れておきたい。

まず、表25の*1の「え系」についても20代女性の使用率は、対同年女性(4.9%)>対年上女性(0%)だった。次の例(40)、(41)のような具体的な使用が確認された。本章で「え系」の下位形式として取り上げている「え、えー、ええ」などは、「注意(聞いている)」「理解」「同意」「感情表示」など多様な機能をもつが、20代女性が同年の女性相手に使用する「え系」は主に驚きや違和感の感情を示し、丁寧な意味合いを示すわけではない。大浜(2002)は、「同年代に対しては違和感を表明し自らのターン取得のシグナルを送る「え系」が多く使用される」というが、今回20代女性の対同年にだけその使用が見られた「え系」は「違和感を表明する」という点で大浜の主張と関連があるといえる。

会話例40) 海外旅行経験の話：JBF01(20代前半女性)-JSF02(同年女性)の会話

- 1 JSF02 旅行は、なんか留学生が日本課程多いから、(うんうん)なんか、結構、1回目に行ったのは韓国で、(うん)それは韓国人の友達が(うん)結婚するからって言うんで
- 2 JBF01 えー。
- 3 JSF02 皆で結婚式に出ようって。
- 4 JBF01 結婚式に?
- 5 JSF02 うん。

会話例41) 海外教師生活の話：JBF04(20代前半女性)-JSF02(同年女性)の会話

- 1 JSF02 SARSのときに、“帰ってこないの”(<笑い>)って言ったら、“帰りたくな”とか言って、
- 2 JBF04 ええ、うそ、楽しそう<笑いながら>。
- 3 JSF02 なんか“帰れ”って言われても、“帰んないよ”とか言って。

また、表25の*2の20代男性が年上相手に、敬意の低いくだけたあいづちとされる「うん系」を多く用いるという結果が出た。これは「はい系」「え系」は対年上に、「うん系」は対同年にその使用が多いとする仮説(3)に部分的に反している。この使用実態からは、「うん系」の機能のなかでも、「適切なことばを探したり、共話をもとめていたりするのが相手にすぐさまに理解されなかったために会話がスムーズに進行せず足踏み状態になった(大浜2006:229)」場合の、いわゆるターン取得再放棄の機能をもつものを年上相手に使用していることが推察される。実際の会話例をみると「うん系」の中には「うーん」「ううん」などの形式で考え事をしたり、間を持たせたり、返答をにごしたりする時にも用いられている。反対表明ができず、答えづらい場合や答えたくない場合なども使用される傾向があ

るので、今回20代男性の対年上への「うん系」の使用が多いことから、敬意の低いくだけたあいづちとも言いきれないところがあるようである。

表25の*3と*4の同年相手に対し敬意の度合いが強い「はい系」と「そうです系」の使用が多い点が注目に値する。×³では年上の相手に対する多用が予想された「はい系」の使用率が24.4%で同年異性に対する使用がより多かった。これは同じ30代男性の同年同性の使用率16.9%よりも多い結果である。また、×⁴でも年上の相手に対する多用が予想された「そうですね系」の使用率が54.9%で30代男性の同年同性に対する使用がより多かった。30代男性の場合、会話相手が年上か同年かという年齢の要因と共に、会話相手が同性か異性かという性別差の要因によっても、あいづち表現の使用のあり方が変化することが確認できた。しかし、年齢・性別ではない要因もあると思われるが、それらについての検討は今後の課題である。

5.5. 本章のまとめ

本章では、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代の話者の自然談話データも分析の対象にいれ、どのような聞き手言語行動の使用様相が会話相手の年齢によってどのように変化するのかを明らかにした。またその際、主にどのようなポライトネス・ストラテジーが機能するのかについて考察した。明らかになったことを以下にまとめる。

1. 「初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い」という仮説(1)を立てたが、20代女性同士の会話では、初対面では会話相手に関係なく丁寧なあいづちを使用するという社会的な規範に反して、感声的あいづちについても概念的あいづちについても、くだけたあいづち表現の使用が多かった。このような結果から、ポジティブ・ポライトネスは、20代前半の若い女性においてより表れやすいということが読み取れる。一方、20代男性同士、30代男性同性同士、30代男性異性同士の初対面会話では感声的・概念的に関わらず、「丁寧なあいづち」が主に使用され、ネガティブ・ポライトネスが表れやすいことが明らかになった。
2. 「会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合に丁寧なあいづちの使用が多い」という仮説(2)の検証のために感声的あいづち表現の使用を観察した結果、20代女性同士、20代男性同士、30代男性同士の会話においては、同年相手より年上相手への使用が少なかった。また、30代男性の異性との会話においては、同年相手より年上相手への使用が多かった。このような結果から、性別が聞き手言語行動に影響を及ぼすことが確認できた。一方、概念的あいづち表現の使用においては30代男性同性同士の会話のみ、対年上の会話の方が、対同年の会話よりも少なかった。

3. 「会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくだけたあいづちの使用が多い」という仮説(3)を検証したところ、感声的あいづち表現は20代男性同士の場合対年上に対してもくだけたあいづちを使用することが分かった。
4. 「はい系、え系は対年上に、うん系は対年下にその使用が多い」とする仮説(4)、「そうですね系は対年上に、そう系は対同年にその使用が多い」とする仮説(5)については、それぞれ例外があることが確認できた。まず、20代女性の対同年に使用する「え系」は丁寧度とは関係なく、ただ違和感を表明する働きがあることが分かった。また、20代男性が年上相手に、敬意の低いくだけたあいづちとされる「うん系」を多く用いるという結果が出た。「うん系」の中には「うーん」「ううん」などの形式で考え事をしたり、間を持たせたり、返答をにごしたりする時にも用いられている。反対表明ができず、答えづらい場合や答えたくない場合なども使用される傾向があるので、敬意の低いくだけたあいづちと言いきれないところがあるようである。さらに、30代男性の場合、同性同士では対同年に「そうですね系」の使用が多く、異性同士では対同年に「はい系」の使用が多いことが確認できた。

以上、対話相手が年上か同年かという年齢の差とともに、対話相手が同性か異性かの性別差の要因があいづち表現の使用に影響を及ぼすことが明らかになった。

あいづち表現の使用上の適切さは、状況に依存しており、形態が同一であっても、会話参加者の役割や場面により適切さが異なることが確認できた。このようなあいづち表現に関する運用面での知識もまた、円滑なコミュニケーションのためには不可欠であり、学習が必須な項目であろう。

本章では聞き手言語行動のうち、対話相手との年齢差・性別差に応じたあいづち表現の使用実態について考察した。そこで、次章では、対話相手との年齢差・性別差に応じた共話的反応の型の使用実態について明らかにする。

第 6 章 対人関係に応じた「共話的反応の型」の使い分け

6.1. はじめに

第4章と第5章では、聞き手言語行動のうちあいづち表現に注目し、スタイルや年齢差・性別差について分析した。あいづち表現を感声的あいづち、概念的あいづちに分け、対人関係によって示される使用傾向を明らかにした。

本章では、日本語の会話形態の特徴ともいわれる共話的反応に注目し考察を行う。2.5.で先述の通り、共話的反応とは図31で示しているように、共話をなす後行発話を本研究では共話的反応という。次の会話で3Aの「何のスキルもないし、なんというか…大学に通いながら」を受けて、「専門学校で資格とるとかね」という4Bのような発話がそれに当たる。

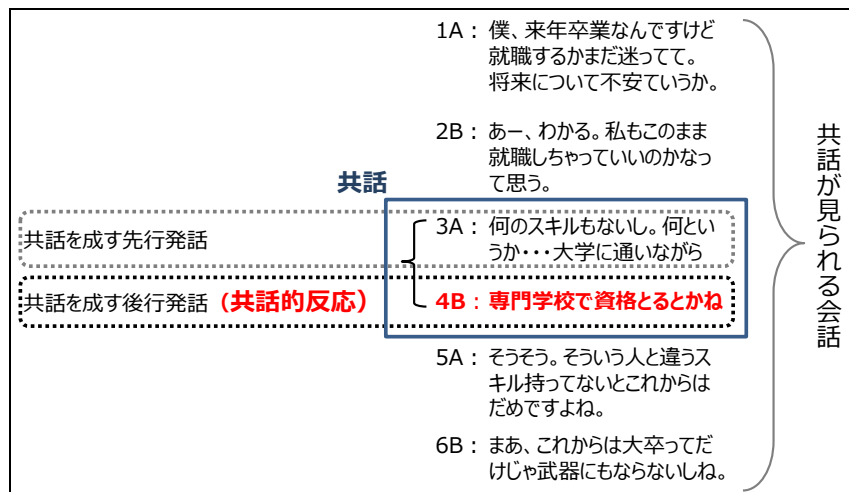


図 31 会話における共話的反応 (図3の再掲)

また、本研究での聞き手言語行動とは、「あいづち的反応」と「共話的反応」に大別される。前者には話し手の発話部分に対する反応である「あいづち表現(感声的あいづち・概念的あいづち)」「(あいづち的)言い換え」「(あいづち的)繰り返し」と、話し手の非発話部分に対する反応である「(あいづち的)先取り」が含まれる。後者は共話をなす発話の話し手の発話部分に対する反応である「共話的言い換え」「共話的繰り返し」と、話し手の非発話部分に対する反応である「共話的先取り」「問い返し」「遮り」が含まれる。

以上の内容は以下の図32のように説明できる。

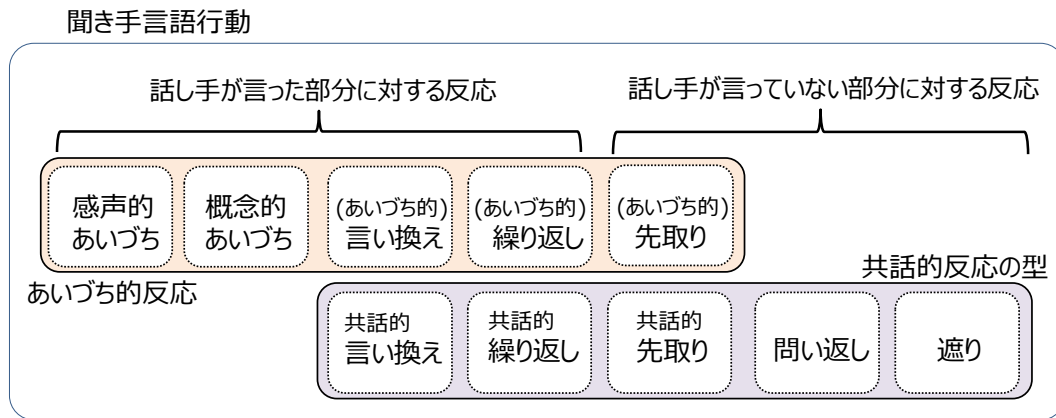


図 32 本研究における聞き手言語行動 (図 4 の再掲)

日本語の話しことばの構造について、水谷(1988a、1993)は、日本語でのやりとりは話し手と聞き手が一緒にひとつの発話を作り上げる「共話」であると主張する。話し手と聞き手の区別はなく、「聞き手も話の流れを作る作業に参加する(水谷1988a: 10)」という指摘もあるように、日本語にはたとえば「あいづち」や「共話をなす聞き手の共話的反応」といった聞き手言語行動の多用がみられる。こうしたことを受け、日本語の聞き手言語行動に関する研究は多様な角度から行われつつある。特に、対人関係によってあいづち表現の使用傾向が異なることも報告されている(小宮1986、黒崎1987、杉戸1987、内田1993、堀口1997、大浜2002、宮崎2002など)。

あいづち的反応に比べるとその出現頻度が高くはないが、共話をなす聞き手の共話的反応も日本語の会話にみられることは指摘されている(宇佐美・木林2002、古内2003)。しかし、共話をなす聞き手の共話的反応の型については、話し手との性別差、上下関係(社会的地位・年齢)や親しさの程度などの社会的要因の影響については特筆すべき研究報告はない。

そこで、本章では、年齢の異なる20代話者と30代話者による初対面雑談会話において、対話相手が同年および年上という対人関係が共話的反応の型の使用にどのように影響を及ぼしているかを考察する。そして、その際、対人関係によって共話的反応の型の使用傾向が異なるにしても、会話の流れを円滑に運び相手との良好な関係を保とうとする点では共通していることを合わせて提示する。

以下に本章の流れを示しておく。6.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。6.3.では分析に使用するデータと調査項目を提示する。6.4.では20代と30代の会話において、対話相手が同年か年上かという対人関係が、共話的反応の型の使用にどのように影響を及ぼすかについて考察を進め、6.5.では本章をまとめる。

6.2. 先行研究

共話的反応の型を対象とした研究は、内田(1993)、古内(2003)、植野(2011)などが挙げられる。

内田(1993)は、初対面の大学生男女各20名を対象に男女がそれぞれ同性と話す場合と異性と話す場合の4つのグループを対象に会話行動にみられる性別差について調査、分析した。その結果、同性・異性のグループ別にかかわらず、女性より男性の方が割り込みを多く行い、会話の中で男性の方が主導権を取ろうとする傾向があることを示唆している。

古内(2003)は、大学生を対象に友人同士と初対面同士の6つの会話パターンを設定し、その会話を調査、分析した。その結果、①男女ともに会話の相手が異性の場合、後行発話(特に先取り)において出現数とその割合に違いが見られた。②女性は初対面の相手が男性である場合に、後行発話の出現数が少ない傾向が見られた。③男性は初対面の相手が女性の場合には、後行発話の出現数が増える傾向が見られた。④共同発話の出現数については親疎の違いによる顕著な差はみられなかった。

植野(2011)は、初対面の先生と学生、親しい学生同士という対人関係において会話者が聞き手としてどのような働きをし、対人関係が聞き手行動にどのような影響をするのかを調査、分析した。その結果、①初対面の先生と学生の場合、先生の発話に質問や先取りという積極的な働きが見られた。②学生にはあいづちの多用のほか、応答、同意といった受け身の発話行為が見られた。③親しい学生同士の場合は、あいづちの占める割合が低い、情報伝達、質問、応答などの積極的なやりとりが多く見られた。

共話的反応の型に関するこれらの考察においては、後行発話(本章でいう共話的反応)の下位分類として「先取り」を取り上げているが、古内(2003)は男性が多用すると指摘しているのに対し、植野(2011)は年上(先生)が対年下(学生)に多用すると指摘しているなど、男女差も上下差も見られ、その出現傾向の分析結果が一樣ではないことが分かった。さらに先行研究では共話的反応の型とその機能との結びつきを考慮して考察していないことから、より正確な状況把握のために要因を統制した会話資料をもとに再考する必要があるだろう。

6.3. 調査の概要

6.3.1. 使用データ

本章で用いるデータは、宇佐美(2011)『基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)』による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版』に収録されている「初対面同性同士雑談」と「初対面男性ベース雑談」の日本語母語話者同士の会話である。

表 26 共話的反応の年齢差・性別差調査の使用データの概要

[B(F/M):ベース話者(女/男), S (F/M):同年(女/男), O(F/M):年上(女/男)]

対人関係		会話 番号	協力者		長さ 分/秒	発話		
			B	S/O		総出 現数	B	S/O
20代女性 同性同士	①対同年	191	JBF01	JSF02	16/27	973	470	503
		195	JBF03		11/39			
		197	JBF04		15/43			
	②対年上	192	JBF01	JOF01	16/29	1080	503	577
		196	JBF03		17/0			
		198	JBF04		17/03			
20男性同 性同士	①対同年	199	JBM01	JSM02	15/44	1012	467	545
		203	JBM03		15/52			
		205	JBM04		19/57			
	②対年上	200	JBM01	JOM02	17/06	788	383	405
		204	JBM03		20/58			
		206	JBM04		18/10			
30男性同 性同士	①対同年	176	BM01	SM01	19/52	790	406	384
		182	BM02		14/30			
		188	BM03		15/00			
	②対年上	174	BM01	OM01	19/22	1059	478	581
		180	BM02		16/49			
		186	BM03		20/05			
30男性異 性同士	①対同年	175	BM01	SF01	15/00	904	387	517
		181	BM02		13/30			
		187	BM03		15/53			
	②対年上	173	BM01	OF01	15/00	839	445	394
		179	BM02		17/30			
		185	BM03		20/00			
平均					15/10	931	442	488

前者は20代の大学生、大学院生、社会人同士の談話で、後者は30代の話者が20代、30代、40代の社会人との談話である。調査の目的は対話相手の会話を交わす相手が同年か年上かを確認することではあるが、社会人30代男性のベースの談話の場合は対話相手が同性か異性かの差異も考慮し調査に臨んだ。「相手が同性であるか、異性であるかはあいづち表現や発話の頻度には影響しない(大浜2002: 4)」という指摘の妥当性を検討するためである。

6.3.2. 調査の範囲

従来の研究における共話的反応の型は以下のようにまとめられる。

表 27 従来の研究における共話的反応の型

水谷(1988a、1993)	終助詞の使用、言いさし
	あいづち、相手の発話を完結、相手の発話内容の復唱
黒崎(1995)	先取り型、補足型、助け舟型、言い換え型、共感型、割り込み型、リレー型
宇佐美・木林(2002)	後行発話の形式：一語文、中途終了型発話、終了型発話
	機能：質問、答え、確認、叙述
笹川(2007)	(1) 笑い、あいづちやパラフレーズ等により共感を示す共話 (2) 文の後半をもう一人の話者が引き継ぎ、完成させる共話 (3) 推測などより相手の言うべき文を添加する共話 (4) 発話行為により相手と協調関係を志向する共話 (5) 文を引き継ぎ助ける共話 (6) 発話連鎖による複雑な共話 (7) 談話構成のレベルでの共話

そこで、本章では表27でまとめた先行研究で言及されている共話的反応の型に分類するだけでなく、共話的反応の型およびその果たす機能まで考慮し、以下の表のようにまとめた。

表 28 共話的反応の型および機能の調査項目

共話的反応の型	① 先取り：話し手発話の先を予測して言う発話 ② 言い換え：話し手発話と同じ内容を別の言い方で表現する発話 ③ 問い返し：話し手発話について質問する発話 ④ 遮り：話し手発話を途中で中断させる発話 ⑤ 繰り返り：話し手発話を同じ言い方で反復する発話
共話的反応の型の機能	① 確認：話し手・聞き手の情報について発話内容を確認する役割 ② 相手助け：話し手の言い淀みまたは長い間を助ける役割 ③ 同意：話し手の発話と考えや意見が同様であることを示す役割 ④ 補足：話し手の発話内容に対し知らない情報を付け加える役割 ⑤ 共感：話し手の発話内容に対し、共感を示す役割 ⑥ 反論：話し手の発話内容と意見が同様でないことを示す役割 ⑦ 理解：話し手の発話内容に対し理解を示す役割

6.4. 分析と考察

本節では、6.3.で説明した調査にもとづき、20代前半話者と30代半ば話者の対人関係による共話的反応の型の使用傾向について実証的に分析する。特に、20代の同性同士の会話では、男女のそれぞれが、対話相手が自分より年上かどうかによって共話的反応をどのように使い分けているのかに注目し、また、30代男性の共話的反応については、対話相手の年齢や性別にも注目し、分析した。具体的には6.3.1.では共話的聞き手反応の型の使用傾向について、6.3.2.では対話相手による共話的反応の型の機能別使い分けについて、それぞれ分析、考察した。

6.4.1. 共話的反応の型の使用状況

共話は、先行発話と後行発話で成り立つひとつの発話を2人で作り上げる発話であるが、後行発話が本章でいう共話的反応の型に当たる。本節では共話的反応の型の使用傾向の対人関係による変化を比較分析するため、調査項目で先述したように共話的反応の型を「先取り」「言い換え」「繰り返し」「問い返し」「遮り」に分けて分析した。詳細な結果は次の表29のようにまとめられる。表を見やすくするために、対年上の使用状況には網かけで示し、特に対同年と対年上の間使用差が目立つ箇所を太枠とした(以下、同様)。

表 29 対人関係による共話的反応の型の使用傾向

対人関係 共話的 反応の型	20代女性 同性同士		20代男性 同性同士		30代男性 同性同士		30代男性 異性同士		総数
	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	
先取り	7	13	6	7	2	1	3	1	40
言い換え	5	6	0	5	0	1	0	0	17
繰り返し	0	6	0	1	2	0	0	0	9
問い返し	0	1	3	0	1	0	0	1	6
遮り	0	0	1	0		1	1	2	5
総数	12	26	10	13	5	3	4	4	77

上記の表は調査資料に見られた共話的反応の型の出現数の一覧である。全体的な出現傾向として、20代女性と20代男性にその使用が集中していることが分かった。この傾向から、共通理解を前提としない初対面会話においては、30代より20代は共話的反応を積極的に示すことで、談話の展開を円滑に運び、相手との良好な対人関係を保とうとすることが窺える。具体的には、共話的反応の型からその出現総数を見ると、「先取り」が40回で最も多く、次いで「言い換え」が17回であった。一方、他の3つの「繰り返し」、「問い返し」、「遮り」

については出現数がさほど多くなかった。

次に、対人関係別の使用状況を見た場合、20代女性と20代男性の年上相手への使用と同年相手への使用には違いがあることが確認できた。その傾向は次の通りである。

まず、対話相手が年上か同年かによる差が最も大きいのは20代女性であることが分かった。20代女性は特に対年上と話す場合に対同年の倍以上多い13例で「先取り」を行っていることから、年上と話す場合は「先取り」の共話的反応の型を用いて積極的に会話に参加し話を進めていく傾向がより強いことが分かった。共話的反応の型のうち、会話に意味内容を付け足し、会話の内容を進めていくのは「先取り」と「遮り」である。20代女性は「先取り」を用いることで相手の発話に意味内容を付け足し、談話が円滑に展開できるように会話内容を進めていくことが確認できた。「繰り返し」の共話的反応の型も年上相手の使用のみが6例見られた。

続いて、20代男性の年上相手の会話での使用と同年相手の会話の使用の違いに注目すると、同年相手には「問い返し」が3例、年上相手には「言い換え」が5例それぞれ確認できた。先述したように、古内は本章でいう共話的反応は、対話相手が異性の場合、特に男性の使用においてその出現数が多くなることを、植野は年上が年下への使用が多くなることをそれぞれ報告している。しかし、今回の調査では、同性同士(特に女性同士)の談話で、男女共に年上相手に対して使用数が多くなるという、従来古内、植野の主張をくつがえす結果が出た。

一方、30代男性の共話的反応の型の使用は、対話相手が同年、年上か、同性、異性かに問わずあまり見られなかった。この結果から、30代男性は初対面会話において共話的反応の型を用いた談話の展開をあまり好まないことが窺える。この傾向から、30代男性の場合には、共話的反応の型ではない「あいづち表現」などによる聞き手言語行動を多用していることが推測されるが、これについては第5章ですでに述べた通りである。

6.4.2. 対話相手による「共話的反応の型」の機能別使い分け

6.4.1.で4つの異なる人間関係において共話的反応の型の使用傾向に相違が確認できたのは、20代女性同士と20代男性同士のみであった。30代男性においては共話的反応の出現自体が少なく、対話相手に応じた使用変化を述べるまでには至らなかった。本節では、出現傾向をもとに、20代の男女による共話的反応の型がどのような機能を担っているのかを考察する。まず、次の表30は、20代女性の同年相手および年上相手の共話的反応の型と機能の使用状況を示したものである。

表 30 機能別にみた共話的反応の型 (20代女性グループ)

機能 反応の型	確認		相手助け		同意		補足		共感		理解		合計
	対同年	対年上	対同年	対年上	対同年	対年上	対同年	対年上	対同年	対年上	対同年	対年上	
先取り	2	4	2	1	0	2	3	2	0	4	0	0	20
言い換え	4	1	0	1	0	1	0	1	0	2	1	0	11
繰り返し	0	1	0	0	0	2	0	0	0	3	0	0	6
問い返し	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
遮り	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	7	2	2	0	5	3	3	0	9	1	0	38

20代の女性の場合は、「先取り」「言い換え」「繰り返し」の型の使用が目立つ。また、機能としては、対同年、対年上ともに「確認」の機能が多用されることが分かった。これは、共通理解の少ない初対面会話であるために、会話において「確認」がより多く必要になったためであると考えられる。さらに対同年か対年上かの対人関係の相違からみると、「先取り」と「繰り返し」における「同意」と「共感」はそれぞれ5例と9例で、対年上への使用のみが確認できた。この結果から、20代の女性は年上相手の発話内容に対し「同意」や「共感」を示すために積極的に共話的反応の型を使用することが確認できた。こうした傾向は、ブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライトネス理論で示されたポジティブ・ポライトネス・ストラテジー2「H(聞き手)への興味、賛意、共感を誇張せよ(Exaggerate interest, approval, sympathy with H)」に基づいて、年上の相手に「同意」「共感」の機能の共話的反応を積極的に示すことにより相手に同調の気持ちを伝え、相手との心理的距離を縮めようとしているのだと理論づけることができ、いわゆるポジティブ・ポライトネスを尊重する態度として理解できる。

ここで、20代女性(JBF03)と20代男性(JBM03)の用いる共話的反応の型の具体例を見てみたい。次の女性同士の会話例42)で2JOF01の「何でもね、こう、語学の勉強になる場合は沢山あるから、うん」という発話を引き取り、「あ、じゃあ暮らしやすそうですね、台湾って、すごく」と「先取り」し、相手に対する「共感」の気持ちを表している。

会話例 42) 台湾での暮らしの話：BF01(20代前半女性)-OF01(年上女性)の会話

- 1 JOF01 生活レベルの、でも中国語だったら、(うん)あの一、向こうの人本当に親切なんで、(うん)あのだんどん話しかけてきてくれるし(あ一)お店の人とか(へえ一)うん、何でもね、こう、語学の勉強になる場は沢山あるから、(あ一)うん。
- 2 JBF01 あ、じゃあ暮らしやすそうですね、<台湾って、すごく>{<}。
- 3 JOF01 <あ、本当に、>{>}うん、本当にフレンドリーでね、すごく、うん、いいところだと思いますよ。うですね<2人で笑い>。
- 4 JBF01 近いしね。

次の男性同士の会話例43)でも2JBM03と4JBM03の発話で年上のJOM02の発話を引き取り、同じ内容を言い換えている。JOM02の「98'きゅうはち'でもね、間に合う」という発話を、「最新の買わなくても」と言い換えたり、「数週間後にはまた数年後の新しいやつ」を「次々に新しいの」のように言い換える等して、年上の相手に「同意」を示している。

会話例43) パソコン使用の話：JBM03(20代前半男性)-JOM02(年上男性)の会話

- 1 JOM02 あ一でも今98きゅうはちでもね、間に合う(うーん)、間に合うように…。
- 2 JBM03 そうですね、もう性能的にも全然、最新の買わなくても。
- 3 JOM02 やっぱXPの、やっと出て、すーう(数)週間後にはまた数年後の新しいやつが出ますよみたいなこと、新聞また書いて…。
- 4 JBM03 そうですね、ああいうの次々に新しいの、
- 5 JOM02 あ、メールはexpress使ってます?

次の表31は、20代男性の年上相手と同年相手の共話的反応の型を示したものである。

表 31 機能別にみた共話的反応の型 (20代男性グループ)

機能 反応の 型	確認		相手助け		同意		補足		共感		理解		合 計
	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	対 同 年	対 年 上	
先取り	1	0	3	2	0	3	1	0	1	2	0	0	13
言い換え	0	0	0	2	0	3	0	0	0	0	0	0	5
繰り返す	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
問い返し	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
遮り	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	3	0	4	4	0	7	2	0	1	2	0	0	23

20代の男性の共話的反応は、同年相手の場合と年上相手の場合とで型と機能に相違が見

られた。同年相手には次の会話例44)のように、「先取り」と「問い返し」をお互いにもっている情報について発話内容を「確認」するために用いる一方、年上相手には先述の会話例43)のように、主に「先取り」と「言い換え」の共話的反応の型を「同意」のために用い、年上に自分の考えや意見が同様であることを示すために使用していることが分かった。このような結果から、20代女性の場合と同様、ポジティブ・ポライトネスを尊重する態度(ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー2)が読み取れる。

会話例44) 交通手段の話：JSM02(20代前半男性)-JBM01(20代前半男性)の会話

- { 1 JSM02 で、「路線名1」線に来てるんで、(あ一)はい、
2 JBM01 けっこう歩きますよね、「駅名1」までは。
3 JSM02 「駅名1」…そ、そうですね、「駅名1」、歩くときは「駅名2」

一方、30代男性の場合、共話的反応の型の使用数自体が少なく、年上相手の場合と同年相手の場合の違いについて言及するのは難しい。ただし、年上男性に対しても年上女性に対しても次のような「遮り」が見られたのは注目に値する。「遮り」は、相手が話しているところに割って入ることから、相手に不快感を与える場合もあるため、多用されないと考えられるが、30代男性は年上の男女いずれに対しても使用していることが分かった。次の会話例45)では24BM01では「あ一、ですけど大学生相手ですからね」と遮り、年上の女性を相手に「反論」している。また、4BM01では「やっぱり育てるといふんだったら、小学校か中学校でしょう」と遮り、相手の発話を「補足」している。

会話例45) 教師の立場の話：BM01(30代男性)-OF01(40代女性)の会話

- { 1 OF01 でも、いいですね、こう、なんでもフランクに話せる<先生というのは>{<}
2 BM01 <あ一>{>}、ですけど大学生相手ですからね。
3 OF01 やっぱり Ⅱ。
4 BM01 Ⅲ やっぱり育てるといふんだったら(<笑い>)、小学校か中学校でしょう。
5 OF01 んー。
6 BM01 ん、特に、ね、やっぱりそっちのほうがやりたかったんで(ん)、ん、結局 Ⅳ。

以上から、20代女性同士、20代男性同士は初対面会話における共話的反応を相手との年齢の関係に応じて使い分けていることが明らかになった。ただし、30代男性の場合、対話相手の性別差の影響をみることはできなかった。その理由は、初対面会話における共話的反応の型の出現数自体があまり多くなかったからである。30代男性は、対話相手の年齢に

関係なく、共話的反応の型をあまり示さないことも推察される。

6.5. 本章のまとめ

本章では、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代の話者の自然談話データも分析の対象にいれ、どのような聞き手言語行動の使用様相が対話相手の年齢によってどのように変化するのかを明らかにした。またその際、主にどのようなポライトネス・ストラテジーが機能するのかについて考察した。主な結果は次の通りである。

まず、20代の女性は、年上の相手の発話内容に対し主に「先取り」と「言い換え」の共話的反応の型を用い、「共感」や「同意」を示すために積極的に使用することが確認できた。一方、20代の男性は年上相手には「先取り」と「言い換え」の共話的反応の型を用い、年上に自分の考えや意見が同様であるという「同意」を示すために使用していることが分かった。こうした使用傾向はブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライトネス理論でいうところの、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー2「H(聞き手)への興味、賛意、共感を誇張せよ(Exaggerate interest, approval, sympathy with H)」と合致するものと考えられる。20代女性も20代男性も年上相手に対して「同意」、「共感」の機能の共話的反応を積極的に示すことにより相手に同調の気持ちを伝え、相手との心理的距離を縮めようとしているのである。

次に、30代男性の場合、対話相手の同年・年上、同性・異性に関わらず共話的反応の型をあまり使用しないことが分かった。このような傾向から30代男性の場合は共話的反応ではない、他の聞き手言語行動を好む可能性が考えられる。実際、前章の表23の対人関係による感声的あいづち表現の使用傾向において、20代は920回、30代では1,290回、表24の対人関係による概念的あいづち表現の使用傾向において、20代194回、30代249回という結果から、30代は聞き手言語行動のうち共話的反応の型よりあいづち的反応を好む傾向があることがうかがえる。さらに、従来の研究では古内(2003)により男性が多用すること、植野(2011)により年上(先生)が対年下(学生)に多用するなど男女差も上下差もみられ共話的反応の出現傾向の分析結果が一樣ではないことを指摘したが、本章では、20代において、女性が多用すること、対年上に多用することを確認することができた。

対話相手が年上か同年かという年齢の違いが共話的反応の型の使用に影響を及ぼすことが明らかになった。しかし、対話相手が同性か異性かの性別差の要因が共話的反応の型の使用に影響を及ぼすかどうかは、より多様な対人関係での談話のデータをもとにしたさらなる検討が必要があり、これについては今後の課題とする。

第2部では、変異生起要因の観点から、母語話者の聞き手言語行動のスタイル、年齢差、

性別差などについて考察した。第3部では、言語能力の観点から日本語学習者の聞き手言語行動の運用について見ていきたい。

第 3 部 言語能力の観点

第7章 韓国人日本語学習者の言語能力レベル別にみたあいづち的反応の使用実態

7.1. はじめに

第2部、第4章から第6章までは、日本語学習者のコミュニケーションの向上のために、現実の日本語母語者のコミュニケーションを観察することが重要であると考え、変異生起要因(年齢差・性別差)に着目し、母語話者の会話を分析、考察した。まず、第4章では、これまで日本語教育のシラバスで取り上げられることの少なかったあいづち表現の丁寧体と普通体といったスタイルに焦点を当て、20代の大学生・大学院生の初対面会話を対象に、対話相手が年上か同年かによる使用傾向の違いを男女別に明らかにした。次に第5章では、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代話者の自然談話データも分析の対象にいれ、聞き手言語行動が会話相手の年齢によってどのように変化するのかを明らかにした。さらに第6章では聞き手言語行動のうち、共話をなす聞き手の共話的反応の型について、話し手との性別差、上下関係(社会的地位・年齢)や親しさの程度などの社会的要因の影響に関する研究が管見の限りないため、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代の話者も分析の対象にいれ、対話相手の年齢によってそれらがどう変化するのかを明らかにした。またその際、主にどういったポライトネス・ストラテジーが機能するのかについても考察した。

そこで本章では、上記のような日本語母語話者のあいづち的反応、共話的反応といった聞き手言語行動の使用状況を踏まえ、韓国人日本語学習者(以下、KJL)のコミュニケーション能力を高めるためにKJLのあいづち的反応を中心とした聞き手言語行動に関する考察を行う。KJLが初期の段階から習ってきた会話スタイルには主に2つのタイプがある(李舜炯2011b:509)。ひとつは、第2章の会話例19)で提示した、話し手が質問し、聞き手が応答する「質問 - 応答会話」であり、もうひとつは、会話例20)で提示した、話し手の断定的な発話が完結してから聞き手の発話が始まる「対話」である。しかし、実際の日本語の会話ではこの2つには収まらないもうひとつの大変重要な形態がある。それは同じく第2章の会話例17)、18)で提示した「共話」または「疑似共話」といった共話的会話の運び方である。共話的会話では、一句、一節を言って相手のあいづちを待ったり、ときには相手が発話を完成させたり、先取りしたり、言い換えたりする聞き手言語行動がみられる。そのうち、発話の主導権を持っている話し手が文の最後まで言い切らず途中で言いさしたり、適当な表現がすぐに出てこず言いよどんだりする場合における聞き手のあいづち的反応は、共話的会話の流れとして特に重要である。KJLがたとえ文法的には正しい発話をしていたとし

でも、聞き手言語行動が不自然であれば、相手を不愉快にさせたりすることも考えられ、相手にうまく共感の気持ちが伝えられないこともあるだろう(水谷1988a、松田1988)。このことは言われたことに対してどのように反応するかが日本語において非常に重要であるということの意味する。それにもかかわらず、韓国の日本語教育の現場ではあいづち的反応をはじめとする聞き手言語行動の指導はほとんど行われていない(李舜炯2011a)。そのためか、KJLはときに母語話者とは異なる聞き手言語行動をとってしまう。日本語学習の初期の段階からそれぞれの言語能力レベルに合った聞き手言語行動のための体系的な指導と学習が必要である。

以上の現状から本章では、KJLの言語能力レベル別のあいづち的反応を中心とした聞き手言語行動を明らかにすることを目的とする。言語能力レベル別にあいづち的反応を明らかにすることにより、2.3.2.で言及したように、言語能力と頻度には相関があると主張する山本(1992)に対し、渡辺(1994)は言語能力と頻度には相関がないという相反する主張に対する答えになり得るのではないか。

以下に本章の流れを示しておく。7.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。7.3.ではあいづち的反応の表現形式と機能を分類、分析に使用するデータを提示する。7.4.ではKJLの言語能力レベル別のあいづち的反応の表現形式と機能について考察を進め、7.5.では本章をまとめる。

7.2. 先行研究

日本語のあいづち的反応は、日常会話での使用頻度が高く、使用される表現形式も多様であり、水谷(1988a)、堀口(1988、1997)、メイナード(1993)などにより、円滑なコミュニケーションのために必要な要素のひとつと考えられてきたこともあって、それに関する研究成果も膨大である。本節では、従来の研究のうち、本章と関連性が高いと判断される①学習者の言語能力レベルと表現形式に関する研究と、②学習者のあいづち的反応と機能分類に関する研究の2つに絞って検討し、問題を提起する。

7.2.1. 学習者の言語能力レベルと表現形式に関する研究

学習者の言語能力レベルを考慮した研究としては、堀口(1990)、渡辺(1994)、窪田(2000a)、チョイ(2007)、古川・稲熊(2009)などが挙げられる。

堀口(1990)は、上級日本語学習者(韓国、台湾、タイ、エジプト)のデータをもとに、聞き手としての役割をどのように果たしているか、その聞き手からの働きかけに関する実態を分析している。学習が進めばあいづち的反応の頻度、種類、適切さの点において、母語話者に近づくが、学習者があいづち的反応をおこなう頻度は、母語話者のそれと比較して約

5分の1であること、そして、学習者が一番多く用いるのは「はい」であることを報告している。

山本(1992)は、日本語学習者の学習段階とあいづち的反応の使用能力との間には何らかの相関関係があるのではないかと考え、初級、中級、上級日本語学習者(中国語、韓国語)を対象に実態調査を行い、頻度と種類に注目して分析を行った。その結果、学習段階が上がるにつれ、あいづち的反応の種類と頻度も増えていくことを報告している。また、学習者の「え系」のあいづち的反応の使用が母語話者に比べ少ないことや、母語話者のみが使用し、学習者には使用例がないあいづち的反応として「そうですか、ほんと、なるほど」などの概念的あいづちがあることを指摘している。

渡辺(1994)は、日本語学習者(中国語、韓国語、英語のいずれかを母語とする)と母語話者を対象に、学習者の発達段階とあいづち的反応の言語能力との相関関係について分析を行っている。あいづち的反応の頻度に関して、学習者の日本語の発達段階が上がるにつれあいづち的反応の使用量が増加し、日本語母語話者に近づいていくという仮説は支持されず、学習段階との間に相関関係はほとんど見られないと主張している。また、学習段階や母語に関係なく「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」のあいづち的反応について学習者の誤用が共通に現れることを報告している。

窪田(2000a)は、初級と上級の英語母語日本語学習者を対象に、日本語が上達するにつれ、あいづち的反応の使用がどのように変化していくのかを検証した結果、日本語能力とあいづち的反応の頻度との間には相関関係がなく、影響もみられないと報告している。特に「先取り」の使用は、日本語能力が上達しても学習者にとって習得しにくいあいづち的反応の表現形式だと指摘している。

チョイ(2007)は、KYコーパスの中から、韓国語を母語とする日本語学習者のみを対象にあいづち的反応の使用実態を調査した結果、学習者の言語能力のレベルが高まるにつれ、種類に関係なく、すべてのあいづち的反応が積極的になり、日本語の学習が進行すればするほどあいづち的反応も上達すると主張している。

古川・稲熊(2009)は、感声的表現のあいづち的反応は、学習者の言語能力レベルによって差がないが、概念的あいづちはレベルが上がるごとに「先取り」と「そうですね」の使用数が増えたこと、一方「繰り返し」は中級以上では使用頻度が減少する上、その質も初級と中級以上では大きく異なることを指摘している。

以上、学習者の言語能力レベルを考慮した先行研究では、以下のような課題が残されている。

(1) あいづち的反応の機能について、学習者の言語能力レベルを考慮した研究を行うこと。

- (2) 先行研究の大部分は上級学習者を対象としており、初級学習者についての検討は十分になされているとは言い難い。
- (3) 各言語能力レベルを考慮した研究としては山本(1992)、渡辺(1994)、チョイ(2007)、古川・稲熊(2009)があるものの、これらの研究はあいづち的反応の表現形式や頻度を中心に考察しており、あいづち的反応の学習上もっとも重要である機能については言及していない。

7.2.2. 学習者のあいづち的反応と機能分類に関する研究

学習者のあいづち的反応と機能分類に関する研究としては、Mukai(1999)、村田(2000)、楊(2001)などが挙げられる。

Mukai(1999)は、上級英語母語日本語学習者のあいづち的反応の機能を「知らせ(ただ単に聞いていることまたは理解したことを知らせる)」と「態度(話し手の言ったことに対してどう感じたかを表す)」の2つに分けて、それぞれの機能でのあいづち的反応の使用傾向を比較する質的分析を行った。その結果、学習者は「態度」の機能を持つあいづち的反応よりも、「知らせ」の機能をもつあいづち的反応を多用していることを報告している。

村田(2000)は、初級から上級までの英語母語日本語学習者を対象に自由会話と電話会話の資料をもとに、あいづち的反応の機能を「聞いている、理解しているという表示」と「共感や感情の表出」、情報の追加を意味する「感情・態度の表示」の2つに大きく分け、それぞれのカテゴリーにおいて学習者のあいづち的反応がどのように機能しているかを会話展開の中で詳細に分析し、コミュニケーション上の問題点を指摘している。

楊(2001)は、中国語母語日本語学習者を対象に、電話会話のデータをもとに、あいづち的反応の機能を「聞いている」「理解・了解」「同意・共感」「感情の表出」に分類して、あいづち的反応の機能別の使用頻度を分析した結果、「理解・了解>聞いている>感情の表出>同意・共感」の順に高い頻度で使用している日本語母語話者とは違って、学習者の場合は「聞いている>理解・了解>同意・共感>感情の表出」の順に高い頻度で使用しており、感情の表出の機能を持つあいづち的反応の使用が一番少ないと報告している。

上記、機能分類の先行研究には、次のような議論の余地が残されている。

- (4) 韓国人日本語学習者のあいづち的反応の機能に関する実態については明らかにすること。あいづち的反応の機能についての先行研究は、英語母語話者や中国語母語話者を対象にしたものがほとんどである。
- (5) 考察対象資料として、再度、OPIデータを取り扱うこと。OPIデータを用いているのはチョイ(2007)、古川・稲熊(2009)であるが、これらは音声資料のない文字化データを

対象にしているので正確な判定が難しい。したがって、再度検討する必要がある。

7.3. 研究方法

7.3.1. 本章におけるあいづち的反応の種類と機能

7.2.で確認したように、先行研究ではあいづち的反応の学習上もっとも重要である機能については言及されていないこと、また、機能について言及されても多言語母語学習者を対象にした場合がほとんどで、KJLは分析対象になっていないこと、さらに、音声資料が
ついていないOPIデータを用いたため分類基準に正確さが問われるなどの問題が残っている。そこで、第2章で述べた通り、あいづち的反応の下位分類として、あいづち表現(感声的あいづち、概念的あいづち)、言い換え、繰り返し、先取りがある。それらを取り上げ、その機能別表現形式をまとめて示したのが次の表32である。感声的あいづちはAのところ、概念的あいづちはBのところに分けて提示する。そうすることにより、どのような機能でどのような表現形式が使われるのかがより明確になり、その使われ方の把握が容易になるからである。

表 32 機能別にみたあいづち的反応の表現形式 (表 11 の再掲)

機 能		(代表)表現形式
上位カテゴリー	下位カテゴリー	
(1)傾聴表示	①「話しについて いっている」の表示	「感」： はい↘ はあ↘、え↘、ふん↘ 「概」： (オウム返し、単純な聞きかえし的な)繰り返し
	②情報確認の表示	「感」： ええ↘、ふーん → 「概」： そう系(そう↘ どうか → そうなんだ↘ そうですね↘ そうですか↘ そうなんですか↘)、ほんとう系(ほんと↘ ほんとですか↘)、言い換え系↗、繰り返し系↗
(2)理解表示	③気持ち了解の表示	「感」： んん↘、ええ↘ えー↘ 「概」： 繰り返し↘ 言い換え↘ 先取り↘
	④知識共有の表示	「感」： あー↘ 「概」： そう系(あ、どうか↘ あ、どうかどうか↘ どうか↘ そうだそうだ↘ ああ、そうですか↘ あ、そうですか↘ そうでしたか↘)
(3)同意表示	⑤共感の表示	「感」： うん↘、ええ↘ 「概」： そう系(そう↘ そうそう↘ そうそうそう↘ そうね↘ そうです↘ そうですね↘ そうですよね↘ そりゃそうです(よね)↘)、文末系(ねえ↘)、ほんとう系(ほーんと↘ ほんとにそうですよね → 確かに↘)、言い換え系↘、繰り返し系↘、先取り系(先取り↘先取りあいづち↘)
	⑥納得の表示	「感」： あー↘ 「概」： なるほど系(なるほど↘なるほどね↘やっぱ↘)

(4)否定表示 ⑦否定的な気持ち、疑いの表示	「感」： あー ↑ 「概」： いや系(いえ ↑ いや ↑)、そう系(そう ↑ そうか ↑ そうなの ↑ そうかねー ↑ そうですか ↑ あそうですか ↑ そうなんですか ↑)、ほんとう系(ほんとう ↑ ほんとうに ↑)、言い換え系 ↑、繰り返し系 ↑
(5)感表表出 ⑧興味・関心の表示	「感」： へーえ ↑ 「概」： そう系(そうですか ↓ そうなんですか ↓)、ほんとう系(あ、ほんとう ↓ ほんとう ↑)、繰り返し系(繰り返し ↓ (文中部分) 繰り返し ↓ (文末モダリティ形式部分))、言い換え系 ↓、先取り系(先取り →)
⑨感情の表示	「感」： えー↑(違和感)、へー ↑ (驚き)、ほー↑ (驚き) 「概」： そう系(そう ↑ (驚き) あー、そうですか ↑ (驚き))、文末系(でしょ ↑ (喜び))、ほんとう系(まじー ↑ (驚き))、うそ系(うそー ↑ (意外))、すごい系(すごい ↑ (驚き))、繰り返し系 ↑ (疑い)

※ 「感」： 感声的あいづち 「概」： 概念的あいづち

7.3.2. 調査方法

本章では国立国語研究所の「日本語学習者会話データベース」をもとに調査、分析することにした。学習者の言語能力レベルを考慮したデータはあるが、音声資料がない場合が多い。本研究の特性上、音声資料から判断する機会が多いため、必要不可欠である。本章で用いる「日本語学習者会話データベース」は基本的には音声付き文字化資料として公開されており、本研究での使用が適切であると判断した。

調査データとなる「日本語学習者会話データベース」の概要は次の通りである。このデータベースは日本語教育研究、言語習得研究、会話分析など、研究活動のための基礎資料として「外国語母語話者と日本語母語話者の生の会話データ」を提供することを目的に、ACTFL-OPIの口頭能力試験の方式を利用して収集され、公開されている。そのデータ数は合計390件、1データは約30分であり、339件の文字化データと215件の音声データで構成されている。データの収集時期は、2007年2月～2008年1月までである。以下、調査対象者に表にまとめると次の通りである。

表 33 KJL のあいづち的反応の調査対象者の内訳

コーパスの種類	言語能力	協力者	性別	日本滞在期間	学習期間	親疎関係	社会的地位	1会話の人数	会話時間
日本語学習者会話データベース	① 初級	K1-T1	男-女	1ヶ月	1ヶ月	初対面	学生	2人	29分28秒
		K2-T2	女-女	2ヶ月	4ヶ月	初対面	学生	2人	22分55秒
		K3-T2	男-女	2ヶ月	2ヶ月	初対面	学生	2人	18分20秒
	② 中級	K4-T3	男-女	1ヶ月	4年	初対面	学生	2人	29分42秒
		K5-T1	女-女	1ヶ月	450時間	初対面	学生	2人	29分47秒
		K6-T8	男-女	1ヶ月	3ヶ月	初対面	学生	2人	22分26秒
	③ 上級	K7-T4	男-男	3年	3年	初対面	学生	2人	28分27秒
		K8-T5	女-女	6ヶ月	5年	初対面	学生	2人	29分51秒
		K9-T7	男-男	9ヶ月	3年	初対面	学生	2人	29分27秒
	④ 超級	K10-T4	男-女	22年	2年	初対面	社会人	2人	26分52秒
		K11-T6	男-男	5年	8年	初対面	学生	2人	30分28秒
		K12-T1	女-女	15年	2~3年	初対面	大学教員	2人	27分21秒
上村コーパス	⑤ 母語話者	J1-T1	女-女			初対面	主婦	2人	16分11秒
		J2-T2	女-女			初対面	教師	2人	15分05秒
		J3-T2	女-女			初対面	学生	2人	15分35秒
		J4-T1	女-女			初対面	主婦	2人	17分55秒

本章では、従来の水谷(1988a)、堀口(1988)、松田(1988)、メイナード(1993)などの研究にならい、「感声的なあいづち」と「概念的なあいづち表現」「繰り返し」「言い換え」、先取り)があいづち的反応を支えると考え、国立国語研究所の「日本語学習者会話データベース」のうち、音声付データを使用し、KJLの初級・中級・上級・超級の言語能力レベル別各3名のあいづち的反応を探る。また、KJLと同様のOPIを受けた日本語母語話者(以下、NS)が実際にどのようなあいづち的反応を行うのかを比較するために、「上村コーパス」の中から4名のデータを抽出し分析する。分析においては、まず、あいづち的反応に用いられた表現を感声的あいづち(「はい、ええ、あー」など)と、概念的あいづち(「そうですね、なるほど、いや」など)とに分類した上で、さらにあいづち的反応を①聞いている(「傾聴」)、②理解している(「理解」)、③同意している(「同意」)、④否定している(「否定」)、⑤感情を表している(「感情」)の5つの機能に細かく分け、それぞれを類型化した。KJLのあいづち的反応の正誤判定も、ともに行った。あいづち的反応の機能や正誤判定については4名の日本語母語話者に協力してもらい、4名の判定が一致した場合のみをその判定結果とした²⁰。

²⁰ また、機能の分類に関しては、日本語教育学を専攻している日本語母語話者(大学院生男性2名、女性2名)4名に判定を依頼し、意見が分かれた聞き手言語行動の機能は分析対象外にし、判定者の意見が一致する聞き手言語行動の機能に絞って最終的に分類

7.4. 分析と考察

7.4.1. 初級レベルにおける「理解」「同意」機能のあいづち的反応の出現傾向

次の図33は、OPIコーパスにおいて、NSと言語能力レベル別のKJLにおいて、表出する機能がどう異なっているかを表している。初級レベルにおけるあいづち的反応をみると、他のレベルと異なり「理解」「同意」機能の出現頻度が高い。その理由としては、以下の2つが考えられる。

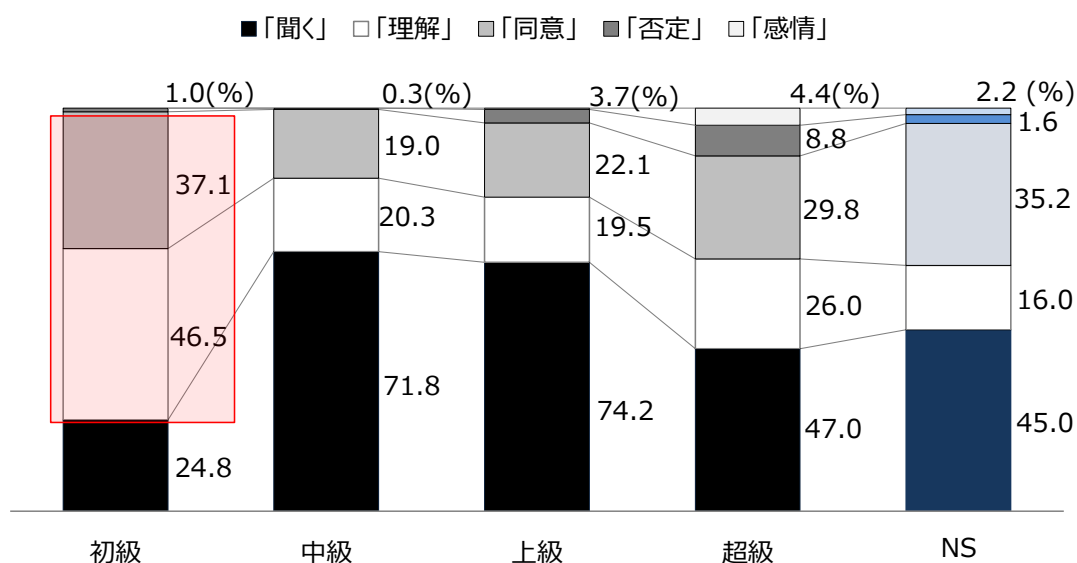


図 33 KJLの各言語能力レベルにおけるあいづち的反応の機能別出現状況

第一に、初級レベルの学習者においては、OPIというインタビュー形式の会話を進める中で、相手の話の理解に集中しなければならないことから、このような現象が起きたと考えられる。初級レベルのKJLは理解できる語彙が少ないため、うまく会話に参加するためには、相手の発言を理解しているかどうかを表示しなければならず、必然的に「理解」の機能をもつあいづち的反応を頻繁に行うのである。この考えの裏づけとして、以下の会話例46)、47)が挙げられる（_____：「理解」機能のあいづち的反応）。

会話例46) 韓国の清溪川^{チョンゲチョン}についての話：T(インタビュアー)-I(インタビュイー初級 K1)の会話

1 T：チョンゲチョンを(はい)、どうしたんですか、何をしたんですかそこで

し考察の対象とした。ただし、実際のカテゴリにあたり、機能が2つ以上中腹していると判断される場合もあることが分かった。その場合、どちらの機能が主になっているかによって分類したことを予め断っておく。

→2 I : おー {笑}、もう1度(ん)、ちゅくり [つくり] ま {笑}

3 T : 川を(ちゅくり [つくり] ましたはい)、川をつくるんですか(はい)、え、川をつくるって、んど、どういうふうにするんですか、

会話例47) 好きな映画の話 : T(インタビュアー)-I(インタビュイー初級 K2)の会話

→1 T : ホラー(ん)、あ、ホラー映画(ん)、えー

2 I : ホラ [ホラー] と、あ、ラブストリ、ラブストリー

3 T : んーんーんー、最近、見た映画はなんですか

しかし、初級レベルのKJLの特徴と見られる「理解」機能には、次の例(48)、(49)に示された「はい」のように、インタビュアー相手の話の内容を相手の意図通りに理解できず、誤解していると判断できる例も多数含まれている。(二重取り消し線が入ったはい : 違和感があると判断されるあいづち的反応)

会話例48) ストリートライブを見た話 : T(インタビュアー)-I(インタビュイー初級 K1)の会話

1 T : あーそう、ちょっとストリートライブってピアノは、ちょっと難しいですね

→2 I : はい ピアノも(ん)、町に(ん)、たくさんあります

3 T : どの

会話例49) 住まいの話 : T(インタビュアー)-I(インタビュイー初級 K1)の会話

→1 T : あらそうですか(はい)、へーそれは全然知りませんでしたね(はい)、ふーん、はい、えーと、あの一、ええ、あの一【姓B】さんは、あのちょっと今、住んでいるところはアパートですか

2 I : はいアパートです

3 T : あーそう、アパートで友達と住んでるんですか1人とす、1人で住んでるんですか

第二に、KJLの母語の特質が関係している可能性が考えられる。韓国語では話し合いにおいて自分と意見が一致している相手の発話に対して頻繁にあいづちを打つことで自分の立場をより強く表現する(李善雅2001、任榮哲2008)。たとえば、韓国語において、「예-예 : ye-ye」は日本語の「はい」と同じく相手の発話に対する肯定を示すのに用いられるあいづち表現であるが、韓国語においては「예-예 : ye-ye」と反応するのは「理解」しているか、「同意」しているときであり、日本語の「はい、はい」のように反論や非同意の前に置かれることは少ない。初級は、このような日本語と異なる母語の言語行動の影響がもっとも

よく現れる言語能力レベルでもあるので、会話例48)、49)のあいづち的反応は、理解を表明するために積極的にあいづち的反応を起こそうとした結果だと思われる。そのため、日本語母語話者のように理解とは関係のない単なる会話参加の態度表明、もしくは話し手が意見を述べやすい雰囲気を作るために使用する「傾聴」機能までは駆使できていないと判断できる。

7.4.2. 各言語能力レベルにおけるあいづち的反応の機能類型別の出現傾向

次の表34は各言語能力レベルにおける感声的あいづちの機能別出現数を、表35は各言語能力レベルにおける概念的あいづちの機能別出現数と初出形式の対応をそれぞれ示したものである。ともに、KJLの初級レベルについては、機能ごとに、出現した全ての形式を提示した。中級レベル以上は使用頻度の高い形式と初めて出現した形式を中心に提示した。

表 34 各言語能力レベルにおける感声的あいづちの機能別出現数²¹

言語能力レベル		初級	中級	上級	超級	NS
類型	機能					
感声的 あいづち	「感情」	0	0	(やー)1	んー5/えーっ2/ あっ1/いや1	え1/えっ1/あ1/ あ, あ1
				1	9	4
	「否定」	0	0	??はいーはい1	んー1	ん1
				1	1	2
	「同意」	はい31/うん26/ あー15	はい43	はい35	はい13	はい50/はいはい5/ ええ(ええ)17/あ あー6
	「理解」	はい52/うん11/ *おーおー6/あー9	はい34	はい27	はい11	はい14/あはい2/あ あ3
	「傾聴」	うん22/ はい22/ あー5	はい195	はい176	はい55/ええ9	はい117/ええ42/ あはい3/ああ1/ええ ええ1
計		199	310	296	144	267

まず、各言語能力レベルにおける感声的あいづちの機能別出現状況を見ると、全体的に言語能力レベルに関係なく、「傾聴」「理解」「同意」機能を持った「はい、うん、あー」の形式が用いられている。「んー」、「えーっ」などの困惑や驚きの「感情」機能と、「んー」

²¹ KJL の場合、「はい」は「はいはい、はい」など、「うん」は「ん、んんん、んー」など、「あー」は「あーあー、ああ」などの形式の数を含む。また、それぞれの形式には違和感があると判断されるものも含まれている。表現形式自体に違和感がある場合は「*」（例えば、*おーおー）、状況や場面上違和感がある場合は「??」（例えば、「否定」機能の??はいーはい）を付けて表示した。さらに、OPI のロールプレイの際、出現したあいづち表現は()で囲んで示した。

による「否定」機能は、言語能力レベルが高い上級と超級で確認できた。上級では実際、「否定」機能として「はいはい」というふさわしくないあいづち表現が用いられており、「感情」機能は、同好会の部長と副部長の役割のロールプレイ場面で用いられた「やー」の感声的あいづちがそれぞれ1例ずつ確認できている。

次に注目すべきは、初級では「理解」「同意」、中級から超級にかけては「傾聴」機能が中心に使用されているという点である。さらに、各言語能力レベルにおける概念的あいづちの機能別出現数と初出形式の対応を合わせて確認すると、概念的あいづちと比較して、感声的あいづちの方が圧倒的に多く用いられている。「うん」、「あー」など、母語(韓国語)にも同様の表現形式が存在することや語形が比較的簡単なことなどから感声的表現の使用頻度が高いのは当然の結果といえるであろう。

表 35 各言語能力レベルにおける概念的あいづちの機能別出現数と初出形式

言語能力レベル		初級	中級	上級	超級	NS	
類型	機能						
概念的あいづち	「感情」	0	0	0	0	そうですか 繰り返し 2	
	「否定」	でも いえ	いえ	いや	どうでしょうかねー	ああそうですか	
		2	1	11	15	6	
	「同意」	繰り返し	そうですね ほんとに 先取り	そうですよ 言い換え (そうだねー)	そうなんです そうなんですよ やっぱり です	なるほど そうです ねえ	
		3	11	27	32	52	
	「理解」	繰り返し 言い換え 先取り	そうですね	そうですか	なるほど	あそんなものですか あっそんなんですか (そうか、そうか)	
		16	11	24	20	40	
	「傾聴」	繰り返し 1	0	0	0	そうです 2	
	計		22	23	62	67	102

各言語能力レベルにおける概念的あいづちの機能別出現数と初出形式の対応をみると、すべての言語能力レベルにおいてほぼ同様に「理解」、「同意」、「否定」機能が用いられていることが確認できる。しかし、それぞれの機能ごとに、レベルが上がるにつれて異なる形式が用いられるようになることから、その用いられ方は決して一様ではないということが確認できる。それぞれのレベルにおいて各機能を支えるバラエティに富んださまざまな形式を学習することが要求される部分でもある。

7.5. 本章のまとめ

本章ではKJLの共話的コミュニケーション能力を高めるために、KJLによって使用され

るあいづち的反応の機能に着目して言語能力レベル別にどのような使用傾向があるのかを考察した。また、指導の重要性が要求されるあいづち的反応については言語能力レベル別に導入することでシラバスに採用する必要性を検討した。主な結果をまとめると次の通りになる。

1. 感声的表現によるあいづち的反応として、初級から超級までのすべてのレベルにおいて主に「傾聴」「理解」「同意」機能を持った「はい」形式が使用されていることが明らかになった。
2. あいづち的反応は、初級では主に「理解」「同意」、中級から超級にかけては主に「傾聴」機能を果たしていることがわかった。
3. KJLのあいづち的反応としては感声的あいづちの方が概念的あいづちより出現数が圧倒的に多いことが明らかになった。
4. 概念的あいづちによるあいづち的反応として、初級から超級までのすべてのレベルにおいて「理解」「同意」「否定」機能がほぼ同じように使用されているが、それぞれの機能ごとに、レベルが上がるにつれて異なる形式が用いられるようになることから、その用いられ方は決して一様ではないということが確認できた。

上記の結果から、学習者の言語能力レベルが初級から超級へと上がるにつれて、あいづち機能の運用が母語話者に近づいていくことが分かった。感声的あいづちの場合は、「傾聴、理解、同意」の機能の使用が、「否定、感情」の使用に先立つことが分かった。また、概念的あいづちの場合は、初級から「傾聴、理解、同意、否定」機能の使用が確認できるが、母語話者が運用している機能のうち「感情」だけは超級になっても使用できていないことが分かった。したがって、超級になっても使用がみられない概念的あいづちの「感情」の機能は自然習得が難しく、日本語教育による支援が必要であるといえる。

より効果的な教材作成のためには、言語能力レベルごとに、違和感があるあいづち的反応の使用傾向をさらに詳しく調べる必要があるが、それについては次章の8章で分析する。

第 8 章 韓国人日本語学習者のあいづち的反応の運用における問題点

8.1. はじめに

7章ではKJLの共話的コミュニケーション能力を高めるために、KJLによって使用されるあいづち的反応の機能に着目して言語能力レベル別にどのような使用傾向があるのかを考察した。その結果のひとつとして、母語話者の使用する表現形式とは異なるために違和感を覚えるものと、状況や場面上ふさわしくないために違和感を覚えるものが目立つと指摘した。

日本語の会話はあいづちが多く、話し手と聞き手は餅つきのつき手と返し手のような役割になっている。より適切なあいづちを打たないと話し手の不安感が高まり、会話が成り立たなくなる。より効果的な教材作成のためには、言語能力レベルごとに、違和感があるあいづち的反応の使用傾向をさらに詳しく調べる必要がある。

そこで本章では、初級から超級における韓国人日本語学習者(以下、KJLと称する)のあいづち的反応を調査した。次の会話例50)、51)はその中でも最も言語能力レベルの高い超級においても不適切と見られる一例である。(不適切なあいづち的反応の場合は□を、必要なのにあいづち的反応がない場合はΦで示す(以下、同様))。このような、KJLのあいづち的反応の運用における特徴や日本語母語話者にとって違和感を覚えると判断されるあいづち的反応については、日本語教育学を専攻している日本語母語話者(大学院生男性2名、女性2名)4名にフォローアップインタビューの形で協力してもらい調査した。その際、4名の意見が一致した場合のみを判定結果として採用した。そして、その結果を最終的に分類、分析、考察の対象とした。

会話例 50)初対面の最初のあいさつの話 T4(インタビュアー)-K7 (インタビュイー超級)
の会話

- 1 K7:【姓名E】さん
- 2 T4: はい、どうぞ、あどうぞいらっしゃいませ
- 3 K7: えあ
- 4 T4: お待ちしておりました
- 5 K7: えあ, あのー
- 6 T4: はじめまして

会話例 51)企画会社の社長とのアポをとるロールプレイの話： T6(インタビュアー)- K8
(インタビュイー超級)の会話

- 1 K8： はい<お>, 【姓B】 といいですが
- 2 T6： 【姓B】 さんね
- 3 K8： Φ 【姓A】 社長さんでいらっしゃいますか
- 4 T6： はいそうです
- 5 K8： はい, えっと一(ん), 突然ほんとに申し訳ございませんが
- 6 T6： いえとんでもないです, んん

会話例50)は、初対面のあいさつを交わす場面であるが、話し相手のあいさつに対して、いきなり「いえあ」というあいづち的反応を返しており、相手の言葉を否定しているようで、あいさつとして不適切と感じられる。例51)は、あいづち的反応の要不要の観点から不適切だとされる場合である。まず、あいづち的反応が必要と考えられる3K8の発話の前後を見てみることにする。ここでは、話し相手のインタビュアーが「～さんね」と確認や同意を期待しているにもかかわらず、聞き手である学習者は何のあいづち的反応も返すことなく、自分の質問から発話を始めてしまっており、反応として不適切である。次に、あいづち的反応が不要と考えられる5K8の発話の前後を見てみることにする。ここでは、話し相手であるインタビュアーの返事に対し、聞き手である学習者はまるでその情報を知っていたかのように「はい」というあいづち的反応を返しているため反応としては不適切である。

これまでも、上記の会話例に見られるような不自然なあいづち的反応がコミュニケーションに支障をきたすということは指摘されてきた。しかしながら、あいづち的反応の具体的な問題点やその原因までは言及されてこなかった。そこで、本章では、KJLのあいづち的反応の運用においてどのような問題点があるのかを把握した上で、その背景を探ることを目的とする。

以下に本章の流れを示しておく。8.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。8.3.では母語(韓国語)の影響と考えられるあいづち的反応の問題について、8.4.では目標言語である日本語のスピーチスタイルに起因するあいづち的反応の問題について、8.5.では母語と目標言語の影響と考えられるあいづち的反応の問題について、8.6.ではバリエーション不足による影響について考察を進め、8.5.では本章をまとめる。

8.2. 先行研究

KJLのあいづち的反応の運用における問題点に言及した先行研究は、渡辺(1994)を除いては特筆すべきものがない。

渡辺(1994)は、中国語、韓国語、英語を母語とする日本語学習者19名と日本語母語話者

3名の電話会話資料を対象に、学習者の発達段階とあいづち的反応の言語能力との関係について分析を行い、学習段階や母語に関係なく「繰り返し」、「言い換え」、「先取り」のあいづち的反応について学習者の誤用が共通して現れると指摘している。

しかし、渡辺はあいづち的反応において誤用または違和感のある表現があることを指摘してはいるものの、具体的にどのような問題があるのか、違和感を与える原因の詳細までは明らかにしていない。

本章では前章の7章で調査対象にしたKJLのあいづち的反応の運用における特徴や日本語母語話者にとって違和感を覚えると判断されるあいづち的反応について、4名の日本語母語話者にフォローアップインタビューの形で協力してもらい調査した。そして、その結果を最終的に分類、分析、考察の対象とした。

学習者のあいづち的反応の誤用傾向を調べることにより、効果的な指導法の考案や教材化も可能になる。そこで、次節8.3.からは、KJLのあいづち的反応を運用する際の特徴およびその背景について考察を行う。

8.3. 母語(韓国語)の影響と考えられるあいづち的反応の問題

8.3.1. 母語(韓国語)の使用

日本語のあいづち的反応の表現形式には、以下の会話例(52)～(54)のような「相手の話を聞いている」、「理解している」ことを示す機能を持った「おー/おーおー」、「いえいえ」などの表現形式によるあいづち的反応は存在しない。これはあくまでも母語(韓国語)の表現形式の使用であろう。韓国語では理解していることを相手に伝える時に「오-오-오 : oh-oh-oh-」 「예-예 : ye-ye」という表現形式で反応することができる。しかし、日本語では「感情を表わす」機能の場合は「おお」という表現形式を、否定を表す場合は「いえいえ」という表現形式によるあいづち的反応を行うことがあるが、韓国語のように「傾聴」、「理解」機能で「おー」や「いえいえ」をあいづち的反応として使うことはないようである。したがって、韓国人日本語学習者が、「傾聴」、「理解」のあいづち的反応が要求される場面で、感情を表わす機能しか持たないこれらのあいづち的反応を行うことは、いい加減な印象を与え相手を不愉快にしてしまう恐れがある。つまり、「傾聴」機能であれ、「理解」機能であれ、「おー」や「いえいえ」は母語話者が使用する表現形式ではないので、違和感なしにコミュニケーションを行うためにはそれぞれの機能にふさわしい他の表現形式の使用が要求される。会話例からもわかるように、母語の影響がもっとも大きい初級はもちろん、日本語能力が母語話者並みの超級においても、母語話者に違和感を与える「おー」や「いえいえ」の使用が確認できる。とりわけ超級学習者のそうした使用に対しては、韓国語の影響とは思われず、気

持ちのこもっていない対応だという誤解を招く可能性さえあるだろう。

会話例 52) 川の話 : T1(インタビュアー)- K1 (インタビュイー初級)の会話

- 1 T1 : 川<はい>, あ, 川があるんですか<はい>, ふーん
- 2 K1 : ~~お~~, あ3年まえー[前]は<はい>, とっても古い<えー>, でしたら[が], 今は, きれいな
- 3 T1 : え, 川が, 川が古かったんですか

会話例 53) 誘いの電話のロールプレイの話 : T6(インタビュアー)-K8 (インタビュイー超級)の会話

- 1 T6 : ああさってか<ん>, じゃ, あさってさまた来たとき電話してよ<わかったわかった~~お~~>, ちょっと, い, 1杯ちょっと飲んで<わかった~~お~~~~お~~>話よく聞きたいから<オーケーオーケー, オーケー>, ん, じゃ, またね待ってるからね, 電話ね
- 2 K8 : I : ***着いたら連絡するわ <ん>, ん

会話例 54) 初対面のあいさつの話 : T4(インタビュアー)-I(インタビュイー超級)の会話

- 1 T4 : はじめまして【姓A】と申します
- 2 K7 : ~~い~~~~え~~~~い~~~~え~~あの一はじめまして, 私あの, 【姓B】と申します
- 3 T4 : え【姓B】さんでいらっしゃいますか<はい>, え【姓B】さんお国はどちらでしょうか

8.3.2. あいづち的反応が自然と思われる場面での不使用

韓国語の会話では日本語のそれに比べてあいづち的反応の頻度が低く、その種類も多くないことが知られている。また、表現形式を用いるよりはうなずいたり拍手したりする非言語行動を用いる場合が多い。そして、賛同・同意した時にはあいづち的反応をよく行うが、反対・否定する時にはあまり行わないと報告されている(生越1988, 李善雅2001など)。

以下の会話例55)~57)は、超級のKJLのあいづち的反応のそうした不使用を示した例である。もちろん松田(1988)の指摘するように、母語話者にもあいづち的反応の不使用の傾向はあるが、その背景にはだいぶ差があるようである²²。非母語話者である学習者はその

²² 松田は「日本語母語話者の場合でも、意図的に聞き手言語行動を行わないことによって何かを伝えようとする場合がある。例えば、話し手の言おうとしている意図が分からないことを伝える時や話し手の意図が聞き手にとって関心のないものであることを伝える時である。また、聞き手言語行動の不使用などによって消極的に作用させることで、反論を述べる緩衝材としたり、相手にさらに説明をさせたり、話の進む方向を変更させたりするという効果を発揮することができる(1988 : 64)」と指摘している。

場にふさわしいあいづち的反応への知識が欠けていることからあいづち的反応を使用していないのに対し、母語話者は何らかの意図があてあえて使わないのである。実際、母語話者の評価によると、会話例55)の「あ、[地名D]の方が寒いんですね」という話し相手の発話の後は「はい」、「えー」、「そうです」、「そうですね」などのようなあいづち的反応を行うのが一般的だという。

今回、初級はもちろんのこと母語話者の発話に一番近いといわれる超級学習者でさえ、あいづち的反応なしで、実質的な発話に直ちに突入する傾向が確認できた。このようにあいづち的反応が期待されているところで行わなかった場合は、話し相手を不快にさせる可能性もあろう。

会話例 55)住まいの気候の話：T6(インタビュアー)-K8(インタビュイー超級)の会話

- 1 T6：あ、【地名D】の方が寒いんですね
- 2 K8：Φ→はい/ええ、僕が<ん、ん>今住んでる<あー>ところっていうのも若干あの<んー>、山じゃないんですね丘ですね<あはい>、もうな、名前自体に「丘」についてますんで(省略)
- 3 T6：あー、そうなんだ

会話例 56)日本の家族の問題の話：T4(インタビュアー)-K5 (インタビュイー上級)の会話

- 1 T4：はー<はい>、じゃあこ、これは日本の問題ですね
- 2 K5：Φ→はい/ええ、それほんとに日本の問題だと思います
- 3 T4：ん、あの一、どうしてこういうことが起こっていると思いますか

会話例 57)住まいのお天気の話：T2(インタビュアー)- K2(インタビュイー初級)の会話

- 1 T2：そうですね<{笑}>、あの、{笑}東京はとても暑いので<ん>、いいと思いますよ{笑}
- 2 K2：Φ→そうですね、によん[日本]の天気が、もっと暑いです{笑}
- 3 T2：あーそうですか、【地名C】より、暑い<あー>、ですか

母語話者のインタビュアーは、会話例55)～57)すべて波線(~~~~)で示したように、発話の終結部を「ね、よ」の終助詞の形で終了していることが確認できる。これに関連して、大塚(2012)は、初対面の母語話者同士の会話データを調査した結果、「終結ターンのターン末表現が言い切りの形ではなく、終助詞『よ、ね、よね、かね』が付加される場合が多い。終結ターンのうち、言い切りの形で終わっているターンの割合は22%、これらの終助詞が付加

されているターンの割合は46.1%である(2012:22)」と報告している。つまり、あいづち的反応は、「～です、～ます」のような終結ターンの後よりも、「～けど、～が」の言いさしのような継続ターンの後に行われることが多く、もし終結ターンの後に行われるとしても「～ですね、～ますね」のように終助詞を伴うことが多いという指摘である。このことから、母語話者の会話では、あいづち的反応を聞き手がしやすいように話し手が話を運び、それに応じて、聞き手も、終助詞の直後など、発言の途中のポーズが生まれるところであいづち的反応を行うことによって会話に参加し、話し手と聞き手が共同作業で会話を作っていくことが分かる。

しかし、非母語話者である学習者にはこのような知識が不足しており、上記会話例55)～57)のようにあいづち的反応が必要な場面でそれを行わないため、母語話者に違和感を与えるのである。

8.4. 目標言語である日本語のスピーチスタイルに起因する問題

8.4.1. 初対面の目上の人に対する「なるほどね」

「なるほどね」というあいづち的反応は、共感や納得を表示し「同意」機能を表す表現形式ではあるが、母語話者の評価者によると、初対面の先生を相手に学習者が使うと偉そうな感じがして、抵抗があるようである。また、会話例58)の99Tの発話に対する2K8の「なるほど」は、「ええ、そうですね」のように変えた方が、より自然な会話になるとのことである。この「なるほどね」の使用に対し、4名の母語話者の評価者からは「人間関係を形成する上で、損してしまうのではないか。母語話者並みのきれいな発音で話し方もとても上手なのに、年上の人や初めて会った人に対して「～ね」を使うのは感じが悪い」などの評価が出された。第5章でも述べたように、初対面の目上の相手に「なるほどね」を使うことは、見下した感じを与えるために、年上に対する使用には違和感があるとされる。「なるほどね」によるあいづち的反応を使いたい場合は、スピーチスタイルの問題になり得る「～ね」を入れず、「なるほど」の方がいいといえる。

会話例 58) 伝統保持に対する話: T6(インタビュアー)-K8 (インタビュイー超級)の会話

1 T6: なるほど、た、例えば日本だと<はい>, その若い人がね<はい>, 例えばあの、北海道で よさこいソーラン節 とか<はいはいはい>, あのー10年前からね<はい>スタートして、そこにはもう、要するに和の<えーえー>(省略)

→2 K8: なるほどね<ん>, {息を吸う音}難しいですね<ん>{笑}, それはね<んん>(省略)

韓国語には日本語の「ね」と「よ」に対応するものがないため、韓国人の学習者の誤用が頻

繁にみられるが、あいづち的反応の「～ね」、「～よ」に対しても、このように、同じことが言える。「～ね」は「です」、「ます」とともに使用しないと、なれなれしく感じられる。「なるほどね」はそうした表現のひとつであることが確認できた。これはあいづち的反応にかかわるスピーチスタイルの問題の一例であるといえる。

8.4.2. 同一会話内における不安定なスピーチレベル

次の会話例59)は、事情説明を目的とした友達同士の電話会話のロールプレイの場面である。1T4の「そりゃそうだよね」というインフォーマルスピーチの友達の発話に対し、学習者である聞き手は、2K5で、同じくインフォーマルスピーチの「そうだねー」という親しい友達同士の場面にふさわしいあいづち的反応を返している。6K5と8K5も同様である。しかし、矢印(→)で示した6K5、8K5、10K5の「はい」、「はい」と7T4の話し相手の発話中に行われた「はい」、「はい」の上級学習者のあいづち的反応は、友達同士の会話にもかかわらずフォーマルなスピーチになってしまっており、不自然で違和感がある。このような不自然な表現が現れるのは、韓国の日本語教育の現場でカジュアルスピーチのあいづち的反応を教えていないことがもっとも大きな原因のひとつであろう。カジュアルスピーチのあいづち的反応は、日本語の教科書の中でも、シラバスとしては採用されていないのである。

会話例 59)有名人を誘ったことについての電話話 : T4(インタビュアー)-K5 (インタビュイー上級)の会話

- 1 T4: そりゃそうだよね
- 2 K5: そうだねー
- 3 T4: いやすごいなー<あーあー>, 見直したよ{笑}
- 4 K5: やー, ほんと<ん>, 今までどうやって私見たの<{笑}><{笑}>, どう見たの
- 5 T4: まじまじ冗談だけど
- 6 K5: ~~はい~~
- 7 T4: で, またさー<~~はい~~>, あの一, ああしたさ連絡するから<~~はい~~>ご飯でも食べようよ
- 8 K5: あーそうだね<ん>, えーと, あした連絡するね<んわかった>メールするわ,
~~はい, はい~~
- 9 T4: ん, またね
- 10 K5: ~~はい~~切るねー<はい>, はい, はい
- 11 T4: はい, これでえー<はい>ロールを終わります

実際、上記の上級K5の学習者は日本滞在歴3年、日本語学習歴3年という経歴の持ち主であるにもかかわらず、同一の会話内でもスピーチのレベルが維持できず間違ったレベルシフトが起き、友達関係という場にふさわしくないあいづち的反応を取っている。ロールプレイにおいては見過ごしていても、日本語学習者の日本国内での社会進出や母語話者との接触場面が増えつつある最近の状況を考えると、スピーチのレベルシフトが上手にできなければ社会の中で人間関係がうまく保てない可能性が高い。そのような事態を防ぐためにも、日本語教科書のなかでシラバスとして積極的に導入し、指導する必要がある。

8.5. 母語・目標言語双方の影響と考えられるあいづち的反応の問題

8.5.1. 同じ表現形式の繰り返し

KJLのあいづち的反応の表現形式として目立つのが、「んんんん」または「はいはいはいはい」のような同じ言葉を繰り返す表現形式である。例(60)、(61)は、インタビュアーが話している間に、聞き手である超級、中級の日本語学習者が行ったあいづち的反応の例である。これらの例から、言語能力レベルに関係なく、「傾聴」よりは「理解」「同意」を示すために連続性の「はい」を多用する傾向があることが確認できる。

繰り返しの「んんん、はいはいはい、はいはいはいそうですね、そうそうそうそう、そう、そうですね、はいはいはい」などの表現形式に対し、で囲んだ部分の矢印(→)の右のように訂正する方がより自然であることが母語話者の評価により指摘された。このような同じ言葉の繰り返しによるあいづち的反応の表現形式は、初対面の場面ではなかなか現れにくいというのが現状のようである。(会話例の中で、①→「傾聴」、②→「理解」、③→「同意」、④→「否定」、⑤→「感情」の機能をそれぞれ表す(以下、同様))。

実際の評価者の意見を記述すると、ある母語話者は、子供の頃から親に何かを言われて「はいはい」と返事をすると「返事は一回でいい」と怒られきたため、あいづち的反応の場合でも、お互いの距離が近ければいいが、初対面の人に「はいはい」、「はいはいはい」と何回も言われると「あまり親しくないのに、この言い方は何？」と不快感を覚えるという。KJLが「あ、わかっていますよ」という意味で頻繁に用いる連続した「はいはいはいはい」などは、このようなインタビューや会社での面接のように初めて会う人との会話にはあまりふさわしくないという。母語話者の若者同士が使っているとしても、このような状況で特に日本語が上手な上級や超級の学習者で使い分けができないと、やはり人間関係で「損をしてしまう」可能性がある。

会話例 60) 日韓のお祭りの違いについての話：T6(インタビュアー)- K8(インタビュイー超級)の会話

1 K8 : そうですね

→2 T6 : ね, そういったーその, そういったものがね, あの一, を作る(①んんん→「ええ」), には, えー何かいいアイデアないですか, 韓国で, 何かこう, えーたに日本だと「よさこい」というのは高知県ですね四国の(②はいはいはい→「ええ」), で「ソーラン」はあの, お, あの北海道の(②はいはいはいそうですね→「そうです」 「ね」), あの一, 漁師の歌ですか<えーえー{息を吸う音}> (省略)

会話例 61) 大学受験の話 : T3(インタビュアー)- K3 (インタビュイー中級)の会話

1 K3 : はい(ふーん), はい

→2 T3 : ということはてん, 試験は全員が受けます(③はい, はいはいはいはいはい→「はい」), ***ですか, で, その中から順位ができちゃいますね(③そう, そうです, はいはいはい→「そうですね」), 400点のうち, (省略)

次の会話例(62)は、親しい友達同士という想定で行われているロールプレイの場面である。1K6のように強い同意や共感を表わし、話し相手が親しいまたは同世代の場合は同じ表現の繰り返しによる「んんん」が違和感なく受け止められていることがわかる。しかし、2T5の発話に対する学習者の「そうそうそうそう」の表現形式はいくら親しい友達同士であっても発話を聞き流しているような印象を与えるので、矢印の右のように訂正した方がより自然に感じると評価されている。韓国人日本語学習者がこのような繰り返し表現形式を使用する背景には、母語の影響が考えられる。というのも、韓国語での会話では、とりわけ最近の若い世代において、意見を主張、強い共感を示す場合、同じ表現を繰り返すことによりその感情や意思を伝える傾向がみられるのである。

会話例 62) (ロールプレイ場面) 家賃の金額のついての話 : T5(インタビュアー)- K6 (インタビュイー上級)の会話

1 K6 : そう, でも<ん>, たぶんそれはあり得ないと思う<ん>, 1人が<ん>, 4人と一緒の金額っていうのは<んんん>, ちょっとあれじゃない

→2 T5 : そうだよな<①ん→「うん」>, 1人暮らし多いもんねけっこうね<③そうそうそうそう→「そうそう」/「そうだよね?」>この, アパートね

8.5.2. 談話の待遇レベルの不安定さ

本章で使用しているOPIデータにおいては、初対面の先生との会話であるにもかかわらず、次の表36、会話例(63)のように初級から超級レベルにかけて全体的に「ん」の使用が多い

ことが確認できた。

表 36 「ん」の使用傾向 (数字は出現回数)

機能	ん
「感表」	5
「否定」	1
「同意」	9
「理解」	15
「傾聴」	77
合 計	107

会話例 63) アメリカのイラク戦背についての話：T6(インタビュアー)- K8(インタビュイー
ー超級)の会話

→1 T6：その、戦争をね、その、安易にしてしまうことにつ、安易に、まあ、ブッシュ
だ、ブッシュだい(㊟んんんん)、の場合はなんか正義、感、まあ、アメリカは
ね警察、世界の警察とか言ってやってますよね

2 K8：まあね、名目上そのように言ってますけれども<ん>はい

初対面の先生との会話であるにもかかわらず、「はい、ええ」というべきところで待遇性の
低い「ん」のあいづち的反応を多用することで談話の待遇レベルが不安定になっているこ
とがわかる。「なぜ上から目線で話すんだろう」という誤解を招きかねない。もし日本語で
面接を受ける場合「感じが悪い」と思われる恐れさえあるという。母語話者の場合、面接な
どの初対面、目上の人との会話では「ん」のあいづち的反応は用いないのが普通なので、KJ
Lには注意が必要である。

また、話し手になるとほとんど「です・ます体」で話しているのに対して、聞き手になる
と「ん」を使うのは、やはり母語(韓国語)にも類似した音声のあいづち的反応が存在するた
め、その影響で言語使用域が確立されていない可能性が考えられる。

8.6. バリエーション不足による影響

8.6.1. 「はい」の過剰般化と「ええ」の不使用

「KJL/NS(母語話者)」における「はいええ」の機能別出現傾向をみると、母語話者(NS)よ
りも、「傾聴」機能の中級と上級、「理解」機能の初級～上級のKJLに、「はい」の表現形式の
多用が確認できる(表37)。上級学習者(韓国、台湾、タイ、エジプト)を対象にした堀口(19
90)の場合も「はい」による表現形式が一番多いという指摘があるが、本章では使用機能ま
で考慮することにより、機能によっては初級から上級にかけて「はい」を過剰使用している

ことが確認できた。水谷(1984)によれば、母語話者のあいづち的反応でよく使われる表現形式は「はい」、「ええ」、「うん」であるということだが、KJLの場合は特定のあいづち的反応、特に「はい」の過剰使用の傾向がかなり目立つことが分かった。丁寧さのレベルが「はい」と同程度である「ええ」も程よく使用する必要があるだろう。フォローアップインタビューによると、日本語母語話者は、言いやすさの面からも「ええ」の方が言いやすいという感じがして、普段の会話では「はい」と「ええ」の表現形式のうち、どちらかに偏らないように気を配って使うという。実際、表37からもわかるように母語話者(NS)の場合、3回に1回ほどの割合で「ええ」のあいづち的反応を多用していることが確認できる。

KJLの「ええ」の使用数が「はい」の使用数より少ないのは水谷の説明だと学習者にとって習得が困難なあいづち的反応ということになる。それゆえ、積極的に教科書のなかにシラバスとして取り入れる必要があるであろう²³。

表 37 「KJL/NS」における「はい/ええ」の機能別出現傾向

機能	KJL			NS	
	言語能力レベル	はい	ええ	はい	ええ
「傾聴」	初級	20	0	117	42
	中級	171	0		
	上級	140	0		
	超級	52	5		
「理解」	初級	52	0	14	0
	中級	34	0		
	上級	27	0		
	超級	11	0		
「同意」	初級	28	0	50	17
	中級	41	0		
	上級	20	0		
	超級	13	0		
合計	609		5	181	59

また、「はい」の使用が目立つことの背景として、一度習得したあいづち的反応を過剰般化してしまっているという可能性も考えられる。これは、次の会話例(64)からも裏付けられる。会話例をみると1K8で聞き手である学習者は相手に「社長であるか」を聞いている。これに対し相手であるインタビュアーは「はいそうです」と返事をしている。問題はその次の3K8 Iの「はい、えっとー」から始まる会話である。この3K8の発話で「はい」は不要な部分

²³ 第5章で「ええ」は20代より30代での使用が多いと言及したが、今回フォローアップインタビューに協力してくれた日本語母語話者の年齢構成は20代1名、30代以上3名の計4名である。5章で主張したように年齢差が関与した結果も考えられ得る。よって、日本語教育に応用する際に「はい」と「ええ」を同時に教授するか否かは会話場面や相手の年齢などを十分に考慮する必要があるだろう。

である。「はい」を必要ではないところでまで使用していることから、過剰般化の可能性が考えられる。

会話例64=(51) 企画会社の社長とのアポをとるロールプレイの話： T6(インタビュアー)

- K8 (インタビュイー超級)の会話

- 1 K8:【姓A】社長さんでいらっしゃいますか
- 2 T6: はいそうです
- 3 K8: はい, えっと<くん>, 突然ほんとに申し訳ございませんが
- 4 T6: いえとんでもないです, んん

「はい」が過剰般化されている一方、「ええ」の使用は超級での5例しかない。こうした「ええ」の不使用の原因として考えられるのは、日本語教科書にあいづち的反応があまり出てこないことと、出てきたとしても「ええ」よりは「はい」が出てくることが多いことの2つである。実際、李舜炯(2011a: 343)は韓国の大学の日本語教科書11種を分析し、教科書の本文会話の中に出現したあいづち的反応の頻度を提示しているが、「ええ」は全体で12例しか提示されていないことを報告している。

8.6.2. 場面に適さないあいづち的反応

8.6.2.1. 同意の「そうですね/そうなんです」

次の会話例(65)、(66)は「そうですね」、「そうなんです」、「ああ、そうですか」のような意味内容が認められる概念的あいづちを返すべきところで、「はい」、「んー、はい」などの意味内容が認められない感声的あいづちを返しているものである。また、会話例(65)は「あー」、「はい」などの感声的あいづちのあいづち的反応を返すべきところで、「そうです」「そうですけど」の概念的あいづち的反応を返してしまい、不自然になってしまった例である。これは、渡辺(1994: 115)の記述のように、感声的あいづちと概念的あいづちとの区別がつかないためであると考えられる。しかし、会話例(65)の話者のように言語能力レベルの低い初級だと母語(韓国語)の影響も考えられ、感声的、概念あいづちの表現形式の区別がつかないのは理解できるが、上級学習者があいづち的反応を返している会話例(66)、(67)も不自然であるということは、問題があると思われる。つまり、日本語が上手であるほど、誤りではなく意図的な行動と思われがちになるので、失礼な人、不愉快な人などという誤解を招き、人間関係を損なう可能性が高くなる可能性がある。したがって、円滑なコミュニケーションのためにも、言語能力レベルによって、感声的あいづちと概念的あいづちの違いを、積極的に教科書に取り入れて教える必要があると考えられる。

会話例65) 日本語教師の生活の話：T2(インタビュアー)-K2 (インタビュイー初級)の会話

1 K2：んー，生活は，おもしろかったです，おもしろいですか

→2 T2：はい，あの一，楽しいですね(②んー，はい→「ああ、そうですか」)，ん<笑>

会話例66) 行政書士の仕事の話：T4(インタビュアー)-K5(インタビュイー上級)の会話

→1 T4：あー，代わりにね(③はい→「そうですね」「そうなんです」)，ん，例えばどんなその書類があるんですか

2 K5：んー例えばですね(ん)，もういろんな書類が(ん)，{息を吸う音} えーてーえとですねんー，行政書士が一(省略)

会話例67) 受験できる学校の難易の話：T5(インタビュアー)-K6 (インタビュイー上級)の会話

→1 T5：あーそうですか(ん)，その学校によってすごい難しい学校もあるし(③そうです→「はい」)，やさしい学校も(①ん)あったらまたなんかそのいいところに入ろうと思って競争が，激しくなったり(④そうですけど →「あー」/「はい」 {笑})，しませんか

2 K6：なんか，何をやったら {笑} いいかわからないの

8.6.2.2. 関心や興味の「あー/はあ/へー」などで反応すべきところでの「はい」の使用

会話例68)では、話し相手の話に対し「傾聴」機能の「はい」というあいづち的反応が行われている。しかし、母語話者の評価によると、ここでは「傾聴」機能だけでは物足りないところがあり、話題に関心や興味があることを表明するための「感情」機能を果たす「あー」、「はあ」、「へー」などの感声的あいづちがよりふさわしい。

会話例68) 韓国の日本の野球チームの違いについての話：T3(インタビュアー)-K3 (インタビュイー中級)の会話

1 K3：②そうですね<ん>，あ，あの一，そんな，大きさというか，あの，し，いちばんあの，韓国と違って日本がすごく広いので，はい<ふーん>，はい，あの，働ける，こともたくさんあるし，

→2 T3：あーそうなんですか，なんかでも，今，日本の球団のシステムが<②はい，はい>ちょっと変わったよう<xはい>，なんですが<①はい→「あー」/「はあ」/「へー」>，【姓B】さんその辺も知ってますか54いえ，それは <ん>***，知ってないんですね，はい

8.6.2.3. 「そう系」あいづち的反応のうち「そうですね」の使用に偏り

概念的あいづち的反応の使用は、中級レベルの「理解」「同意」機能で初めて出現した「そう系」のうち、「理解」と「同意」機能の「そうですね」に集中している。そこで、「そう系」あいづち的反応の出現傾向をみると、表現形式が多様でないことが確認できる(表38)。他にも「そう系」の表現形式としては、超級レベルで「同意」の「そうなんですな」、「そうなんですよそれが」と、上級レベルで「否定」機能の「そうなんですかね」、「そうですね」、「あ、そうですね」、「それもそうですね」が使用されているものの、その使用例は1例ずつにすぎないことがわかる。

表 38 「そう系」あいづち的反応の出現傾向

機能	言語能力レベル	そうですね	そうですね	そうなんですな	そうなんですよ	そうなんですかね	そうですね
理解	中級	10	0	0	0	0	0
	上級	6	5	0	0	0	0
	超級	8	2	0	0	0	0
同意	中級	7	0	1	1	0	0
	上級	12	0	0	0	0	0
	超級	10	0	0	0	0	0
否定	上級	0	0	0	0	1	1
計		53	7	1	1	1	1

また、「そうですね ↓ そうなんですな ↓ そう ↑ あー、そうですね ↑ 」などの「感情」機能を表す表現形式の不使用で、あいづち表現が豊かでないことが目立つ。

8.7. 本章のまとめ

本章では、KJLがあいづち的反応をうまく使用できないという現状を踏まえ、その運用における特徴と背景について考察した。確認された不自然な言語行動は、以下の通りである。

1. 母語(韓国語)の影響と考えられる聞き手言語行動
 - a. 「いえいえ」「おー/おーおー」などの母語(韓国語)の使用
 - b. あいづち的反応が必要な場面での不使用
2. 日本語のスピーチスタイルの影響と考えられるあいづち的反応
 - a. 初対面の目上の人に対する「なるほどね」
 - b. 同一会話内における不安定なスピーチレベル
3. 母語と目標言語との影響と考えられるあいづち的反応
 - a. 同じ表現形式の繰り返し

- b. 待遇性の低い「ん」のあいづち的反応を用いるため、談話の待遇レベルが不安定
4. バリエーション不足による影響と考えられるあいづち的反応
- a. 「はい」の過剰般化
 - b. 「ええ」の不使用
 - c. 場面に適さないあいづち的反応：同意の「そうですね/そうなんです」または関心や興味「あー、はあ、へー」で反応すべきところでの「はい」使用、「そう系」あいづち的反応のうち「そうですね」の使用に偏るなど

第7章と本章では言語能力の観点から、聞き手言語行動のうち、韓国人日本語学習者のあいづち的反応の機能と表現形式の使用実態と特徴について考察した。次章では、聞き手言語行動のうち、韓国人日本語学習者の共話的反応の型と機能の使用実態について明らかにする。

第9章 韓国人日本語学習者の言語能力レベル別にみた共話的反応の使用実態

9.1. はじめに

前章の7章と8章では、聞き手言語行動のうち、あいづち表現をはじめとするあいづち的反応を対象にした。特に、韓国人日本語学習者の言語能力レベルごとの使用状況および不自然なあいづち的反応について考察を行った。

これまで見てきたように、聞き手の積極的な反応は、談話の展開を円滑にする要素のひとつである。2人以上の話者が共同でひとつの発話を作り上げる共話においてはそれが特に重要である。談話は話し手だけで作り上げられるのではなく、聞き手との相互作用によって作り上げられる。このような日本語の会話の「共話的」な側面が強調されはじめてから(水谷1984)、話し手としてのみではなく、聞き手としての技術についても指導すべきであることが主張されるようになり、あいづちを中心とした談話指導が実践されてきた(岡崎1987、伊藤1993、堀口1997)。

しかし、「対話になれた外国人が日本語を学習するときには、共話の展開形式になじめない場合が多い。少なくとも日本の社会では共話が基本的な線を占めており、それが外国人に『日本語を習っても、日本的な話し方ができない』と感じさせる大きな原因になっている(水谷1995:5-6)」という水谷の指摘からも分かるように、2人以上の話者が共同でひとつの発話を作り上げる共話の運用は日本語学習者にとって決して容易ではない。

そこで、本章では、韓国人日本語学習者(以下、KJLと称する)が使用する、共話をなす聞き手による後行発話である共話的反応の型および機能に着目し、談話の中でどのように用いられるのか、言語能力レベルごとの使用傾向を明らかにする。そして、指導が必要な共話的反応の型と機能については、言語能力レベルに合わせた導入を試み、特に上級レベル以上のシラバスに採用する必要性を述べる。

以下に本章の流れを示しておく。9.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。9.3.では分析に使用するデータと調査項目を提示する。9.4.ではKJLの言語能力レベル別の共話的反応の表現形式と機能について考察を進め、9.5.では本章をまとめる。

9.2. 先行研究

接触場面における日本語学習者の共話の運用に関する研究は近年注目を浴びている。それらは、共話習得の難しさを指摘するものと、日本語学習者の共話の運用実態を分析し、日本語学習者でも共話が運用できると主張するものに大別される。従来の研究のうち、共

話習得の難しさについて指摘しているのは水谷(1995)、黒崎(1995)、野畑(1996)などである。一方、日本語学習者でも共話が運用できると主張する研究に、宇佐美(2001a)、宇佐美・木林(2002)、笹川(2007)などがあげられる。

日本語学習者には共話が習得し難いという見解を示す研究から見ることにする。水谷(1995)は、対話に慣れた日本語学習者が日本語を習得する時には、共話の展開形式になじめない場合が多いこと、そして、日本の社会では共話が会話の基本的なあり方であり、このことが、日本語学習者にとって、日本語を習っても日本的な話し方ができないと感じさせる大きな原因になっていることを指摘している。

黒崎(1995)は、共話は気配りであり、日本の長い伝統の産物であるとした上で、これは技術というよりは心の持ちようであり、それだけに日本語を学ぶ学習者などには、理解しがたく習得しがたいものだと述べている。

野畑(1996)は、学習者は、あいづち的発話が少なく、主にあいづちのみを続け、談話の展開につながらないと主張している。ここで言っているあいづち的発話は本章でいう共話的反応のことで、前章で述べたあいづち的反応とはその範囲が異なるものである。

一方、日本語学習者には共話の習得が困難であるという見解とは異なり、実際のデータをもとに共話が運用できることを主張する研究もみられる。

宇佐美(2001a)は、共話の際、日本語母語話者が共話を完結する機会が多いこと、日本語学習者が言いよんでいるところに母語話者が助け舟を出すことなどを報告している。また、日本語学習者も相対的に少ないとは言え、「予測による発話の完結」の形で発話を締めくくることがあると指摘している。

宇佐美・木林(2002)は、後行発話の形式を「一語文」、「中途終了型発話」、「終了型発話」の3つに、機能を「質問」、「答え」、「確認」、「叙述」の4つに分けて、形式と機能に着目した分析を行っている。その結果、中級程度の日本語能力を持つ学習者は母語話者の発話を先取りすることもあると指摘している。

笹川(2007)は、日本語母語話者同士の同文化における共話の類型を分類した黒崎(1995)を参考に、異文化間コミュニケーション場面に見られる共話の類型を4種類に大きく分類した上で、学習者も共話の担い手となりうることを指摘している。

木林(2011)は、日本人母語話者と日本語学習者の共話の生起率を調査し、母語話者と中級話者との接触場面では1.89%、母語話者と超級話者との接触場面では1.53%であることを明らかにした上で、中級話者の先行発話には「言葉探し」が多いと指摘している。

ここまで見てきた先行研究では、中級以上の学習者は、共話の運用において「言葉探し」の話し手発話を用い、「先取り」の共話的反応の型を用いることについての指摘が確認され

た。しかしながら、学習者の共話の使用状況に関する考察は十分とは言い難い。また、従来の研究成果が日本語教育の現場に有効に反映されているとは言えないのが現状である。

9.3. 研究の方法

9.3.1. 調査対象者

国立国語研究所の「日本語学習者会話データベース」のうち、音声付データを使用し、KJLの初級(K1、K2、K3)、中級(K4、K5、K6)、上級(K7、K8、K9)、超級(K10、K11、K12)の言語能力レベル別各3名(総60分以上)と、日本語母語話者の会話データベースである「上村コーパス」のデータのうち、J1～J4の母語話者4名(総60分以上)を調査対象とした。本章で対象とした調査対象者の内訳は次の表39の通りである。

表 39 KJL の共話的反応の型および機能に関する調査対象者 (表 33 の再掲)

コーパスの種類	言語能力	協力者	性別	日本滞在期間	学習期間	親疎関係	社会的地位	1会話の人数	会話時間
日本語学習者会話データベース	① 初級	K1-T1	男-女	1ヶ月	1ヶ月	初対面	学生	2人	29分28秒
		K2-T2	女-女	2ヶ月	4ヶ月	初対面	学生	2人	22分55秒
		K3-T2	男-女	2ヶ月	2ヶ月	初対面	学生	2人	18分20秒
	② 中級	K4-T3	男-女	1ヶ月	4年	初対面	学生	2人	29分42秒
		K5-T1	女-女	1ヶ月	450時間	初対面	学生	2人	29分47秒
		K6-T8	男-女	1ヶ月	3ヶ月	初対面	学生	2人	22分26秒
	③ 上級	K7-T4	男-男	3年	3年	初対面	学生	2人	28分27秒
		K8-T5	女-女	6ヶ月	5年	初対面	学生	2人	29分51秒
		K9-T7	男-男	9ヶ月	3年	初対面	学生	2人	29分27秒
	④ 超級	K10-T4	男-女	22年	2年	初対面	社会人	2人	26分52秒
		K11-T6	男-男	5年	8年	初対面	学生	2人	30分28秒
		K12-T1	女-女	15年	2～3年	初対面	大学教員	2人	27分21秒
上村コーパス	⑤ 母語話者	J1-T1	女-女			初対面	主婦	2人	16分11秒
		J2-T2	女-女			初対面	教師	2人	15分05秒
		J3-T2	女-女			初対面	学生	2人	15分35秒
		J4-T1	女-女			初対面	主婦	2人	17分55秒

9.3.2. 調査項目

本章では、共話をなす後行発話である共話的反応の型および機能に着目し調査を行う。共話の種類を①先取り、②言い換え、③問い返し、④遮り、⑤繰り返しの5つに、機能を①確認、②相手助け、③同意、④補足、⑤共感、⑥反論の6つに分類し調査項目とする(表40)。共話の判定については筆者と3名の日本語母語話者に協力してもらい4名の判定が一致した場合のみをその判定結果とした。

表 40 KJL の共話的反応の型および機能に関する調査項目

共話を成す 先行発話	① 言いさし : 話し手が文の最後まで言いきらず発話の途中で間を作る発話 ② 言いよどみ : 適当な表現がすぐに出てこず, 口ごもる発話 ③ 遮られ中止 : 話し手と聞き手の発話の音が重なる場合が多く, 話し手が話している途中に聞き手が入り込んで中断させられる発話
共話的反応 の型	① 先取り : 相手発話の先を予測して言う発話 ② 言い換え : 相手発話と同じ内容を別の言い方で表現する発話 ③ 問い返し : 相手発話について質問する発話 ④ 遮り : 相手発話を途中で中断させる発話 ⑤ 繰り返し : 相手発話を同じ言い方で反復する発話
共話的反応 の型の機能	① 確認 : 相手もしくは自分の情報について発話内容を確認する役割 ② 相手助け : 相手の言い淀みまたは長い間を助ける役割 ③ 同意 : 相手の発話内容と自分の考えや意見が同様であることを示す役割 ④ 補足 : 相手の発話内容に対して知らない情報を付け加える役割 ⑤ 共感 : 相手の発話内容に対し, 共感を示す役割 ⑥ 反論 : 相手の発話内容と自分の意見が同様でないことを示す役割

9.4. 分析と考察

KJLの共話的反応の型が談話の中でどのように用いられ、談話を展開しているか、共話の出現状況をもとに考察した。

9.4.1. 初級・中級における共話的反応の型および機能の出現状況

初・中級における共話的反応については、その出現頻度が少ないので定量的に詳述するのは難しいところがあるが、初級レベルから共話の運用ができていることが確認できた。

次の会話例(69)では、1T1の「言いさし」発話に対し、2K1の発話では「ラーメンがありません」と「繰り返し」が行われている。この際、聞き手である話者K1は、話し手である話者1T1の発話内容に「同意」している。また、会話例(70)では、1T2で話し手が「出かけるときは電車に」という「言いさし」に対する「【地名C】は電車がありません」という2K2の発話では、「遮り」の共話的反応の型が、「反論」の機能を果たしている。

会話例 69) 韓国のラーメン文化についての話 : T1(インタビュアー)- K1(インタビュイー 初級)の会話

- 1 T1 : あ, じゃああの, 韓国はもともとはそういう日本, 日本にあるラーメンのようなものはないんですね(はいにおん [日本]), 同じようなものはない(はい), もともとは,,
- 2 K1 : 韓国では(んー), こんなラーメンがありません
- 3 T1 : ふーん, あの, 最近で, でも日本ではねすごく, 韓国料理は, 人気なんですよほん
と

会話例 70) 交通手段の話 : T2(インタビュアー)-K2(インタビュイー 初級)の会話

- 1 T2 : (前略)えーと、ん電車で忘れ物をすると(ん)、最近はコンピュータで(ん)、調べて(あー)くれますから(あー)、たぶん、あのほんとうはすぐに {笑} (あ {笑}) わかるとおもいますけど(ん)、んー、あの、そうですね、[地名C]で(ん)、出かけるときは電車に、
- 2 K2 :]] [地名C]は電車がありません {笑}
- 3 T2 : あ、そうですか(はい)、じゃあ、えーと出かけるときはバス…

初級レベルにおける共話的反応の型と機能は、その出現数自体が少なく、一般化するのは容易ではない。しかし、上記会話例69)、70)で、日本滞在期間1ヶ月から2ヶ月、学習期間1ヶ月から4ヶ月の初級レベルの学習者であっても「同意」、「反論」の機能をもつ「繰り返し」や「遮り」の共話的反応の型を用いることが確認できたことは注目に値する。このことから、初級学習者も相手の言っていることを理解した上で、同意したり反論したりしていることが窺える。

次に、日本滞在期間1ヶ月、学習期間4年または450時間の中級レベルの学習者の運用を確認する。次の会話例71)、72)では、初級と同様に話し手の「言いさし」に対して、「先取り」、「言い換え」の共話的反応の型が用いられており、前者は「補足」、後者は「同意」の機能を果たしている。

会話例 71) 仕事の話 : T3(インタビュアー)- K3 (インタビュイー 中級)の会話

- 1 T3 : ふーんスポーツマネジメント(はい)、難しい名前ですね(そうですね)、ん(ん)、
どんなことを、例えば、
- 2 K3 : えー例えばーなんか、エージェントとか
- 3 T3 : えー

会話例 72) 仕事の話 : T1(インタビュアー)- K4 (インタビュイー 中級)の会話

- 1 T1 : 何かね、あのーそういう服をあの、せ、生産して輸出して(はい)、若干オーダーも受けてってやってる中で(はい)、えーと、日本、どちらかという若い人の服ですか、それとも、
- 2 K4 : あーはいはい(若い人、んー)、20代の人
- 3 T1 : あの日本の(はい)、若者に合う服と(はい)、韓国の若者に合う服と(はい)、何か違いはありますか

これらの例では、母語話者インタビュアーの「言いさし」の話し手発話を引き継ぎ「あいづち」をまず打った後に実質的な発話である「先取り」と「言い換え」をはじめているのが特徴的である。学習者は「理解」、「納得」のあいづちを打った後に相手の意図を予測する「先取り」の発話を行っている。野畑(1996)は、日本語学習者の場合、あいづち的発話(本章でいう共話的反応)が少なく、あいづちのみを続け、談話の展開につながらないとしている。しかし、会話例(69)~(72)を見て分かるように、日本語学習者はあいづちだけではなく実質的内容を含む共話的反応をしていることが分かった。次の図34と図35は以上の記述をまとめたものである。図の中では、左から右に進むにつれ話し手発話、先行あいづち、共話的反応の型とその機能をそれぞれ違う図形で示した。また、上から下に進むにつれ出現数が多い順から少ない順を示した(以下、同様)。

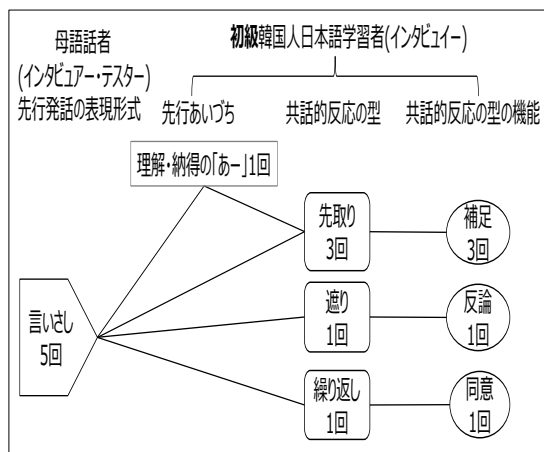


図 34 初級レベルの共話的反応の型

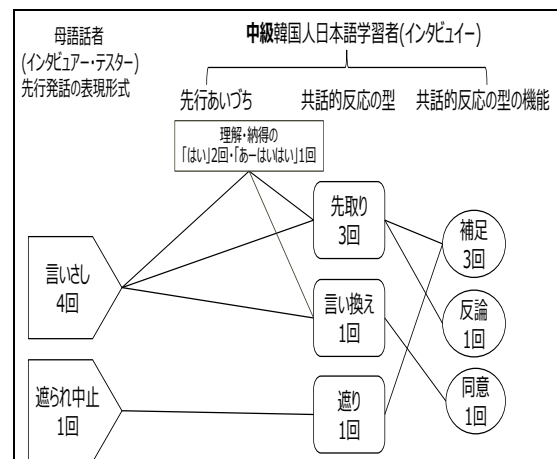


図 35 中級レベルの共話的反応の型

これらの図に示した通り、初級・中級レベルでは、「言いさし」の話し手発話を引き継ぎ、聞き手発話は「先取り」、「繰り返し」、「遮り」の共話的反応の型をとる。そして、その際、「先取り」は「補足」、「繰り返し」は「同意」、「遮り」は「反論」の機能を果たしている。

9.4.2. 上級・超級における共話的反応の型および機能の出現状況

日本滞在期間6ヶ月または22年、学習期間2年または8年の上級・超級レベルの学習者は、「言いさし」、「遮られ中止」のほかにも、「言いよどみ」の話し手発話を引き継ぐことができること、その際、「遮り」、「言い換え」、「先取り」の共話的反応の型を用いることが分かった。さらに、これらの共話的反応の型は「補足」、「反論」、「相手助け」の機能を果たしていることが確認できた。とりわけ「相手助け」の機能が上級レベルで初めて使用されるようになることは注目し得る。

具体的な会話例で説明すると、会話例73)では1T5の「日本の場合は、銀行の、銀行とか地上げとかっていろいろ問題があったんですが」という「言いさし」に対し、2K6の発話では「たぶん韓国も、その」という「先取り」の共話的反応の型が、「相手助け」の機能を果たしている。また、会話例74)の1T6の発話では「(前略)韓国のバンドなんか、似てるところ違いますか、それとも」という「言いよどみ」に対し、2K8の発話では「あー(ん)、けっこう違うと思います」という「先取り」の共話的反応の型を用い、「相手助け」の機能を果たしている。

会話例 73) 不動産問題についての話 : T5(インタビュアー)- K6 (インタビュイー 上級)の会話

- 1 T5: それは何あの原因って、になっているのはなんですか(そうですね), 日本の場合は、銀行の、銀行とか地上げとかっていろいろ問題があったんですが、..
- 2 K6: たぶん韓国も、その、
- 3 T5: 地上げですか(ですね), んー, 私, ちょっとある人から聞いたのは, ソウルの近くは, やはり教育熱が高くて(ん), そこに住む(ん), 住みたい人が多いけれども, そこに住む人たちが, すごく, 経済的に豊かな(そうですね)

会話例 74) 日韓のバンドの違いについての話 : T6(インタビュアー)- K8 (インタビュイー 超級)の会話

- 1 T6: なるほどね, ということはその, そういったそのミュージシャンの目からして, その日本のね(はいはい), その, いろんなバンド(んんん), ありますよねと, 韓国のバンドなんか, 似てるところ違いますか, それとも…
- 2 K8: あー(ん), けっこう違うと思います
- 3 T6: あー, そうなんですかちょっと

上級・超級レベルの学習者は、初級・中級レベルでの学習者とは違い、話し手である母語話者の「言いさし」、「言いよどみ」を引き継ぐことができること、「相手助け」のために共話的反応の型が用いられることが分かった。以上の上級・超級レベルの学習者の共話運用状況をまとめると次の図36、37の通りである。

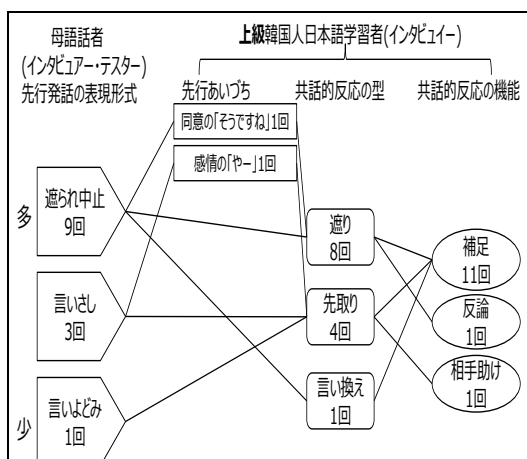


図 36 上級レベルの共話的反應の型

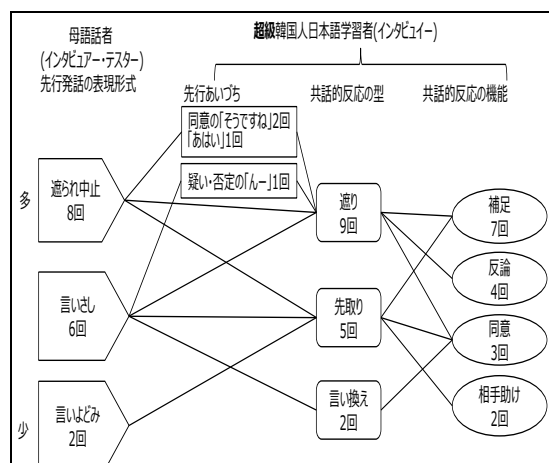


図 37 超級レベルの共話的反應の型

今回、初級、中級では「言いさし」の話し手発話に対し、主に「先取り」による共話をなすことで談話を展開する会話例が確認できた。「先取り」は「補足」の機能を果たす場合が多かった。上級と超級に上がるにつれ、「遮られ中止」の話し手発話の表現形式が増え、共話的反應の型も「遮り」がよく用いられるようになり、それらは主に「反論」や「補足」の機能を果たしていることが分かった。「遮り」は相手が話しているところに割って入ることから、相手に不快感を与える可能性が高い。KJLの上級・超級レベルでの「遮り」の多用は円滑な談話展開の妨げになる恐れもある。このことは日本語母語話者に比べ学習者が「遮り」の共話的反應の型と、「補足」の共話的反應の型の機能を過剰使用している可能性を示唆している。一方、「問い返し」の共話的反應の型と「確認」の機能については超級になっても使用がみられない。このことは、それらが、学習年数や滞在年数に関係なく習得し難いことを示唆している。これらのことから、KJLにとって、共話の運用は決して容易ではないといえよう。

9.4.3. 日本語母語話者における共話的反應の型および機能の出現状況

母語話者も、上級や超級のKJLと同様に、「言いさし」、「言いよどみ」、「遮られ中止」の話し手発話の表現形式を引き継いで共話的反應をとる。母語話者の場合は「言いさし」を引き継ぐパターンがもっとも多かった。また、共話的反應の型としては「先取り」、その機能としては「確認」のための使用が最多であることが分かった。図38は母語話者の共話の運用状況についてまとめたものである。

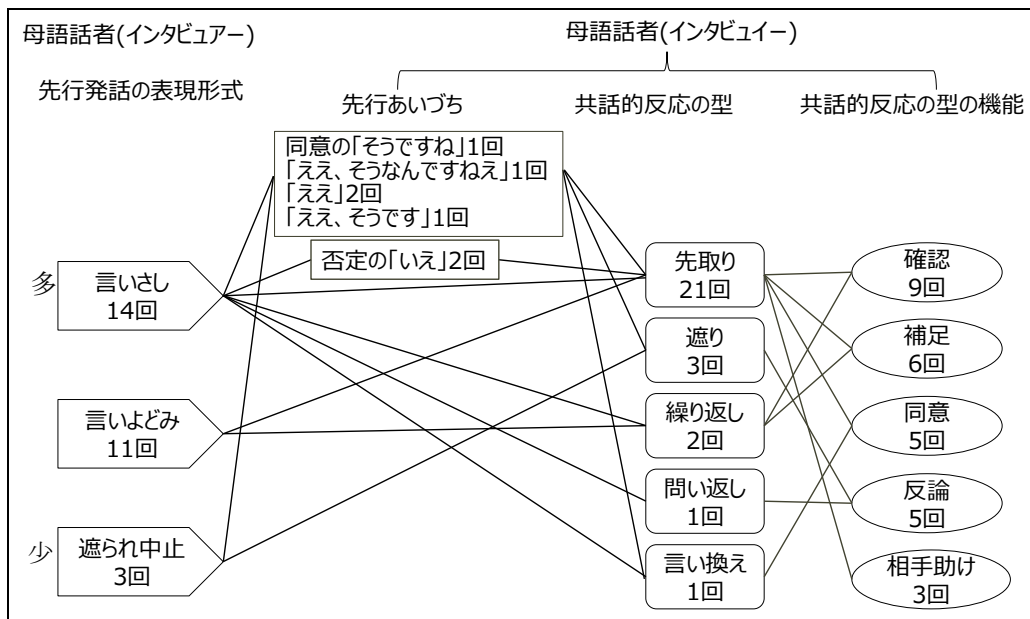


図 38 日本語母語話者における共話的反応の型

これまでに見てきた学習者の共話の運用状況と異なる点は、その出現頻度が高いことはもちろんのこと、共話的反応の型において「問い返し」、そして「確認」の機能での使用がみられることである。このことは注目に値する。

具体的な会話例で説明すると、会話例75)の1T2の発話では「月、水、金が燃えるゴミの日」という「言いさし」の発話に対し、2J2の発話で「月、水、金ですね」と、「繰り返す」の共話的反応の型を用いて「確認」をとっている。また、会話例76)の1T1の発話では「全然ございませんね。はい、ただ」と適当な言葉が出てこず言いよどんだところに、2J1の発話で、「で、今のありのままにだいたい満足してらっしゃる」という「先取り」の共話的反応の型が、「確認」の機能を果たしている。

会話例 75) ゴミの出し方の話：T2(インタビュアー)-J2(インタビュアー母語話者)の会話

- 1 T2 : え、あの一この一あの一ご近所では、月、水、金が(はい)燃えるゴミの日、,,
- 2 J2 : 月、水、金ですね。
- 3 T2 : ええ。

会話例 76) 悩み事の話：T1(インタビュアー)-J1(インタビュアー母語話者)の会話

- 1 T1 : 全然ございませんね。(ああ、そうですか)はい、ただ…
- 2 J1 : で、今のありのままにだいたい満足してらっしゃる。
- 3 T1 : はい。でも鳥の狼藉に(ええ)困っておりますが(ええ、ええ、例えばどうい)その問題を

今回用いたOPIデータでは、母語話者は学習者とは異なり「問い返し」を使用しているが、「先取り」による共話的反応の型の使用が最多であり、また、機能に着目すると、KJLには見られなかった「確認」機能での使用が最多であることが分かった。

9.5. 日本語母語話者との比較からみたKJLの共話的反応の型および機能の使用状況

9.4.で明らかになったKJLの共話的反応の使用状況は次の表41のようにまとめられる。学習者の言語能力レベルごとに、共話的反応の型および機能の出現状況が母語話者の場合とどのような違いがあるのかを分析すると、学習者の言語能力レベルが初級から超級へと上がるにつれて、その共話運用が母語話者のそれに近づいていく過程が観察できる。

表 41 KJL の言語能力レベル別共話的反応の型および機能の使用状況

言語能力 レベル 機能	初級(5回)	中級(5回)	上級(13回)	超級(16回)	NS(28回)
確認					先取り(8回) 繰り返し(1回)
相手助け			先取り(1回)	先取り(2回)	先取り(3回)
同意	繰り返し(1回)	言い換え(1回)		先取り(1回) 言い換え(1回) 遮り(1回)	先取り(3回) 言い換え(1回) 遮り(1回)
反論	遮り(1回)	先取り(1回)	遮り(1回)	遮り(4回)	先取り(3回) 遮り(1回) 問い返し(1回)
補足	先取り(3回)	先取り(2回) 遮り(1回)	遮り(7回) 先取り(3回) 言い換え(1回)	遮り(4回) 先取り(2回) 言い換え(1回)	先取り(4回) 繰り返し(1回) 遮り(1回)

共話的反応の型においては、「先取り」、「遮り」、「繰り返し」の使用が「言い換え」の使用に先立つことが分かった。また、共話的反応の型の機能においては、「補足」、「反論」、「同意」の機能の使用が「相手助け」の使用に先立つことが分かった。母語話者が運用している機能のうち、「確認」だけはKJLにおいて使用できていないことも分かった。

水谷(1995: 6)は、共話的な話し方は、組織的・体系的に日本語の構造面をきちんと学んだ学習者が苦手とすることが多く、テレビなどで活躍している外国人タレントはたいてい共話的な話し方が身につけているという。水谷は、これは日本の社会で実践的に身につけた日本語が共話的な話し方に基づくものだからだと主張しているが、今回の調査対象者である上級・超級の学習者の中には3年、5年、22年間の日本滞在経験があるにも関わらず、上記表41に示したように、共話の運用については、母語話者とは異なる様相を見せている。

具体的には先述したように、日本語学習者の共話的反応は「遮り」の型をとり、「補足」の機能を果たすことが多いのに対し、日本語母語話者のそれは「先取り」の型をとり、「確認」の機能を果たすことが多い。

本章で示されたこの結果は、水谷の主張と相容れないように見える。だが、それについては、水谷(1995:6)の「共話は、『仲間うち』の気楽な話し方であるから、共通の理解のない「外」の相手と話すときには通用しない」という言及を考慮する必要がある。OPIのインタビュアーとインタビューという対人関係は、初対面である上に、相手がインタビュアーという立場を意識しながらの会話なので、普段の雑談会話とは違い、決して仲間うちの気楽な話し方ができる関係ではない。これは、水谷の想定とは異なる場面での共話を観察した結果なのである。そして、水谷の想定とは異なる場面での共話を観察したことにより、超級になっても唯一、使いこなせない「確認」の機能については、自然習得が難しく、日本語教育による支援を考える必要があることが分かった。共話的反応の型と機能を指導項目として教えることを前提に、その教材例設計を試みる必要もあろう。具体的には13章で後述する。

9.6. 本章のまとめ

本章は、日本語学習者と母語話者のOPIをデータとし、日本語学習者の共話的反応の型の言語能力レベル別の使用状況を比較分析した。共話的反応の型においては、初級では「先取り」「遮り」「繰り返し」の使用が確認され、中級からはさらに「言い換え」の使用も確認された。機能については、初・中級では「補足」「反論」「同意」の機能での使用が、上・超級ではさらに「相手助け」の使用も確認された。

分析の結果にもとづき、共話的反応の型においては、「先取り」、「遮り」、「繰り返し」の使用が「言い換え」の使用に先立つことが分かった。また、共話的反応の型の機能においては、「補足」、「反論」、「同意」の機能の使用が「相手助け」の使用に先立つことが分かった。さらに、学習者と母語話者のそれぞれが用いる、共話的反応の型およびその機能の違いとしては、母語話者に見られた「問い返し」と「確認」の共話的反応の型と機能がKJLには見られなかったことが挙げられる。また、学習者は「遮り」の型を最も多く用いているのに対し、母語話者は「先取り」の型を最も多く用いていることが確認された。

日本語の共話は、一般には母語話者との日々のコミュニケーションを通じて習得されると推測されるが、日本滞在3年以上の上級・超級レベルの学習者の運用状況から、自然習得の難しさも確認できた。「問い返し」の共話的反応の型や「確認」機能は習得が困難であり、自然習得では解決し難い。聞き手としての共話的反応の型の習得を促進し、円滑なコミュ

ニケーションを行うために日本語教育による支援が必要といえる。

本章までは、韓国人日本語学習者の言語能力の観点から、聞き手言語行動の使用実態やその特徴について考察した。第4部の第10章からは、母語話者同士の会話場面と接触場面における談話展開に着目し、聞き手言語行動の構造と展開パターンなどについて論じる。

第 4 部 談話展開の観点

第10章 「先行発話-共話的反応」の有機的關係からみた共話の展開構造

10.1. はじめに

第3部、7章、8章、9章では言語能力の観点から日本語学習者の言語能力に応じ、あいづち的反応、共話的反応の運用実態を探った。言語能力ごとの相違はあったものの言語能力レベルが上がるにつれ母語話者の聞き手言語行動の運用に近づいていくが、やはり母語話者とは異なる運用も確認でき日本語教育による支援の必要性を明らかにした。

しかし、上級以上の日本語学習者であっても、あいづち的反応は不十分ではないのになぜか聞き手としての反応が不十分であること、談話展開が不自然であることが指摘されることがある。あいづち的反応が必ずしも談話展開に十分な要素ではないことが窺える。

先述したように、談話の展開を円滑にする要素のひとつに、聞き手の積極的な反応がある。共話においてはそれが特に重要である。「もうそろそろ…」という相手の発話を引き取り、「帰しましょう」とつなげるような共話は、日本語の会話形態の特徴のひとつである。

従来の研究においては、共話がなされるためには話し手と聞き手の共同作業が必要だという指摘はあるが、話し手と聞き手が用いる展開形式がどのようなものかについて、それぞれの立場からの言及はない。また、黒崎(1995)などによる共話の分類では、共話の展開形式と機能との関連については指摘されていない。さらに、共話的反応が行われるのは「聞き手が話し手の発話を「予測」するからだ(水谷1993、堀口1997)」という指摘がある一方で、「予測したためではなく、理解したことを示すために起こる(宇佐美・木林2002)」という異なる見解もみられ、共話の成立要因を再考する必要がある。

そこで、本章では、日本語母語話者同士の会話において、日本語母語話者がいかなる共話的反応の運用を行うのかその実態を探る。まず、共話を形づくる話し手発話の表現形式と、それに続く聞き手の共話的反応の型および機能が具体的にどのようなものであるかを分析し、共話的反応の成立要因を探り、共話の展開構造を明らかにすることを目的とする。

以下に本章の流れを示しておく。10.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。10.3.では分析に使用するデータを提示する。10.4.では話し手の先行発話の表現形式、聞き手の共話的反応の型とその機能を分類し、10.5.ではその出現頻度を分析、共話的反応の成立要因および展開構造の考察を進め、10.6.では本章をまとめる。

10.2. 先行研究

先述の通り、共話の特徴に関する先行研究としては水谷(1988a、1993、1995)、黒崎(1995)、嶺川(2000、2001)、笹川(2007)、宇佐美・木林(2002)、宇佐美(2012)などが上げられ

る。ここでは、これらの研究で言及された共話の特徴を、①成立要因、②表現形式、③機能を中心に改めて整理する。

10.2.1. 成立要因の観点

水谷(1993)は、共話が成り立つためには、発話に関する諸形式についての共通の理解が前提となると指摘している。また、黒崎(1995)はすべてを言い尽くさず、相手に発話完結の機会を与える発話について指摘し、話し方と発話完結の前に理解と共感の情を表す聞き方が共話成立の2大要因であると述べている。さらに、堀口(1997)は、話し手が言おうとすることを聞き手が予測した場合に先取りあいづちと先取り発話が成り立つと主張している。それに対し、宇佐美・木林(2002)は、予測ではなく、理解を共話の成立要因として言及している。一方、嶺川(2001)は、相手との共通理解を求めない、自分の見解に対する自信のなさや相手との見解の対立を解明したくない場合にあって共話が用いられるとする。

以上のような成立要因の観点からは、相反する主張もみられるが、「予測」、「理解」が成立要因として深く関わっていることは間違いないようである。そのため、初対面のような必ずしも共通理解を前提としない場面での共話の運用を検証し、成立要因を再考する必要がある。

10.2.2. 表現形式の観点

水谷(1988a、1993)は、共話の形式的な特徴として、「あいづち」、「終助詞の使用」、「言いさし」、「相手の発話を完結」、「相手の発話内容の復唱」などがあげられるとする。また、黒崎(1995)は、共話は先取り型、補足型、助け舟型、言い換え型、共感型、割り込み型、リレー型の7種類に分類することが可能であると指摘する。さらに、笹川(2007)は、「笑い、あいづち、パラフレーズ」、「先取り型、共感型、言い換え型」、「補足型・共感表現」、「相手と協調関係を志向する共話」、「助け舟型」、「何度か、ターンを交換しながら、共感を示す発話連鎖による複雑な共話」、「自分の話題と相手の話題を交互にとりあげる談話機能レベルでの共話」の7種類に分類できることを主張する。そして、宇佐美(2012)は、話者のストーリー性のあるナラティブ中の、あいづちなどが入りうる区切りのところで共話が出ると指摘する。

表現形式の観点からは、共話をなす聞き手発話の共話的反応の型に関しては、予測や推測による「先取り」に着目するものが多かった(黒崎1995、笹川2007など)。また、黒崎(1995)、笹川(2007)などにより類型についての指摘はあったものの、やはり形だけで説明しきれないあいまいなところがあることが分かった。たとえば、「助け舟型」の説明では『先取り型』とよく似たものであるが、言いよどみまたは長すぎる間を助けるというところに

この型の特徴が見られる(黒崎1995:49)、「共感型」の説明では「この例は形としては『先取り型』と同じであるが、(中略)話し手の発話(内容)を繰り返すことによって聞き手の強い共感が表現されたもの(黒崎1995:50)」という説明がなされている。「助け舟型」も「共感型」も、「先取り型」と形式上あまり区別がないということである。つまり、従来の「助け舟型」、「共感型」、「補足型」という類型は、表現形式というより「相手助け」、「共感」、「補足」という機能を表わす役割を果たしているとも考えられる部分があり、共話の表現形式と機能の全体を再分類し、体系化する必要がある。また、話し手と聞き手の共同作業が必要だという指摘があり、分類もある程度されているが、具体的にどのような表現形式が用いられるのかについて、話し手と聞き手のそれぞれの立場から言語の表現形式に主眼をおき、再考する必要がある。

10.2.3. 機能の観点

黒崎(1995)は、共話の形を利用した問いかけ表現が、意識的に相手との共感的な雰囲気をもたせるのに効果的な表現であり、一種の気配り表現として使用されているとしている。また、嶺川(2000)は、「共話」的場面ではコミュニケーション・ブレイクダウンの修復がすみやかであるが、「共話」的でない場面では修復が遅れるまたは修復されないと指摘している²⁴。さらに、宇佐美(2012)は、聞き手が話し手の意図を推測し、その意図を理解や共感していることを示すと述べている。

共話の機能については、以上の通り、ブレイクダウンの修復がすみやかであること、一種の気配り表現であること、理解や共感を示すことについての指摘しかない。これを発展させて、共話に用いられる表現形式がそれぞれどういう機能を果たしているのか、体系的に考察する必要がある。

10.2.4. 本章の目的

上記の先行研究の成果と、そこで残されている課題をふまえ、本章では共話の表現形式と機能の全体を再分類し、体系化するために次の3点を論じる。

- (1) 話し手の先行発話はどのような表現形式で終了するのか。
- (2) 聞き手の後行発話(共話的反応)はどのような表現形式で表わされ、どのような機能を果たすのか。

²⁴ 嶺川(2000)はブレイクダウンについて、「それまで垂直な方向(vertical)に流れていたコミュニケーションが停滞し、コミュニケーションの流れが水平な方向(horizontal)に移る状態(嶺川 2000:105)」と述べている。

(3) 聞き手の共話的反応の成立要因と共話の展開構造はどう関係しているのか。

10.3. 調査データ

本章で用いるデータは、『基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese : BTSJ)による日本語話しことばコーパス(トランスクリプト・音声)2011年版』に収録されている「初対面男性ベース雑談」と「初対面同性同士雑談」の日本語母語話者同士の会話である。分析においては話し手の先行発話の表現形式を①言いさし、②言いよどみ、③遮られ中止、聞き手の共話的反応の型を①先取り、②言い換え、③問い返し、④遮り、⑤繰り返しの5つに分類し、それを、①確認、②相手助け、③同意、④補足、⑤共感、⑥反論、⑦理解の表明の7つの機能に分類した。

具体的な会話の概要及び共話の出現頻度は次の表42の通りである。

表 42 調査データの概要

会話グループ名	初対面男性ベース雑談	初対面同性同士雑談(男・女)
会話の通し番号	173-190	191-206
データの特徴	35歳の男性が年上(45歳)/同年(35歳)/年下(25歳)の話者(男/女)との6通りの会話	20代大学生・大学院生の初対面雑談
データ数(総分数)	18会話(295分39秒)	16会話(272分18秒)
音声付き	○	○
総発話数	5396	5375
共話出現数(割合)	67(1.25%)	152(2.83%)

10.4. 共話をなす話し手の先行発話と聞き手の共話的反応の表現形式機能

10.4.1. 共話をなす先行発話の表現形式

従来の研究では共話をなす聞き手の共話的反応のみが注目されることが多く、話し手の先行発話にはあまり目が向けられてこなかった。ただし、水谷(1988a、1993)などにより「終助詞の使用」や「言いさし」で発話が終了することは言及されている。ここで注目したい点は、会話例77)のような接続助詞や動詞の「て形」による典型的な「言いさし」だけでなく、「名詞+格助詞」、「～みたいな」はもちろん、会話例78)、79)の「～とか」、「～感じで」などの言語形式による「言いさし」の先行発話も多数確認できたことである。

会話例 77) ベトナム留学の話：A-B(20代女性同士) の会話

- 1 A: あ、1年明けて、(ふうん)2年生が終わってからベトナム行って。
- 2 B: うん、3年生をやって、
- 3 A: やって。

会話例 78) 中国生活の話：A(年上女性)-B(20代女性)の会話

- 1 A: うーんそうするとね、なんかすごい高い豆腐とか。
- 2 B: あーいいやつをー<笑い>。
- 3 A: そー<笑い>、買うことになっちゃうからねー。

会話例 79) 大学実習の話：A-B(20代男性同士)の会話

- 1 A: それはそれでやって、それとはまた<別でという>{<}感じで。
- 2 B: <個別で>{>}。
- 3 A: はー。

上記の会話例は20代の初対面談話からの共話例である。メイナード(2004)は「最近の若者の間で「というか」、「ていうか」という言葉の使用が目立つが、この表現は話し手が感じる「不確かさ」を単純に示しているというだけではなく、もっと積極的に話し手が相手との相互関係、人間関係を交渉するために使っている表現である」と指摘している。上記の会話例からは、「ていうか」だけでなく、「とか」、「感じで」などの表現についても同様であることが窺える。会話例78)、79)では、「(前略)すごい高い豆腐とか」「それとはまた別でという感じで」と、発話を全部言い切らずに途中で止め、聞き手と共にひとつの発話を作り上げようとしている。すなわち、「言いさし」の表現にみられる「とか」、「という感じで」、「ていうか」などは、聞き手に気を配り、聞き手とともにひとつの発話を作りあげること、協調的人間関係を構築するための一種の手段として働いていることが考えられる。

また「言いよどみ」は、次の会話例80)、81)のように回答を考えている途中であることを表す場合が多く、聞き手への遠慮の気持ちを示すとともに、聞き手の意向を伺い聞き手に話し手の意図を察してもらえるように仕向ける際に使用される傾向があることが分かった²⁵。

²⁵ 先述の注釈11、表16でも説明したようにBTSJでは、①文中、文末に関係なく、音声的に言いよどんだように聞こえるものには「...」の記号を、②同時発話され重ねられた発話には、「< >{<}」を、③先行話者の発話が完結する前に途中に挿入される形で後行話者の発話が始まり、結果的に先行話者の発話が終了した場合は、「【【】】」がつけられている。本章では論証のために必要と判断したため凡例記号をできるだけ省略せず提示

会話例 80)海外研修の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: えっ、その研修っていうのはその授業で、参加者で行ける…。
- 2 B: 行ける…んですよ。
- 3 A: あー、 そうなんだ=。

会話例 81)出身地の話：A(30代男性)-B(30代女性)の会話

- 1 A: で、あと、あの一、石垣島の、何の島でしたっけ、あの…、<彼女の出身、えーっと>
>{<} 【 Ⅰ】。
- 2 B: 【 Ⅰ】 <あ、そうそうそう、えっと一>{>}、ゆふ、ゆふいんじゃない、あ、なに言っ
た、湯布院じゃなくてえーと、
- 3 A: 何島 ‘なにじま’ でしたっけ?。

さらに、次の会話例82)~84)のような「遮られ中止」の表現形式もある。これは、話し手が話している途中に聞き手側の発話が入り込み遮られて中止になり、発話の主導権が円滑に移行しているものである。話し手と聞き手の発話の声为重なる場合が多い。

会話例 82) できる外国語の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: あの、研究言語で 【 Ⅰ】。
- 2 B: 【 Ⅰ】 うん、スウェーデン語やっててー。
- 3 A: あ、ありましたよね?。

会話例 83) 山登りの話：A・B(30代男性同士)の会話

- 1 A: もっと山に<行くなら>{<} 【 Ⅰ】。
- 2 B: 【 Ⅰ】 <ま>{>}、北海道に比べれないと<笑い>。
- 3 A: いやでも埼玉でも、友達がいう、なんかあっちの何だっけ、東松山とか、

会話例 84) 場所の説明の話：A(20代女性)-B (30代男性)の会話

- 1 A: 東京に来た私が来たのは 【 Ⅰ】。
- 2 B: 【 Ⅰ】 あ、いや、私も7前にと、東京に戻ってきたので、
- 3 A: あっ、<そうなんですか>{<}。

以上、共話をなす話し手の先行発話の表現形式として「言いさし」、「言いよどみ」、「遮られ中止」などが確認できた。そして、これらの表現形式は「聞き手への遠慮の気持ちを

した。

表示、「聞き手の意向を窺う」、「聞き手にこちらの意図を察してもらえるように仕向ける」などの機能を果たすことが分かった。

10.4.2. 共話をなす共話的反応の型および機能

本節では、共話的反応の型とその機能について具体的な会話例を示しつつ、詳述する。その際、省略されている話し手の非発話部分ないしは、明示されている話し手の発話部分に対するそれぞれの共話的反応の行われ方に注目する。

以下の会話例では、聞き手の共話的反応の部分はもちろん、それにかかわる話し手の省略された非発話部分と明示された発話部分にそれぞれ波線(~~~~)を付して示す。また、聞き手の共話的反応が話し手の省略した非発話部分かどうかの判断は、1A・2B・3Aといった発話のうち、2Bの共話的反応の後の3Aの発話をもって行った。たとえば、「うん、そうですね、そうそうそう」などの同意のあいづち表現、繰り返しや言い換えなどが用いられたことから当初1Aで言おうとした内容を2Bが発話したことが分かる。

10.4.2.1. 省略されている話し手の非発話部分に対する聞き手の共話的反応

10.4.2.1.1. 先取り

聞き手が話し手の発話の先を予測して、話し手が意図した発話内容を引き取って発話する「先取り」は、その出現頻度が多く、多様な機能で使われていることが分かった。特に、次の会話例(85)のように「確認」や、(86)のように「相手助け」の機能で使われる場合が多いことは注目に値する。会話例(85)の場合、1Aの「言いさし」発話に対し、2Bの発話で「先取り」が行われている。そして、この際、聞き手である話者Bは、話し手の発話の先が予測でき「ほんとに言語学って感じでみっちり」というふうな「先取り」し、話し手である話者Aが持っている情報について、発話内容の「確認」をとっている。また、会話例(86)の場合は、話し手が1Aでみるように「オロチョン語とかなんか、なんか」と言いよんでいるところを引き継ぎ、聞き手である話者Bは話し手である話者Aが発話しようとした内容が理解できたので、「ツングース語ね」と「先取り」し、「相手助け」の機能を果たしている。

会話例 85)授業担当の先生の話：A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: そうそう、「先生3姓」先生で、もう学部も、院も。~~~~~
- 2 B: うん、じゃあ、ほんとに言語学って感じで(うん)みっちり。
- 3 A: うん。

会話例 86)=(27)受講した言語の授業の話 A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: あの一、あっちの、なんだっけ?、オロチョン語とかなんか(うんうんうん)、なんか。
~~~~~
- 2 B: ツングース語ね。
- 3 A: ツングース言語,,

ここでは、波線(~~~~~)の省略されている部分に対し、それぞれ「予測」または「理解」できていることが成立要因として働いている。

#### 10.4.2.1.2. 問い返し

話し手発話について質問する「問い返し」は、次の会話例87)、88)のように、「確認」の機能で使われる場合が圧倒的に多いことが分かった。会話例87)の場合、前略された前の部分で食事の話が出てベトナム料理のフォーを話題に出したのは聞き手である話者Bであるが、これに対し話し手である話者Aは1Aでみられるように、フォー以外にもおいしい食べ物があることを言いかけている。そこで、2Bは「おいしい食べ物というのはフォーのように麺類」なのかどうかを理解できてないため、2Bで「あ、麺類で?」と「問い返し」の共話的反応の型を用い、相手に確認をとっている。また、出現数が多くはないが、会話例88)でも同様に話し手である話者Aが「(前略) なかなかぜんぜんなんか…」のように言いよんでいる発話を引き継ぎ、聞き手である話者Bは話者Aが言おうとした発話内容が理解でき、2Bのように「なんかペースとかも、質問とかも変じゃないですか?」と具体的な発話内容で「問い返し」の共話的反応を行い、「相手助け」の機能を果たしている。

会話例 87)=(28)ベトナムの食べ物の話： A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: でもフォーよりもっとおいしいものとかも、あるんですけどー。~~~~~
- 2 B: あー、(うん)麺類で?
- 3 A: うん麺類で(へー)。

会話例 88)海外で日本語を教える話： A・B(20代女性同士)の会話

- 1 A: うん、えーなんか、向こうでなんか交流してた(うん)日本語を学んでる人に教えようと思っても、(うんうん)なかなかぜんぜんなんか…。~~~~~
- 2 B: なんかペースとかも、(<笑い>)質問とかも変じゃないですか?<笑い>。
- 3 A: っけかもうね、お、教えることはできない、分かんない、日本語が。

ここでは、波線(~~~~~)の省略されている部分に対し、それぞれ「理解できていないこと」

「理解できたこと」が成立要因として働いている。

#### 10.4.2.1.3. 遮り

「遮り」の共話的反応の型は、話し手の発話と重なるのを承知の上で、聞き手が発話を開始し、その結果、話し手の発話を途中で中止に追い込む発話であるが、主に会話例89)でみるように、「補足」の機能として使用されていることが確認できた。ここでは、1Aの話し手の先行発話が「あのう…」と言いよどんでいるところを聞き手が「なんか」と遮ったあと、「紫のユニホーム姿で…」という発話で補足の機能を果たしている。会話例90)では、小さい頃遊びでよくできた傷跡の話をしていて「(前略) こちら辺にありますねー、これが」という話し手の先行発話を「こっちー」という表現で遮り、「反対ですね」という発話で「反論」の機能を果たしている。

会話例 89) 優勝野球チーム所属の選手の話：A(40代男性)-B(30代男性)の会話

- 1 A: そのときはさすがにま、盛り上がってね、それ以降はなかなかね、<あのう…>{<}  
【【。~~~~~
- 2 B: 】】 <なんか>{>}紫のユニホーム姿で…。
- 3 A: そうそうそうそうそう<2人笑い>。

会話例 90) 傷跡の話：A(30代男性)-B(20代女性)の会話

- 1 A: と、あと顔もですねー、うん、こちらへん、こう…、えーと、だー、こちら辺にあ  
りますねー、<これが>{<} 【【。~~~~~
- 2 B: 】】 <こっちー>{>}反対ー<ですね>{<}。
- 3 A: <あ、こっちでした>{>}っけ。

ここでは、波線(~~~~)の省略されている話し手の非発話部分について聞き手が「理解」できたことが成立要因となり、それぞれ「補足」や「反論」の機能を果たしている。

#### 10.4.2.2. 明示されている話し手の発話部分に対する共話的反応

##### 10.4.2.2.1. 言い換え

話し手の先行発話と同じ内容のことが、表現を変えて聞き手によって発話されるパターンである「言い換え」の共話的反応の型は、主に「確認」と「同意」の機能で使われる場合が多い。会話例91)の場合、1Aの「夕方にて、行って停泊して、朝8時くらいに、出れるって形で」の「言いさし」の話し手の先行発話が理解はしているものの、納得まではできておらず、「船の中泊まるんですね」と「言い換え」の共話的反応の型を用い、話し手に

「確認」をとっている。また、会話例92)では、1Aの「英語も...できる...」と言いよどんでいるの話し手の先行発話に対し、聞き手が理解した上で納得もでき、聞き手は2Bのように「英語すごい」と「言い換え」、相手の話に「同意」を示している。

会話例 91)船旅の話：A-B(20代女性同士)の会話

- 1 A: こっち夕方にでて、行って停泊して(あー)朝8時くらいに(あぁ)出れるって形で。
- 2 B: 船の中泊まるんですね、じゃあ、そういうと。
- 3 A: なんかそれもすごかったですよ、なんか。

会話例 92)=25) 授業担当の先生についての話：A-B(20代男性同士)の会話

- 1 A: でも「先生1姓」先生だったら、英語も…できるから…。
- 2 B: そうですね、「先生1姓」先生英語すごいですね<笑い>。
- 3 A: もうホントに、すらすらとこう、原文、読んでいらっしやるじゃないですか(うーん)?  
辞書もこう読まないで<笑い>。

ここでは、波線(~~~~)の明示された話し手の発話部分が、それぞれ理解はしたものの、「納得できていないこと」「納得できていること」が成立要因となっている。

#### 10.4.2.2.2. 繰り返し

話し手の発話(内容)をオウム返しする発話である「繰り返し」は、「同意」と「確認」の機能で使われることが多いことが分かった。具体的には会話例93)の会話例では、「SARSの騒ぎで」という「言いさし」の先行発話に対し、聞き手が「SARSで」と繰り返して、確認をとっていることが分かる。ここでは、明示されている話し手の言っていること「SARSの騒ぎで」という発話内容は理解できたものの、SARSの騒ぎで帰されることが納得できず、成立要因として働いている。会話例94)では、1Aの「もうメールで」という「言いさし」の先行発話に対し、「メールで、来ますもんね」と繰り返すことにより、「同意」を示している。ここでは、先ほどの会話例91)のように、明示されている話し手の発話部分に対し、聞き手が納得できていることが成立要因として働いている。

会話例 93) =26) SARSで一時帰国した時の話：A-B(20代男性同士)の会話

- 1 A: うん、たまたま、なんかね、<SARSの騒ぎで><<笑い>。
- 2 B: <SARSで>><笑いながら>。
- 3 A: そう、1回ね、帰らされたみたい(あー)感じなんですけど、もうね。

会話例 94)大学からの連絡方法の話：A(40代男性)・B(30代男性)の会話

- 1 A: で、普通に、もうメールで。  
 2 B: メールで、来ますもんね。  
 3 A: で、いち、最近驚くのはあの、大学でもう、ね、あの、なんかもう連絡はメールでね。

以上から、共話をなす聞き手の共話的反応の型として「先取り」、「言い換え」、「問い返し」、「遮り」、「繰り返し」などが確認できた。また、それぞれの共話的反応の型は「確認」、「相手助け」、「同意」、「補足」、「共感」、「反論」、「理解の表明」などの機能を果たすことが分かった。さらに、「予測」、「理解不足」、「理解」、「納得不足」、「納得」などが成立要因として働いていることが分かった<sup>26</sup>。

### 10.5. 分析と考察

本節では形式と機能に注目し、定量的分析をもとに考察を行う。10.5.1.では初対面における共話の出現状況について、10.5.2.では使用頻度からみた先行発話と共話的反応の有機的關係について、10.5.3.では共話の展開構造について分析する。

#### 10.5.1. 共話の出現状況

共話出現数を集計した結果、次の図39の通り、初対面30代男性ベース雑談で1.25%、初対面20代同性同士雑談で2.83%、両者を合わせての平均は2.04%であった。

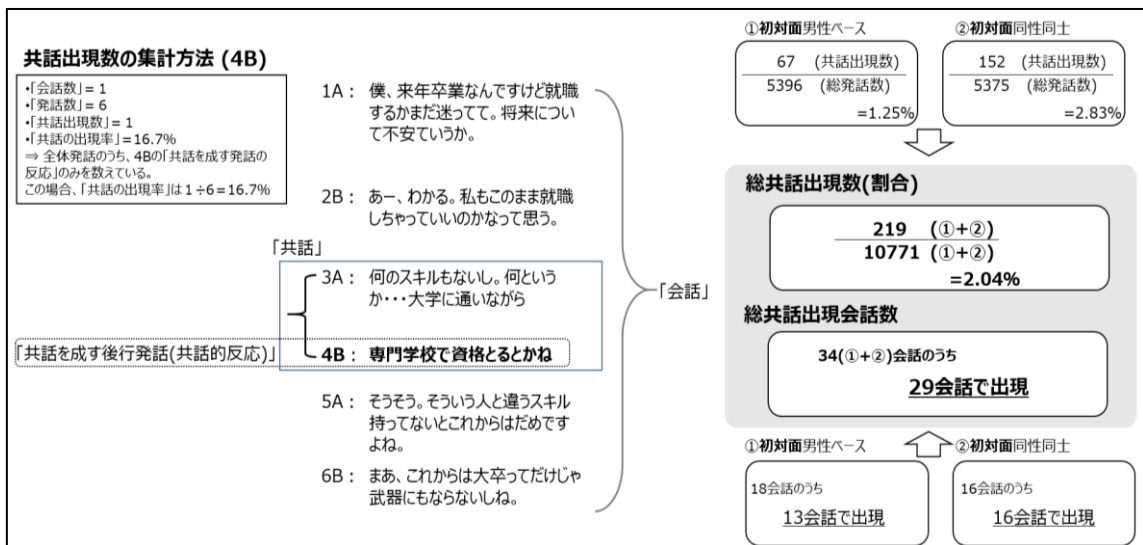


図 39 共話出現数の集計方法と出現状況

<sup>26</sup> 共話的反応の型および機能、成立要因の判定は先述したように筆者と母語話者3人によるものであるが、話しの内容、話しの前後の流れ、イントネーション、声の大きさ、スピードなど音調的な特徴も合わせて考慮した結果である。

母語話者同士の談話を分析した宇佐美・木林(2002)、木林(2014)もそれぞれ1.3%、2.2%という割合で共話が起これるということを報告しており、これらの研究を支持する結果が出たといえる。ただし、①初対面男性ベース雑談の自然談話では18会話のうち13会話で共話が見られ、②初対面同性同士雑談の自然談話では全16会話全てで共話が確認できた。このように、共話の出現率は2%台に留まり低いものの、全34会話の中29会話で共話が出現していることが分かった。

先述の10.2.1.の成立要因の観点で述べたように、初対面のような共通理解を前提としない場面での共話の運用を探り、成立前提を再考したのは、共話が成立するために「共通理解が前提となる(水谷1993)」とする主張に対し、「相手との共通理解を求めない場合にあって用いる(嶺川2001)」のように相反する主張が見られたためである。ここでの結果からは、共話は水谷の主張するように必ずしも共通理解を前提とするわけではなく、初対面のような共通理解を前提としない場面でも共話により互いに共通理解を図っていることが窺える。

#### 10.5.2. 使用頻度からみた先行発話と共話的反応の有機的關係

10.1.で言及したように、従来の研究では、共話の展開構造について話し手、聞き手といったそれぞれの立場からの分析はなされていないのが現状である。次の表43は、初対面会話における共話をなす話し手の先行発話と聞き手の共話的反応の關係について、その使用頻度に応じてまとめたものである。

表 43 使用頻度からみた先行発話と共話的反應との關係

| 話し手の先行発話 |     | 聞き手の共話的反應 |     |      |    | 話し手の先行発話 |    | 聞き手の共話的反應 |    |       |      | 話し手の先行発話 |      | 聞き手の共話的反應 |    |    |    |
|----------|-----|-----------|-----|------|----|----------|----|-----------|----|-------|------|----------|------|-----------|----|----|----|
| 形式       | 回数  | 共話的反應の型   | 回数  | 機能   | 回数 | 形式       | 回数 | 共話的反應の型   | 回数 | 機能    | 回数   | 形式       | 回数   | 共話的反應の型   | 回数 | 機能 | 回数 |
| 言いさし     | 150 | 先取り       | 83  | 確認   | 36 | 先取り      | 30 | 言い換え      | 6  | 相手助け  | 28   | 先取り      | 11   | 補足        | 4  |    |    |
|          |     |           |     | 共感   | 15 |          |    |           |    | 確認    | 2    |          |      | 共感        | 2  |    |    |
|          |     |           |     | 同意   | 19 |          |    |           |    | 相手助け  | 4    |          |      | 同意        | 2  |    |    |
|          |     |           |     | 補足   | 8  |          |    |           |    | 同意    | 1    |          |      | 相手助け      | 1  |    |    |
|          |     |           |     | 相手助け | 5  |          |    |           |    | 理解の表明 | 1    |          |      | 反論        | 1  |    |    |
|          |     | 言い換え      | 31  | 確認   | 14 | 遮り       | 4  | 遮り        | 4  | 4     | 補足   | 4        | 繰り返し | 6         | 同意 | 3  |    |
|          |     |           |     | 同意   | 10 |          |    |           |    |       | 確認   | 3        |      |           |    |    |    |
|          |     |           |     | 共感   | 4  |          |    |           |    |       | 相手助け | 2        |      |           | 同意 | 1  |    |
|          |     |           |     | 補足   | 3  |          |    |           |    |       | 確認   | 3        |      |           |    |    |    |
|          |     | 問い返し      | 17  | 確認   | 15 | 問い返し     | 2  | 問い返し      | 2  | 2     | 共感   | 2        | 言い換え | 1         | 同意 | 1  |    |
|          |     |           |     | 共感   | 2  |          |    |           |    |       | 補足   | 3        |      |           |    |    |    |
|          |     | 繰り返し      | 10  | 確認   | 4  | 繰り返し     | 10 | 繰り返し      | 10 | 10    | 共感   | 3        | 遮り   | 5         | 補足 | 3  |    |
|          |     |           |     | 同意   | 2  |          |    |           |    |       | 相手助け | 2        |      |           | 反論 | 1  |    |
|          |     |           |     | 補足   | 1  |          |    |           |    |       | 相手助け | 1        |      |           | 共感 | 1  |    |
|          |     | 遮り        | 9   | 補足   | 6  | 遮り       | 9  | 遮り        | 9  | 9     | 反論   | 2        | 遮り   | 9         | 9  | 9  | 9  |
| 相手助け     | 1   |           |     | 相手助け | 1  |          |    |           |    |       |      |          |      |           |    |    |    |
| 合計       | 150 | 合計        | 150 | 合計   | 43 | 合計       | 43 | 合計        | 26 | 合計    | 26   |          |      |           |    |    |    |

先行研究で言及のあった「言いさし」が219例のうち150例で一番多いことが確認できた。しかし、これまであまり言及されたことのない「言いよどみ」や「遮られ中止」による話し手発話の表現形式も69例確認できた。また、共話をなす聞き手発話の反応の型と機能を探ったところ、聞き手発話の反応の型としては「先取り」が最も多いことが分かった。5種類の分類の中で「先取り」と「遮り」だけが、会話に意味内容を積極的に付け足すことができる。共話の反応の型のなかでも、会話の内容を進めていくのがこれらの型である。ただし、「遮り」は、相手が話しているところに割って入ることから、相手に不快感を与える場合もあるため、多用されないのだと考えられる。実際、「遮り」が使われる場合には、「補足」のための使用が最多である。

全体的に「先取り」の共話的反応の型が多いが、機能においては一様ではないことは注目に値する。具体的には、話し手発話を引き取る「先取り」の共話的反応の型が「言いさし」の場合は「確認」の機能、「言いよどみ」の場合は「相手助け」の機能、「遮られ中止」の場合は「補足」の機能を主に果たすことが分かった。「言いさし」の話し手発話を引き取る「遮り」以外のほとんどの共話的反応の型では、「確認」のための使用が多く見られた。これは共通理解の少ない初対面での談話であるために、会話において「確認」がより多く必要になったためだと考えられる。また、「言いよどみ」の話し手発話を引き取る「遮り」以外のほとんどの共話的反応の型では、「相手助け」のための使用が多く見られた。これは適当な表現がすぐに出てこず口ごもっているところを、聞き手が助けようとしたためだと考えられる。さらに、話し手が話している途中で聞き手が入り込んで中断させられる「遮られ中止」の話し手発話を引き取る共話的反応の型では、「遮り」と同様に「先取り」でも話し手の発話内容に対し知らない情報を付け加える「補足」のための使用が多く見られた。以上の結果は、共話の展開構造を明らかにするためには、共話的反応の型だけではなく、それらが担っている成立要因まで注目する必要があることを示唆している。そこで、次の10.5.3.では、共話的反応の型の成立要因に注目し、共話の展開構造を明らかにする。

### 10.5.3. 成立要因からみた共話の展開構造

10.4.2.で共話的反応の型を分類するにあたって、話し手の先行発話における省略された部分ないしは明示された部分に対して共話的反応が行われることを確認した。その際、共話的反応の型が果たすそれぞれの成立要因に注目した結果、聞き手が「予測していること(以下、「予測」と称する)」、「理解していること(以下、「理解」と称する)」、「理解していないこと(以下、「理解不足」と称する)」、「納得していること(以下、「納得」と称する)」、「納得していないこと(以下、「納得不足」と称する)」を示すために共話的反応をすることを指

摘することができた。共話的反応の型では全体的に「確認」のための使用が多いことは、お互いの共通理解が少ないことの表れであり、聞き手が何度も話し手の意図を推測、予測して確認を求めた結果であると考えられる。

共話的反応が話し手の先行発話を引き取る形で行われるのは、聞き手が話し手の発話を「予測」するからだということは、従来の研究でも指摘されている(堀口1997)。たとえば、先述の授業担当の先生の話である会話例85)は、この主張に合致する典型的な例である。宇佐美・木林(2002: 19)はそれに加えて、聞き手が後行発話(本章でいう共話的反応)を発することは、相手の発話を単に「予測」するだけではなく、その「予測」を相手に示すことになるという。理解したことを示すために「言い換え」や「繰り返し」はしないとする西阪(1997)の指摘を支持する立場から、共話的反応は相手の言いたいことを「予測」したためではなく、「理解したことを示す」ために起こると主張しているのである。宇佐美・木林は、共話的反応として「繰り返し」の出現率が低いことをその主張の根拠としている。共話は「理解したことを示す」というこの主張を支える研究としては、他にもHayashi&Mori(1998)、森本(2002)、宇佐美(2006a)などが挙げられる。10.4.2.で確認した受講したツングース語についての会話例86)、海外で日本語を教える話の会話例88)、優勝野球チーム所属選手の話の会話例89)、傷跡の話の会話例90)などは、こうした主張を裏付けるといえよう。

しかし、今回の調査では、先述の表43の通り、「言い換え」の出現数は「先取り」の次に多いことが確認された。それに対し「繰り返し」は出現数が少ない。しかしながら、「繰り返し」も「言い換え」も、ともに「同意」と「共感」の機能を果たす場合が多く、これら「同意」や「共感」の機能は「理解」と密接な関連がある。このことは、西阪の『『自分がなにかを理解したことを示すこと』をするためには、かえって、その当のものについて語ったり、それを繰り返したり、それを言い換えたりしてはいけない(西阪1997: 170)』という指摘とは相容れない。西阪を支持する宇佐美・木林(2002)などの主張も、調査結果とは食い違っている。こうした「言い換え」や「繰り返し」は、「理解したことを示す場合には使われない」と一括りにするべきではない。その成立要因は、話し手の先行発話の省略された部分と明示された部分のいずれに対してその共話的反応がなされたのかによって、そしてまた、その共話的反応が「確認」の機能を果たすかどうかによって、それぞれ異なると考えられる。また、省略された部分に対しては相手の言っていることの意味が理解できているかどうかによって、明示された部分に対しては相手の言っていることについて納得できているかどうかによって異なる共話的反応が行われると考えられる。今回の調査対象資料は母語話者同士の会話を対象としたため、明示されている部分に対し理解できていないことを示す共話的反応の例はみられなかったが、そうした反応も想定される。たとえば、



非母語話者との会話や母語話者であってもお年寄りとの会話で、相手の言っていることが明示されても意味が分からない場合になされる共話的反応がそれに当たる。

これまで明らかになった話し手の先行発話の省略された部分に対して行われる共話的反応について整理すると次の通りである。

「先取り」を用いた共話的反応が「確認」の機能を果たす場合、これは「予測」を示す。

「問い返し」を用いた共話的反応が「確認」の機能を果たす場合、これは「理解不足」を表す。さらに、「先取り」、「遮り」、「問い返し」を用いた共話的反応が、「同意」、「相手助け」、「補足」、「共感」、「反論」の機能を果たす場合、これは「理解」を表す。

次に、話し手の先行発話の明示された部分に対して行われる共話的反応についてまとめる次の通りである。

「繰り返し」、「言い換え」を用いた共話的反応が「確認」の機能を果たす場合、これは「納得不足」を表す。また、「繰り返し」、「言い換え」を用い「共感」、「同意」、「補足」、「相手助け」、「理解の表明」の機能を果たす場合、これは話し手の言っていることに対しての「納得」を表す。

次の表44は、このような話し手の先行発話の省略されている部分と明示されている部分に対する共話的反応の成立要因ごとの出現回数を示したものである。

表 44 先行発話の省略・明示に対する共話的反応の成立要因

| 先行発話の部分 | 成立要因 | 回数  |
|---------|------|-----|
| 省略      | 予測   | 39  |
|         | 理解不足 | 18  |
|         | 理解   | 107 |
| 明示      | 納得不足 | 21  |
|         | 納得   | 34  |

自然談話における共話的反応では、話し手の先行発話の省略された部分に対する「理解」を表す場合が出現頻度107回で最も多いことが分かった。宇佐美・木林(2002)はもちろん、Hayashi&Mori(1998)、森本(2002)などの研究とも合致する定量的な傾向が示されたが、先述の通り、その理由はこれらの研究が主張するものとは異なる。

次の図40は、以上の共話の展開構造に関して、今回、確認できた主な結果をまとめたものである。

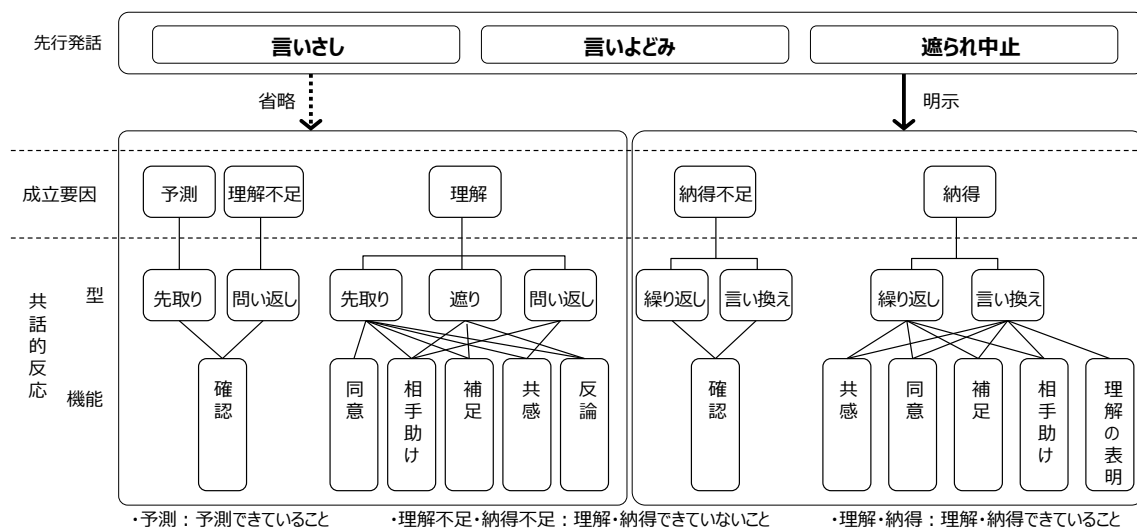


図 40 共話の展開構造

## 10.6. 本章のまとめ

共話において、話し手の先行発話はどのような表現形式で終了するのか、また、聞き手はどのような反応の型をとるのか、さらに、それぞれの型がどのような機能を果たすのかを分析し、共話の構造について考察を行った。その結果をまとめると次の通りである。まず、本研究における共話の範囲は、その定義に従って、従来の研究が共話と見なしていた範囲よりも狭く規定されている。それにもかかわらず、全34会話中、29会話において共話の成立が確認できた。したがって、水谷(1993)の主張のように必ずしも共通理解を前提とするわけではなく、初対面のような共通理解を前提としない場面でも共話をすることにより相互に共通理解を図っていくことが分かった。

次に、共話がなされるためには話し手と聞き手の共同作業が必要だという指摘に関連して、その共同作業において具体的にどのような表現形式が用いられるのかについて、話し手と聞き手のそれぞれの立場から再考した。その結果、共話をなす話し手の先行発話の表現形式として「言いさし」、「言いよどみ」、「遮られ中止」が確認できた。そのうち、「言いさし」が最も多かった。また、従来の研究ではあまり言及のなかった「言いよどみ」や「遮られ中止」も確認できた。

さらに、共話をなす聞き手の反応の型として「先取り」、「言い換え」、「問い返し」、「遮り」、「繰り返し」が確認できた。また、反応の型が担う機能としては「確認」、「相手助け」、「同意」、「補足」、「共感」、「反論」、「理解の表明」が確認できた。ここで注目したい点は、全体的に「先取り」の共話的反応の型が多いが、機能においては一様ではないことである。話し手の先行発話を引き取る「先取り」の共話的反応の型が「言いさし」の場合は「確認」の機能、「言いよどみ」の場合は「相手助け」の機能、「遮られ中止」の場合は「補足」の

機能を主に果たすことが分かった。

こうして、話し手の先行発話の明示された部分に対して行われる共話的反応の型と省略された部分に対して行われる共話的反応の型の双方について、その形式・機能が成立要因と密接に関わっていることを分類によって示すことができた。日本語教育現場では、共話を直接授業で取り上げ教える必要はないと現段階では考えている。しかし、教える側の知識として持つておくことで、学習者から質問がきた場合は対応することができるだろう。一方、学習者にとっても共話的反応の表現形式と機能が「予測」、「理解の有無」、「納得の有無」といった成立要因に基づいていることを知識として持っていることは、共話が行われる理由や目的を理解することにつながる。さらに、共話を運用する際の手助けになると考えられる。

日常談話が話し手のみではなく、聞き手との相互作用によって成り立つという観点から提案された水谷の「共話」は、日本語の会話の進め方における談話の相互性に着目したものである。話し手と聞き手の相互性の側面が強調されて以来、日本語教育においてはあいづち的反応と共にその重要性が言及されてきた。本章における共話の展開構造の分析はこうした文脈に沿うものである。今後、相互作用的コミュニケーションのための日本語教育への活用が期待できよう。

## 第 11 章 日・尼接触場面における日本語学習者と母語話者の共話の運用

### 11.1. はじめに

近年、日本語学習者が急増しその学習人口が約87万人と世界第2位になり<sup>27</sup>、インドネシア国内における日本への関心が高まり日・尼接触場面の増大が予想される。実際、EPAなどの制度により日本語母語話者との接触機会も増えているのが現状である。

実際、非母語話者である筆者が2年間で3回に渡りインドネシアのバンドンでインドネシア人と接した経験を持っている。その際、インドネシア人日本語学習者との日本語での会話で感じた印象は、日本での留学や滞在経験がないにも関わらず、会話への興味の示し方が上手く、相手に好感を与えるということであった。その背景として、聞き手としてのふさわしいあいづちの運用ができていないかと考えられる。正保(1988)は、「インドネシア語でも日本語のように「聞いている」、「同意」、「疑念」などを表すことばが存在すること、日本語の接続詞にあたる「lalu(それで)」や「kemudian(で)」、「tersu(続けて)」などが相手の発話に対する関心を示すと同時に、相手の話を促す一種のあいづちのことばとして使用されること(正保1988: 34-379)」を指摘している。このことから、あいづちという概念とまでは言い切れないが、学習者の母語に存在する類似した言語現象が目標言語である日本語の流暢さにつながったのではないか。しかし、前章の第7章、8章で確認したように、韓国人日本語学習者の場合もそうであるが、学習者の母語に目標言語に類似した言語現象があるからといって必ずしもふさわしい日本語の運用ができるとは限らない。

第3部で確認した日本語母語話者と韓国人日本語学習者の場合と同様に、日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の場合も接触場面における異文化間コミュニケーション上のギャップが生じる可能性が考えられる。第1章でも言及した通りに、旺盛な研究成果を残している英語圏や中国人日本語学習者を対象にした研究に比べ、インドネシア人日本語学習者の聞き手言語行動に関する研究は管見の限りない。

そこで、本章では日・尼接触場面におけるインドネシア人日本語学習者と母語話者がどのように共話を運用するのか、共話をなす話し手の先行発話・聞き手の共話的反応および機能に注目し、その使用傾向を明らかにする。

以下に本章の流れを示しておく。11.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにす

<sup>27</sup> (注釈8と同様)国際交流基金「2012年度日本語教育機関調査結果概要抜粋」  
[https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey\\_2012/2012\\_s\\_excerpt\\_j.pdf](https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/dl/survey_2012/2012_s_excerpt_j.pdf)(2015年12月25日アクセス)

る。11.3.では分析に使用するデータを提示する。11.4.では接触場面における共話の出現状況と具体的な類型について分析する。11.5.では共話をなす話し手発話の表現形式、共話的反応の型および機能について日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の共話の運用を比較考察し、11.6.では本章をまとめる。

## 11.2. 先行研究

宇佐美(2001a)は、共話が起きる際、日本語母語話者による共話の完結が多いこと、日本語学習者が言いよどんでいるところに母語話者が助け舟を出すことなどを報告している。また、日本語学習者も相対的に少ないとは言え、「予測による発話の完結(堀口1997)」の形で締めくくることがあると指摘している。

宇佐美・木林(2002)は、後行発話の形式を「一語文」、「中途終了型発話」、「終了型発話」の3つに、機能を「質問」、「答え」、「確認」、「叙述」の4つに分けて形式と機能という観点から分析を行っている。その結果、中級程度の日本語能力を持つ学習者は母語話者の発話を先取りすることもあると指摘している。また、後行発話の形式においては、「終了型発話」の形をとる場合が多いこと、後行発話の機能としては「叙述」が最も多く、「答え」、「確認」の機能を果たす後行発話は見られないこと、「質問」の機能においては母語場面より接触場面の方での出現割合が4倍ほど高いことが報告されている。

笹川(2007)は、母語場面の同文化における共話の類型を分類した黒崎(1995)を参考に、接触場面に見られる共話の類型を①あいづちやパラフレーズなどの副次言語による共話、②共感を表わす文を添加する共話、③発話行為方略などをストラテジーとして用いる共話、④共話の連鎖や、話題領域の交換によるディスコース・レベルの共話の4種類に大きく分類している。これらの類型別分析により学習者も共話の担い手となっていることが指摘されている。

木林(2011)は、主な結果として、日本人と中級話者との接触場面では1.89%、日本人と超級話者との接触場面では1.53%の共話の生起率を示しており、中級話者の先行発話には「言葉探し」が多いと指摘している。

以上の先行研究は、いずれも、母語場面(水谷1993、黒崎1995など)や日本語学習者同士(堀口1997)の会話と同様に、接触場面においても共話が成されると指摘している。また、宇佐美・木林(2002)は、母語場面、接触場面共に共話の生起率が高くはないが母語場面と同様に接触場面でも共話の運用が確認できたと報告している。ここから、本章で対象とする日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者との接触場面においても、共話が運用される可能性は予想できる。しかしながら先述したように、インドネシア人日本語学習者の

共話的反応を分析の対象とした研究は見当たらず、分析の対象にする必要が要求される。

本章では、接触場面における共話の運用についての先行研究をもとに、以下の4点について考察する。

- (1) 宇佐美(2001a)は、日本語母語話者による共話の完結が多いとしているが、インドネシア人日本語学習者とのコミュニケーションにおいても同様なことが言えるだろうか。
- (2) 笹川(2007)、宇佐美・木林(2002)では、中級程度の日本語能力を持つ学習者は母語話者の発話を先取りすることもあるなど、類型の分類について言及されている。インドネシア人日本語学習者の場合ではどのような状況であるかを共話的反応の型を整理した上で考察する必要はないだろうか。
- (3) 同じく宇佐美・木林(2002)では、共話の後行発話の機能を4分類し、接触場面では「確認」など特定の機能がみられないと指摘しているが、再考の余地はないだろうか。
- (4) 木林(2011)により、先行発話においては「言葉探し」が最も多いとされているが、話し手発話の表現形式を類別して調べる必要はないだろうか。

ただし、次節で述べるように従来の研究では共話をなす聞き手発話の類型や機能については散発的に言及があるものの、類型と機能が混在しており、実態が明確にされていないこと、話し手発話の表現形式についてはあまり言及されていないことなどが課題として残されている。

そこで本章では、これらを体系的に考察するため、①話し手発話の表現形式、②類型(反応の型)、③聞き手発話の機能、の3点に着目し、接触場面が行われる際にこれらがどのような役割を果たしているかを分類し、共話の特徴をさらに明らかにすることを目的とする。これにより接触場面における共話をより明確に把握することを目指す。

### 11.3. 研究方法

従来の研究でも共話の運用調査の手法として用いられてきた初対面会話分析を行うこととし、そのデータを新たに収録した。具体的な会話データの概要及び分析の方法は次の通りである。

#### 11.3.1. データの概要

本章で用いる談話データは日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の1対1の会話を録音し、文字化した音声付きデータである。協力者は20代、30代の日本語母語話者4名と20代から40代のインドネシア人日本語学習者5名であり、それぞれの初対面の雑談会

話を記録した。データの概要は、以下の表45の通りである。

表 45 共話運用の調査データの概要

| 会話<br>番号      | 会話者( J:日本人/I:インドネシア人) |             |    |     |            |                  |               | 発話<br>数 | 発話<br>時間<br>(分) |
|---------------|-----------------------|-------------|----|-----|------------|------------------|---------------|---------|-----------------|
|               | 話者<br>記号              | 出身地<br>滞在歴  | 性別 | 世代  | 専攻         | 職業               | 日本<br>語能<br>力 |         |                 |
| 1             | J1                    | 東京都         | 女性 | 30代 | 日本語<br>教育学 | 大学院生・日<br>本語教師   |               | 208     | 12              |
|               | I1                    | 6年          | 女性 | 40代 | 日本語        | 大学院生・日<br>本語学校経営 | N1            |         |                 |
| 2             | J2                    | 東京都         | 男性 | 20代 | 日本文<br>化   | 学部生              |               | 478     | 14              |
|               | I2                    | 滞在歴<br>(なし) | 男性 | 20代 | 日本語        | 大学院生・日<br>本語教師   | N2            |         |                 |
| 3             | J3                    | 福岡県         | 女性 | 20代 | 日本文<br>化   | 学部生              |               | 473     | 17              |
|               | I3                    | 滞在歴<br>(なし) | 女性 | 20代 | 英語         | 小学校教師            | N3/<br>独学     |         |                 |
| 4             | J4                    | 富山県         | 女性 | 20代 | 日本語<br>教育学 | 大学院生             |               | 127     | 13              |
|               | I4                    | 3ヶ月         | 女性 | 30代 | 日本語        | 大学院生・日<br>本語教師   | N1            |         |                 |
| 5             | J1                    | 東京都         | 女性 | 30代 | 日本語<br>教育学 | 大学院生・日<br>本語教師   |               | 144     | 10              |
|               | I5                    | 6ヶ月         | 女性 | 30代 | 日本語        | 大学院生・会<br>社員     | N1            |         |                 |
| 総発話数と総発話時間(分) |                       |             |    |     |            |                  |               | 1430    | 66              |

### 11.3.2. 分析方法

従来の研究では共話の種類を述べる際に、聞き手発話にのみ注目する傾向があり、共話の全体像を十分にとらえてはこなかったと考えられる。そこで、本章では、先述したように、接触場面における共話の展開構造を明らかにするため、話し手発話と聞き手発話のそれぞれの立場から構造を再考した。実際の自然談話データを考察し、表現形式と機能などを探り出し、共話をなす話し手発話と聞き手発話の両方の立場から再分類し提示している(表46)。なお、共話の判定については筆者と3名の母語話者に判定を依頼し、その判定が一致した場合のみをその判定結果とした。

表 46 従来の研究と本研究にける共話の種類 (表 27 の修正掲載)

|                |                                                                                                                                                                                     |                            |
|----------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 水谷(1988a、1993) | 終助詞の使用、言いさし                                                                                                                                                                         |                            |
|                | あいづち、相手の発話を完結、相手の発話内容の復唱                                                                                                                                                            |                            |
| 黒崎(1995)       | 先取り型、補足型、助け舟型、言い換え型、共感型、割り込み型、リレー型                                                                                                                                                  |                            |
| 宇佐美・木林(2002)   | 後行発話の形式：一語文、中途終了型発話、終了型発話                                                                                                                                                           |                            |
|                | 機能：質問、答え、確認、叙述                                                                                                                                                                      |                            |
| 笹川(2007)       | (1) 笑い、あいづちやパラフレーズ等により共感を示す共話<br>(2) 文の後半をもう一人の話者が引き継ぎ、完成させる共話<br>(3) 推測などより相手の言うべき文を添加する共話<br>(4) 発話行為により相手と協調関係を志向する共話<br>(5) 文を引き継ぎ助ける共話<br>(6) 発話連鎖による複雑な共話<br>(7) 談話構成のレベルでの共話 |                            |
| 本章             | 話し手発話の表現形式                                                                                                                                                                          | ①言いさし、②言いよどみ、③遮られ中止        |
|                | 聞き手発話の反応の型                                                                                                                                                                          | ①先取り、②言い換え、③問い返し、④遮り、⑤繰り返す |
|                | 聞き手発話の機能                                                                                                                                                                            | ①確認、②相手助け、③同意、④補足、⑤共感、⑥反論  |

#### 11.4. データの分析

本節では母語話者(J)とインドネシア人日本語学習者(I)の共話運用の特徴をみるため、①共話の出現状況、②分析の対象とした「話し手発話の表現形式」、「共話的反応の型」、「共話的反応の型の機能」の具体例および量的出現傾向などについて概観する。

##### 11.4.1. 共話の出現状況

調査データをもとに、母語話者(J)とインドネシア人日本語学習者(I)の会話中に出現したJ・Iそれぞれの共話的反応の出現数および共話数を調べ、まとめたのが以下の表46である。

宇佐美・木林(2002)は、母語場面、接触場面ともに共話の生起率は1%台に留まると指摘している。また、木林(2011)も日本人と中級話者との接触場面1.89%、日本人と超級話者との接触場面1.53%の共話の生起率が見られたと報告している。従来の研究においては母語場面同様に接触場面においても共話は観察されるが、共話の生起率は低いことが指摘されている。このような状況の中で、次の表47の共話をなす共話的反応の出現数に注目すると、インドネシア人日本語学習者が母語話者と同等以上に多用するという結果が得られた。



表 47 共話的反応と共話の出現数

| 会話番号    | 1  |    | 2  |    | 3  |    | 4  |    | 5  |    |
|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 話者記号    | J1 | I1 | J2 | I2 | J3 | I3 | J4 | I4 | J1 | I5 |
| 共話的反応の数 | 8  | 11 | 4  | 0  | 4  | 3  | 1  | 5  | 6  | 7  |
| 共話出現数   | 19 |    | 4  |    | 7  |    | 6  |    | 13 |    |

#### 11.4.2. 分析の対象

本章では、自然談話における共話の展開構造を明らかにするために「話し手発話の表現形式」、「共話的反応の型」、「共話的反応の型の機能」を分析の対象とする。それぞれの具体的な種類、定義、具体例は次の表48の通りである。

表 48 共話をなす話し手発話の表現形式と聞き手発話の反応の型および機能

(それぞれの表現形式、反応の型、機能に関連する部分には下線で示す)

| 先行発話の表現形式          | 定義および具体例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言いさし <sup>28</sup> | <p>■話し手が文の最後まで言いきらず発話の途中で間を作る発話</p> <p>1 J1 で、ご主人はそのまま就職,,<br/>                 2 I1 ではなくて、えっと、博士まで。<br/>                 3 J1 あ、[地名4]の? 【。</p>                                                                                                                                                                                       |
| 言いよどみ              | <p>■適当な表現がすぐに出てこず、口ごもる発話</p> <p>1 I3 そのくらい、はい、もう (笑い) …<br/>                 2 J3 じゃあ、終わります。<br/>                 3 I3 はい、じゃあ。ありがとうございます。</p>                                                                                                                                                                                         |
| 遮られ中止              | <p>■話し手と聞き手の発話の声が重なる場合が多く、話し手が話している途中で聞き手が入り込んで中断させられる発話</p> <p>1 J4 あー、<u>そうですね</u>。なんかよく日本のご飯で、<u>食べ物は (はい) あの、油だけでも、&lt;そのポークの&gt;&lt;{ } 【</u><br/>                 2 I4 &lt;そうですね&gt;&lt;{ } (はい) <u>それはそこまで確認するの、ま&lt;難しいです。はい。&gt;&lt;{ }</u><br/>                 3 J4 &lt;そうですね&gt;&lt;{ }、<u>難しいですよ</u>ね。(はい)なんかお菓子にも,,</p> |
| 共話的反応の型            | 定義および具体例                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 先取り                | <p>■話し手発話の先を予測するという発話</p> <p>1 J1 あ、道を聞く? あー東京駅に行きたい<br/>                 2 I5 <u>道を聞くときに、はい、東京駅に行きたいですか,,</u><br/>                 3 J1 どうやって行ったらいいですかみたいな (はい)、ああ</p>                                                                                                                                                               |

<sup>28</sup> 「言い切り」に対する意味で、主節を欠いた統語的に不完全な文による、内容的には完全な「文」と同等の完結性を持った発話を「言いさし」と定義する場合もある(白川 2009 : 1)。本章では、「本が…」と言いかけてやめたり、「フルーツ」と言おうとして「フル…」と言ってやめたりなど、比較的短時間の間に発話を打ち切ってしまふような発話まで視野に入れて分析の対象とした。

|          |                                                                                                                                                                                   |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 言い換え     | <p>■話し手発話と同じ内容を別の言い方で表現する発話</p> <p>1 J3 道の…</p> <p>2 I3 方法</p> <p>3 J3 <u>あつ、道を聞く？</u></p> <p>4 I3 はい、道を聞くとか</p>                                                                  |
| 問い返し     | <p>■話し手発話について質問する発話</p> <p>1 I1 いや、んー、まあ、実は主人の仕事で 【</p> <p>2 J1 <u>あ、もう、結婚しているんですか</u></p> <p>3 I1 そうなんですよ、(へー) で、子どもたちもいっしょに (へー) [地名4]にいて6年間くらいかな。</p>                          |
| 遮り       | <p>■話し手発話を途中で中断させる発話</p> <p>1 I3 おすすめのインドネシアの 【</p> <p>2 J3 <u>】今まで言ったのじゃないやつ</u></p> <p>3 I3 おー、それはね、えっとー、[地名2]の(うん)料理はどうですか？</p>                                                |
| 繰り返し     | <p>■話し手発話を同じ言い方で反復する発話</p> <p>1 J4 暖房は,,</p> <p>2 I4 あー、暖房は、あのつけました。</p> <p>3 J4 つけても朝起きた時に、あの一、痛いですね。</p>                                                                        |
| 共話的反応の機能 | 定義および具体例                                                                                                                                                                          |
| 確認       | <p>■話し手もしくは聞き手の情報について発話内容を確認する役割</p> <p>1 I2 【【えっと、言語学の…、</p> <p>2 J2 <u>言語学の博士。おー、なんか大学の先生、</u></p> <p>3 I2 はい。</p>                                                              |
| 相手助け     | <p>■話し手の言い淀みまたは長い間を助ける役割</p> <p>1 I3 行くとしたら,,</p> <p>2 J3 <u>日本に、行くときに、この日本語は覚えてた方がいいよっていう、</u></p> <p>3 I3 あーそっか、えっとえっと、あいさつとかかな？</p>                                            |
| 同意       | <p>■話し手の発話内容と自分の考えや意見が同様であることを示す役割</p> <p>1 J1 オセワナリマスね、あー、ヨロシクオネガイシマスね。あー。それもインドネシア語では,,</p> <p>2 I1 <u>ないんですよ、ヨロシクオネガイシマス。</u></p> <p>3 J1 でも、大切？</p>                           |
| 補足       | <p>■話し手の発話内容に対して知らない情報を付け加える役割</p> <p>1 J4 えー、やっぱり、インドネシアは暖かい国だから 【</p> <p>2 I4 <u>はい、そうです。一年中いつも暖かいので初めてそんなに(うん)寒いところに、はい</u></p> <p>3 J4 凄い暖かいから (はい) 凄い寒い</p>                  |
| 反論       | <p>■話し手の発話内容と自分の意見が同様でないことを示す役割</p> <p>1 J1 Hさんて、なご今[N]学の博士課程の方とこの前学会で会って(うん)、で、その彼女が[地名5]から東京に来たんですけど、その後[T]大学、多分そのY先生,,</p> <p>2 I1 <u>Yさん、うん、別の友達</u></p> <p>3 J1 あ、学生ですか？</p> |

### 11.4.3. 出現数による先行発話の表現形式および共話的反応の型

日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者との接触場面における、共話をなす話し手発話の表現形式を分析したところ、次の表49に示すように、日本語母語話者は「言いさし」を、インドネシア人日本語学習者は「言いさし」と「言いよどみ」を多く用いることが確認できた。

表 49 話し手発話の表現形式の出現数

| 表現形式  | 日本語母語話者 | インドネシア人日本語学習者 |
|-------|---------|---------------|
| 言いさし  | 16      | 9             |
| 言いよどみ | 4       | 10            |
| 遮られ中止 | 6       | 4             |
| 合計    | 26      | 23            |

次に、共話をなす聞き手発話の反応の型を分析したところ、次の表50のように、日本語母語話、インドネシア人日本語学習者ともに「先取り」を多く用いることが分かった。「問い返し」は日本語母語話者にその使用が多かった。

表 50 共話的反応の型の出現数

| 反応の型 | 日本語母語話者 | インドネシア人日本語学習者 |
|------|---------|---------------|
| 先取り  | 8       | 15            |
| 言い換え | 2       | 5             |
| 問い返し | 6       | 1             |
| 遮り   | 1       | 1             |
| 繰り返り | 6       | 4             |
| 合計   | 23      | 26            |

さらに、共話をなす聞き手発話の機能について分析したところ、次の表51のように母語話者の場合は主に「確認」の機能で使うのに対し、インドネシア人日本語学習者の場合は「補足」の機能で使うことが分かった。特に、両者の間での $\chi^2$ 検定を行った結果、有意な差があることが認められた(自由度=4、 $\chi^2=12.820$ 、 $p<.05$ 、残差  $\pm 1.96$ )。

表 51 共話的反応の型の機能の出現数

| 機能   | 日本語母語話者 | インドネシア人日本語学習者 |
|------|---------|---------------|
| 確認   | 12      | 3             |
| 相手助け | 5       | 5             |
| 同意   | 2       | 2             |
| 補足   | 4       | 14            |
| 反論   | 0       | 2             |
| 合計   | 23      | 26            |

## 11.5. データの考察

本節では、前節で明らかになった量的出現傾向をもとに、「話し手発話の表現形式」、「共話的反応の型」、「聞き手発話の機能」においてどのような質的な特徴があるのか、母語話者とインドネシア人日本語学習者との比較考察を行う。

### 11.5.1. 話し手発話の表現形式「言いさし」

話し手発話の表現形式のうち、母語話者に最も多く見られたのが、「言いさし」で16例、インドネシア人日本語学習者に最も多く見られたのは「言いよどみ」で10例、次に「言いさし」が9例であった。インドネシア人日本語学習者に「言いよどみ」が多く見られたのは、中級話者の先行発話には「言葉探し」が多く見られたという先述の木林(2011)の指摘を部分的に支持する結果となった。インドネシア人日本語学習者による「言いよどみ」発話は、日本語学習者であるがゆえ、適当な言葉がすぐに出てこなかったという要因も考えられるため、共話をなすために必要な話し手発話のうち、「言いさし」は母語話者の発話にもインドネシア人日本語学習者の発話にも比較的出現しやすい。しかしながら、「言いさし」発話が行われた話の内容を見てみると、母語話者とインドネシア人日本語学習者には相違が見られる。

以下の会話例(95)、(96)はそれぞれ日本語母語話者、インドネシア人日本語学習者の「言いさし」例である。会話例(96)はI4が以前研修地を訪れた際の話をしている場面である。東北地方である冬の研究地は寒く、暖房をつけなければならないという情報を持っているJ4が、下線部において、あえて「暖房は」と聞き手にバトンを渡すように発話を促している。ここには、相手と共に話を作り上げようとする気配りが感じられる。

会話例(95)東北での研修の話：J4-I4の会話

- 1 I4 あの、いいえ、朝起きたときに、痛く、痛くてびっくりしました。で【【
- 2 J4 暖房は、
- 3 I4 あー、暖房は、あのつけました。
- 4 J4 つけても朝起きた時に、あの一、痛いですね。
- 5 I4 つけても朝起きた時に、あの一、痛いでした。あの一うんはい。(へー)そして私だけではなく他の人も(ほー)何人か、あの一、同じ、はい、痛いです。
- 6 J4 えー、やっぱり、インドネシアは暖かい国だから【【
- 7 I4 はい、そうです。一年中いつも暖かいので初めてそんなに(うん)寒いところに、はい

会話例96)では、インドネシア人日本語学習者であるI5が、下線部において、先ほどの会話例95)の母語話者と同様に、「東京駅に行きたいですから」という「言いさし」の表現形式を用いている。しかしながら、I5の発話に躊躇や戸惑いを感じ取った聞き手J1が「「どうやっていったらいいですか」みたいな」と補足していることから、I5が気配りを意図して「言いさし」しているわけではないことがうかがえる。すなわち、母語話者の「言いさし」のように相手への配慮から会話のターンをゆずったわけではないということである。

会話例96)初めて日本に行く人に知ってもらいたい日本語についての話：I5-J1の会話

- 1 J1 あ、道を聞く？あー東京駅に行きたい
- 2 I5 道を聞くときに、はい、東京駅に行きたいですか,
- 3 J1 どうやっていったらいいですかみたいな (はい)、ああ
- 4 I5 そして、「ありがとうございます」。

#### 11.5.2. 「先取り」の共話的反応の型

11.2.で先述した、問題(2)を明らかにするため、共話的反応の型を分析したところ、「先取り」が母語話者、インドネシア人日本語学習者ともに最も多いという結果が出た。宇佐美・木林(2002)は中級程度の日本語能力を持つ学習者は母語話者の発話を先取りすることもあるとするが、インドネシア人日本語学習者の場合は母語話者よりもその使用に多様性が見られた。

「先取り」に対する共話的反応の型の機能を見てみたところ、母語話者は、「確認」、「相手助け」、「補足」の3種類を使用しているのに対し、インドネシア人日本語学習者は「確認」、「相手助け」、「補足」、「反論」、「同意」と、母語話者よりも多様な機能を用いながら適切に運用していることが分かった。また、「先取り」に関しては、「言いさし」に見られたような質の違いは見られず、インドネシア人日本語学習者でも運用できる可能性が高いことが分かった。以下の表52はインドネシア人日本語学習者が実際に「先取り」で用いた機能を例示したものである。

表 52 インドネシア人日本語学習者が「先取り」で用いた機能

|    |                                                                          |
|----|--------------------------------------------------------------------------|
| 確認 | 1 J3 日本人は多分、みんなスマトラって聞くと、ああ、あの何年か前に【<br>2 I3 <u>津波?</u><br>3 J3 っていう     |
| 補足 | 1 J5 へー、で、インドネシアでは...<br>2 I1 <u>インドネシアでは不動産と留学エージェント</u><br>3 J5 へえ、留学? |
| 同意 | 1 J1 オセワニナリマスね、あー、ヨロシクオネガイシマスね。あー。                                       |

|      |                                                                                                                                                                                                              |
|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|      | それもインドネシア語では,,<br>2 I1 <u>ないんですよ、「ヨロシクオネガイシマス」</u><br>3 J1 <u>でも、大切?</u>                                                                                                                                     |
| 相手助け | 1 J4 え[地名12]て、え...<br>2 I4 <u>あ、上です。北海道の下、埼玉、[地名12]、でもまだ本州</u><br>3 J4 えー、結構じゃ寒い                                                                                                                             |
| 反論   | 1 J1 あじゃ、今Yさんも,,<br>2 I1 <u>今、Yさんは、うちのママ、[地名7]にいるママに頼んでく笑い</u><br><u>&gt;ママのところに(へー)あの5日間。その後、えーと、今日か</u><br><u>らかな(はい)、[地名8]。で、スラバヤにある友達に頼んで、</u><br><u>(おー)でプロモ山という山がありますね、今晚登ると言っ、</u><br>3 J1 ふーん、そうなんだ。 |

### 11.5.3. 日本語母語話者の「確認」とインドネシア人日本語学習者の「補足」の機能

宇佐美・木林(2002)は、後行発話の機能として「確認」は見られないと指摘するが、本章での分析の結果、母語話者の後行発話(本研究でいう共話的反応)には「確認」、インドネシア人日本語学習者の後行発話には「補足」の機能が多く見られた。インドネシア人日本語学習者の場合、「確認」の機能が全く現れないわけではないが、その出現数は3例に留まっている。今回の自然談話はインタビュー形式であり、全般的に母語話者側から会話の端緒を作り、ターンをとって主導することが多くなっている。たとえば、次の会話例97)では、母語話者が、相手から引き出したI1 「いや、んー、まあ、実は主人の仕事で、、」という発話を材料に、下線部2J1 「あ、もう、結婚しているんですか」と会話を続け、話題を広げようとする母語話者の努力が窺える。

会話例97) 日本留学体験の話 : I1-J1の会話

- { 1 I1 いや、んー、まあ、実は主人の仕事で【 【
- 2 J1 あ、もう、結婚しているんですか
- 3 I1 そうなんですよ、(へー)で、子どもたちもいっしょに(へー)[地名4]にいて6年間くらいかな。

そして、次の会話例98)では、インドネシア人日本語学習者が、1J1 「じゃあご主人もジョグジャカルタに」から連想されるものを下線部2I1 「そう、主人もジョグジャカルタ。子どもも。」のように「補足」することによって、単純にこれに答えているのである。

会話例98) 住まいの話 : J1-I1の会話

- { 1 J1 あーえじゃあ、えとーご主人も[地名1]に,,
- 2 I1 そう、主人も[地名1] (あー)。子どもも(へー)。

### 3 J1 でももう息子さんたちって、日本の方が長い、わけではないか。

母語話者が推測を促し導こうとすることは、こうした「補足」から踏み出すものであり、日本語の会話に不慣れな聞き手には予測が難しいと思われる。こういった予測は、日本語学習者が上級、超級を目指す際に遂行しなければならない課題のひとつとなるであろう。

#### 11.6. 本章のまとめ

初対面かつ文化的背景を共有しない者同士の会話で共話がどのように運用されるかをみるため、日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の会話を分析、考察した。結果は次のようにまとめられる。

1. 共話をなすために必要な話し手発話のうち、「言いさし」は母語話者にとってもインドネシア人日本語学習者にとっても比較的容易であることがうかがえる。しかしながら、「言いさし」が行われた発話の内容を見てみると、母語話者は相手と共に話を作り上げようとする気配りが感じられたのに対し、インドネシア人日本語学習者からはそのような意図が見られず、相違があることが確認できた。
2. 母語話者、インドネシア人日本語学習者ともに最も多かった共話的反応の型は「先取り」であった。その機能を見てみるとインドネシア人日本語学習者は母語話者よりも多様な機能で共話を運用していることが分かった。
3. 母語話者は、「確認」の機能を通し相手から引き出した発話を材料に、相手の記憶を刺激し、会話を続け、話題を広げようとするが、インドネシア人日本語学習者は、そこから連想されるものを「補足」することによって単純にこれに応えているという違いが見られた。

本章では、従来の研究より共話の定義と範囲が制限されているにも関わらず、インドネシア人日本語学習者も母語話者のように共話ができることを改めて確認した。また、今回の調査と並行して、一組だけ大学生の日本語母語話者2名(N1=インタビュアー、N2=インタビュイー)の母語話者同士の会話の様子も記録した。これを同様の観点から観察してみると、会話と内容についてお互いに了解している事柄が増え、「確認」を受けた側は、それに応じるに留まらず、相手の意図や推意をつかみ、会話例99)の下線部2N2のように会話を積極的に進めていると思われる部分が確認できる。

会話例99)休学の話：N1-N2(母語話者同士)の会話

- 1 N1 なんかね年齢的にね、本当にもう、タイムリミットばっか考えちゃって、最近。(あー、あーそうか)だから早いうちにやりたいこと、やりたいことっていうかその、うーん、どっちなんだろうかなって
- 2 N2 それは人それぞれかもしれませんが、社会に出ちゃってからまた大学に戻るなんてちょっと難しい選択になっちゃますもんね。
- 3 N1 そうそう、そうなんだよねー

上記の会話例から、母語話者と日本語学習者の共話をなす共話的反応の型の展開パターンに相違が予想される。これについては次章で詳細に論じる。



## 第 12 章 日・尼接触場面における談話展開を支える共話的反応

### 12.1. はじめに

前章では初対面かつ文化的背景を共有しない日・尼接触場面における共話をなす話し手発話の表現形式、聞き手の共話的反応の型および機能について比較考察し、インドネシア人日本語学習者も母語話者のように共話の運用ができることを確認した。しかし、日本語母語話者が多用する「確認」の機能は、インドネシア人日本語学習者が多用する「補足」の機能から踏み出し、推測や予測を促し導こうとするもので、日本語の会話に不慣れな聞き手には難しく、日本語学習者が上級、超級を目指す際に遂行しなければならない課題のひとつとなることを指摘した。

談話は話し手の発話のみではなく、聞き手の発話との相互作用によって成り立つ。「共話水谷(1980、1988a)」という概念の提案は、日本語の会話の進め方における談話の相互性に着目したものであろう。このような話し手と聞き手の相互性の側面が強調されて以来、日本語教育においてはあいづちを中心とした聞き手談話の重要性が言及されてきた。

しかし、松田(1988)のいうように、「語形としては簡単なあいづちが、どういう時に、どういうあいづちを使い、なぜ使うのかということ把握し、使えるようになることは容易ではない」。また、実際の聞き手は、あいづちを打つだけでなく、相手の話を繰り返したり、言い換えたり、先を予測して確認したりしながら、会話に積極的に参加しようとしている。そして、話し手は聞き手の言語行動に支えられながら談話を展開しているのである。聞き手言語行動は、積極的に会話に参加するための技術として、欠くことのできない要素である。

実際、日本語がかなり上達している上級以上の日本語学習者であっても、あいづちは不十分ではないのに、なぜか聞き手としての反応が不十分、談話展開が不自然であることがしばしば指摘されてきた。聞き手言語行動に関する研究はこれまでも数多く行われてきたが、機能・形態によるものが多く、談話展開の観点からの考察はそれほど多くない。

そこで、本章では11章と同様に聞き手が話し手の発話を引き取り完結する共話に注目する。しかし、本章では、聞き手の共話的反応が談話展開にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにする。そのために、「話し手の先行発話—聞き手の共話的反応」の有機的關係に着目し、共話展開のパターンを示すことを目的とする。

以下に本章の流れを示しておく。12.2.では先行研究を概観し、本章の目的を明らかにする。12.3.では共話的反応の談話展開への影響について、12.4.では母語話者とインドネシア

人日本語学習者の共話展開のパターンについて考察を進め、12.5.では本章をまとめる。

## 12.2. 先行研究

本章のように、あいづち表現のみならず、共話的反応まで含めて聞き手言語行動を考察の対象とし、談話展開との関連を指摘した研究としては、伊藤(1993)、野畑(1996)、堀口(1997)などが挙げられる<sup>29</sup>。

伊藤(1993)は、聞き手中心の談話指導を考えるにあたり、あいづちの指導だけでは十分ではないとした上で、発話の量を増やす工夫のひとつである「バックチャンネル+α」という形式を指導することを提案している。この「バックチャンネル」とは、狭義のあいづちである。そして、バックチャンネルに簡単なコメントや短い発話を加えた形式を「バックチャンネル+α」と表記し、伊藤はこれを「あいづち的発話」から一步踏み出し、話順をとって話し手に交替し、「実質的な発話」に移行させていく発話の形式」とみなしている。

これに対して、野畑(1996)は、「バックチャンネル+α」は必ずしも「バックチャンネル」に何らかの実質的な発話を加えた形式として現れるわけではないと考え、あいづち的な発話のみによる聞き手の反応も含めている。そして、「あいづち的発話」を広くとらえ、特に、実質的な内容を表す言語形式を含む聞き手の発話に注目し、学習者と母語話者の談話の展開に違いがあることに言及している。具体的には、学習者には、〈情報要求—情報提供—あいづち〉の展開で話の展開につながらないことが多く、母語話者には〈情報要求—情報提供—あいづち的発話—情報提供〉の展開であいづち的発話を用いて話し手の会話に参加するという相違を指摘している。

ここで問題になるのは、両者の「バックチャンネル+α」の見方が必ずしも一致していないことである。伊藤は「バックチャンネル+α」を「バックチャンネル」に何らかの形式を加えた形を指すものと定義しており、あいづち的な発話から一步踏み出し、話順をとって話し手と交替し、実質的な発話に移行させていくと考えている。これに対し、野畑は「バックチャンネル+α」を必ずしも「バックチャンネル」に何らかの形式を加えたものではなく、あいづち的発話のみの場合も含め、対話のイニシアティブを握る話し手の話を展開し引き出して

---

<sup>29</sup> 一方、杉藤(1987: 89)は「あいづち的な発話についてイニシアティブをもたない発話にあいづち的な発話の頻度が高いことなどから、談話の内容的、実質的な進展に積極的にははたらない性格をもつと考え、買物という目的のはっきりした談話の場合だけでなく、自由談話のような場合にもあてはまる(1987: 89)」としており、談話の展開におけるあいづちの役割を小さく見ている。また、ザトラウスキー(1993)は「あいづちは参加者の態度を示し、談話の展開に寄与するが、談話の実質的な進展には特に寄与しない(ザトラウスキー1993: 74)」としている。しかしながら、本研究ではこのような立場は取らない。

いくための「聞き手としての技術」のひとつとしてとらえている。

また、後述するが「あいづち」による展開は学習者に限るものではない。野畑の指摘したあいづちの発話は本研究でいう「共話的反応」に当たる。そのことを踏まえて、一例としてインドネシア人日本語学習者の共話的反応をみると、その機能については前章で述べた通り違いがあるものの、共話的反応の型の出現傾向には母語話者との違いがあまり見られない。ということは、「情報要求—情報提供—あいづち—情報提供」の展開が母語話者の特徴と言い切れるかは疑問である。さらに、「共話的反応」といっても、先行するあいづちを含む場合とそうではない場合があるので、談話展開のパターンを類型化する必要がある。

堀口(1997)は、聞き手の反応の現れ方として予測による「先取りあいづち」と「先取り発話」を取り上げている。しかしながら、実際、前章の第10章で確認した通りに、聞き手の共話的反応の型は予測による「先取り」だけではない。予測と関係のない「言い換え」、「問い返し」、「遮り」、「繰り返す」などが存在しているのであるから、話し手発話に繋がる聞き手の反応の型をより細分して提示する必要もあろう。

そこで本章では前章の第11章で用いたものと同様の調査データを用いて調査、その結果を分析した。分析と考察については12.3.以降において詳述する。

### 12.3. 共話的反応の談話展開への影響

「共話」は話し手発話を引き取り、聞き手は共話的反応の型を用い、反応したり相手に働きかけたりしながら話し手の発話に参加していく。本章で対象とする共話的反応は伊藤(1993)や野畑(1996)の「バックチャンネル+α」、「あいづち的発話」に似通うところが多い。具体的に、ここでは次の会話例(100)、(101)を挙げておく。先述の通り会話例の左中かっこ( { )は、先行発話である話し手の発話と、後行発話である聞き手の共話的反応で成り立つ共話をなす発話を示し、共話的反応の先行あいづちは□で示した。また、話し手側からみて、言うつもりだったが聞き手に先取りされたり、遮られたりして実際は発話しなかった発話意図の部分、聞き手側からみて話し手の先行発話を聞きながら理解、予測、納得したと思われる部分は\_\_\_\_\_で示した。

会話例100) 卒業後の話 : I2-J2の会話

- 1 I2 【【えっと、言語学の…、\_\_\_\_\_】】
- 2 J2 言語学の博士。おー、なんか大学の先生、
- 3 I2 はい。
- 4 J2 を目指す、】】

5 I2 【【はい。

6 J2 あー。で、えっと、国内で教えますか？

会話例101)=98) 住まいの話：J1-I1の会話

1 J1 あーえじゃあ、えと一ご主人も[地名1]に、

2 I1 そう、主人も[地名1] (あー)。子どもも (へー)。

3 J1 でももう息子さんたちって、日本の方が長い、わけではないか。

会話例100)は、先行あいづちのない「言語学の博士、～」の実質的内容ではじまるパターンである。101)は、先行するあいづち「そう」の後に「主人も[地名1]。子どもも。」と実質的内容が続くパターンである。

本章の「共話的反応」を伊藤(1993)は「バックチャンネル+α」といい、話順を取って話し手に交替する発話形式であると指摘している。会話例101)の母語話者の共話的反応においては「言語学の博士」と繰り返しながらも、話し手の学習者に確認を取っている。その後、「おー、なんか」で話順を取り「大学の先生を目指す」という共話的反応から一歩踏み出す発話になっている。これは、6J2に示された「～国内で教えますか」という問いかけの発話からも裏付けられる。しかし、101)の2I1の日本語学習者の共話的反応においては、「主人も[地名1]。子どもも。」というふうに繰り返し、補足を行うことに留まり、話順を取って話し手が交替するまでにはなっていないことが分かる。よって、聞き手の共話的反応の型はその果たす機能によって話順交替につながる場合とつがらない場合があることが確認できた。ただし、3J1の「でももう息子さんたちって、日本の方が長い、わけではないですか。」という発話は、談話の流れから2I1の「～子どもも」という共話的反応があったから成り立つものである。つまり、この共話的反応は談話展開のきっかけを与えているといえるだろう。

また、先述したように、野畑は母語話者の場合、話し手の発話を引き取りあいづち的発話(本章の共話的反応)で会話に参加するのに対し、学習者はあいづちのみの反応を続けることを指摘している。しかし、上記会話例101)の2I1の発話「そう、主人も[地名1]。子どもも。」というふうに、「先行あいづち+実質的内容のあいづち的発話」で反応し、話し手との会話に参加していることが分かった。

次節の12.4.からは母語話者と学習者間での談話展開を支える共話的反応の型にどのような相違がみられるのかを分析、考察する。具体的に会話例100)、101)のように話し手発話に続く聞き手の共話的反応を「先行あいづちなし+共話的反応」と、「先行あいづちあり+共話的反応」の2通りに分類した上で、これらがどのような機能で使われ、談話展開を支

えているのかを検証する。

## 12.4. 日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の共話展開のパターン

本節では聞き手が話し手の発話を引き取り完結する共話に注目し、共話をなす後行発話である共話的反応が談話展開にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするために、まず、「話し手の先行発話—聞き手の共話的反応」の有機的關係に着目し分析した。以下の図41、図42は具体的な共話展開パターンを图示したものである。図の中では、左から右に進むにつれ話し手発話、先行あいづち、共話的反応の型とその機能をそれぞれ違う図形で示した。また、上から下に進むにつれ出現数が多い順から少ない順を示した。さらに、それぞれの項目間の有機的な関連性が深い場合は太い線で示した。

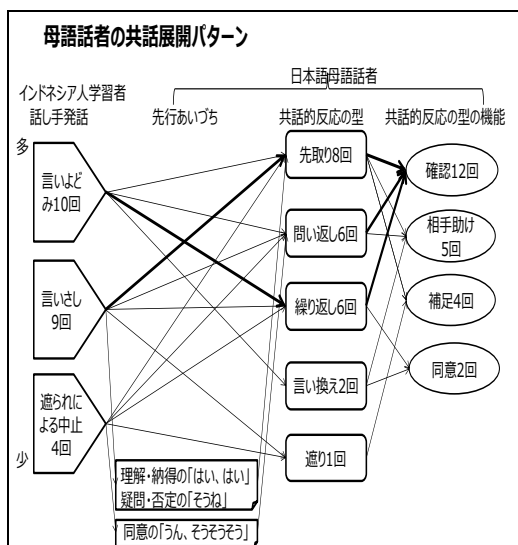


図 41 母語話者の共話展開パターン

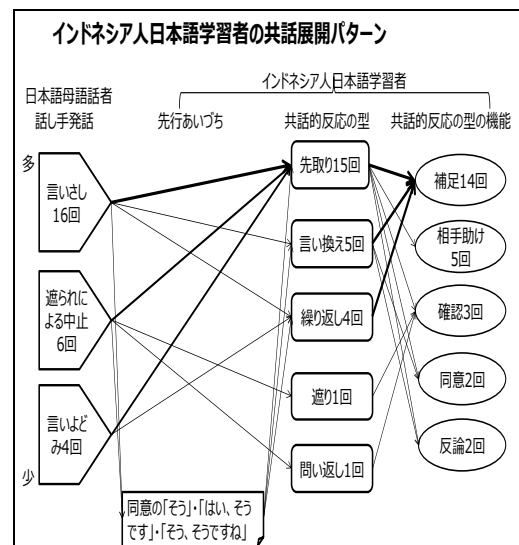


図 42 日本語学習者の共話展開パターン

日本語母語話者は、図41に示されている通り、「先取り」、「繰り返し」の共話的反応によって、「言いよどみ」、「言いさし」の表現形式による話し手の先行発話に続く部分を予測したり、確認したりすることにより、話し手発話の内容を方向づける。このような談話展開は母語話者に最も多くみられる。一方、インドネシア人日本語学習者においては、図42に示されている通り、「先取り」などの共話的反応の型によって、「言いさし」の表現形式による話し手の先行発話で提供された情報にさらに詳しい情報をつけくわえる展開が最も多くみられる。そして、それが話し手に談話展開のきっかけを与えている。

### 12.4.1. 話し手と聞き手のコミュニケーション成立の場合

本節からは、省略されている部分に対する共話的反応と、明示されている部分に対する

共話的反応について、具体的な会話例をもとに共話展開のパターンを探ってみたい。

#### 12.4.1.1. 母語話者の省略されている非発話部分に対する共話的反応

次の会話例102)では、I12で母語話者の話し手が「子供向けの雑誌とか、                    」と言  
いさしているところを、理解・納得のあいづち「はい、はい」と「なんかね」でまず話順  
を取ってから、「～例文とか、          」という実質的内容を伴った共話的反応で先取りし、確認を  
とっている。2J2の先取りにより話し手が言うつもりで言えなかった省略された部分を聞き  
手が予測し、「～例文とか、          」と共話的反応を示していると判断される。その後続く3  
I2の発話「はい」に対する応答である4J2の「どういった感じですか?」という発話から、  
J2は会話の主導権を取り、日本語学習者への質問につなげ、話し手の発話の展開を誘導し  
ていることが窺える。この結果と関連して、森本(2002)は、母語話者が発話の主導権をと  
ることは一見相手の発話権を侵害しているようにもみえるが、相手の言いさした発話を引  
き取らず放置しておけば、会話は進行しなくなることを指摘している。つまり、母語話者  
の共話的反応は相手の発話権を無視しているわけではなく、会話への進行という円滑なコ  
ミュニケーションにつながる。したがって、その役割は重要であるといえる。

会話例102) 子ども向けの本の話 : I2・J2の会話

- { 1 I2 子供向けの雑誌とか,,                                       
2 J2 はい、はい。なんかね、例文とか,  
3 I2 はい。  
4 J2 どういった感じですか?

続いて、会話例103)でも、4I5で仕事が金曜日は休みだという話を聞いて大学院の授業  
日について尋ねられ、学習者の話し手が「金曜日と土曜日」と言いさしたところに、5J1で  
「だからいっしょにできるんですね」と先取りし、確認を取っている。この5J1の共話的  
反応は、I5の話し手側からすると、4I5で「金曜日と土曜日は授業がないので大学院と仕事が  
一緒に並行できます」という主旨の発話の波線部が聞き手に先取りされ省略された部分で  
あり、母語話者の聞き手側からすると話し手発話を聞きながら理解した部分でもある。そ  
の後に続く「日本の会社。で、本社が大阪?」という発話は、共話的反応の2J5発話から予  
測できる事柄について問いかけ、確認を取っているが、これは「授業のある日」→「日本  
の会社」→「本社が大阪」と、関連した話題を広げているといえるだろう。

会話例103) 大学院と仕事の両立の話 : I5-J1の会話

- 1 J1 へーあそうなんだ、じゃ金曜日は休みなんですか？  
2 I5 金曜日は休み  
3 J1 あー、授業は金曜日だけ？大学院は  
4 I5 金曜日と土曜日,,.....  
5 J1 だからいっしょにできるんですね  
6 I5 はい、だから…  
7 J1 あーなるほど、じゃあこれからもじゃその日本の会社なんですか。それも  
8 I5 そうなんです、日本の会社です  
9 J1 で、本社が大阪？

会話例104)では、話し手I4の「はい、結構、あの、渋滞が」という言いさしに対して、話し手発話で省略されている発話意図を読み取り、聞き手は2J4で「渋滞が、[地名2]で渋滞が多いですよ」と共話的反応を示し内容を繰り返すことで、確認を求めている。

会話例 104) バンドンの渋滞の話 : I4-J4の会話

- 1 I4 はい、結構、あの、渋滞が,, .....  
2 J4 渋滞が、[地名2]で渋滞が多いですよ。  
3 I4 はい。あの、週末の時に(うん)はい。

以上から、母語話者は話し手の省略された発話意図を理解し多用な共話的反応の型を用い、2人でひとつの発話を作り上げる共話を構成することで、談話展開を支えることが分かった。

12.4.1.2. 学習者の明示されている発話部分に対する共話的反応

次の会話例105)では、1J1では「東京にはまだ(行ったことがないですか)」と考えられる話し手の発話意図が「～東京にはまだ、」と言いさしている。これを引きとり聞き手発話2 I5では、先行する話し手の発話で省略されている「行ったことがないですか」に対してではなく、明示されている「～東京にはまだ」に対して「まだ～」と先取りし、大阪から遠いからと補足している。

会話例105) 東京体験希望の話 : J1-I5の会話

- 1 J1 じゃあ、東京にはまだ,,  
2 I5 まだ、遠いですね、大阪から(うーん)もし新幹線で【

3 J1 そうね、一時間半、二時間くらいですかね。

続いて、会話例106)では会話の中で日本旅行の話題がでて、母語話者は「よくよく日本には(行きますか)」という発話意図を、1J1で「よくよく日本には、」と言いさしている。これを引き取り聞き手は2I1で「そうですね」と同意を示して、さらに話順をとり、明示されている「よくよく」の部分に対し、「年に3回くらい」と言い換えて補足している。

会話例106) 日本出張の話 : J1-I1の会話

- { 1 J1 あじゃ、よくよく日本には、  
2 I1 そうですね、年に3回くらい  
3 J1 あ、ほんとに？じゃあ、ちよと今度日本に来たとき連絡してくださいよ。

会話例107)でも、1J1の「あ、じゃあ、インドネシアに(住んでいますか)」という発話意図を「～インドネシアに」と言いさしているところを、あいづち「そう」で同意を示してさらに、話し手発話で明示されている「インドネシアに」と繰り返した上で「[地名3]に私は[地名3]に住んでいます」と、補足説明している。3J1のように話し手が[地名3]に行こうとしていたことを述べる話題へと話題の広がりがみられるのは、2I1発話の共話的反応がきっかけとなっている。

会話例107) 観光場所の話 : J1-I1の会話

- { 1 J1 あ、じゃあ、インドネシアに、  
2 I1 そう、インドネシアに (へー) [地名1]に (あー) 私は[地名1]に住んでいます。  
3 J1 私、この前、今度、[地名1]に行こうかなーって、

次の会話例108)では、話し手1J1の「Hさんて、今[N大学]の博士課程の方とこの前学会で会って、で、その彼女が[地名4]から東京に来たんですけど、その後[T大学]、多分その[Y先生]」と言いさし、省略された部分では「～に会いに行っただと思います」などの発話意図が窺える。しかし、2I1では1I1の言っていない部分に対する予測ではなく、省略されず相手の発話に示された「Y先生」を「Yさん」と言い換えて、訂正に近い反論をしている。続く3J1の「あ、学生ですか？」の発話から「～先生」が「～さん」と言い換えられた2I1の発話がきっかけを与えていることが窺える。



会話例108) 知り合いの話 : J1-I1の会話

- 1 J1 Hさんて、なご今[N]学の博士課程の方とこの前学会で会って (うん)、で、その彼女が[地名5]から東京に来たんですけど、その後[T]大学、多分そのY先生,,
- 2 I1 Yさん、うん、別の友達
- 3 J1 あ、学生ですか？

続いて、会話例109)でも、海外の人にもすぐに人名だとわかってもらえる名前が流行っているということが話題になって、1J1で「でも、なんか、覚えやすいからね」と言っている。これに対し、2I5の聞き手の共話的反応では同意を示すあいづち「そう、そうですね」と「なんか」で話順を取り、それに続けて、実質的内容を示す「国際名前」という言葉に言い換え、同意している。ここでも話し手発話で明示されている、「覚えやすい」という部分に対し「国際名前」という言葉によって共話的反応を示している。その後続く3J1では「うん、そうそうそうそう」のように、あいづちを重ね興味の反応を示した上、共感の気持ちをつけ加え、「子供には覚えてもらいやすい、どこでも通じる名前を」と、話題が広がっている。このような結果には2I5の共話的反応が話題拡大へのきっかけを与えたと考えられる(会話例中の人名は偽名で表記)。

会話例109) 流行りの国際的な名前の話 : J1-I5の会話

- 1 J1 へーでも (はい)、やっぱなんかその、覚えやすいからね,,
- 2 I5 そう、そうですね、なんか国際名前
- 3 J1 うん、そうそうそうそう (はい)、だから、私の名前もあんまり覚えてもらえないんですよ、人名(W)って。だから、あの、子どもには (はい) ちょっとどこの国でも (はい) 通じる (はい) 名前が、[人名(M)]は日本でも,,

以上から、学習者は2人でひとつの発話を作り上げる共話を構成することで、談話展開を支えることはできても、母語話者のように省略されている話し手の発話意図を理解し共話的反応を示すことは難しいことが分かった。

## 12.4.2. 話し手と聞き手のコミュニケーション不成立の場合

### 12.4.2.1. 母語話者の省略されている非発話部分に対する共話的反応

会話例110)で、学習者I1は夫の就職について問われ、就職ではなくて博士進学と答えるつもりで、2I1で「ではなくて、えっと、博士まで」と言っている。この発話をもとに聞き手は、会話の初めから出た学習者I1の[地名5]6年間滞在話題から予測し、「あ、[地名4]

の?」と問いかけて確認をもとめている。しかし、母語話者の予測は外れていることがその後続く4I1で確認できる。3I1で母語話者の「[地名4]」という間違っただ予測について、学習者は4I1で「いや～」と訂正の反応を示し、2I1の\_\_\_\_\_の部分で初めに言おうとした通りに続けて、「～K大学でした」と発話を完結させている。母語話者は、会話相手から得られた「博士」という情報とこれまでの話題で出てきた「[地名4]滞在」の情報をもとに、「[地名5]の?」という予測による発話を行ったが、結局、学習者の意図とは違う誤解を招く発話になり、4I1ではそれを訂正する展開になっているということである。ただし、話し手の意図と聞き手の理解が不一致を見せたにもかかわらず、共話は成り立っている。

会話例110) 留学終了後の話 : J1-I1の会話

- 1 J1 で、ご主人はそのまま就職?
- 2 I1 ではなくて、えっと、博士まで,, \_\_\_\_\_
- 3 J1 あ、[地名4]の? II。
- 4 I1 いや、[地名4]じゃなくて[K]大学でした。

#### 12.4.2.2. 学習者の明示されている発話部分に対する共話的反応

会話例111)では、2J4の発話の以前に日本滞在経験についての質問と応答があり、学習者が[地名6]に3ヶ月研修に行っていたことが明らかになっている。また、その際、滞在時期が3月だったのに雪を初めてみて驚いたという話が直前まで続いている。それを踏まえて、母語話者は2J4で「[地名6]って、」と口ごもった口調で言いよどんでいるのである。この発話前まで[地名6]滞在の会話が続いたので、別に[地名6]自体を知らないわけではなく、「3月に雪が降るのをはじめてみた」という話に対する驚きの反応だと分かる。

会話例111) 東北体験の話 : I4-J4の会話

- 1 J4 あっ、何月行ったんですか。
- 2 I4 あー、3月でした。(あっ) 3月の中旬(うん)
- 3 J4 中旬、雪あるんで、す、,,
- 4 I4 まだ少し、はい(あー)、そのとき初めて見ました。はい。
- 5 J4 え[地名12]て、え…
- 6 I4 あ、上です。北海道の下、埼玉、[地名12]、でもまだ本州
- 7 J4 えー、結構じゃ寒い
- 8 I4 結構寒いですね。
- 9 J4 あー、そうなんですね。私行ったことがちょっと(はい)無くて(はい)よくわか

んない、あー、そうなんですね。

5J4の母語話者の発話の省略された部分には、「すごいですね、3月に雪降るんですね」などの言葉が入ることが予想される。しかし、学習者は[地名6]の位置説明に関する追加情報を要求されていると思っただけで、6I4の「上です。北海道の下、でもまだ本州～」と母語話者が省略していると理解した事柄について先取りの共話的反応の型を用いて相手助けをしている。話し手の発話意図と聞き手の理解にずれが生じたと考えられる。

ここで、注目されるのはその後続く母語話者の7J4の「えー、結構じゃ寒い」と9J4「あー、そうなんですね。私行ったことがちょっとなくて～」という発話である。母語話者の意図と学習者の理解にずれがあり、ミスコミュニケーションが生じたにもかかわらず、相手の話に合わせた形でミスコミュニケーションの修復作業を行っている。これは自分の期待した情報ではないけど、相手の言ったことに対して否定、訂正などを控え、相手の発話に合わせた共話的反応を示す母語話者の配慮の気持ちが反映された結果だと窺える。

以上から、接触場面で話し手の発話意図と聞き手の理解にずれが生じた場合、それに対応するために、学習者は訂正作業、母語話者は修復作業を行うという相違が確認できた。

これまで、日・尼接触場面において、共話的反応が「会話を円滑に進める」という本来の機能に加えて、「談話の方向づけや談話の展開が定まる」、「話し手に談話展開のきっかけを与える」といった談話展開の観点からの考察を試みた。次の図43はその主な結果をまとめたものである。

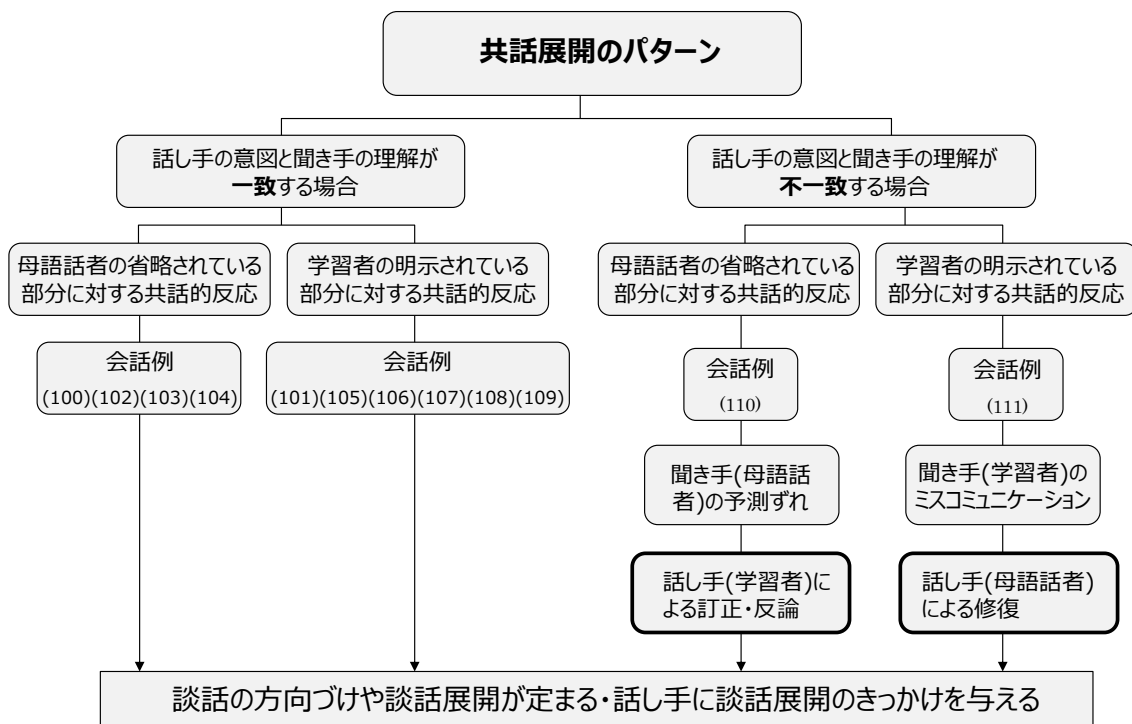


図 43 日・尼接触場面における共話展開のパターン

## 12.5. 本章のまとめ

本章では日・尼接触場面から例を取り、共話的反応が談話の展開にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするために「話し手の先行発話—聞き手の共話的反応」の機能的関係に着目し考察を行った。その主な結果は次のようにまとめられる。

1. 聞き手と話し手が双方で主導権をもって会話を進めていくことは、聞き手と話し手が協力しあいながら会話を進めていくという、談話の相互性につながる側面である。特に、これは共話において浮き彫りになるもので、あいづちと同様に、会話の流れを支える発話であることが確認できた。
2. 従来、野畑(1996)により母語話者は先行あいづちに続く実質的発話の形で共話的反応を行うのに対し、学習者はあいづちのみで共話的反応を行うことが多いという指摘があった。しかし、今回、母語話者とインドネシア人日本語学習者間の差はあまり見られず、先行あいづちなしの共話的反応のみによるパターンが多いことが分かった。
3. 先行あいづちがある場合、そのあいづちは後ろに続く共話的反応を予測する機能があるのではなく、先行発話である話し手発話に対し、同意、納得、疑問などを表すことが分かった。これは堀口(1997)の主張とは見解を異にする結果でもある。
4. 共話的反応が談話展開に影響を及ぼしていることが分かったが、その際、母語話者と学習者の間に相違が見られた。共話展開のパターンには話し手の意図と聞き手の理解が一

致する場合と一致しない場合があることが分かった。

5. また、それぞれの場合において話し手発話で省略されている部分に対する共話と、話し手発話で明示されている部分に対する共話があるが、前者は主に母語話者に多く、後者は主に学習者に多いことが分かった。
6. さらに、話し手の意図と聞き手の理解が不一致の場合、共話的応答を示す母語話者の予測のずれに対し、話し手である学習者は訂正に近い反論で応答することが確認できた。一方、学習者の共話的応答が母語話者の意図とは違いミスコミュニケーションになっている場合であっても、話し手である母語話者は学習者の共話的応答に合わせた発話で、円滑なコミュニケーションにつながるように修復作業を行っていることが確認できた。

今回、母語話者とインドネシア人日本語学習者との接触場面における談話展開を支える聞き手言語行動について考察し、共話的応答のパターンの相違があることが分かった。

このような本章での結果により、先述の第10章で考察した母語話者同士の共話的応答のパターンとの相違が指摘できた。

第10章で、初対面日本語母語話者同士は、従来言われてきた「予測」、「理解」の成立要因だけではなく、多様な成立要因によって共話的応答が行われることを確認した。具体的には、話し手の発話で省略されている非発話部分に対しては「予測」、「理解不足」、「理解」が、話し手の明示された発話部分に対しては「納得」、「納得不足」の要因が働き、共話的応答のあり方が異なることを指摘した。その際、明示された発話部分に対しては理解できていないことを示す「理解不足」による共話的応答の例は見られないことも指摘した。

しかし、本章では、初対面かつ文化的背景を共有しない日・尼接触場面において母語話者は「予測」による場合が多く、学習者の省略された非発話から「予測」を働かせ「確認」をとり、話を広げ共通理解を深めていくこと、一方、学習者は母語話者の明示された発話部分に対し理解ができず、共話的応答を示したもののミスコミュニケーションを生じさせる結果につながることを確認できた。

以上、第4部では、談話展開の観点から、母語話者同士の会話場面、日・尼接触場面での共話的応答のパターンを考察することによりその相違が指摘でき、有効な結果として位置付けられよう。

## 第 5 部 総論(日本語教育への応用)

## 第 13 章 言語能力レベルを考慮した聞き手言語行動のコラム教材例

本研究の第7章、第8章、第9章で明らかになった韓国人日本語学習者が聞き手言語行動を運用する際の特徴や第11章、第12章で明らかになったインドネシア人日本語学習者の特徴は、実際の教える際に役立つシラバスとして活用できよう。そこで、本章では、第4章、第5章、第6章、第10章、第11章、第12章などで明らかになった母語話者の聞き手言語行動の運用上の特徴を最大限生かし、日本語学習者のためのコラム形式の教材例①～⑳までを提案する。教材作成の際に、以下のような第4章から12章で明らかになった特徴を考慮した。

- ・ 学習者の言語能力レベルを考慮
- ・ 表現形式と機能を合わせた学習
- ・ 人間関係を考慮
- ・ 日本語の談話展開・構造を考慮

まず、あいづち的反応や共話的反応の表現形式を言語能力レベルに応じて指導するためには、シラバスが必要である。しかし、現段階ではこれらにかかわるシラバスが定められていないため、それぞれの言語能力レベルにおいて指導が有効な聞き手言語行動の機能と表現形式を中心に、シラバスの設計を試みる。本章では「聞き手言語行動・言語能力レベル・難易度」という観点から、以下の①～④をシラバス選定の基準とした。

- ① ある級で多数使われているものはひとつ下の級で教える。
- ② ある級で初めて使用されたものはひとつ下の級で教える。
- ③ その級で使用されている違和感がある表現は注意項目としてその級のシラバスに盛り込む。
- ④ 超級まで現れていないものの、NSが使用するものは超級で教える。

指導が有効なあいづち的反応の機能と形式については、表53、54の太い枠線の部分に注目してもらいたい。

感声的あいづちについてみると、初級から超級にかけて「傾聴」、「理解」、「同意」の機能を持った形式のほとんどは「はい」となっている。一番右のNSと比較した場合、超級で表れた5例以外、「ええ」はひとつも見当たらない。「はい」も「ええ」も丁寧度によ

る差がなく置き換え可能な形式なので、バランスよく使用できるように基準②に従って「傾聴」機能の「ええ」は上級シラバスに、基準④に従って「同意」機能の「ええ」は超級シラバスへの導入を試みる。超級になって「感情」機能を持った形式が初めて出現するので、基準②に従って上級で「感情」機能を持った形式を指導できるようにシラバス設計を試みる<sup>30</sup>。初級(20例)から中級(171例)と使用数が大量に増加した「傾聴」機能を有する「はい」に関しては、基準①によって初級シラバスへの導入を試みる。上級の「否定」機能の「\*はいはい」などのように違和感がある表現と判断される形式は基準③によりシラバス設計を試みる。

表 53 各言語能力レベル別感声的あいづちの機能別出現数(表34の再掲)

| 言語能力レベル |      | 初級                       | 中級    | 上級      | 超級                   | NS                                |
|---------|------|--------------------------|-------|---------|----------------------|-----------------------------------|
| 類型      | 機能   |                          |       |         |                      |                                   |
| 感声的あいづち | 「感情」 | 0                        | 0     | (やー)1   | んー5/えーつ2/<br>あつ1/いや1 | え1/えつ1/あ1/ あ,<br>あ1               |
|         |      |                          |       | 1       | 9                    | 4                                 |
|         | 「否定」 | 0                        | 0     | ??はいはい1 | んー1                  | ん1                                |
|         |      |                          |       | 1       | 1                    | 2                                 |
|         | 「同意」 | はい31/うん26/<br>あー15       | はい43  | はい35    | はい13                 | はい50/はいはい5/<br>ええ(ええ)17/あ<br>あー6  |
|         |      | 72                       | 47    | 39      | 22                   | 78                                |
|         | 「理解」 | はい52/うん11/<br>*おーおー6/あー9 | はい34  | はい27    | はい11                 | はい14/あはい2/あ<br>あ3                 |
|         |      | 78                       | 44    | 34      | 27                   | 19                                |
|         | 「傾聴」 | うん22/ はい22/<br>あー5       | はい195 | はい176   | はい55/ええ9             | はい117/ええ42/<br>あはい3/ああ1/ええ<br>ええ1 |
|         |      | 49                       | 219   | 221     | 85                   | 164                               |
| 計       |      | 199                      | 310   | 296     | 144                  | 267                               |

また、概念的あいづちの場合は、全体的な使用数が少ないことから、基準②に従って特定級で初めて使用される形式をその級のひとつ下の級で教えるという方針でシラバス設計を試みる。感声的あいづちと同様にその級で表れた違和感がある表現はその級で指導できるようにシラバス設計を試みる。言語能力レベル超級でも出現していない機能を持った形式については基準④によりNSに使用されているものから導入を試みる。

<sup>30</sup> 言語能力レベルと難易度の観点から言語特徴を明らかにした研究としては、山内(2009)などがある。



表 54 各言語能力レベル別概念的あいづちの機能別出現数と初出形式 (表35の再掲)

| 言語能力レベル |          | 初級                        | 中級                         | 上級                             | 超級                                    | NS                                         |
|---------|----------|---------------------------|----------------------------|--------------------------------|---------------------------------------|--------------------------------------------|
| 類型      | 機能       |                           |                            |                                |                                       |                                            |
| 概念的あいづち | 「感情」     | 0                         | 0                          | 0                              | 0                                     | そうですか<br>繰り返し<br>2                         |
|         | 「否定」     | でも<br>いえ<br>2             | いえ<br>1                    | いや<br>11                       | どうでしょうかねー<br>15                       | ああそうですか<br>6                               |
|         | 「同意」     | 繰り返し<br>3                 | そうですね<br>ほんとに<br>先取り<br>11 | そうですよ<br>言い換え<br>(そうだねー)<br>27 | そうなんです<br>そうなんですよ<br>やっぱり<br>です<br>32 | なるほど<br>そうです<br>ねえ<br>52                   |
|         | 「理解」     | 繰り返し<br>言い換え<br>先取り<br>16 | そうですね<br>11                | そうですか<br>24                    | なるほど<br>20                            | あそんなものですか<br>あっそうなんですか<br>(そうか, そうか)<br>40 |
|         | 「傾聴」     | 繰り返し<br>1                 | 0                          | 0                              | 0                                     | そうです<br>2                                  |
|         | <b>計</b> | <b>22</b>                 | <b>23</b>                  | <b>62</b>                      | <b>67</b>                             | <b>102</b>                                 |

さらに、共話的反応の型においては、次の表55で示すように、「先取り」、「遮り」、「繰り返し」の使用が「言い換え」の使用に先立つことが分かった。また、共話的反応の型の機能においては、「補足」、「反論」、「同意」の機能の使用が「相手助け」の使用に先立つことが分かった。

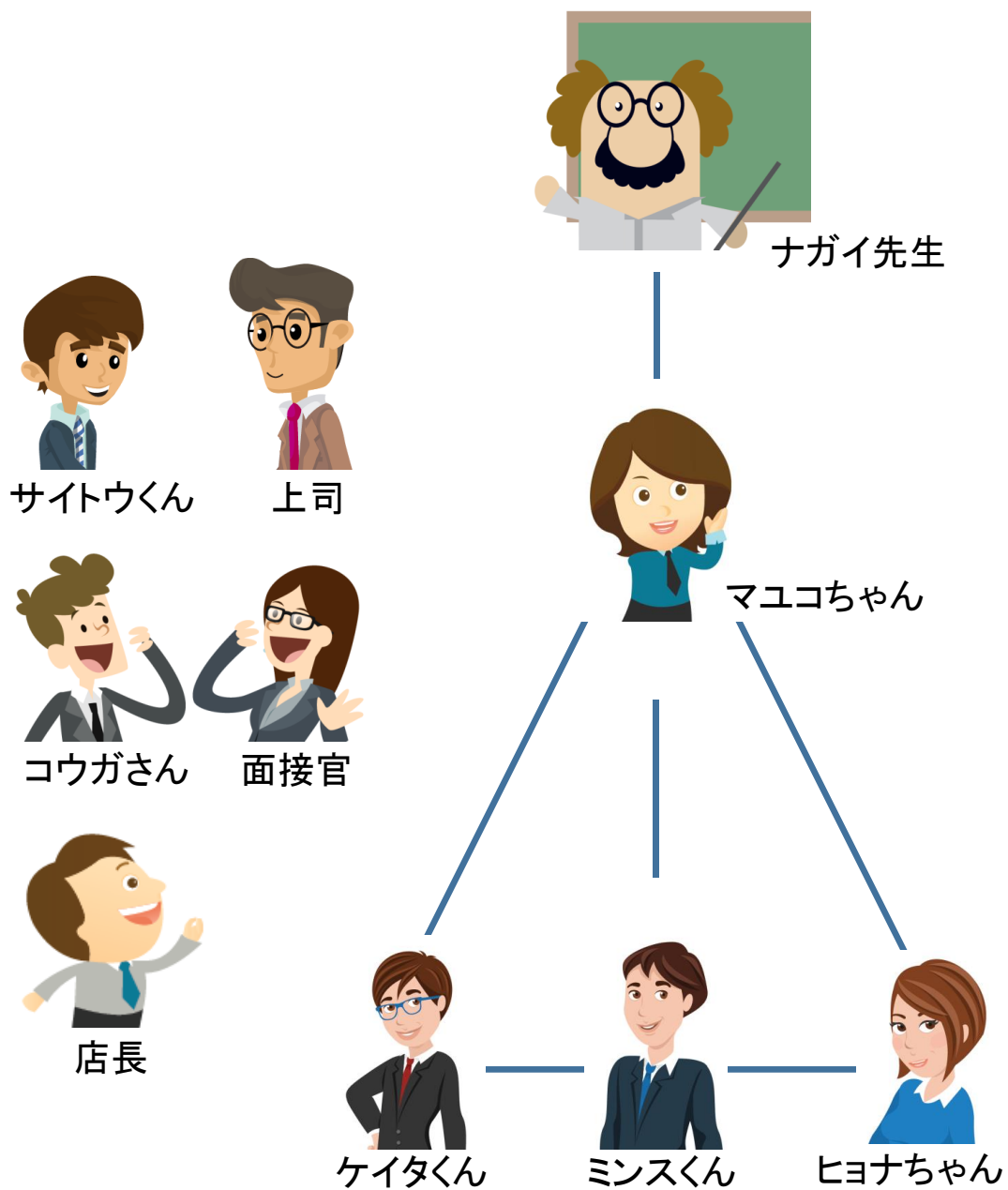
表 55 KJLの言語能力レベル別共話的反応の型および機能の使用状況 (表41の再掲)

| 言語能力<br>レベル<br>機能 | 初級(5回)   | 中級(4回)   | 上級(12回)                       | 超級(13回)                       | NS(28回)                       |
|-------------------|----------|----------|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|
| 確認                |          |          |                               |                               | 先取り(8回)<br>繰り返し(1回)           |
| 相手助け              |          |          | 先取り(1回)                       | 先取り(2回)                       | 先取り(3回)                       |
| 同意                | 繰り返し(1回) | 言い換え(1回) |                               | 先取り(1回)<br>言い換え(1回)<br>遮り(1回) | 先取り(3回)<br>言い換え(1回)<br>遮り(1回) |
| 反論                | 遮り(1回)   | 先取り(1回)  | 遮り(1回)                        | 遮り(4回)                        | 先取り(3回)<br>遮り(1回)<br>問い返し(1回) |
| 補足                | 先取り(3回)  | 先取り(2回)  | 遮り(7回)<br>先取り(2回)<br>言い換え(1回) | 先取り(2回)<br>遮り(2回)             | 先取り(4回)<br>繰り返し(1回)<br>遮り(1回) |

母語話者が運用している機能のうち、「確認」だけはKJLにおいて使用できていないこと

も分かった。これに加えてインドネシア人日本語学習者の場合もKJLと同様に「確認」の機能の使用は見られなかった。したがって、基準④により言語能力レベルが超級でも出現していない共話的反応の型の「確認」の機能については超級で導入する。

## コラム教材でならう！ うんうん なるほど！ 聞き上手レッスン



コラムに登場する人物の人間関係

## 【コラム教材例①：初級用】

Unitの目標：相手の話を聞いていることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

日本語では単に「あなたの話を聞いていますよ」という時に「はい」を使います。友達同士では、「うん」を使ってもいいのですが、先生に対して「うん」を使うのはあまりふさわしくありません。そのため、先生には「はい」とあいづちしましょう。

일본어로 단순히 ‘당신의 이야기를 경청하고 있어요’라는 뜻을 전할 때는 「はい」를 사용합니다. 하지만 친구끼리는 「うん」을 사용해도 괜찮지만 선생님이나 윗사람에게 사용하는 것은 적절하지 않습니다. 따라서 선생님에게는 「はい」로 맞장구를 치도록 합시다.



### はい

ナガイ先生 : 授業で使うので。  
ケイタくん : はい。  
ナガイ先生 : 毎週、このテキストを持ってきてくださいね。

ナガイ先生 : 来週からテストですから。  
ミンスくん : はい。/ \*うん。  
ナガイ先生 : 来週は授業がありませんからね。

### <ワンポイントレッスン>

単に聞いているだけではなく、「分かっていますよ」という「理解」の意味でも「はい」を使います。「ええ」も同じ意味で使うことができ、合わせて使うこともできます。KJLは韓国語の影響で、理解していることを表すときに「おーおー」と反応することがありますが、日本語では使いませんので注意しましょう。先生に「理解した」ということを伝えるときには「はい/ええ」などと反応しましょう。ただし、感情を表す時は「おー」でもOK！

단순히 듣고 있다는 뜻만이 아니라, ‘알고 있다’는 ‘이해’의 의미를 나타낼 때도 「はい」를 사용합니다. 「ええ」도 같은 의미로 사용할 수 있습니다. 둘을 함께 사용할 수도 있습니다.

한국어로는 이해한다는 것을 나타낼 때 ‘오-오-’라고 말할 수 있지만, 일본어는 「おーおー」라고는 말하지 않습니다. 이해했다는 것을 전달할 때는 「はい/ええ」 등으로 맞장구칠 필요가 있습니다. 그러나 감정(감탄이나 놀람 등)을 표현할 때는 「おーおー」로 맞장구쳐도 OK!



### はい/ええ

ナガイ先生 : 雨が降ったら今夜のジャイアンツの試合は中止になりますからね。  
ミンスくん : はい。/ ええ。 / \*おーおー。

## 【コラム教材例②：初級用】

Unitの目標：相手の話を理解していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

人の話を聞いて「はい」としか反応しないと、相手の話に興味関心がないように思われたり、聞いているかどうか不安を与えたりする可能性があります。時々「そうですね」のようなあいづち表現も使うと相手がもっと話しやすくなりますよ。

남의 말을 듣고 「はい」 만으로 반응하면, 상대방의 말에 흥미관심이 없어 보이거나, 상대방의 말에 귀를 기울이고 있는지 어떤지 불안감을 줄 수 있습니다. 따라서 가끔씩은 「そうですね」 와 같은 맞장구 표현도 사용하면 상대방이 훨씬 더 말하기 쉬워진답니다.



### そうですね

マユコちゃん : 昨日、作ったサンドイッチを食べたら、変な味がして。  
ナガイ先生 : 夏だからちゃんと冷蔵庫に入れなければなりませんよ。  
マユコちゃん : **そうですね**、たしかに…。

### 【コラム教材例③：初級用】

Unitの目標：相手の話を同意していることをうまく伝えられるようになりましょう！

#### <ワンポイントレッスン>

「はい」は「聞いている」や「分かります」という意味だけではなく、「私もそう思います」という「同意」の意味でも使うことができます。

「はい」는 ‘듣고 있습니다’ 나 ‘알고 있습니다’의 의미만이 아니라, ‘나도 그렇게 생각합니다’라는 ‘동의’의 의미로도 할 때도 사용할 수 있습니다.



はい

ナガイ先生：去年のゼミ旅行は雨も降りましたしね。 . . .  
マユコちゃん：はい。大変でしたよね。

#### <ワンポイントレッスン>

日本語で同意していることを強く表す時、韓国語の影響で「あーあーあー」と反応することがありますよね。しかし、日本人は同意していることを表す時、目上に対しては「あーあーあー」とは反応しません。先輩に同意の気持ちを伝えたいときは「はい」と反応するようにしましょう。

일본어는 동의를 강하게 나타낼 때 「아아아아」라고는 맞장구 치지 않습니다. 한국어의 영향으로 이렇게 말하기 쉽지만 주의할 필요가 있습니다. 앞으로 선배나 윗사람의 말에 동의할 때는 「はい」로 맞장구 치도록 합시다.



はい

マユコちゃん：韓国も5月5日が子供の日だったよね。  
ヒヨナちゃん：はい。/ \*あーあーあー。

#### <ワンポイントレッスン>

韓国語では親しさや上下に関係なく繰り返して反応することが相手への誠意や話す内容への関心を表わすので、失礼になることはありません。しかし、日本では子どものときから「返事は1回でいい」とする教育の影響もあり、相手の話に反応するときも親しい友だち以外には「はいはいはい」など同じことを繰り返すことには抵抗を感じる日本人が多いようです。

한국어는 친밀도나 상하에 관계없이 반복해서 말하는 것이 오히려 상대방에게 성의를 나타내거나, 말하는 내용에 대한 관심을 나타내므로 실례가 되지 않습니다. 그러나 일본에서는 어릴 때부터 「대답은 한 번만」 하는 것으로 교육을 받는 탓에 상대방의 말에 친한 친구가 아닌 경우에는 「はいはいはい」처럼 반복해서 맞장구 치는 것에 거부감을 느끼는 사람이 많은 것 같습니다.



はい

マユコちゃん：クリスマスパーティーはみんな楽しみにしているよね。  
ミンスくん：はい。/ \*はいはいはい。

## 【コラム教材例④：初級用】

Unitの目標：相手の話を同意していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

「私もそう思います」という「同意」の時にも「はい」ばかりでは面白くないですね。かえって相手の話に興味関心がないように思われたり、聞いているかどうか不安を与えたりする可能性があります。時々「ほんとうに」や「そうですね」のような表現も使ってみましょう。



‘나도 그렇게 생각합니다’고 ‘동의’ 할 때도 「はい」만 사용하면 재미가 없겠죠. 오히려 상대방의 말에 흥미관심이 없어보이거나 상대방의 말에 귀를 기울이고 있는지 어떤지 불안감을 줄 수 있습니다. 때때로 「ほんとうに」나 「そうですね」와 같은 표현도 사용해 보도록 합시다.

### ほんとうに

マユコちゃん：10年前よりずいぶんたばこが高くなったよね。  
ケイタくん：(考えてみれば)ほんとうに〜(そのとおり)。

### <ワンポイントレッスン>

前に習った「そうですね」は「分かっています」という「理解」の時だけではなく、「私もそう思っています」という時にも使えます。



이전에 배운 「そうですね」는 ‘알고 있습니다’라는 ‘이해’를 나타낼 때 만이 아니라, ‘나도 그렇게 생각합니다’고 할 때도 사용할 수 있습니다.

### そうですね

ミンスくん：電車でいきますよね。  
ケイタくん：そうですね。その方が早いですね。

## 【コラム教材例⑤：中級用】

Unitの目標：相手の話を聞いている、理解している、否定していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

前のページで「うん」の使い方に気をつけなければならないと習いました。では、どのように使えばいいでしょうか？下の「ミンスくん」と「ケイタクん」のように友達関係なら使っても問題ありません。



### うん

ミンスくん : パーティーしたいけど、みんな寮に住んでいるからねえ。  
ケイタクん : **うん**。  
ミンスくん : やっぱりうちぐらいしか、場所ないのかな。

### <ワンポイントレッスン>

「分かっていますよ」という「理解」を示す場合には「はい、ええ、そうですね」などを使うことを勉強しましたよね。「そうですか」も使えるようにしましょう。「これまで分かりませんでした、やっと分かりました」という意味で使われます。同年代や親しい間柄では「そう」や「そうか、そっか」などを使うこともできます



### そうですか

ミンスくん : キムヨナは韓国では「国民の妹」って言われているんですよ。  
ナガイ先生 : **そうですか**。じゃあ、「国民の弟」もいるんですか？

### <ワンポイントレッスン>

今までは相手の話を理解や同意する時の反応の仕方を勉強しましたよね。でも、反対に相手の話が理解できなかったり、同意できなかったりする時はどうしたらいいでしょうか。「私は分かりません、そう思いません」という気持ちを伝えなければなりませんよね。そういう場合は曖昧な否定表現として「いや」を使うとよいでしょう。



### いや

ヒヨナちゃん : あー、先生、ついにLINE始めたんですね。  
ナガイ先生 : **いや**、アカウント作っただけで… まだどうやってメッセージを送ればいいのか分からないんですよ。

## 【コラム教材例⑥：中級用】

Unitの目標：相手の話に同意していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

前のページで相手の話に「私もそう思っています」と「同意」や「共感」の気持ちを表す場合に使うことができる。「はい、ほんとうに、そうですね」や、先取りして言う言い方などを勉強しましたね。今度は同じ気持ちを表すための違う言い方である「言い換え」も使えるようになりましょう。これで相手への「同意」の気持ちを伝える表現がますます豊かになります。



### 言い換え

ナガイ先生：1月30日は大学入試で休講なんですよ。  
マユコちゃん：**授業は休み**ということですね。

### <ワンポイントレッスン>

前のページで相手の話に「私もそう思っています」と「同意」や「共感」の気持ちを表す場合に使うことができる。「はい、ほんとうに、そうですね」や、先取りして言う言い方などを勉強しましたね。今度は「そうですよ」も使えるようにしましょう。これで相手への「同意」の気持ちを伝える表現がますます豊かになります。



### そうですよ

マユコちゃん：先生、じゃあ、「カムサハムニダ」の「カムサ」は「感謝」という意味なんですネ。  
ナガイ先生：**そうですよ**。よく気づきましたね。

### <ワンポイントレッスン>

前に相手の話に「私もそう思っています」と「同意」や「共感」の気持ちを表す場合に使うことができる。「はい、ほんとうに、そうですね、そうですよ」や、先取りして言う話し方などを勉強しましたね。今度は目上の人を使う「そうだねー」も習ってみましょう。



### そうだね

ナガイ先生：ここに入る助詞は何だと思いますか。  
ミンスくん：「を」です。  
ナガイ先生：**そうだねー**。目的語の後には「を」がつくと習いましたね。



## 【コラム教材例⑦：上級用】

Unitの目標：相手の話を聞いていること、理解していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

以前、「聞いている」ことを示す「はい」を勉強しましたね。「ええ」でも大丈夫です。韓国語では相手が話している途中で話を挟んだり割込んだりすると、かえって失礼になりますよね。しかし、日本語では何も言わないまま黙って聞いていると話し相手を不安にさせることになり失礼になります。話し相手の話の切れ目で「はい」や「ええ」と反応し、相手の話についていること、聞いていることを伝えましょう。



### ええ

ナガイ先生：コンサートは夜7時からです。  
マユコちゃん：ええ。  
ナガイ先生：先に夕食、食べちゃいましょうか。

### <ワンポイントレッスン>

これまで「分かりました」の「理解」を示す場合に「はい、ええ、そうですね、そうですか」を勉強しましたよね。これからは「なるほど」という表現も勉強し、「分かりました」という「理解」を表す時に使いましょう。



### なるほど

マユコちゃん：木金土が授業なんだ。  
ケイタクン：なるほど、だから火曜日はいつもバイトしてるんですね。

## 【コラム教材例⑧：上級用】

Unitの目標：相手の話に同意していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

前に先生や先輩に「私もそう思います」という「同意」の気持ちを伝える表現を勉強しましたね。では、後輩や友だちに「私もそう思うよ」という気持ちを単純に伝える時はどうしたらいいでしょうか。「うん」を繰り返して「うんうん」という言い方がありますのでこれから時々使ってみましょう。

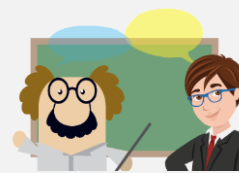


### うんうん

ケイタくん：この前沖縄行った時、寒かったですよ。  
マユコちゃん：うんうん、沖縄が寒いなんてびっくりだったよ。

### <ワンポイントレッスン>

「私もそう思います」の意味で強い「同意」の意味を表す表現「そうですね」を勉強しましたね。しかし、「そうですね」ばかりでは面白くないので、時々「そうなんです」「そうなんです」も使ってみましょう。上級学習者らしく自分の意思をはっきり示すのは大事ですからね。



### そうなんです

ナガイ先生：今年の新年会は3人しか来ないみたいですね。  
ケイタくん：そうなんです。みんな実家に帰ってしまうみたいで。

### そうなんですよ

マユコちゃん：世界中の知り合いと無料通話ができるっていいね。  
ケイタくん：そうなんですよ。便利な時代になりましたよね。



## 【コラム教材例⑨：上級用】

Unitの目標：相手の話に同意していること、感情を表していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

「私もそう思っていました」の「同意」の意味で「やっぱり」という表現を用いることもできます。「やっぱり」は相手の気持ちを配慮しながら自分の意思を伝えることができるので、これから時々使ってみましょうね。ただ、個人差はありますが、目上に対して使うことに抵抗がある日本人もいるようです。



### やっぱり

マユコちゃん：（二人と一緒に歩いている姿を見かけて）  
あれ、ヒヨナちゃんとミンスくん、付き合ってるのかな。  
ケイタクん：やっぱり、そうですね。ほくもそう思っていたんです。

### <ワンポイントレッスン>

日本語では、下のように相手が「言いたいだろうな」と予想できることを、相手が言う前に先に言うことがあります。「先取り」と言います。「先取り」は使おうと思っても思い通りにならないかもしれませんが、こういう言い方があることを覚えておきましょう。



### 先取り

マユコちゃん：<sup>おきなわ</sup>せっかく沖縄まで来たのに雨なんて…  
ミンスくん：でも、明日は  
マユコちゃん：晴れるらしいけどね、本当かな  
ミンスくん：天気予報はあたりませんからね。

### <ワンポイントレッスン>

相手の話に興味や関心を持っていることを伝えるのは重要です。そういう気持ちを伝える単純な言い方に「えー！」という表現があります。心の中で思った感情を率直に伝えられるようにこれから時々使ってみましょう。



### えー！

店長：あそこのテーブルに座っている人、アイドルのビビアンちゃんだよ。  
ケイタクん：えー！ 僕大ファンなんですけど  
店長：じゃあ、ケイタクん、このコーヒー、ビビアンちゃんのところを持っていってもいいよ。

## 【コラム教材例⑩：上級用】

Unitの目標：相手の話を否定していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

以前、相手の話に不同意や否定することを表す時に、「いや」を使うと勉強しましたよね。ですが、曖昧な否定である「いや」ばかりでは上手な聞き手になれないかもしれません。不理解や不同意の気持ちを上手く伝えるために「んー」のような表現もこれから使ってみましょう。



### んー

マユコちゃん：ついにLINE始めたんですね。  
ナガイ先生：んー、始めたというか、ミスくんは無理やりアカウントを作られたんですね。

### <ワンポイントレッスン>

日本語では、感謝された時の返事として「どういたしまして」が使われますが、実際は「いえいえ」がよく使われています。これは否定というより謙遜の気持ちを表すので、相手に感謝された際は「いえいえ」と反応してみましょう。



### いえいえ

ナガイ先生：ミスくん、今日は手伝ってくれてありがとうございました。  
ミスくん：いえいえ。手が足りないときはいつでも言って下さい。

### <ワンポイントレッスン>

以前、相手の話に不同意や否定することを表す時に、「いや」を使うと勉強しましたよね。ですが、曖昧な否定である「いや」ばかりでは上手な聞き手になれないかもしれません。不理解や不同意の気持ちを上手く伝えるために「どうでしょうかねー」のような表現もこれから使ってみましょう。



### どうでしょうかねー

ケイタくん：推薦状を書いてもらったので、奨学金はもらえますよね。  
ナガイ先生：どうでしょうかねー、成績も重要ですからね。

## 【コラム教材例⑪：超級用】

### <ワンポイントレッスン>

以前にも、「聞いている」ことを示す「ええ」を使いましたよね。「私もそう思います」という「同意」の時にも「ええ」を使うことができます。これから時々使ってみましょう。



### ええ

マユコちゃん：去年のゼミ合宿は沖縄だったから、今年は北海道に…。  
ケイタくん　：ええ、今年は新幹線も開通しましたよね。

## 【コラム教材例⑫：超級用】

Unitの目標：相手の話を理解していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### <ワンポイントレッスン>

同年代には「分かります」という「理解」の時にも「ふーん」などの表現を使うことができます。勉強して聞き上手になりましょう。



### ふーん

ケイタくん： 今度のゼミ合宿、ヨナちゃんが突然来られなくなっちゃってさ。  
ミンスくん： **ふーん**、何かあったのかな。

### <ワンポイントレッスン>

同年代には「分かります」という「理解」の時にも「あ、そうか、そうか」などの表現を使うことができます。勉強して聞き上手になりましょう。



### あ、そうか、そうか

ヒヨナちゃん： そのワイン、私も飲んだことあるよ、去年の花見で先輩にもらったもん。  
ケイタくん： **あ、そうか、そうか**。

### <ワンポイントレッスン>

改まった場面では「分かります」という「理解」の時にも「そうなんですか」という表現を使うことができます。簡単なあいづちだけではなく、より強いニュアンスをもった表現形式で自分の意思を伝えるようにしましょう。



### そうなんですか

ナガイ先生： 今、アルバイトしてないんですか。  
ケイタくん： そうですね。あの、全部やめたっていわけじゃないんですけど。  
ナガイ先生： **そうなんですか**。

## 【コラム教材例⑬：中級～上級用】

Unitの目標：相手の話を聞いている、理解していることをうまく伝えられるようになりましょう！

### 会話のヒント

相手の話を「聞いている」「理解している」ことを表わす場合に、韓国語では「오:oh」を使って反応しますね。日本語では「驚きや感情を表わす」場合は「おー」を使って反応しますが、「聞いている」「理解している」を表わす場合には韓国語とは違って「おー」を使って反応することはありません。

ですから、今度から「おー」と言って反応しそうになったら、「はい」「ええ」「あー」「そうでしたっけ」などを使ってみましょう。

ナガイ先生：今夜のフィギュアスケートなんですけど、  
マユコちゃん：ええ  
ナガイ先生：始まるのは夜12時でしたよね。  
マユコちゃん：そうでしたっけ。2時だと思っていました。



「聞いている」「理解している」などを示す反応には次のような言い方もあります。

- 「相手の話を聞いている」ことを表わす場合
- 1. はい、はあ、え、ふん
- 2. (オウム返し、単純な聞きかえし的な) 繰り返し

ナガイ先生：昨日のフィギュアスケート、  
真央ちゃんはまさかの16位でしたね。  
マユコちゃん：はい、まさかの16位でしたね。



「相手の話しを理解している」ことを表わす場合

1. ええ、ふーん、えー、あー
2. そう、そうか、そうなんだ、そうですね、そうですか、そうなんですか、そうでしたか、ほんと、ほんとですか、言いかえ系、繰り返し系

ヒヨナちゃん：キムヨナは韓国では「国民の妹」って  
言われているんだよ。  
マユコちゃん：そうなんだ。じゃあ、「国民の弟」もいるの？



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！

## 【コラム教材例⑭：中級～上級用】

Unitの目標：同じことばをくりかえさずに、「聞く」「理解」「同意」の気持ちをうまく伝えられるようになりましょう！

### 会話のヒント

相手の話を「聞いている」「理解している」「同意している」ことを表わす場合に、日本語を勉強している韓国人はよく「んんん」「はいはいはいはい」「そうそうそうそう」などと同じことばを繰り返して反応します。最近の韓国語では親疎、上下に関係なく繰り返して反応することが相手への誠意や話す内容への関心を表わすので、失礼になることはありません。

**日本語では、親しい友達同士の間で強い同意を表わす場面では同じことばを繰り返して使うことがあります**が、初対面や目上の人に対して使うのはあまりふさわしくないようです。日本語では初対面で「はいはいはいはい」などと反応されると、「え、そんなことわかっていますよ？」という意味になったり、「あまり親しくないのに、なんでこんな言い方をするの？」と違和感を与えたり、「おもしろくないな」という否定的な感情を持っていると受け取られたりするので、十分に気をつけたほうがいいでしょう。また、日本では「返事は1回でいい」とする教育の影響もあり、相手の話に反応するときも同じことばを繰り返すことには抵抗を感じる日本人が多いようです。

ケイタクン：この前沖縄行った時、寒かったよね。  
マユコちゃん：**そうそう**、沖縄も寒いなんてびっくりしたよ。  
ケイタクン：初日は雨も降ったしね  
マユコちゃん：**んんん**、大変だったね。  
ケイタクン：でも、2日目は青空が見られてよかったよね。  
マユコちゃん：そうだね、せっかく沖縄に行ったんだもんね。



ですから、今度から「んんん」「はいはいはいはい」などと反応してしまいそうな時は、「ええ」「はい」「そう」など、1回きりの反応を使ってみましょう。

上司：サイトウくん、今年の社員旅行だけだね  
サイトウくん：**はい**。  
上司：去年の沖縄は台風で大変だったからね  
サイトウくん：**ええ**、本当に大変でしたね、去年は。  
上司：今年は箱根に行くか。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！



## 【コラム教材例⑮：中級～上級用】

Unitの目標：初対面で、目上の人には「～ですね」「～ますね」と反応し、相手との距離感をはかりましょう！

### 会話のヒント

日本語の「ね」と「よ」に意味的に対応する韓国語がないため、会話のなかで誤って用いられることが多いようです。相手の話に反応するときの「～ね」「～よ」に対しても同じことが言えます。「～ね」は「～です」「～ます」が使える場所以外、特に「普通体+ね」は、けっこうなれなれしく感じられます。たとえば、「なるほどね」がその一つです。

日本語が上手な上級や超級の場合だと、余計に誤解されやすいようです。日本語が上手なのに目上の人に「～ね」という言い方をすると、偉そうに聞こえてしまうこともあるので、人間関係で損することもあります。

ですから、今度から初対面や目上の人と話すとき、「なるほどね」と反応しそうになったら、「ええ、そうですね」「ああ、そうでしたね」などを使って話してみましょう。

- ナガイ先生 : 来週が前期最後の授業になります。  
マユコちゃん : 先生、1月30日は授業ないんですか。  
ナガイ先生 : 1月30日は大学入試で全校休講なんですよ。  
マユコちゃん : ああ、そうでしたね。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！

## 【コラム教材例⑩：中級～上級用】

Unitの目標：「ん」と反応したくなるとき、「はい」「ええ」で「聞く」「理解」「同意」の気持ちを伝えられるようになりましょう！

### 会話のヒント

話し手になると「～です」「～ます」体で話しているのに、聞き手になると「ん」「んー」と反応することがあります。特に、初対面や目上の人と話す場合、このような丁寧度が低い「ん」とか「んー」を使用することにより、「日本語が上手なのに、どうして上から目線で話すんだろう」と誤解されることがあります。

最近では日本の企業への就職を考える韓国人も少なくなく、そのために面接を受けることがありますね。その際、面接官の前で話すときは「何とかです/ます」と話せるのに、人の話を聞くとときには「～ん」「～んー」と反応すると「ちょっと感じが悪いね」と言われたり思われたりする可能性もあります。

ですから、今度から初対面の面接官の前や、目上の先生と話す際に「ん」「んー」と、反応しそうな場合は、「えー」「ええ」「はい」の反応を使って話しましょう。

面接官：雪で電車がだいぶ遅れていたみたいですね。

コウガさん：はい、1時間くらい遅れていました。

面接官：よく時間通りに来られましたね。

コウガさん：ええ、2時間早く家を出ましたので、  
なんとか間に合いました。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！

## 【コラム教材例⑰：中級～上級用】

Unitの目標：「はい」と反応したくなるとき、「ええ」「えー」も同じように使(つか)って「聞く」「理解」「同意」の気持ち(きもち)を伝えられるようになりましょう！

### 会話のヒント

韓国人は「聞く」「理解」「同意」の反応をするとき、「はい」ばかり使う傾向があります。また、「はい」という反応がいないところでも「はい」と反応し、誤解を招くこともあります。これは学習の初級段階で習得した「はい」の反応に頼りすぎた結果のようです。

日本人の場合は、「はい」「ええ」「うん」を適切に使い分けて使用するという報告があります(水谷1984)。実際、丁寧さのレベルで考えると、「はい」と「ええ」はその差があまりないので、「はい」ばかりではなく、「ええ/えー」を適当に混合して使ったほうが自然です。言いやすさの面からも「ええ」は発音しやすいので「はい」と「ええ」のどちらかに偏らないように気を配る必要がありますね。

ですから、今度から「はい」と「ええ」をバランスよく使って話してみましょう。

ナガイ先生： 今年のゼミ合宿なんですけど

ケイタクン： はい

ナガイ先生： みんなの希望聞いてくれました？

ケイタクン： はい、沖縄に行きたいという人が3人いました。

ナガイ先生： でも、去年も沖縄だったから今年は北の方に行きたいですね。

ケイタクン： ええ、そうですね。北海道や東北でもいいですね。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！

## 【コラム教材例⑱：中級～上級用】

Unitの目標：聞き手としての反応を積極的にしましょう！

### 会話のヒント

伝統的に韓国語では目上の人と話すとき、あまり反応を示さずに、うなづく程度で黙っているのが礼儀だと思われることがありますね。そのせいで、韓国人は日本人と話すときに、話を聞いているという反応をしないことがあります。

このように、聞き手の反応が期待される場所で、聞き手の反応がなければ話し手に不快感を与えてしまいます。なぜなら、日本人の場合も意図的に聞き手としての反応をしないことで、何かを伝えようとする場合があるからです。たとえば、話し手の言おうとしている意図が分からないことを伝えるときや話し手の意図が聞き手にとって関心のないものであることを伝えるときなどです。

ですから、これからは聞き手になった場合、相手の話を聞いていることを示すようにしましょう。特に、発話の途中、切れ目の部分、「ね」や「よ」などの直後、「～が、けど、ので」などの直後などに聞き手として反応を表わし話し相手を安心させる必要があります。

ナガイ先生：皆さんお勧めのLINEを始めたんですけど

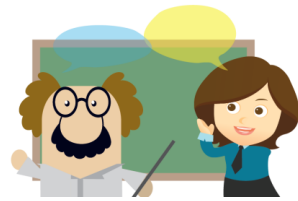
マユコちゃん：あー、ついに始めたんですね

ナガイ先生：ええ、メッセージも送れますしね、

マユコちゃん：外国にいる人にも送れるから便利ですよ。

ナガイ先生：そう、世界中の知り合いと無料通話ができるっていいですね。

マユコちゃん：本当ですよ。便利な時代になりましたよね。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て(聞いて)みましょう！

## 【コラム教材例⑱：中級～上級用】

Unitの目標：場面に適したより多様な反応をしましょう！

### 会話のヒント

日本人の相手の話に対する反応の表わし方はたくさんあります。それに比べると、韓国人の反応はバリエーションに欠ける場合があります。たとえば、話し手が聞き手に「あー」「はあ」「へー」などの関心や興味があることを表明する反応が期待される場所で、ただ「聞いている」機能の「はい」という反応で済ませてしまう場合です。

また、「そうですね」「そうなんです」などで「同意している」ことを表わす反応が期待される場所で、「はい」で済ませてしまったり、「ああ、そうですか」で「理解している」ことを表わす場合に「んー」で終わらせてしまったり、初対面のあいさつの場面で「いえ」という否定的反応で始めてしまったりすることもあります。特に、上級以上の日本語学習者の場合でもこのような傾向があるようですが、日本語が上手なだけにどうしてこのような使い方をするんだらうと思われ、失礼で不愉快な人などと誤解され人間関係が損なわれる可能性さえあります。

ですから、今度から場面ごとに適した多様な反応を使って話してみましよう。そして、「感情を表す」多様な反応をもっと知っておきたいときは次の形式も使ってみましよう。

#### ●興味・関心の表示

A：へーえ ㄱ

B：そう系（そうですか ㄴ そうなんですか ㄴ），ほんとう系（あ、ほんとー ㄴ ほんとー ㄱ），繰り返し ㄴ，言い換え ㄴ，先取り ㄴ

#### ●興味・関心の表示

A：へーえ ㄱ

B：そう系（そうですか ㄴ そうなんですか ㄴ），ほんとう系（あ、ほんとー ㄴ ほんとー ㄱ），繰り返し ㄴ，言い換え ㄴ，先取り ㄴ

ケイタクン：今朝、電車に乗り遅れてタクシーに乗ったんだけど、

マユコちゃん：へーえ ㄱ お金持ちだね。

ケイタクン：お金払おうと思ったら、財布に100円しか入ってなくてさ

マユコちゃん：うそー ㄱ じゃあ、また家に戻ったの？

ケイタクン：ううん、クレジットカードが使えるタクシーだったんだ、幸い。

マユコちゃん：へー ㄱ ラッキーだったね。、クレジットカードが使えるタクシー少ないもんね。



では、実際の場面でどのように「聞いている」「理解する」「同意する」を示すのか、見て（聞いて）みましょう！

## 【コラム教材例 ⑳ : 上級～超級用】

Unitの目標：相手の話の流れにつながるように上手に反応しましょう！

### 会話のヒント

日本語では聞き手としての反応の仕方が色々あります。  
もし、友人と食事して帰るころに「もうそろそろ…」と言われたら、あなたはどのように反応しますか。「はい」と、あいづちで反応しますか、挿絵のように「帰りましょうか」と反応しますか。  
どちらでも会話としてはなりたちますが、実はここに面白い日本語のコミュニケーションルールがあります。「もうそろそろ…」に対し、「帰りましょうか」と反応することで二人のそれぞれの発言が「もうそろそろ、帰りましょうか」という一つの文になりますよね。  
このように二人で一つの会話文を作りあげていくことを日本語では「共話(Co-construction)」といいます。共話をするにより、その先の話の展開がどのように違って行くのか一緒に考えてみましょう。



※ 次の会話を聞いた場合、あなたならその続きの会話がどのように進むと思いますか。

船客(A) : じゃあ、結婚されてるんですか。  
ナガイ先生(B) : はい、今年で10年になります。  
船客(A) : じゃあ、奥様も高校にお勤めなんですか。  
ナガイ先生(B) : いや、実は教員になって最初の赴任地が小笠原の父島で、

A : ということは、島の方と出会われて？  
B : いやー、それが島で出会ったんですけど、家内も実は僕と同じ札幌の出身でして。

A' : ええ、いいですね。小笠原、行ってみたいですね。  
B' : いいところですよ。ぜひ。船で24時間以上かかりますけど。

※ では、次の会話を聞いて、その続きの会話を考えてみましょう。

(タクシーのなかで)  
乗客(A) : 運転手さん、仕事してて怖かったこととかありますか。  
タクシー運転手(B) : この前のことなんですけど、ある夜暗い夜道で髪の毛の長い女の人を乗せたんですよ。  
乗客(A) : ほうほう、いやな予感がしますね、それでどうなったんですか？  
タクシー運転手(B) : 崖の近くに来たら急に後ろから「ここで止めて！」って

A : 「私、ここで死んだの」って言ったとか！  
B : と思うでしょ？でもただの車酔いで、外に出て吐いたらすっきりした顔してましたよ。

A'' : そこに、観光スポットが何かあったんですか？  
B'' : いや、そうゆうことじゃないんですけどね…



では、実際の場面でのように共話が行われるのか、見て(聞いて)みましょう！

## 第 14 章 終章

本章では、まず、1.1.で示した研究目的にもとづき、各章の総合的考察の結果をまとめる(14.1.)。次に、それと関連して、日本語教育への応用としての聞き手言語行動のコラム教材作成が示唆することを述べる(14.2.)。最後に、日本語教育における聞き手言語行動研究の今後の課題を提示する(14.3.)。

### 14.1. 各章のまとめ

本節では、各章のまとめを行う。以下の図44は本研究において展開された考察を図式化したものである。本研究は図に示したように1. 変異生起要因、2. 言語能力、3. 談話展開の三つの観点から分析を試み、従来の聞き手言語行動の研究を敷衍しながら、その実態を明らかにした。

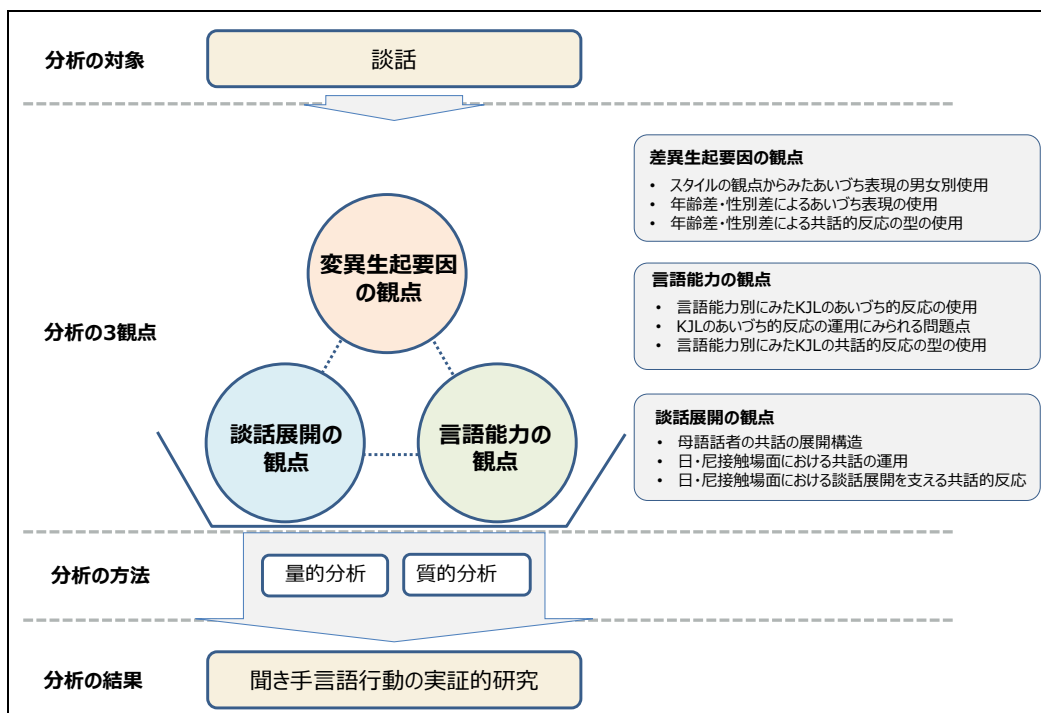


図 44 本研究の観点 (図 1 の修正再掲)

具体的には、聞き手が会話に参加する際に使用するあいづち表現、共話的反応などの聞き手言語行動に焦点を置き、日本語母語話者、日本語学習者(韓国人、インドネシア人)のそれぞれが聞き手言語行動をどのように用いながら会話に参加しているのかを調べ、その使用実態を明らかにした。

以下に、1.1.1.で示した研究目的と照らし合わせながら、研究の結果をまとめる。

#### 14.1.1.1. 日本語母語話者の聞き手言語行動が、スタイルや対話相手との社会的関係による変異生起要因(年齢差・性別差)とどのように関わっているか

大まかには、以下のような結果が得られた。

- ・ 20代女性は同年相手には「うん」系、「そう」系による普通体あいづちの使用が多い。
- ・ 20代男性は同年相手、年上相手共に「はい」系、「ええ」系、「そうです」系の丁寧体あいづちの使用が多い。
- ・ 丁寧体と普通体のスタイルの対立がないあいづち表現場合は、20代男女共に対同年、対年上に関わらず「あー、ふーん、へー」などの感声的あいづち表現の使用が多い。
- ・ 20代女性同士では初対面でも丁寧なあいづち表現の使用は少ない。感声的あいづちであれ、概念的あいづちであれ、くだけたあいづち表現の使用が多い。
- ・ 感声的あいづち表現の使用は、20代も30代も同性同士の会話では同年相手のときに多く、30代異性同士のみ年上相手の使用が多い。性別があいづち表現の使用に影響を及ぼしているとみられる。
- ・ 20代男性同士の会話では年上に対してもくだけたあいづち表現の使用が多い。
- ・ 共話的反応の型の場合、20代と30代との間に、年齢による使用差が確認できた。20代の男女が年上の相手に「同意」、「共感」の機能の共話的反応を積極的に示すことにより、相手に同調の気持ちを伝え、相手との心理的距離を縮めようとしているのに対して、30代男性は、対話相手の同年・年上、同性・異性に関わらず共話的反応の型をあまり使用しないことが分かった。この傾向から、30代男性は共話的反応ではない他の聞き手言語行動を好む可能性が示唆された。

これらは、日本語学習者の日本語コミュニケーションの向上のために、現実の母語話者のコミュニケーションを観察することが重要であると考え、第2部の第4章、5章、6章で、変異生起要因に着目し、母語話者の会話を分析、考察した結果である。以下では、章ごとの展開をまとめる。

まず、第4章ではこれまでの日本語教育でシラバスとして取り上げられることの少なかった丁寧体と普通体というあいづち表現のスタイルに焦点を当て、20代の大学生・大学院生の初対面会話を対象に、対話相手が年上か同年かによる使用傾向の違いを、以下の通り、男女別に明らかにした。



### 男性の使用傾向の特徴

- あいづち表現の使用について、対同年相手、対年上相手共に「はい」系、「ええ」系、「そうです」系などによる丁寧体あいづち表現を多用することにより、相手との距離を保持し丁寧さを保とうとすることが確認できた。

### 女性の使用傾向の特徴

- あいづち表現の使用について、対同年相手には、「うん」系、「そう」系などによる普通体あいづち表現の使用を用い、相手と良好な関係を保つために仲間意識を示すことで相手との心的距離を縮めようとする事が分かった。対年上相手には「うん」系の感声的普通体や「はい」系、「ええ」系の感声的丁寧体といった、スタイルにかまわず感声的あいづち表現を多用していることが確認できた。

### 両性に共通して確認された使用傾向の特徴

- 丁寧体と普通体のスタイルの対応がないあいづち表現については「あ」系や「ふーん、へー、ほー…」など、意味内容のない感声的あいづち表現の使用が目立った。親密な関係でより多く使われるこれらのあいづち表現を用いることで、相手との良好な関係を保とうとしていることが分かった。

次の図45は、以上の結果と考察をまとめたものである。

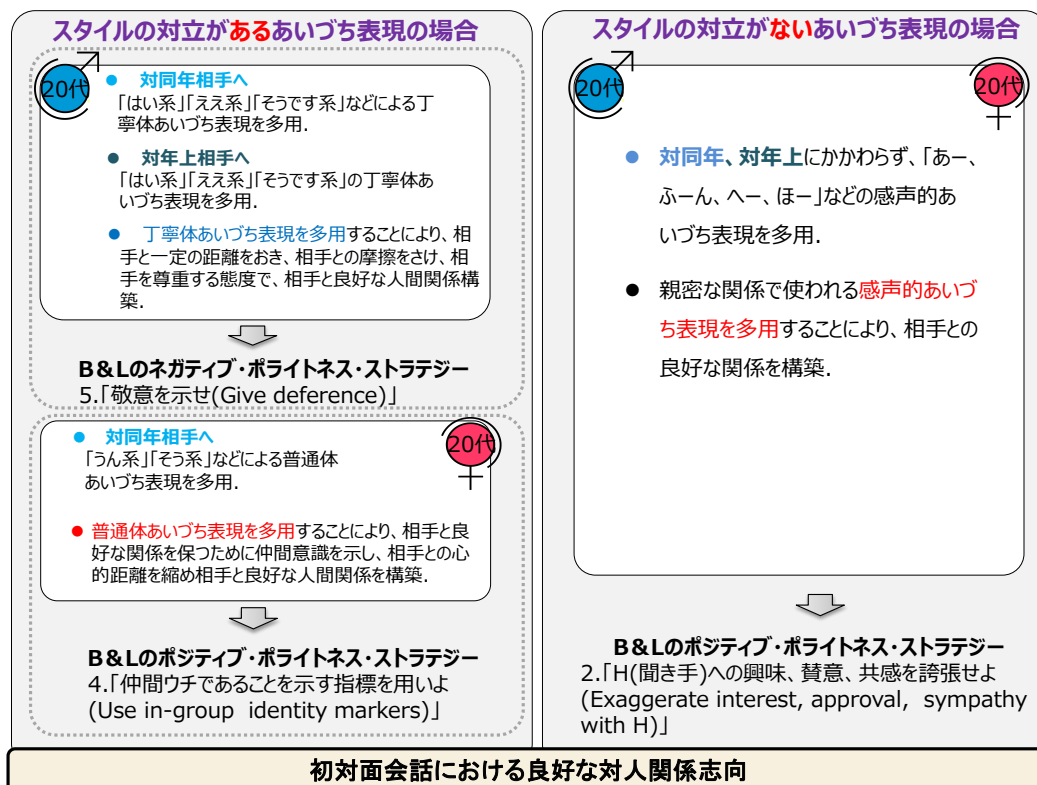


図 45 20代のスタイルによるあいづち表現の使用傾向 (図 19 の再掲)

次に、第5章では、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代話者の自然談話データも分析の対象にいれ、どのような聞き手言語行動の使用様相が会話相手の年齢によってどのように変化するのかを明らかにした。またその際、主にどのようなポライトネス・ストラテジーが機能するのかについて考察した。それらを以下にまとめる。

- ・ 「初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い」という仮説(1)を立てたが、20代女性同士の会話では、感声的あいづちについても概念的あいづちについても、くだけたあいづち表現の使用が多かった。この結果から、ポジティブ・ポライトネスは、20代前半の若い女性においてより表れやすいということが読み取れた。一方、20代男性同士、30代男性同性同士、30代男性異性同士では初対面会話において「丁寧なあいづち」が主に使用され、ネガティブ・ポライトネスが表れやすいことが明らかになった。
- ・ 「会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合に丁寧なあいづちの使用が多い」という仮説(2)の検証のために感声的あいづち表現の使用を観察した結果、20代女性同士、20代男性同士、30代男性同士の会話においては、年上相手より同年相手の使用の方が多かった。また、30代男性の異性との会話においては、同年相手より年上相手の使用が多かった。このような結果から、性別が聞き手言語行動に影響を及ぼすことが確認できた。一方、30代男性同性同士の会話における概念的あいづち表現の使用は、対年上の会話の方が、対同年の会話よりも少ない。
- ・ 「会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくだけたあいづちの使用が多い」という仮説(3)を検証した結果、20代男性同士の場合対年上に対してもくだけたあいづちを使用する。
- ・ 「はい系、え系は対年上に、うん系は対年下にその使用が多い」とする仮説(4)、「そうですね系は対年上に、そう系は対同年にその使用が多い」とする仮説(5)については、それぞれ例外があることが確認できた。まず、20代女性の対同年に使用する「え系」は丁寧度とは関係なく、ただ違和感を表明する働きがあることが分かった。また、20代男性が年上相手に、敬意の低いくだけたあいづちとされる「うん系」を多く用いるという結果が出た。「うん系」は「うーん」「ううん」などの形式で考え事をしたり、間を持たせたり、返答をにごしたりする時にも用いられていた。反対表明ができず、答えづらい場合や答えたくない場合なども使用される傾向があるので、敬意の低いくだけたあいづちとは言いきれないところがあるようである。さらに、30代男性の場合、同性同士では対同年に「そうですね系」の使用が多く、異性同士では対同年に「はい系」の使用が多かった。

次の表56は、以上の分析、考察の結果をまとめたものである。

表 56 仮説に基づくあいづち表現の年齢差・性別差による使用状況 (表 25 の再掲)

| 仮説                                   | 20代女性の同性相手へ | 20代男性の同性相手へ | 30代男性の同性相手へ | 30代男性の異性相手へ |
|--------------------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| (1)初対面では、会話相手に関係なく丁寧なあいづちの使用が多い      | ×           | ○           | ○           | ○           |
| (2)会話相手の年齢が発話者よりも年上の場合に丁寧なあいづちの使用が多い | ○           | ○           | ○           | ×           |
| (3)会話相手の年齢が発話者と同年の場合にくださったあいづちの使用が多い | ○           | ×           | ○           | ○           |
| (4)「はい系」「え系」は対年上に、「うん系」は対同年にその使用が多い  | *1<br>え系    | *2<br>うん系   | ○           | *3<br>はい系   |
| (5)「そうです系」は対年上に、「そう系」は対同年にその使用が多い    | ○           | ○           | *4<br>そうですね | ○           |

そして、次の図46は、上記の結果のうち、表53で網掛けにして示した仮説に反する部分に注目し、ポライトネス・ストラテジーがどのように機能しているのかをまとめたものである。

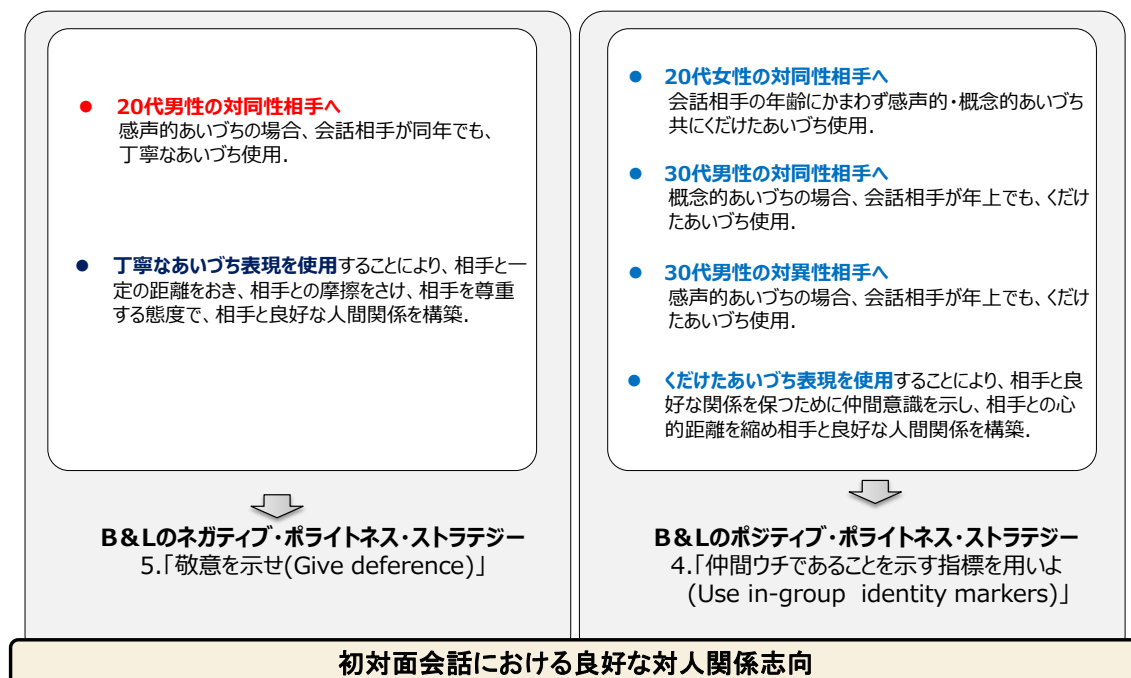


図 46 ポライトネス・ストラテジーからみたあいづち表現の使用

さらに、第6章では、聞き手言語行動のうち、共話をなす聞き手の共話的反応の型については、話し手との性別差、上下関係(社会的地位・年齢)や親しさの程度などの社会的要因の影響

響について、特筆すべき研究報告がほとんどないことに注目し、従来の研究で主に対象とされてきた20代に加え、30代の話者の自然談話データも分析の対象にいれ、対話相手の年齢によってそれらがどう変化するのかを明らかにした。またその際、主にどういったポライトネス・ストラテジーが機能するのかについて考察した。主な結果は次の通りである。

- ・ 20代の女性は、年上の相手の発話内容に対し主に「先取り」と「言い換え」の共話的反応の型を用い、「共感」や「同意」を示すために積極的に使用することが確認できた。一方、20代の男性は年上相手には「先取り」と「言い換え」の共話的反応の型を用い、年上に自分の考えや意見が同様であるという「同意」を示すために使用していることが分かった。こうした使用傾向はブラウンとレビンソン(Brown & Levinson1987)のポライトネス理論でいうところの、ポジティブ・ポライトネス・ストラテジー2「H(聞き手)への興味、賛意、共感を誇張せよ(Exaggerate interest, approval, sympathy with H)」と合致するものと考えられる。20代女性も20代男性も年上相手に対して年上の相手に「同意」、「共感」の機能の共話的反応を積極的に示すことにより相手に同調の気持ちを伝え、相手との心理的距離を縮めようとしているのである。
- ・ 30代男性の場合、対話相手の同年・年上、同性・異性に関わらず共話的反応の型をあまり使用しないことが分かった。このような傾向から30代男性の場合は共話的反応ではない、他の聞き手言語行動を好む可能性が考えられる。実際、前章の表23の対人関係による感声的あいづち表現の使用傾向において、20代は920回、30代では1,290回、表24の対人関係による概念的あいづち表現の使用傾向において、20代194回、30代249回という結果から、30代は聞き手言語行動のうち共話的反応の型よりあいづち的反応を好む傾向があることがうかがえる。

従来の研究で示されている出現傾向の分析結果が一様ではないことを指摘した上で、使用が多い20代を中心に見た場合、とりわけ女性が多用すること、対年上に多用することを確認することができた。

こうして、対話相手が年上か同年かという年齢の違いが共話的反応の型の使用に影響を及ぼすことが明らかになった。

次の図47は、以上の結果をまとめたものである。

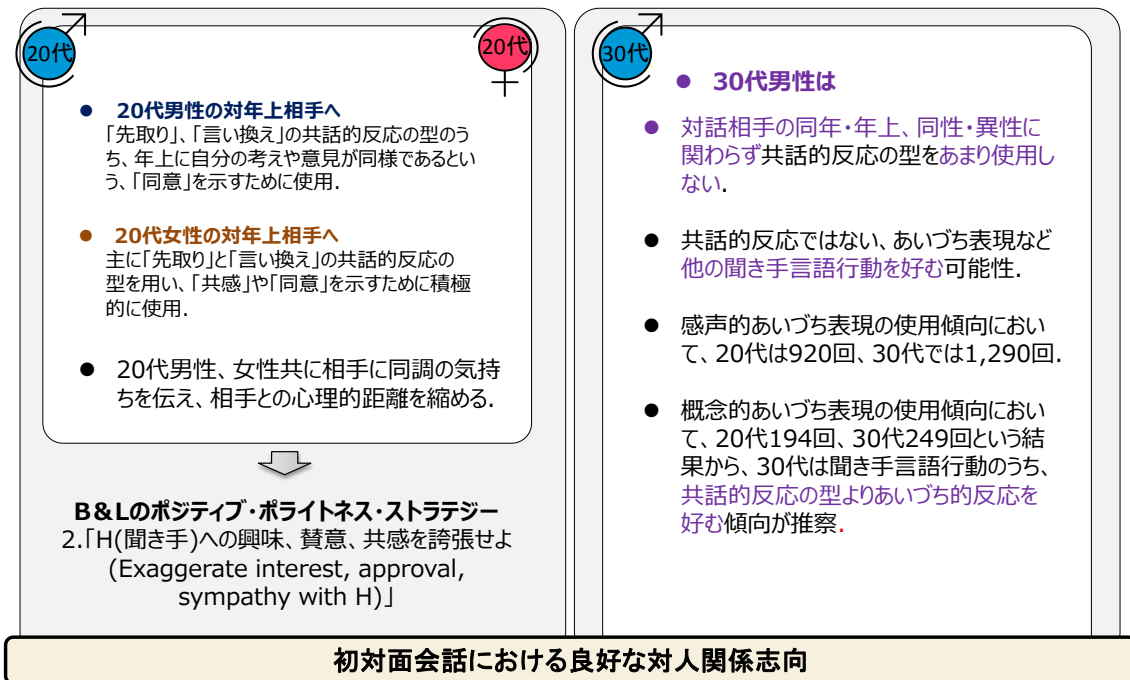


図 47 対人関係による共話的反応の型の使用傾向

上記の考察から、対話相手が年上か同年かという年齢とともに、対話相手が同性か異性かの性別差の要因が聞き手言語行動の使用に影響を及ぼすことが明らかになった。

また、聞き手言語行動の使用上の適切さは、状況に依存しており、形態が同一であっても、会話参加者の役割や場面により適切さが異なることが確認できた。あいづち表現の運用に関するこれらの知識もまた、円滑なコミュニケーションのためには不可欠であり、学習が必須な項目であろう。

#### 14.1.2. 日本語学習者の聞き手言語行動が、言語能力レベルによる違いは見られるのか

第3部の第7章、8章、9章では、学習者の日本語コミュニケーションの向上のために、日本語学習者の聞き手言語行動の運用実態を把握する必要から、言語能力の問題に着目し、日本語学習者の会話を分析、考察した。

まず、第7章ではKJLの共話的コミュニケーション能力を高めるために、KJLによって使用されるあいづち的反応の機能に着目して言語能力レベル別にどのような使用傾向があるのかを考察した。また、指導の重要性が要求されるあいづち的反応については、言語能力レベル別に導入する必要性を検討した。以下に主な結果をまとめる。

- ・ 感声的あいづちによるあいづち的反応として、初級から超級までのすべてのレベルにおいて主に「傾聴」「理解」「同意」機能を持った「はい」形式が使用されていることが明らかになった。

- ・ あいづち的反応は、初級では主に「理解」「同意」、中級から超級にかけては主に「傾聴」機能を果たしていることがわかった。
- ・ KJLのあいづち的反応としては感声的あいづちの方が概念的あいづちより出現数が圧倒的に多いことが明らかになった。
- ・ 概念的あいづちによるあいづち的反応として、初級から超級までのすべてのレベルにおいて「理解」「同意」「否定」機能がほぼ同じように使用されているが、それぞれの機能ごとに、レベルが上がるにつれて異なる形式が用いられるようになることから、その用いられ方は決して一様ではないということが確認できた。
- ・ 使用数、初出形式、違和感がある表現、日本語母語話者(NS)の使用などの選定基準により、あいづち的反応のシラバス設計を試みる事ができた。

次に、第8章ではKJLがあいづち的反応をうまく使用できないという現状を踏まえ、その運用における特徴と背景について考察した。確認された不自然な言語行動は、以下の通りである。

- ・ 母語(韓国語)の影響と考えられる聞き手言語行動
  - a. 「いえいえ」「おー/おーおー」などの母語(韓国語)の使用
  - b. あいづち的反応が必要な場面での不使用
- ・ 日本語のスピーチスタイルの影響と考えられるあいづち的反応
  - a. 初対面の目上の人に対する「なるほどね」
  - b. 同一会話内における不安定なスピーチレベル
- ・ 母語と目標言語との影響と考えられるあいづち的反応
  - a. 同じ表現形式の繰り返し
  - b. 待遇性の低い「ん」のあいづち的反応を用いることによる、談話の待遇レベルの不安定
- ・ バリエーション不足による影響と考えられるあいづち的反応
  - a. 「はい」の過剰般化
  - b. 「ええ」の不使用
  - c. 場面に適さないあいづち的反応：同意の「そうですね/そうなんです」または関心や興味「あー、はあ、へー」で反応すべきところでの「はい」使用、「そう系」あいづち的反応のうち「そうですね」の使用に偏っていることなど

さらに、第9章では、韓国人日本語学習者の聞き手言語行動のうち、共話的反応の型と機能の使用実態について明らかにするため、日本語学習者と母語話者のOPIをデータとし、

日本語学習者の共話的反応の型の言語能力レベル別の使用状況を比較分析した。その主な結果は以下の通りである。

- ・ 共話的反応の型として、初級では「先取り」、「遮り」、「繰り返し」の使用が確認された。中級からはさらに「言い換え」の使用も確認された。
- ・ 機能については、初・中級では「補足」「反論」「同意」の機能での使用が、上・超級ではさらに「相手助け」の使用も確認された。
- ・ 共話的反応の型の運用は、「先取り」、「遮り」、「繰り返し」が「言い換え」に先立つ。
- ・ 共話的反応の型の機能の運用は、「補足」、「反論」、「同意」が「相手助け」に先立つ。
- ・ 学習者と母語話者のそれぞれが用いる共話的反応の型およびその機能の違いに注目した結果、母語話者に見られた「問い返し」と「確認」の共話的反応の型と機能がKJLにはみられないことがわかった。
- ・ 学習者は「遮り」の型を最も多く用いていたのに対し、母語話者には「先取り」の型を最も多く用いていた。

以上の通り、言語能力の観点から日本語学習者ののに応じ、あいづち的反応、共話的反応の運用実態を探った。これまで、上級以上の日本語学習者であっても、あいづち的反応は不十分ではないのになぜか聞き手としての反応が不十分であること、談話展開が不自然であることがしばしば指摘されてきた。これはあいづち的反応が談話展開に十分な要素ではないためであろうと考察された。学習者の共話的反応の運用実態から、自然習得の難しさを示すことで、日本語教育による支援の必要性を明らかにした。

#### 14.1.3. 日本語学習者と母語話者の聞き手言語行動が、いかなる展開構造(展開パターン)を成しているのか

第4部の第10章、11章、12章では、日本語学習者の日本語コミュニケーションの向上のために、談話展開に着目し、母語話者同士の会話場面での共話の展開構造、接触場面での共話的反応の展開パターンを把握するために、それぞれの場面における会話を分析、考察した。

まず、第10章では、共話において、話し手発話はどのような表現形式で終了するのか、また、聞き手発話はどのような反応の型をとるのか、さらに、それぞれの型がどのような機能を果たすのかを分析し、共話の構造について考察を行った。その結果をまとめると次の通りである。

- ・ 本研究における共話の範囲は、その定義に従って、従来の研究が共話と見なしていた範囲よりも狭く規定されている。それにもかかわらず、全34会話中、29会話において共話の成立が確認できた。したがって、水谷(1993)の主張のように必ずしも共通理解を前提とするわけではなく、初対面のような共通理解を前提としない場面でも共話により相互に共通理解を図っていくことが分かった。
- ・ 共話がなされるためには話し手と聞き手の共同作業が必要だという指摘に関連して、その共同作業において具体的にどのような表現形式が用いられるのかについて、話し手と聞き手のそれぞれの立場から再考した結果、共話をなす話し手発話の表現形式として「言いさし」、「言いよどみ」、「遮られ中止」が確認できた。そのうち、「言いさし」が最も多かった。また、従来の研究ではあまり言及のなかった「言いよどみ」や「遮られ中止」も確認できた。
- ・ 共話をなす聞き手発話の反応の型として「先取り」、「言い換え」、「問い返し」、「遮り」、「繰り返し」が確認できた。また、反応の型が担う機能としては「確認」、「相手助け」、「同意」、「補足」、「共感」、「反論」、「理解の表明」が確認できた。そのなかで多く用いられていたのは「先取り」の型であるが、その機能は一様ではなく、話し手発話が「言いさし」の場合は「確認」の機能、「言いよどみ」の場合は「相手助け」の機能、「遮られ中止」の場合は「補足」の機能を主に果たすことが分かった。
- ・ 話し手の先行発話の明示された部分に対して行われる共話的反応の型と省略された部分に対して行われる共話的反応の型の双方について、その形式・機能が成立要因と密接に関わっていることを分類によって示すことができた。

共話的反応の表現形式と機能が「予測」、「理解の有無」、「納得の有無」といった成立要因に基づいていることを熟知しておくことは、共話が行われる理由や目的を理解することにつながる。したがって、このことは、日本語学習者にとっても、共話を運用する際の手助けになると考えられる。このように共話的反応の型と機能を成立要因に関係付けることは、日本語教育にとって有益であると考えられる。

次に、第11章では、初対面かつ文化的背景を共有しない者同士の会話で共話がどのように運用されるかをみるため、日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の会話を分析、考察した。結果は次のようにまとめられる。

- ・ 共話をなすために必要な話し手発話のうち、「言いさし」は母語話者にとってもインドネシア人日本語学習者にとっても比較的容易であることがうかがえた。しかしながら、「言いさし」が行われた発話の内容を見てみると、母語話者は相手と共に話を作り上



げようとする気配りが感じられたのに対し、インドネシア人日本語学習者にはそのような意図が見られず、相違があることが確認できた。

- ・ 母語話者、インドネシア人日本語学習者ともに最も多かった共話的反応の型は「先取り」であった。その機能を見てみるとインドネシア人日本語学習者は母語話者よりも多様な機能で共話を運用していることが分かった。
- ・ 母語話者は、「確認」の機能を通し相手から引き出した発話を材料に、相手の記憶を刺激し、会話を続け、話題を広げようとするが、インドネシア人日本語学習者は、そこから連想されるものを「補足」することによって、単純にこれに応えているという違いが見られた。

さらに、第12章では、日・尼接触場面から例を取り、共話的反応が談話の展開にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにするために、「話し手の先行発話—聞き手の共話的反応」の機能的関係に着目して考察した。その主な結果は次のようにまとめられる。

- ・ 聞き手と話し手が双方で主導権をもって会話を進めていくことは、聞き手と話し手が協力しあいながら会話を進めていくという、談話の相互性につながる側面であることが示された。このことは、特に、共話において浮き彫りになり、共話的反応は、あいづちと同様に、会話の流れを支える発話であることが確認できた。
- ・ 共話的反応における先行あいづちに着目した結果、母語話者と学習者の間に差はあまり見られず、ともに、先行あいづちなしの共話的反応のみによるパターンが多いことが分かった。これは従来の野畑(1996)による研究結果とは異なる結果である。
- ・ 従来の堀口(1997)の主張に反し、先行あいづちがある場合、そのあいづちは後ろに続く共話的反応を予測する機能があるのではなく、先行発話である話し手発話に対し、同意、納得、疑問などを表すことが分かった。
- ・ 共話的反応が談話展開に影響を及ぼしていることが分かった。また、その際、母語話者と学習者の間に相違が確認された。さらに、共話展開のパターンには話し手の意図と聞き手の理解が一致する場合と一致しない場合があることが分かった。
- ・ 話し手発話で省略されている部分に対する共話と、話し手発話で明示されている部分に対する共話があるが、前者は主に母語話者に多く、後者は主に学習者に多いことが分かった。
- ・ 話し手の意図と聞き手の理解が不一致の場合、共話的反応を示す母語話者の予測のずれに対し、話し手である学習者は訂正に近い反論で反応することが確認できた。一方、

学習者の共話的反応が母語話者の意図とは違いミスコミュニケーションになっている場合であっても、話し手である母語話者は学習者の共話的反応に合わせた発話で、円滑なコミュニケーションにつながるよう修復作業を行っていることが確認できた。

母語話者とインドネシア人日本語学習者との接触場面における談話展開を支える聞き手言語行動について考察し、共話的反応のパターンとして両者ともに先行あいづちがあまりないことを指摘した。この結果により、母語話者同士の共話的反応のパターンとの相違が指摘されたといえよう。

#### 14.2. 日本語教育における本研究の意義

従来の研究では、あいづちと共話は異なる研究対象として取り扱われてきた。しかしながら、本研究では、話し手発話に対する聞き手の反応であるという共通点から、相互行為における「聞き手」に注目し、両者を「聞き手言語行動」としてまとめて分析、考察を進めた。その結果、従来の聞き手言語行動に関する研究では言及されることがなかった点について、新たに研究成果を提示することができた。本研究の意義は、以下の通り要約することができる。

- 1) 聞き手との相互作用によってコミュニケーションが成り立つという言語的事実を、話し手中心の会話分析ではなく、聞き手言語行動の分析を通して確認できた。
- 2) 初対面の自然談話の分析を通して、人間の言語行動の普遍性を特徴とするブラウンとレビンソン(Brown & Levinson 1987)のポライトネス理論は、日本語の聞き手言語行動においても、言語形式にとらわれずその運用の機能に焦点を当てることにより適用できることが確認できた。
- 3) 水谷によって日本語特有の特徴として提唱された共話は、実際には日本語に独特の現象ではないこと、そして、日本語においては、母語話者のみではなく日本語学習者にとっても、本来の意味でのコミュニケーションができるかどうかは、共話が上手く使いこなせるかどうかにあることが確認できた。
- 4) 聞き手言語行動を「話し手の発話部分に対する反応」と「話し手の非発話部分に対する反応」に分けて、マクロな視点とミクロな視点から同時にアプローチすることにより、従来の研究で言及できなかった言語的事実が確認できた。
- 5) 話し手の発話に焦点を当てた従来の日本語教育に対し、聞き手の発話にも焦点

を当て、相互作用として会話教育ができるように、聞き手言語行動についてどう教えればいいのかを提示できた。加えて、指導と学習という教育実践にとどまらず、異文化理解への実践の一環として捉えなおす必要性も指摘した。

- 6) 聞き手言語行動の母語場面、接触場面の両方を分析することで、学習者に対する会話教育の現場に応用できる結果が得られた。特に、接触場面での学習者は母語話者の会話スタイルに影響を受けつつも、自ら聞き手言語行動を調整していることが確認できたので、こうした成果は接触場面の相互行為の解明に有効であろう。
- 7) 日本語学習者の初級、中級、上級、超級といった各言語能力における聞き手言語行動を分析し、それらが学習のどの段階で現れ、定着するのか、あるいは自然に修正されるのかについてある程度把握できた。これにより、各学習段階における聞き手言語行動の中間言語体系が明らかになり、その成果は聞き手言語行動の教育にも結び付けられると考える。

#### 14.3. 日本語教育への応用として聞き手言語行動のコラム教材作成が示唆すること

第2部の4章、5章、6章では母語話者の自然談話を分析、第3部の7章、8章、9章では日本語学習者の言語能力レベル別のインタビュー会話を分析、第4部の10章、11章、12章では母語話者同士の談話と接触場面での談話を分析し、聞き手言語行動の実証的研究を行った。

母語話者と日本語学習者の実際の談話を分析して得られた知見と結果を現場教育に生かすために、以下のような点を考慮しつつ、日本語教育への応用例として、聞き手言語行動の教材(コラム)を作成した。

- ・ 学習者の言語能力レベルを考慮した聞き手言語行動の学習

本教材では、初級、中級、上級、超級といったそれぞれの言語能力レベルに合わせて教える内容を選定した。従来の日本語教科書では初級のシラバスとしてあまり取り上げられなかった聞き手言語行動であるが、本研究を通して、日本語学習者(韓国人)が初級レベルから聞き手言語行動を使いこなせることが確認できたことから、初級の段階からレベルに合わせて提示し、意識させることができると判断した。

- ・ 聞き手言語行動の表現形式と機能を合わせて考慮した学習

日本語と同様に韓国語でも日常語として存在するあいづち表現をただ頻繁に打つだけではコミュニケーションのための日本語教育には繋がらない。また、語彙的に扱い意味を

提示するだけでは上手な聞き手言語行動の運用にはならない。本教材では、各コラムごとに「『相手の話を聞いていることを／同意していることを／理解していることを／否定していることを／感情を表していることを』うまく伝えられるように」といった機能からみた表現形式の運用ということで聞き手言語行動の学習を提示している。特に、日本語学習者に教える際にも状況が明確な自然な会話例のなかで聞き手言語行動を提示し、どの位置で現れるかを示し、そこで用いられるあいづちがどのような役割を果たしているかを提示すれば、日本語学習者はあいづちについてより深く理解した上で、場面に応じた適切にあいづちを使用できるようになると思われる。

- ・ 学習者の誤用を考慮した聞き手言語行動の学習

聞き手言語行動は、その表現形式自体は単純で間違え可能性は少ないが、対話相手や場面にあった適切な運用ができなければ、人間関係を損なうことにもなるので、注意する必要がある。そこで、本教材では学習者が犯す誤用も会話の中で取り上げ、どういう表現形式にすればより適切になるのかを提示してある。これは、何が、なぜ、どう不適切なのかを意識させるための工夫である。

- ・ 人間関係を考慮した聞き手言語行動の学習

日本語教育学会編(1989:26)は、日常生活で日本語で話す機会の多い話し相手を報告している。本教材の作成に当たっては、それを念頭に置きつつ、聞き手言語行動の例を提示することにした。縦の関係、横の関係の明らかな会話例を作成し、初対面、アルバイト先、会社などの学習者が遭遇しそうな場面での会話例を取り上げた。第4章と5章で確認したように、聞き手言語行動は対人関係による年齢差や性別差が存在する。したがって、実際の使用場面を最大限反映した教材作りが必要である。

- ・ 談話の展開・構造を意識させた聞き手言語行動の学習

本教材では、従来の研究で教えられるものではないと指摘されていた共話的反応についても、コラムに取り上げて意識させることを試みている。8章、11章、12章で確認したように、日本語学習者の場合も共話的反応の型を用い、談話の展開を進めている。ただ、母語話者が最も多用する「先取り」の共話的反応の型を用い、「確認」の機能を果たしながら会話の内容を付け加えていくことは学習者にとってなかなか難しいようである。教材により、日本語の共話の実在、共話的反応を行っても「確認」の機能を果たさず場合とそうではない場合を比較し談話の展開にどのような違いがあるのかを気づかせるくらいの指導は必要ではないだろうか。第二言語の学習における円滑なコミュニケーションの方法を身に付ける

ことは、目標言語における様々な自然な談話構造を的確に把握し、コミュニケーションの仕方を習得することにより可能である。そのためには、日本語の自然談話に触れ、それを体感することが重要であると思われる。共話的反応は話し手発話に対する理解をその成立要因のひとつとしていることから、共話が円滑なコミュニケーションを行うためのひとつの方法であることは明らかであるにも関わらず、日本語教育で学習項目として取り上げられてこなかった。しかし、話し手発話の会話パターンの指導が会話学習の主流をなしている今日の日本語教育において、相手の発話中に自分が予測または理解したことについては発話を行ってもかまわないという聞き手言語行動に対する理解にもつながるので、共話は、日本語の会話学習にとって非常に重要である。また、相互作用における言語運用では、正しいか間違っているかよりも、相手と円滑にコミュニケーションがとれるかどうかの方が重要である。したがって、それらを分析、把握し、学習者に提示していくことは、自然な言語運用を学ぶ上で欠かせないことと考えられる。

#### 14.4. 日本語教育における聞き手言語行動研究と今後の課題

本研究における今後の主な課題としては、以下の4点を挙げておく。

- ・ 研究目的にあったデータの分析
- ・ あいづち表現の「系別」ではなく「個別表現形式別」の分析
- ・ 聞き手言語行動のより多様な変異生起要因の分析
- ・ あいづちの反応に随伴される会話の固有現象の分析

まず、研究目的にあったデータの分析であるが、第5章で指摘したように、より客観的考察結果を導くためには、研究目的にふさわしい精緻なデータを採用することが必要である。また、本研究では初対面会話のみを対象としており、親しい関係にある話者同士の会話における聞き手言語行動についての分析は行っていない。今後は、より多様な場面における聞き手言語行動を分析することが必要であり、また、その際、様々な種類の会話を、条件を統制した形で収集する方法も検討する必要がある。本研究では、公開されている使用データにしる、収集したデータにしる、音声のみの記録を対象としたため、分析の対象は言語行動のみにとどまっている。しかし、すでに話者同士の相互作用に着目する立場からは、ジェスチャー、視線、笑いなどの非言語行動の重要性も多く指摘されており、今後、動画データを用いた非言語行動の分析にも取り込む必要があろう。

次に、あいづち表現の「系別」ではなく「個別表現形式別」の分析については、本研究では日本語のあいづちという現象が会話の中でいかに機能しているかということを目的に

していたので、「あ」/「あー」、「はい」/「はいはい」、「うん」/「うんうん」などの個々の表現の機能的差異までは確認していない。

さらに、聞き手言語行動のより多様な変異生起要因の分析については、本研究では聞き手言語行動の変異生起要因としてスタイル、年齢差、性別差の分析にとどまっている。しかし、これ以外にも親疎差、地域差などの変異生起要因も考えられる。

実際、日本語学習者の中間言語として捉えられてきた「東京へ行ったです」の「～たです」が西日本で過去の事実の伝達として使われるという大変興味深い講演を聞いたことがある<sup>31</sup>。本研究の発端のひとつとして、非母語話者である筆者個人のあいづち表現の使用について冒頭で述べ、その際、「はいはいはい」などのあいづち表現の連発を問題とした。しかし、これに関連して、福島県の会津若松に現地調査に出かけた指導教官から、筆者のようなあいづち表現の連発が彼の地の母語話者にも頻繁に見られたと聞いた。母語の影響だとばかり思っていたが、筆者は20年ほど前に、6年のあいだ東北で生活した経験があり、その際にインプットを受けた可能性も考えられる。より多様なバリエーションを考慮した聞き手言語行動の分析に取り組むことで、教育現場で日本語の多様性について指導することができよう。

最後に、あいづち的反応に随伴される会話の固有現象の分析については、対照言語学的立場からの聞き手言語行動の機能を記述する際、「ターン取得」の問題が英語と日本語の大きな違いのひとつであると指摘されている。英語では「ターン取得」を認める一方、日本語では「ターン取得」を認めない立場が多い。このような現状もあり、本研究では聞き手言語行動の機能として「ターン取得」を前面に取り上げることはしなかった。しかし、12章で確認したように、共話的反応においては「先行あいづち」により「ターン取得」の機能を果たす場合があることが確認された。今後、接触場面で見られるあいづち表現を中心に、「ターン取得」との関連について、さらに分析する必要がある。

---

<sup>31</sup> 2015年9月03日、NINJAL 合同シンポジウム「正しい日本語」ってなに?:コーパスに見る日本語のバリエーション」講演会。  
<https://www.ninjal.ac.jp/event/specialists/project-meeting/m-2015/20150903-sympo/>(2015年12月25日アクセス)

## 参考文献

- 日本語(五十音順)・英語(アルファベット順)・韓国語(가나다(カナダ)順)

- 生田少子・井出祥子(1983)「社会言語学における談話研究」『言語』12-12、pp.77-84、大修館書店
- 池上嘉彦・守屋 三千代著(2010)『自然な日本語を教えるために—認知言語学をふまえて』ひつじ書房
- 池田佳子(2005)「インターアクション言語運用能力の向上を目指して—インタビューというタスクの再考察」『ICU(国際基督教大学)日本語教育研究』1、pp.45-60、国際基督教大学
- 石黒圭(2013)『日本語は「空気」が決める：社会言語学入門』光文社新書
- 李善雅(2001)「討論の場におけるあいづち—日本語母語話者と韓国人学習者の相違—」『世界の日本語教育』11、pp.139-152、国際交流基金日本語国際センター
- 李舜炯(2014a)「韓国語母語日本語学習者の聞き手言語行動の使用機能—段階別聞き手言語行動のシラバス設計に向けて—」『2014年度日本語教育学会春季大会予稿集』、pp.217-222、日本語教育学会
- 李舜炯(2014b)「韓国語母語日本語学習者の聞き手言語行動—段階別聞き手言語行動のシラバス設計に向けて—」『日語日文学』63、pp.75-92、大韓日語日文学会
- 李舜炯(2014c)「韓国人日本語学習者の聞き手言語行動の運用における問題点」2014 SY DNEY-ICJLE日本語教育国際研究大会
- 李舜炯(2014d)「韓国人日本語学習者の聞き手言語行動の運用における問題点とその背景」『東北亜文化研究』34、pp.433-454、東北アジア文化学会
- 李舜炯(2015a)「自然談話における「共話」の展開形式と機能」『日本語学会2015年度春季大会予稿集』pp.97-104、日本語学会
- 李舜炯(2015b)「対人関係によるあいづち表現の使用傾向の違い—シラバス構築の一助として—」『日本語研究』35、pp.179-192、首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会
- 李舜炯(2015c)「対話相手との年齢差・性差に応じた聞き手言語行動の使用実態」『日本学報』105、pp.147-164、韓国日本学会
- 李舜炯(2015d)「対人関係に応じた『共話的反応の型』の使い分け」『日語日文学研究』95-1(日本語学・日本語教育学篇)、pp.223-242、韓国日語日文学会
- 李舜炯・沼里聡・渡辺真由子・舟根明日美・山崎史輝・富田あかね(2015)「日本語母語

- 話者とインドネシア人日本語学習者の異文化間コミュニケーションにおける「共話」の運用』『日本語研究』35、pp.99-112、首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会
- 李舜炯・Dianni Risda(2015)「日・尼接触場面における談話展開を支える聞き手言語行動」『ジャーナル日本語』7-2、pp.16-30、インドネシア日本語教育学会
- 伊藤博子(1993)「談話の指導—バックチャネルからの展開—」『日本語学』12-8、pp.78-91、明治書院
- 李舜炯(2016)「韓国人日本語学習者の習得レベル別にみた『共話的反応の型』の使用実態」『日本語教育学会春季大予稿集』pp.201-206、日本語教育学会
- 井出祥子(2006)『わきまへの語用論』大修館書店
- 井上史雄(2012)「韓日間のコミュニケーションギャップを考える」『日語日文学研究』82-1、pp.3-25、韓国日語日文学会
- 今石幸子(1992)「談話における聞き手の行動—あいづちのタイミングについて—」『日本語教育学会創立30周年・法人設立15周年記念大会予稿集』、pp.147-151、日本語教育学会
- 今石幸子(1993)「聞き手の行動—あいづちの規定条件—」『阪大日本語研究』5、pp.95-109、大阪大学文学部日本学科(言語系)
- 任栄哲・井出里咲子(2004)『箸とチョッカラーことばと文化の日韓比較(ドルフィン・ブックス)』大修館書店
- 植野貴志子(2011)「日本語会話における聞き手行動—対話相手に応じた使い分け—」『社会言語科学会第28回大会発表論文集』、pp.76-79、社会言語科学会
- 植田栄子(2004)「医師と患者との診察場面会話における共同発話の機能」『言語情報科学』2、pp.15-28、東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻
- 宇佐美まゆみ(1995)「談話レベルから見た敬語使用—スピーチレベルシフト生起の条件と機能—」『学苑』662、pp.27-42、昭和女子大学近代文化研究所
- 宇佐美まゆみ(2001a)「会話における「協調的行動」—ポライトネスの観点から—」『2001年度日本語教育学会秋季大会発表予稿集』、pp.163-168、日本語教育学会
- 宇佐美まゆみ(2001b)「二一世紀の社会と日本語—ポライトネスのゆくえを中心に」『言語』30-1、pp.20-28、大修館書店
- 宇佐美まゆみ(2001c)『「ディスコース・ポライトネス」という観点から見た敬語使用の機能—敬語使用の新しい捉え方がポライトネスの談話理論に示唆すること—』『語学研究論集』6、pp.1-29、東京外国語大学語学研究所



- 宇佐美まゆみ(2002)「連載 ポライトネス理論の展開」1-12『月刊言語』31(1-13)、大修館書店
- 宇佐美まゆみ(2006)「話し手と聞き手の相互作用としての『共同発話文』の日英比較—『共話』、『Co-construction』現象の再検討—」『高見澤孟先生古希記念論文集』、pp.103-130、高見澤孟先生古希記念論文集編集委員会
- 宇佐美まゆみ(2008a)「相互作用と学習」『講座社会言語科学4 教育』pp.150-181、ひつじ書房
- 宇佐美まゆみ(2008b)「ポライトネス理論研究のフロンティア—ポライトネス理論研究の課題とディスコース・ポライトネス理論」『社会言語科学』11(1)(特集「敬語研究のフロンティア」)、pp.4-22、社会言語科学会
- 宇佐美まゆみ(2011)「改訂版：基本的な文字化の原則Basic Transcription System for Japanese :BTSJ」2011年版」(<http://www.tufts.ac.jp/ts/personal/usamiken/btsj-ver.2011.pdf>)
- 宇佐美まゆみ(2012)「母語話者には意識できない日本語会話のコミュニケーション」野田尚史編『日本語教育のためのコミュニケーション研究』pp.63-82、くろしお出版
- 宇佐美まゆみ(2015)「『総合的会話分析の趣旨と方法』—量的分析と質的分析の必然的融合—」『日本語教育』162、pp.34-49、日本語教育学会
- 宇佐美まゆみ・小林理恵(2002)「母語場面と接触場面における『共同発話文』の比較」『社会言語科学会第10回研究大会予稿集』、pp.15-20、社会言語科学会
- 内田伸子(1993)「会話行動に見られる性差」『日本語学臨時増刊号』12、pp.156-168、明治書院
- 大塚容子(2012)「初対面3人会話における共和的会話展開—あいづちを手がかりにして—」『岐阜聖徳学院大学紀要<外国語学部編>』、pp.15-24、岐阜聖徳学院大学
- 大塚容子(2013)「初対面3人会話における文体シフトの効果—『ディスコース・ポライトネス』の観点から—」『岐阜聖徳学園大学紀要<外国語学部編>』、pp.17-27、岐阜聖徳学園大学
- 大浜るい子(2002)「相づち使用と対人関係」『広島大学日本語教育研究』12、pp.1-9、広島大学大学院教育学研究科日本語教育学講座
- 大浜るい子・山崎深雪・永田良太(1998)「道聞き談話におけるあいづちの機能」『日本語教育』96、pp.73-84、日本語教育学会
- 大浜るい子(2006)『日本語会話におけるターン交替と相づちに関する研究』溪水社
- 大原由美子(2007)『日本語ディスコースへの多様なアプローチ：会話分析・談話分析・

- クリティカル談話分析』国立国語研究所
- 岡崎敏雄(1987)「談話の指導—初～中級を中心に—」『日本語教育』62、pp.165-178、日本語教育学会
- 岡本真一郎(2007)『ことばのコミュニケーション対人関係のレトリック』ナカニシヤ出版
- 小川早百合(2006)「話しことばの終助詞の男女差の実際と意識」『日本語とジェンダー』pp.38-51、ひつじ書房
- 荻原稚佳子(2002)「日本語インタビューにおける「言いさし—割り込み」の連鎖—対人コミュニケーションの視点から—」『異文化コミュニケーション研究』14、pp.57-77、神田外語大学異文化コミュニケーション研究所
- 荻原稚佳子(2008)『言いさし発話の解釈理論：「会話目的達成スキーマ」による展開』春風社
- 奥津敬一郎(1989)「応答詞『はい』と『いいえ』の機能」『日本語学』8-8、pp.4-14、明治書院
- 奥野由紀子(2012)「非母語話者の日本語コミュニケーションの問題点」野田尚史編『日本語教育のためのコミュニケーション研究』pp.85-104、くろしお出版
- 生越直樹(1988)「朝鮮語のあいづち—韓国人学生のレポートより—」『日本語学』7-12、p.12-17、明治書院
- 尾崎明人・中井 陽子・椿由紀子(2010)『(日本語教育叢書 つくる)会話教材を作る』関正昭・平高 史也・土岐 哲編、スリーエーネットワーク
- 金沢裕之(2001)「インターアクションとことば」ロング、ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』pp.54-63、世界思想社
- 鎌田修(2000)「日本語の会話能力とは何か—プロフィシエンシーの観点から—」『2000年度日本語教育学会春季大会予稿集 シンポジウム「会話能力とは何か、その習得と教育」』、pp.17-22、日本語教育学会
- 鎌田修・堤 良一・山内 博之編(2009)『プロフィシエンシーと日本語教育』ひつじ書房
- 鎌田修・嶋田和子・堤良一・定延利之・清水崇文・西郷英樹・由井紀久子編著(2015)『プロフィシエンシーを育てる3 談話とプロフィシエンシー：その真の姿の探求と教育実践をめざして』凡人社
- クンチャラニングラット編(1980)『インドネシアの諸民族と文化』加藤剛・戸屋健治・白石隆訳、めこん
- 喜多壮太郎(1996)「あいづちとうなずきからみた日本人の対面コミュニケーション」『日

- 本語学』15-1、pp.58-66、明治書院
- 木林理恵(2011)『日本語母語場面と接触場面における共同発話文の総合的研究：ディスコース・ポライトネスの観点から』東京外国語大学大学院 博士論文
- 木林理恵(2014)「協調的な言語行動としての共同発話文—会話データから日本語教育に示唆されること—」『2014年度日本語教育学会秋季大会研究発表予稿集』、pp.81-86、日本語教育学会
- 金秀芝(1994)「日・韓両言語における「あいづち」の対照研究—電話の会話を中心に—」『平成8年度日本語教育学会春季大会予稿集』、pp.85-90、日本語教育学会
- 串田秀也(2002a)「統語的単位の開放性と参与の組織化(1)—引き取りのシークエンス環境—」『大阪教育大学紀要 第2部門』50(2)、pp.37-64、大阪教育大学
- 串田秀也(2002b)「統語的単位の開放性と参与の組織化(2)—引き取りにおける参与の交渉—」『大阪教育大学紀要 第2部門』51(1)、pp.43-66、大阪教育大学
- 串田秀也(2006)『相互行為秩序と会話分析：「話し手」と「共—成員性」をめぐる参加の組織化』世界思想社
- 串田秀也(2009)「聴き手による語りの進行促進：継続指示・継続最速・継続試行」『認知科学』16-1、pp.12-23、日本認知科学会
- 久野障(1978)『談話の文法』大修館書店
- 窪田彩子(2000a)「日本語学習者の相づちの習得—日本人との初対面における会話資料を基に—」『南山日本語教育』7、pp.76-114、南山大学大学院外国語学研究科
- 窪田彩子(2000b)「初級・上級日本語学習者のあいづちの習得—「あいづち」の待遇性に着目して—」『2000年度日本語教育学会秋季大会予稿集』、pp.104-109、日本語教育学会
- 久保田真弓(1994)「コミュニケーションとしてのあいづち—アメリカ人と日本人に見られる表現の違い—」『異文化間教育』8、pp.59-76、異文化間教育学会
- 久保田真弓(2001)「聞き手のコミュニケーション上の機能としての『確認のあいづち』」『日本語教育』108、pp.14-23、日本語教育学会
- 熊井浩子(1992)「留学生にみられる談話行動上の問題点とその背景」『日本語学』11-12、pp.72-79、明治書院
- 黒崎良昭(1987)「談話進行上の相づちの運用と機能—兵庫県滝野方言について—」『国語学』150、pp.109-122、国語学会(現 日本語学会)
- 黒崎良昭(1995)「日本語コミュニケーション—『共話』について—」『園田学園女子大学論文集』30 - I、pp. 45-60、園田学園女子大学

- 現代日本語文法研究会編(1998)『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 現代日本語文法研究会編(2002)『男性のことば・職場編』ひつじ書房
- 小宮千鶴子(1986)「相づち使用の実態—出現傾向とその周辺—」『語学教育研究論叢』3、  
pp.43-62、大東文化大学語学教育研究所
- 小室郁子(1995)「Discussion」における“turn-taking”—実態の把握と指導の重要性—『日  
本語教育』85、pp.53-65、日本語教育学会
- 国立国語研究所(1982)『談話の研究と教育 I (日本語教育指導参考書)』大蔵省印刷局
- 国立国語研究所(1989)『談話の研究と教育 II (日本語教育指導参考書)』大蔵省印刷局
- 国立国語研究所(2006)『言語行動における「配慮」の諸相 (国立国語研究所報告)』くろ  
しお出版
- 斎藤俊雄・中村純作・赤野一郎編(2005)『改訂新版 英語コーパス言語学 基礎と実践』  
研究社
- 佐久間まゆみ・半沢幹一・杉戸清樹編(1997)『文章・談話のしくみ』おうふう
- 迫田久美子(2002)『日本語教育に生かす第二言語習得研究』アルク
- 笹川洋子(2007)「異文化コミュニケーション場面にみられる共話の種類」『神戸親和女子  
大学言語文化研究』1、pp.17-40、神戸親和女子大学
- 佐々木泰子(1992)「終助詞『ね』と丁寧さとのかわり」『言語文化と日本語教育』4、  
pp.1-10、お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 佐藤美重子(1989)「技術研修員のための日本語研修30時間コースへの非言語伝達導入の  
試み」『日本語教育』67、pp.87-98、日本語教育学会
- ザトラウスキー、ポリー(1991)「会話における『単位』について—『話段』の提案」『日  
本語学』10-10、pp.79-96、明治書院
- ザトラウスキー、ポリー(1993)『日本語の談話の構造分析—勧誘のストラテジーの考察』  
くろしお出版
- ザトラウスキー、ポリー(2000)「共同発話における参加者の立場と言語・非言語行動の  
関連について」『日本語科学』7、pp.44-69、国立国語研究所
- ザトラウスキー、ポリー(2003)「共同発話からみた『人称制限』、『視点』をめぐる問題」  
『日本語文法』3(1)、pp.49-66、日本語文法学会
- 真田信治(2001)「第一言語の習得」ロング、ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社  
会言語学を学ぶ人のために』pp.168-175、世界思想社
- 品田潤子(2012)「コミュニケーションのための日本語教育の方法」野田尚史編『日本語  
教育のためのコミュニケーション研究』pp.147-166、くろしお出版

- 渋谷勝己(1998)「連載 社会言語学のキーテーマ3 言語行動」『言語』27-3、pp.114-119、大修館書店
- 渋谷勝己(2008)「スタイルの使い分けとコミュニケーション」『言語』37-1、pp.18-25、大修館書店
- 清水崇文(2009)『中間言語語用論概論：第二言語学習者の語用論的能力の使用・習得・教育』スリーエーネットワーク
- 白川博之(2009)『「言いさし文」の研究』くろしお出版
- 正保勇(1988)「インドネシア語のあいづち」『日本語学』7-12、pp.31-37、明治書院
- 杉戸清樹(1987)「発話のうけつぎ」『国立国語研究所報告92 談話構造の諸相 談話資料の分析』pp.68-106、三省堂
- 杉戸清樹(1989)「ことばのあいづちと身ぶりのあいづち—談話行動における非言語的表現—」『日本語教育』67、pp.48-59、日本語教育学会
- 杉戸清樹(2007)「日本語社会における言語行動のバリエーションと日本語教育」『日本語教育』134、pp.18-27、日本語教育学会
- 杉藤美代子(1987)「ポーズとイントネーション」『国立国語研究所報告92 談話行動の諸相—座談資料の分析—』pp.107-138、三省堂
- 杉藤美代子(1993)「効果的な談話とあいづちの特徴及びそのタイミング」『日本語学』12-4、pp.11-20、明治書院
- 鈴木睦(2007)「言葉の男女差と日本語教育」『日本語教育』134、pp.48-57、日本語教育学会
- 砂川有里子(2005)『文法と談話の接点—日本語の談話における主題展開機能の研究—』くろしお出版
- 高木裕子・丸山敬介(2007)「日本語教育におけるバリエーション教材と教育」『日本語教育』134、pp.68-79、日本語教育学会
- 田窪行則(1990)「対話における聞き手領域の役割について—三人称代名詞の使用規則からみた日中英各語の対話構造の比較」『認知科学の発展』3、pp.67-84、日本語認知科学会、講談社
- 田窪行則・金水敏(1997)「応答詞・感動詞の談話的機能」『文法と音声』pp.257-279、くろしお出版
- 田窪行則編(1997)『視点と言語行動』くろしお出版
- 谷口すみ子(1989)「会話教育のシラバス作りに向けて—会話の技術のリスト試案—」『日本語教育』68、pp.259-266、日本語教育学会

- チョイウォンキョン(マリア)(2007)「韓国人日本語学習者のあいづち表現の習得についての一考察」『韓国日本語学会 学術発表大会論文集』、pp.946-951、韓国日本語文  
学会
- 陳姿菁(2001)「日本語の談話におけるあいづちの種類とその仕組み」『日本語教育』108、  
pp.24-33、日本語教育学会
- 陳姿菁・小熊利江(2000)「話題に対する聞き手の心的態度が『発話のあいづち』と『う  
なずき』の出現に及ぼす影響」『人間文化論叢』3、pp.237-248、お茶の水女子大学  
大学院人間文化研究科
- 筒井佐代(2012)『雑談の構造分析』くろしお出版
- 津田早苗・村田泰美・大谷麻美・岩田祐子・重光由加・大塚容子(2015)『日・英語談話  
スタイルの対照研究—英語コミュニケーション教育への応用 (シリーズ言語学と言  
語教育 35)』ひつじ書房
- 寺村秀夫(1987)「聴き取りにおける予測能力と文法的知識」『日本語学』6-3、pp.56-68、  
明治書院
- 伝康晴(2006)「談話データの定量的分析—タグの設計と集計」伝康晴・田中ゆかり編『講  
座社会言語科学 6 方法』pp.208-229、ひつじ書房
- 伝康晴(2009)「聞き手行動の認知科学に必要なもの」『認知科学』16-4、pp.475-480、  
日本認知科学会
- 中島悦子(2000)「あいづちに使用される「はい」と「うん」—あらたまり度・待遇度か  
ら見た出現頻度—」『ことば』21、pp.104-113、現代日本語研究会
- 中島悦子(2011)『自然談話の文法—疑問表現・応答詞・あいづち・フィラー・無助詞』お  
うふう
- 内藤真理子(2003)「あいづちのスピーチレベルとそのシフトについて—日本語母語話者  
と韓国語学習者の相違—」『世界の日本語教育』13、pp.109-125、国際交流基金
- 中井精一(2001)「都市言語」ロング、ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語  
学を学ぶ人のために』pp.159-165、世界思想社
- 中井精一(2005)『社会言語学のしくみ』研究社
- 中山晶子(2003)『親しさのコミュニケーション』くろしお出版
- 二階堂整(2001)「ジェンダーとことば」ロング、ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応  
用社会言語学を学ぶ人のために』pp.83-90、世界思想社
- 西尾純二(2000)「大学生における表現行動のバリエーション」真田信治・宮治弘明・ロ  
ング、ダニエル・中井精一・日高水穂・西尾純二編『20世紀フィールド言語学の軌

- 跡「徳川宗賢先生追悼論文集」、pp.143-156、変異理論研究会
- 西尾純二(2001)「誤用論的変異」ロング, ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』 pp.129-137、世界思想社
- 西尾純二(2015)『マイナスの待遇表現行動：対象を低く悪く扱う表現への規制と配慮』くろしお出版
- 西川玲子(2005)「日常会話に起こるナラティブの協働形成—理論構築活動としてのナラティブ—」『社会言語科学』7-2、pp.25-38、社会言語科学会
- 西郡仁朗(2002)「自然会話データ『偶然の初対面』の公開～その方法について～」『人文学報』330、pp.1-18、東京都立大学人文学部(転載：文部科学省科学研究費報告書(基盤研究C(2))『多文化共生社会における異文化コミュニケーション教育のための基礎的研究』(研究代表者：宇佐美まゆみ、2003年)
- 西阪仰(1997)『相互行為分析という視点—文化と心の社会学的記述—』金子書房
- 西原鈴子(2003)「外国人とのコミュニケーション」北原保雄監修・荻野綱雄編『朝倉日本語講座 9』 pp.157-173、朝倉書店
- 西原鈴子・西郡仁朗編(2008)『講座社会言語科学 4 教育・学習』ひつじ書房
- 日本語記述文法研究会(2009)『現代日本語文法7談話・待遇表現』くろしお出版
- 日本語教育学会編(1989)『日本語教育機関におけるコースデザインの方法とコース運営上の教師集団の役割の分担に関する調査研究—報告書—』日本語教育学会
- ネウストプニー, J.V.(1982)『外国人とのコミュニケーション』岩波書店
- 野田尚史・益岡隆志・佐久間まゆみ・田窪行則(2002)『日本語の文法4 複文と談話』岩波書店
- 野田尚史編(2005)『コミュニケーションのための日本語教育文法』くろしお出版
- 野田尚史編(2012)『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版
- 野畑理佳(1996)「対話における聞き手の言語行動—相づち的な発話による聞き手の参加—」『日本語教育学会春季大会予稿集』、pp.127-132、日本語教育学会
- 橋内武(1999)『ディスコース—談話の織りなす世界』くろしお出版
- 梶弘巳(1982)「コミュニケーションのための日本語教育」『言語』12、月臨時増刊号、pp.56-71、大修館書店
- 梶弘巳(1988)「外国人のための日本語会話ストラテジーとその教育」『日本語学』7-3、pp.100-117、明治書院
- 浜田麻里(2001)「第二言語の習得」ロング, ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』 pp.176-183、世界思想社

- 林宅男(2008)『談話分析のアプローチ』 研究社
- 福田一雄(2013)『対人関係の言語学』 開拓社
- 藤井洋子(2005)「談話分析」 中島平三編『言語の事典』 pp.175-191、朝倉書店
- 藤原真理(1993)「対話における相づち表現の考察『そうですか』『そうですね』等を中心に」『東北大学文学部日本語学科論集』 3、 pp.71-82、東北大学文学部日本語学科
- 古内綾子(2003)「日本人大学生の日常会話における共同発話の機能—男女の違いと親疎の違いに注目して—」『山形大学日本語教育論集』、 pp.57-69、山形大学教育学部日本語教育研究室
- 古川智樹・稲熊美保(2009)「OPI発話における学習者の『聞き手の反応』」『日本語教育研究』 17、 pp.93-107、韓日語教育学会
- 堀口純子(1988)「コミュニケーションにおける聞き手言語行動」『日本語教育』 64、 pp.13-26、日本語教育学会
- 堀口純子(1990)「上級日本語学習者の対話における聞き手としての言語行動」『日本語教育』 71、 pp.16-32、日本語教育学会
- 堀口純子(1991)「あいづち研究の現段階と課題」『日本語学』 10-10、 pp.31-41、明治書院
- 堀口純子(1997)『日本語教育と会話分析』 くろしお出版
- 松田陽子(1988)「対話の日本語教育—あいづちに関連して—」『日本語学』 7-13、 pp.59-66、明治書院
- 丸山直子(1996)「話しことばにおける文」『日本語学』 15-9、 pp.50-59、明治書院
- 水谷修(1983)『講座日本語の表現3 話しことばの表現』 筑摩書房
- 水谷信子(1980)「外国語の修得とコミュニケーション」『言語生活』 344、 pp.28-36、筑摩書房
- 水谷信子(1983)「あいづちと応答」水谷修編『講座 日本語と表現3 話しことばの表現』、 pp.37-44、筑摩書房
- 水谷信子(1984)「日本語教育と話しことばの実態—あいづちの分析—」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第二巻 言語学編』 pp.261-279、三省堂
- 水谷信子(1985)『日英比較話しことばの文法』 くろしお出版
- 水谷信子(1988a)「あいづち論」『日本語学』 7-12、 pp.4-11、明治書院
- 水谷信子(1988b)「話しことばの比較対照」『日本語教師用参考書Ⅱ 話しことばのコミュニケーション』 pp.85-109、凡人社
- 水谷信子(1993)「『共話』から『対話』へ」『日本語学』 12-4、 pp.4-10、明治書院



- 水谷信子(1995)「日本人とディベート—『共話』と『対話』—」『日本語学』14-6、pp.4-12、明治書院
- 水谷信子(2001)「あいづちとポーズの心理学」『日本語学』30-7、pp.46-51、大修館書店
- 水野義道(1988)「中国語のあいづち」『日本語学』7-12、pp.18-23、明治書院
- 嶺川由香(2000)「大学院ゼミの談話におけるコミュニケーション・ブレイクダウンの修復について—「対話」と「共話」の視点から—」『国際協力研究誌』6(1)、pp.105-117、広島大学大学院国際協力研究科
- 嶺川由季(2001)「大学院のゼミ談話で見られる日本語母語話者の「対話」「共話」の使い分け」『社会言語科学』3-2、pp.39-51、社会言語科学会
- 三牧陽子(2002)「待遇レベル管理からみた日本語母語話者間のポライトネス表示—初対面会話における社会的規範と個人ストラテジーを中心に—」『社会言語科学』5-1、pp.56-74、社会言語科学会
- 三牧陽子(2013)『ポライトネスの談話分析：初対面コミュニケーションの姿としくみ』くろしお出版
- 宮崎幸江(2001)「身振りのあいづちとしての聞き手のうなずき」『2001年度日本語教育学会春季大会予稿集』、pp.176-181、日本語教育学会
- 宮崎幸江(2002)「日本語の電話と対面会話におけるあいづち」『小出記念日本語教育研究会論文集』10、pp.71-86、小出記念日本語教育研究会
- 宮崎幸江(2007)「日本人女性の聞き手としての行動：リアクティブトークンとうなずきの使用」『言語学と日本語教育V』pp.157-174、くろしお出版
- 宮崎幸江(2009)「ポライトネス・ストラテジーとしての聞き手のうなずき」『Sophia Junior College Faculty Journal』29、pp.55-72、上智大学短期大学
- 宮崎里司・ヘレン マリオット編(2003)『接触場面と日本語教育—ネウストプニーのインパクト』明治書院
- 宮地敦子(1959)「うけこたへ」『国語学』39、pp.85-98、国語学会(現日本語学会)
- 宮島達夫・仁田義雄編(1995)『日本語類義表現の文法(下) 複文・連文編』くろしお出版
- 村田晶子(2000)「学習者のあいづちの機能分析—『聞いている』という信号、感情・態度の表示、そしてturn-taking に至るまで—」『世界の日本語教育』10、pp.241-260、国際交流基金
- メイナード、K・泉子(1993)『日英語対照研究シリーズ(2)会話分析』くろしお出版
- メイナード、K・泉子(1997)『談話分析の可能性—理論・方法・日本語の表現性』くろしお出版

- メイナード, K・泉子(2001)『恋するふたりの「感情ことば」: ドラマ表現の分析と日本語論 (くろしおカイクックス)』くろしお出版
- メイナード, K・泉子(2004)『談話言語学: 日本語のディスコースを創造する構成・レトリック・ストラテジーの研究』くろしお出版
- メイナード, K・泉子(2005)『談話表現ハンドブック: 日本語教育の現場で使える』くろしお出版
- メイナード, K・泉子(2009)『ていうか、やっぱり日本語だよ。』大修館書店
- 森山卓郎(1989)「応答と談話管理システム」『阪大日本語研究』1、pp.63-88、大阪大学大学院文学研究科日本語学講座
- 森本郁代(2002)「会話に見られる聞き手の引き取り—認知的予測可能性と規範的正当化可能性という観点から—」『第10回社会言語科学会研究大会予稿集』、pp.197-202、社会言語科学会
- 森本郁代(2004)『成員カテゴリー化の観点から見た社会的相互行為の諸相: 多人数会話における話者交替を中心に』大阪大学大学院言語文化研究科博士論文
- 茂呂雄二編(1997)『対話と知—談話の認知科学入門』新曜社
- 楊晶(1997)「中国人学習者の日本語の相づち使用に見られる母語からの影響—形態、頻度、タイミングを中心に」『言語文化と日本語教育 平田悦朗先生退官記念号』13、pp.117-128、お茶の水女子大学日本言語文化学会
- 楊晶(1999)「中・日両言語の相づちに関する一考察—頻度とその周辺—」『人間文化研究年報』23、pp.28-38、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 楊晶(2000)「相づちに関する意識の中日比較—アンケート調査の結果より—」『人間文化論叢』3、pp.87-100、お茶の水女子大学大学院人間文化研究科
- 楊晶(2001)「電話会話で使用される中国人学習者の日本語のあいづちについて—機能に着目した日本人との比較—」『日本語教育』111、pp.46-55、日本語教育学会
- 好井裕明・西阪 仰・山田富秋(1999)『会話分析への招待 (SEKAISHISO SEMINAR)』世界思想社
- 吉岡泰夫(2004)「コミュニケーション意識と敬語行動にみるポライトネスの地域差・世代差—首都圏と大阪のネイティブ話者比較—」『社会言語科学』7-1、pp.92-104、社会言語科学会
- 吉岡泰夫(2011)『コミュニケーションの社会言語学』大修館書店
- 吉田茂晃(1988)「ノダ形式の構造と表現効果」『国文論叢』15、pp.46-56、神戸大学文学部国語国文学会

- 吉田雅子(2001)「世代とことば」ロング, ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』 pp.74-82、世界思想社
- 吉本優子(2001)「定住ベトナム難民における相づち習得の研究—談話展開の視点から—」『日本語教育』110、pp.92-100、日本語教育学会
- 山内博之(2009)『プロフィシェンシーから見た日本語教育文法』ひつじ書房
- 山根智恵(2002)『日本語の談話におけるフィラー(日本語研究叢書(フロンティアシリーズ))』くろしお出版
- 山本恵美子(1992)「日本語学習者のあいづち使用実態の分析：頻度および種類」『言語文化と日本語教育』4、pp.22-34、お茶の水女子大学日本言語文化学研究会
- 山森理恵・金庭久美子・奥野由紀子・鎌田修(2014)「聞く過程の強化と自己成長を促す教材開発に向けて—『聞き返し』に着目して—」『2014 CAJLE Annual Conference Proceedings』、pp.229-238、CAJLE・カナダ日本語教育振興会
- 李宇霞(2009)「大学生の初対面会話における共同発話文—中国人日本語学習者同士の会話を通して—」稗田乃・峰岸 真琴・川口 裕司編『コーパスに基づく言語学教育研究報告 言語記述から言語分析の応用へ』2、pp.87-108、グローバルCOEプログラム「コーパスに基づく言語学教育研究拠点」東京外国語大学大学院地域文化研究科
- 李麗燕(1995)「日本語母語話者の会話管理に関する一考察—日本語教育の観点から」『日本語教育』87、pp.12-24、日本語教育学会
- 李麗燕(2000)『日本語母語話者の雑談における「物語」の研究』くろしお出版
- 劉建華(1987)「電話でのアイズチ頻度の中日比較」『言語』16-1、pp.93-97、大修館書店
- ロング, ダニエル(1992)「対外国人言語行動の実態」『日本語研究センター報告』1、pp.57-81、大阪樟蔭女子大学日本語研究センター
- ロング, ダニエル(1992)「日本語によるコミュニケーション—日本語におけるフォーリナー・トークを中心に—」『日本語学』11-13、pp.23-32、明治書院
- ロング, ダニエル(2001)「応用社会言語学ことはじめ」ロング, ダニエル・中井精一・宮治弘明編『応用社会言語学を学ぶ人のために』 pp.3-13、世界思想社
- ロング, ダニエル(2003)「日本語と外国語の使い分け」北原保雄監修・荻野綱雄編『朝倉日本語講座 9』 pp.132-156、朝倉書店
- ロング, ダニエル(2006)「日本語の非母語話者を研究対象にした新しい社会言語学の可能性」真田信治監修・中井精一・ロング, ダニエル・松田謙次郎編『日本のフィールド言語学 新たな学の創造にむけた富山からの提言』 pp.17-33、桂書房
- ロング, ダニエル(2010)「日本語習得者が作る日本語文法」『日本語文法』10-2、pp.39

- ロング, ダニエル(2011)「言語習得」大橋理枝・ロング, ダニエル著『日本語からたどる文化』pp.201-211、放送大学教育振興会
- 渡辺恵美子(1994)「日本語学習者のあいづちの分析—電話での会話において使用された言語的あいづち—」『日本語教育』82、pp.110-122、日本語教育学会
- Austin, J. L. (1962) *How to do things with words*. Oxford University Press. Fair Lawn, NJ. (坂本白大訳(1978) 『言語と行為』大修館書店)
- Beebe, L. M. (1988) *Issues in second language acquisition: Multiple perspectives*. Newbury House. (島岡丘監修・レスリー, M. ビービ編・卯城祐司・佐久間康之訳(1998) 『第二言語習得の研究—5つの視点から』大修館書店)
- Blakemore, D. (1992) *Understanding utterances: An introduction to pragmatics*. Oxford: Blackwell. Oxford University Press. (武内道子・山崎英一訳(1994) 『ひとは発話をどう理解するか—関連性理論入門—』ひつじ書房)
- Brown, P., & Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge university press. (田中典子・斉藤早智子・津留崎毅・鶴田庸子・日野壽憲・山下早代子訳(2011) 『ポライトネス—言語使用における、ある普遍現象—』研究社)
- Brunner, L. J. (1979) Smiles can be back channels. *Journal of Personality and Social Psychology*, 37(5), 728-734.
- Cameron, D. (2001) *Working with spoken discourse*. Sage. (林宅男訳(2012) 『話し言葉の談話分析 (言語学翻訳叢書 15)』ひつじ書房)
- Clancy, P. M., Thompson, S. A., Suzuki, R., & Tao, H. (1996) The conversational use of reactive tokens in English, Japanese, and Mandarin. *Journal of pragmatics*, 26(3), 355-387.
- Dulay, H., Burt, M., & Krashen, S. (1982) *Language 2*. (牧野高吉訳(1984) 『第2言語の習得』弓書房)
- Duncan, S. (1974) On the structure of speaker-auditor interaction during speaking turns. *Language in society*, 3(02), 161-180.
- Ellis, Rod. (1985) *Understanding second language acquisition*. Oxford University Press. (牧野高吉訳(1988) 『第二言語習得の基礎』nci)
- Ellis, Rod. (1994) *The study of second language acquisition*. New York: Oxford University Press. (金子朝子訳(1996) 『第二言語習得序説：学習者言語の研究』研究

社)

- Fishman, J.A. (1972) *The sociology of language: an interdisciplinary social science approach to language in society*. Newbury House. (湯川恭敏訳(1974)『言語社会学入門』大修館書店)
- Ferrara, K. (1992) The interactive achievement of a sentence: Joint productions in therapeutic discourse. *Discourse Processes* 15, 207–228.
- Giles, H., Coupland, J., & Coupland, N. (1991) *Contexts of accommodation: Developments in applied sociolinguistics*. Cambridge University Press.
- Goffman, E. (1967) *Interaction ritual: essays on face to face behavior*. Garden City, New York. (浅野敏夫訳(1986)『儀礼としての相互行為—対面行動の社会学』法政大学出版社)
- Goodwin, C. (1980) Restarts, Pauses, and the Achievement of a State of Mutual Gaze at Turn - Beginning. *Sociological inquiry*, 50(3-4), 272-302.
- Grice, P. (1989) *Studies in the way of words*. Harvard University Press. (清塚邦彦・飯田隆訳(1998)『論理と会話』勁草書房)
- Gumperz, J. J. (1982) *Discourse strategies* (Vol. 1). Cambridge University Press. (井上逸兵・出原健一・花崎美紀・荒木端夫・多々良直弘訳(2004)『認知と相互行為の社会言語学—ディスコース・ストラテジー』松柏社)
- Halliday, M. A. K., & Hassan, R. (1991) *Language in a Social Semiotic Perspective*. Oxford: Oxford university press. (筧壽雄訳(1991)『機能文法のすすめ』大修館書店)
- Hayashi, M., & Mori, J. (1998) Co-construction in Japanese revisited: We do finish each other's sentences. *Japanese/Korean Linguistics*, 7, 77-93.
- Hayashi, M., Mori, J. & Takagi, T. (2002) Contingent achievement of co-tellership in a Japanese conversation: An analysis of talk, gaze, and gesture. In Ford, C. E., Fox, B.A. & Thompson, S. A.(eds.) *The Language of Turn and Sequence*, Oxford University Press. 81-122.
- Hayashi, M. (2003) *Joint utterance construction in Japanese conversation* (Vol. 12). John Benjamins Publishing.
- Hymes, D. (1974) *Foundations in sociolinguistics: An ethnographic approach*. University of Pennsylvania Press. (唐須教光訳(1979)『ことばの民族誌—社会言語学の基礎』紀伊国屋書店)
- Ide, S. and McGloin, N.H. (1991) *Aspects of Japanese Women's language*. Kurocio

- publishers, Tokyo.
- Jakobson, R. (1963) *Essais de linguistique générale* (1960). (川本茂雄・田村すゞ子・村崎恭子・長嶋善郎・八幡屋直子訳(1985)『一般言語学』みすず書房)
- Kasper, G. (2000) Data collection in pragmatics research. In: Spencer-Oatey, H. (ed) (2000) *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Cultures*. London: Continuum. (浅羽亮一(監修)・田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・熊野真理・福島佐江子訳(2004)『異文化理解の語用論－理論と実践』研究社)
- Kita, S. & S. Ide. (2007) Nodding, aizuchi, and final particles in Japanese conversation: How conversation reflects the ideology of communication and social relationships. *Journal of Pragmatics*, 39, 1242-1254.
- Kogure, M. (2003) Gender differences in the use of backchannels: Do Japanese men and women accommodate to each other? Unpublished Ph. D. dissertation, University of Arizona.
- Lakoff, R. (1975) *Language and woman's place*. New York: Harper and Row(かつえ・あきば・れいのるず訳(1990)『言語と性－英語における女の地位』有信堂)
- Larsen-Freeman, D., & Long, M. (1991) *An introduction to second language acquisition research*. New York: Longman. (牧野高吉・萬谷隆一・大場浩正訳(1995)『第2言語習得への招待』鷹書房弓プレス)
- Leech, G.N. (1983) *Principles of pragmatics*. London: Longman. (池上嘉彦・河上誓作訳(1987)『語用論』紀伊国屋書店)
- Malcolm, C. (1977) *An Introduction to Discourse analysis*. London: Longman. (吉村昭市・貫井孝典・鎌田修訳(1999)『談話分析を学ぶ人のために』世界思想社)
- Maynard, S. K. (1986) On back-channel behavior in Japanese and English casual conversation, *Linguistics*, 24, 1079-1108.
- Maynard, S. K. (1987) Interactional functions of a nonverbal sign, Head movement in Japanese dyadic casual conversation, *Journal of Pragmatics*, 11, 589-606.
- Maynard, S. K. (1990) Conversation management in contrast: Listener response in Japanese and American English, *Journal of Pragmatics*, 14, 397-412.
- Miller, L. (1991) Verbal listening behavior in conversations between Japanese and Americans. *The Pragmatics of International and Intercultural Communication*. Amsterdam: John Benjamins Publishing Company, 111-130.
- Miyazaki, S. (2007) *Japanese women's listening behavior in face-to-face conversation*:

- The use of reactive tokens and nods.* Hituzu Syobo Publisher: Tokyo.
- Mukai, Chiharu (1999) "The Use of Back-channels by Advanced Learners of Japanese: Its Qualitative and Quantitative Aspects" *世界の日本語教育* 9, 国際交流基金, 197-219.
- Ono, T. & Thompson, S. (1995) What can conversation tell us about syntax? In Davis, Philip W. (Ed.), *Alternative Linguistics: descriptive and theoretical modes*. John Benjamins. 213-271.
- Ono, T. & Yoshida, E. (1996) A study of co-construction in Japanese: We don't finish each other's sentences. *Japanese/Korean Linguistics*, 5, 115-130.
- Pienemann, M., & Kessler, J. U. (Eds.). (2011) *Studying processability theory: An introductory textbook* (Vol. 1). John Benjamins Publishing.
- George Psathas. (1995) *Conversation analysis: The study of talk-in-interaction*. Sage.  
(北澤裕・小松栄一訳(1998)『会話分析の手法』マルジュ社)
- Sacks, H. (1974) "An analysis of the course of a joke's telling in conversation," J. Sherzer and R. Bauman eds., *Explorations in the Ethnography of Speaking*, Cambridge: Cambridge University Press, 337-353.
- Sacks, H. (1992) *Lectures on Conversation*. 2 vols. Oxford: Basil Blackwell.
- Schegloff, E. A. (1982) Discourse as an interactional achievement: Some uses of 'uh huh' and other things that come between sentences. In D. Tannen (Ed.), *Analyzing Discourse: Text and Talk*, Washington, D.C., USA: Georgetown University Press, 71-93.
- Sacks, H., Schegloff, E. A., & Jefferson, G. (1974). A simplest systematics for the organization of turn-taking for conversation. *Language*, 696-735. (西阪仰訳・S. サフト翻訳協力(2010)「会話のための順番交替の組織—最も単純な体系的記述」『会話分析基本論集 順番交替と修復の組織』pp.5-153、世界思想社)
- Schegloff, Emanuel and Sacks, Harvey. (1973) Opening up Closings. *Semiotica*, 8. (北澤裕・西阪仰訳(1989)「会話はどのように終了されるのか」『日常性の解剖学』マルジュ社 pp.177-241)
- Searle, John R. (1969) *Speech Acts: An Essay in the Philosophy of Language*. Cambridge University Press. (坂本百台・土屋俊訳(1986)『言語行為：言語哲学への試論』勁草書房)
- Shannon, C.E. and Weaver, W. (1964) *The mathematical theory of communication*.

- Urbana: The University of Illinois Press. (長谷川淳、井上光洋訳(1969)『コミュニケーションの数学的理論—情報理論の基礎』明治図書)
- Spencer-Oatey, H(ed) (2000) *Culturally Speaking: Managing Rapport through Talk across Cultures*. The Continuum Publishing Company. (浅羽亮一(監修)・田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・熊野真理・福島佐江子訳(2004)『異文化理解の語用論：理論と実践』研究社)
- Sperber, D. and Wilson, D. (1995) *Relevance: communication and cognition* 2nd Edition. Wiley-Blackwell. (内田 聖二・宋南先・中達 俊明・田中圭子(2000)『関連性理論—伝達と認知』研究社)
- Stubbs, M. (1983) *Discourse analysis : The sociolinguistic analysis of natural language*. Blackwell. (南出康世・内田聖二訳(1989)『談話分析：自然言語の社会言語学的分析』研究社)
- Suzuki, T. & Usami, M. (2006) 「Co-constructions in English and Japanese Revisited: A quantitative approach to cross-linguistic comparison」宇佐美まゆみ編『自然会話分析への言語社会心理学的アプローチ』東京外国語大学大学院地域文化研究科 21世紀 COE プログラム「言語運用を基盤とする言語情報学拠点」、pp.263-276.
- Szatrowski, P. (2000) Relation between gaze, head nodding and aizuti backchannel at a Japanese company meeting. *Berkeley Linguistics Society* 26: 283-294
- Szatrowski, P. (2003) Gaze, head-nodding and aizuti 'back channel utterances' in information presenting activities. In P. Clancy (ed.) *Japanese/Korean Linguistics* 11:119-132. Stanford: Center for the Study of Language and Information.
- Tannen, D. (1984) *Conversational style: Analyzing talk among friends*. Norwood, NJ: Albex.
- Tannen, D. (1993) The relativity of linguistic strategies: Rethinking power and solidarity in gender and dominance. In D.Tannen(ed.). *Gender and conversational interaction*, 165-188. Oxford: Oxford University Press.
- Thomas, J. (1995) *Meaning in interaction: An Introduction to Pragmatics*. London: Longman. (浅羽亮一(監修)・田中典子・津留崎毅・鶴田庸子・成瀬真理訳(1998)『語用論入門：話し手と聞き手の相互交渉が生み出す意味』研究社)
- Usami, M. (2002) *Discourse politeness in Japanese conversation: Some implications for a universal theory of politeness*. Tokyo: Hituzi Syobo.
- Watanabe, S. (1993) Cultural differences in framing: American and Japanese group



- discussions. In Deborah Tannen(ed.). *Framing in discourse*. 176-209. New York and Oxford: Oxford University Press.
- White, S. (1989) Backchannels across cultures: A study of Americans and Japanese. *Language Society*. 18: 59-76.
- Yngve, V. H. (1970) On getting a word in edgewise. In *Chicago Linguistics Society, 6th Meeting*, 567-578.
- Yule, G. (1996) *Pragmatics*. Oxford University Press. (高司正夫訳(2000)『ことばと発話状況』リーベル出版)
- 이순형(2011a)「일본어 운용력 양성을 위한 문법 실러버스의 재구성—「본문 회화」와 「자연담화」의 비교 분석을 통하여—」『일어일문학연구』 76, 한국일어일문학회, pp.331-349.(李舜炯(2011a)「日本語の運用力養成のための文法シラバスの再構成—「本文会話」と「自然談話」の比較分析を通して—」『日語日文学研究』 76、韓国日語日文学会、pp.331-349)
- 이순형(2011b)「사회언어적능력의 관점에서 본「본문회화」의 실제와 과제」『東北亜文化研究』 27,pp.499-516,동북아시아문화학회(李舜炯(2011b)「社会言語的能力の観点からみた「本文会話」の実際と課題」『東北亜文化研究』27、pp.499-516、東北亜細亜文化学会)
- 임영철(2008)『한국어와 일본어 그리고 일본인과의 커뮤니케이션』대학사(任榮哲(2008)『韓国語と日本語そして日本人とのコミュニケーション』泰學社)

## 巻末資料

: TMU-UPI 会話データ

(会話1)

| 時間：<br>9分58秒  |        | 話者記号<br>J1：30代女性日本語母語話者 I1：40代女性インドネシア学習者                                           |  |
|---------------|--------|-------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 発話<br>文<br>番号 | 話<br>者 | 発 話 内 容                                                                             |  |
| 1             | J1     | どこで留学していたんですか。                                                                      |  |
| 2             | I1     | えーと、去年までは[地名4],,                                                                    |  |
| 3             | J1     | [地名4]に？                                                                             |  |
| 4             | I1     | はい                                                                                  |  |
| 5             | J1     | あー、え一年間？                                                                            |  |
| 6             | I1     | いや、んー、まあ、実は主人の仕事で【【                                                                 |  |
| 7             | J1     | あ、もう、結婚しているんですか                                                                     |  |
| 8             | I1     | そうなんですよ、(へー)で、子どもたちもいっしょに(へー)[地名4]にいて6年間くらいかな。                                      |  |
| 9             | J1     | あ、やっぱり,,                                                                            |  |
| 10            | I1     | で、去年帰国して(はい)、で、こちらの大学に進学、うふふ、しました。                                                  |  |
| 11            | J1     | あー、なるほど、そういうことなんですね。なんか、やっぱ、全然、ねえ、あその他の学生と(いやいやいや)違う、本当に。なんかすごい自然だから,,              |  |
| 12            | I1     | いやいやいや、やっぱりね、外国人<笑い>というか…                                                           |  |
| 13            | J1     | えーでも、お子さん何歳くらいなんですか。                                                                |  |
| 14            | I1     | 主人、え、あ子どもが、長男、もうダイ、いや、大学じゃなくて高校2年生。                                                 |  |
| 15            | J1     | え？待って<笑い>じゃあ今って、じゃあ,,                                                               |  |
| 16            | I1     | そう、43才です                                                                            |  |
| 17            | J1     | <笑い>'わかんない、えー                                                                       |  |
| 18            | I1     | いやいやいやいや、もう子どもも3人いるし。                                                               |  |
| 19            | J1     | え、じゃあ、お子さんはむす息子さんですか。                                                               |  |
| 20            | I1     | はい、みんな男。                                                                            |  |
| 21            | J1     | えー、じゃあ、なに、日本の高校とか行ってたんですか。                                                          |  |
| 22            | I1     | そうですね。ふつうの日本の高校。えっと、長男はやっと、えっと竹園高校という高校,,                                           |  |
| 23            | J1     | え、その[県名1]の、はー                                                                       |  |
| 24            | I1     | 受かりました。                                                                             |  |
| 25            | J1     | え、で、今は？                                                                             |  |
| 26            | I1     | 今は、まあ、残念なんですけど引っ越しました。                                                              |  |
| 27            | J1     | あ、じゃあ、インドネシアに,,                                                                     |  |
| 28            | I1     | そう、インドネシアに(へー)[地名1]に(あー)私は[地名1]に住んでいます。                                             |  |
| 29            | J1     | 私、この前、今度、[地名1]に行こうかなーって,,                                                           |  |
| 30            | I1     | え、いつ？是非是非                                                                           |  |
| 31            | J1     | 思ってたんですけどー、でも、なんか、時間が土日だけじゃ短いですよ？                                                   |  |
| 32            | I1     | ううん、大丈夫。だって私は木曜日夜こちらに出發して(うん)、で、朝着くんですね(うん)。あの、電車乗るから。で、金と土曜日授業(うん)土曜日の夜また(えー)戻って,, |  |
| 33            | J1     | 土曜日の夜                                                                               |  |
| 34            | I1     | それを毎週                                                                               |  |

|    |    |                                                                 |
|----|----|-----------------------------------------------------------------|
| 35 | J1 | 毎週？（うん）土曜日の夜に出て、日曜日の朝に着く？                                       |
| 36 | I1 | はい                                                              |
| 37 | J1 | あ、それで行こうかな。で、日曜日の朝着いて、で、もう、そしたらあんまり〔インドネシア〕地名2〕観光する時間はあんまりないから、 |
| 38 | I1 | まあ、〔地名6〕とかね                                                     |
| 39 | J1 | そう、〔地名6〕                                                        |
| 40 | I1 | そのあたり、〔地名1〕シティーだけ、                                              |
| 41 | J1 | 土日はでもやっぱ混んできますよね                                                |
| 42 | I1 | ああ、〔地名1〕は（あー）〔地名2〕と同じかなあ、けっこう混んできます                             |
| 43 | J1 | じゃあ、毎週電車で？                                                      |
| 44 | I1 | 私は電車で                                                           |
| 45 | J1 | えー                                                              |
| 46 | I1 | うん、大変です                                                         |
| 47 | J1 | すごーい、えー、ど、ど、その予約とか大丈夫なんですか                                      |
| 48 | I1 | んー、そうですね、予約はせめて一週間前、まあ二週間前だともっと安くできるので、                         |
| 49 | J1 | あー、やっぱり。あーそうなんですか、じゃあ、いつも通ってるんですか                               |
| 50 | I1 | 通ってます                                                           |
| 51 | J1 | あーえじゃあ、えとーご主人も〔地名1〕に、                                           |
| 52 | I1 | そう、主人も〔地名1〕（あー）。子どもも（へー）。                                       |
| 53 | J1 | でももう息子さんたちって、日本の方が長い、わけではないか。                                   |
| 54 | I1 | んー、長男と次男は〔地名3〕で生まれてて                                            |
| 55 | J1 | えー                                                              |
| 56 | I1 | そうなんです                                                          |
| 57 | J1 | あじゃ、もともと〔地名9〕じゃなくて〔地名3〕にいたんですか。                                 |
| 58 | I1 | じゃなくて〔地名3〕でした。1994年だったかな。（えー）で、その時は留学して主人と知り合って【【               |
| 59 | J1 | え、あ、もともとじゃあ留学で日本に行って【【                                          |
| 60 | I1 | それで知り合って                                                        |
| 61 | J1 | で、ご主人はそのまま就職、                                                   |
| 62 | I1 | ではなくて、えっと、博士まで。                                                 |
| 63 | J1 | あ、〔地名4〕の？【【。                                                    |
| 64 | I1 | いや、〔地名4〕じゃなくて〔K〕大学でした。                                          |
| 65 | J1 | あー、へー、じゃ、ご主人、じゃあ今なんか大学とかで働いてるんですか。                              |
| 66 | I1 | 研究員としてやってますね。                                                   |
| 67 | J1 | 文系ですか。                                                          |
| 68 | I1 | いや、あの津波<笑い>、                                                    |
| 69 | J1 | 津波の研究？はー                                                        |
| 70 | I1 | はい、やっていました、だからつくば市内、なんというか研究所（はい）があるので（はい）、その、なんという…            |
| 71 | J1 | あー、なるほどあの、ね、ありますよね。                                             |
| 72 | I1 | そこで、そうそうそうそう、そこであのー6年間くらい研究をして、                                 |
| 73 | J1 | あ、そうだったんですか（うん）。ど、えで、かえ、か戻られたの最近なんですか。                          |
| 74 | I1 | 去年でした。                                                          |
| 75 | J1 | へー、あそう、じゃ、え息子さんとかどうですか、逆にインド、逆のなんかこうカルチャーショックじゃないですけど           |
| 76 | I1 | そうですね                                                           |
| 77 | J1 | 日本に慣れちゃってますよね。                                                  |
| 78 | I1 | うんーそうなんです。えーと、大変でした、去年は（うーん）、インドネシア語もできなくて、                     |
| 79 | J1 | あ、やっぱ、そうなんですか。                                                  |

|     |    |                                                                                                                   |
|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 80  | I1 | まあ、なんとか、日本のシステムができたから (はいはいはいはい) で、まあ、大丈夫かなあ (ふーん)、大丈夫というか、長男も、あの一位になってて、,                                        |
| 81  | J1 | え、今?へー                                                                                                            |
| 82  | I1 | んー、で、次男もそんなに問題ないので(へー)三男もやっと中学校に受かって(へー)で、インドネシア語は理解は(はい)できるとは思うんですけど(はい)、まだアウトプットがむずかしい?(はー) で、家にいる時はみんなまだ日本語で、, |
| 83  | J1 | へー、おもしろい。                                                                                                         |
| 84  | I1 | おもしろいでしょ。                                                                                                         |
| 85  | J1 | [地名 1]で会いたかった。                                                                                                    |
| 86  | I1 | うん、是非是非、今度いつでも。                                                                                                   |
| 87  | J1 | えーそうなんだ、へー、すごいな、いろいろ聞きたかったな。そうなんですか。                                                                              |
| 88  | I1 | その研究もいいかもしれない<笑い>                                                                                                 |
| 89  | J1 | ねー。あ、そう、じゃあ、やっぱまだ兄弟同士はまだ日本語で話をしてるんですか。                                                                            |
| 90  | I1 | そうなんです。                                                                                                           |
| 91  | J1 | へーそれはすごいですね、そうなんだー、ほー、おもしろい。[地名 1]行きたかったな。じゃあもし平日に行ったら会えますか?                                                      |
| 92  | I1 | え、いつ?                                                                                                             |
| 93  | J1 | 平日なにされてるんですか。                                                                                                     |
| 94  | I1 | 私ね (うん)、実はね (はい)、秘密 (はい) なんですけど、月曜日日本に行くんです。                                                                      |
| 95  | J1 | え?あ、そうなんですか。                                                                                                      |
| 96  | I1 | そう、十日だから、来週の27日、来られないんです。                                                                                         |
| 97  | J1 | あーえ、家族で? 【 【                                                                                                      |
| 98  | I1 | いや、家族じゃなくて仕事で、,                                                                                                   |
| 99  | J1 | あ、へー、どこにですか?                                                                                                      |
| 100 | I1 | 東京と[(日本)地名 4]。                                                                                                    |
| 101 | J1 | あ、本当に?(うん)今東京、けっこう寒いんじゃないですかね                                                                                     |
| 102 | I1 | そうですね                                                                                                             |
| 103 | J1 | そうですね、じゅう、もう10月なるか、あーも、あ、まだなんないか。                                                                                 |
| 104 | I1 | うん、でも台風もけっこう来ます。                                                                                                  |
| 105 | J1 | 来てると思うし。あー、そっか、そっか、月曜日から、,                                                                                        |
| 106 | I1 | 月曜日から来週の水曜日                                                                                                       |
| 107 | J1 | うわーちょっとじゃあ今度                                                                                                      |
| 108 | I1 | え、いつ帰国しますか?                                                                                                       |
| 109 | J1 | 29です。                                                                                                             |
| 110 | I1 | 29?で、また?                                                                                                          |
| 111 | J1 | まだ日本にいます?その時。                                                                                                     |
| 112 | I1 | ううん、そう31日まで                                                                                                       |
| 113 | J1 | あじゃ、よくよく日本には、,                                                                                                    |
| 114 | I1 | そうですね、年に3回くらい                                                                                                     |
| 115 | J1 | あ、ほんとに?じゃあ、ちょっと今度日本に来たとき連絡してくださいよ。                                                                                |
| 116 | I1 | そう、是非是非、もし、[地名 1]に 【 【                                                                                            |
| 117 | J1 | [地名 1]にも行きたかったの                                                                                                   |
| 118 | I1 | あのね、[T]大学の教師、まあうちの先輩 (はい) なんですけどYさんという人                                                                           |
| 119 | J1 | はい、あ!                                                                                                             |
| 120 | I1 | [人名(SY)]                                                                                                          |

|     |    |                                                                                                                          |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 121 | J1 | 多分あの、聞いたことある。というか、その、この前[N]大学の、あの、Hさんてご存じ？知らないですよね？                                                                      |
| 122 | I1 | [人名(H)]？                                                                                                                 |
| 123 | J1 | Hさんて、なご今[N]学の博士課程の方とこの前学会で会って(うん)、で、その彼女が[地名5]から東京に来たんですけど、その後[T]大学、多分そのY先生、                                             |
| 124 | I1 | Yさん、うん、別の友達                                                                                                              |
| 125 | J1 | あ、学生ですか？                                                                                                                 |
| 126 | I1 | いや、教師。留学生センターで。                                                                                                          |
| 127 | J1 | インドネシア語の出来る人、ではない                                                                                                        |
| 128 | I1 | いや、できない。                                                                                                                 |
| 129 | J1 | あ、じゃないか。                                                                                                                 |
| 130 | I1 | で、今ちょうどインドネシアにいて十日間、私の家に泊まっていた(あ、へー)、で、こないだもいっしょに、にし、え先週だった(はい)かな、いっしょにこちらにいて(うん)、ちょっと私は授業中で、                            |
| 131 | J1 | あ、そうなんですか                                                                                                                |
| 132 | I1 | 彼女はまあこのあたりに(へー)、うん、一人で散歩してね。                                                                                             |
| 133 | J1 | あ、そうだ、あ、も、あのふつうにあれで、来ててプライベートで来てたんですか                                                                                    |
| 134 | I1 | そうですね。で、いっしょに日本に                                                                                                         |
| 135 | J1 | あじゃ、今Yさんも、                                                                                                               |
| 136 | I1 | 今、Yさんは、うちのママ、[地名7]にいるママに頼んで<笑い>ママのところに(へー)あの5日間。その後、えーと、今日からかな(はい)、[地名8]。で、スラバヤにある友達に頼んで、(おー)でプロモ山という山がありますね、今晚登ると言っていて、 |
| 137 | J1 | ふーん、そうなんだ。                                                                                                               |
| 138 | I1 | で、日曜日[地名1]に戻って、                                                                                                          |
| 139 | J1 | にいっしょに帰る？                                                                                                                |
| 140 | I1 | 月曜日いっしょに帰る。                                                                                                              |
| 141 | J1 | あー、そうなんだー                                                                                                                |
| 142 | I1 | 是非是非今度あの                                                                                                                 |
| 143 | J1 | 本当に[地名1]行きたくて、なんか、なんでしたっけあそこ。きれいな、あの一、なんだっけ                                                                              |
| 144 | I1 | なんて？                                                                                                                     |
| 145 | J1 | えっと、日の出が見えるっていう、えーと、なんだっけな、お寺…                                                                                           |
| 146 | I1 | ああ、プランマンナン・[地名6]？                                                                                                        |
| 147 | J1 | ああ、[地名6]。そうそうそうそう。                                                                                                       |
| 148 | I1 | [地名6]ね、一時間くらい。                                                                                                           |
| 149 | J1 | そこも行きたかった。                                                                                                               |
| 150 | I1 | 是非。いつでも。連絡して。                                                                                                            |
| 151 | J1 | はい。ちょっと、連絡先                                                                                                              |
| 152 | I1 | ちょ私の名刺持ってこなかった。                                                                                                          |
| 153 | J1 | あ私も名刺持ってこなかった、今日                                                                                                         |
| 154 | I1 | facebookでも                                                                                                               |
| 155 | J1 | あ、facebookで、わーそうなんだ                                                                                                      |
| 156 | I1 | えーと、うーんそうだね、私はなんか今日バタバタで、あの名刺とかなんか何も持ってこなかったし。                                                                           |
| 157 | J1 | すいません、私もね、いつも、あー、なんでいっつも忘れちゃうんだろう。あ、これ、よかったらうちの大学のね、ボールペンなんですけど。                                                         |
| 158 | I1 | あ、すみません。ありがとうございます。                                                                                                      |
| 159 | J1 | どうぞどうぞ。あれ、もう一個あったのにな、なんか、この中でなくなっちゃったな。(うーん)じゃあfacebookの、アドレス書きますね、私の。                                                   |
| 160 | I1 | 私書きましようか。                                                                                                                |

|     |    |                                                                                                                                                                                        |
|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 161 | J1 | おねがいします。じゃあここに                                                                                                                                                                         |
| 162 | I1 | んと、私の facebook の名前と自分の、                                                                                                                                                                |
| 163 | J1 | 私もここに書きましようか。えー、それはでも息子さんとか会いたかったな、なんか。                                                                                                                                                |
| 164 | I1 | そうですね、是非。                                                                                                                                                                              |
| 165 | J1 | 仕事って今通訳の仕事とかしてるんですか。                                                                                                                                                                   |
| 166 | I1 | いえいえ、私は日本語学校を運営しています。                                                                                                                                                                  |
| 167 | J1 | へー、[地名 1]で？                                                                                                                                                                            |
| 168 | I1 | [地名 1]で。だから是非                                                                                                                                                                          |
| 169 | J1 | 日本人の先生とかは募集してないんですか？                                                                                                                                                                   |
| 170 | I1 | いますよ。                                                                                                                                                                                  |
| 171 | J1 | いるんですか。                                                                                                                                                                                |
| 172 | I1 | いますよ。(へー) まあ、ボランティアとしてね。                                                                                                                                                               |
| 173 | J1 | へーけっこう学生多いですか。                                                                                                                                                                         |
| 174 | I1 | けっこういますね。                                                                                                                                                                              |
| 175 | J1 | へーそっか、なんかい、あじゃあ今度ふつうに。個人的に[地名 1]に遊びに行きます。                                                                                                                                              |
| 176 | I1 | 是非いつでも、ね。私の家に泊まってもいいし。今まだ部屋ないけど。                                                                                                                                                       |
| 177 | J1 | えーすごい嬉しい                                                                                                                                                                               |
| 178 | I1 | あの facebook の名前はこれなんですけど。                                                                                                                                                              |
| 179 | J1 | これ？×××オッケーわかりました。                                                                                                                                                                      |
| 180 | I1 | ありがとうございます。                                                                                                                                                                            |
| 181 | J1 | あ、ちょっと、すみません。最後に聞きたいことがありまして。たとえばえとー[人名(RS)]さんのお友だちで日本語が全く分からない人がいます。で、その人が日本に行くことになりました。で、10 コだけ日本語を覚えていきたいっていった時に、あ、じゃあ日本に行ったらこれを知ってれば色々便利だし日本人と仲良くなるのにいいよっていう日本語を教えてあげるとしたら何を選びますか。 |
| 182 | I1 | うーん、そうですね。挨拶とか。                                                                                                                                                                        |
| 183 | J1 | たとえば挨拶具体的に                                                                                                                                                                             |
| 184 | I1 | オハヨウゴザイマスとかコンニチハ、コンバンハ(うん)、オヤスミナサイ(はい)、スママセン、シツレイシマスとか。えーと、ですよ、他にはなにか                                                                                                                  |
| 185 | J1 | あとは？                                                                                                                                                                                   |
| 186 | I1 | あとは、んー、なんでしょう、んー                                                                                                                                                                       |
| 187 | J1 | こんなのがあったら、こう便利だ、                                                                                                                                                                       |
| 188 | I1 | オセワナリマス、ヨロシクオネガイシマス                                                                                                                                                                    |
| 189 | J1 | オセワナリマスね、あー、ヨロシクオネガイシマスね。あー。それもインドネシア語では、                                                                                                                                              |
| 190 | I1 | ないんですよ、ヨロシクオネガイシマス。                                                                                                                                                                    |
| 191 | J1 | でも、大切？                                                                                                                                                                                 |
| 192 | I1 | 大切。そう、とても大切。で、自己紹介する時はハジメマシテとか、あの、それもね。                                                                                                                                                |
| 193 | J1 | ハジメマシテ、ハジメマシテは、でも、インドネシア語にも、                                                                                                                                                           |
| 194 | I1 | ×××とか、まあ、ちょっとは…                                                                                                                                                                        |
| 195 | J1 | 言えるけど、                                                                                                                                                                                 |
| 196 | I1 | 言えるけど。うん。でも日本語の場合は必ずかな。                                                                                                                                                                |
| 197 | J1 | 必ずそうですね、ハジメマシテですよ。                                                                                                                                                                     |
| 198 | I1 | ハジメマシテで、最後はヨロシク(うん)でお辞儀。                                                                                                                                                               |
| 199 | J1 | ああ、お辞儀ね。                                                                                                                                                                               |
| 200 | I1 | まあ、あの、日本の文化を紹介しますね。                                                                                                                                                                    |
| 201 | J1 | ああ、なるほど、それが大事ってことで、                                                                                                                                                                    |

|     |    |                                                                    |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------|
| 202 | I1 | うちの学校では（うん）ことばより先に文化を生徒に教えて（ほ一）で、興味が出るんですね。みんな、で、まあ、その後文型とかことばの方を、 |
| 203 | J1 | あー、なるほどね。へーそれはでもすごい、その通りだと思いますね。                                   |
| 204 | I1 | そうですね。文化がわからないとことばがわかっても意味がない。                                     |
| 205 | J1 | そうそうそうそう                                                           |
| 206 | I1 | だって、自分の経験もそうだったから。やはりみんなにほんの習慣とかそれを教えないといけないので、                    |
| 207 | J1 | なるほど、そういうことですよ。たしかに。                                               |
| 208 | J1 | あれ、私ね、もういっこボールペン、これ一個しかないですよ。うちの大学の。                               |
| 209 | I1 | ありがとうございます。いただきます。大丈夫ですか？時間。                                       |
| 210 | J1 | これでちょうどです。                                                         |

## (会話2)

| 時間：<br>14分55秒 |    | 話者記号<br>J2：20代日本語母語話者<br>I2：30代インドネシア学習者                                              |
|---------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------|
| 発話<br>文<br>番号 | 話者 | 発 話 内 容                                                                               |
| 1             | J2 | はい、始めました。えー、じゃあ今日はよろしくお願いします。はい、えとじゃあまずちょっと名前聞いてもいいですか。                               |
| 2             | I2 | はい、えっとー、[人名(G)]。                                                                      |
| 3             | J2 | [人名(G)]、えーと【【                                                                         |
| 4             | I2 | 】】はい。                                                                                 |
| 5             | J2 | はい。                                                                                   |
| 6             | I2 | 書きますか？                                                                                |
| 7             | J2 | すみませんね。はい。[人名(G)]さん、はい、分かりました、ありがとうございます。えっと、大学院の？えっと何年生で【【                           |
| 8             | I2 | 】】二年生です。                                                                              |
| 9             | J2 | 二年生、はい。大学院の二年生ですね、はい。                                                                 |
| 10            | J2 | なんか研究テーマとかは何かあるんですか？                                                                  |
| 11            | I2 | 研究テーマは、                                                                               |
| 12            | J2 | はい。                                                                                   |
| 13            | I2 | さっき言った、                                                                               |
| 14            | J2 | はい、また。                                                                                |
| 15            | I2 | 「ていく」「てくる」の、                                                                          |
| 16            | J2 | はい、「ていく」の】】                                                                           |
| 17            | I2 | 【【****                                                                                |
| 18            | J2 | あ、はい。アスペクト。はい。                                                                        |
| 19            | I2 | はい。                                                                                   |
| 20            | J2 | そうですか。はい。じゃあ今日はよろしくお願いします。はいえー、あー、じゃあまず何を聞こうかな。えーと、まず何か、日本語に興味を持ったきっかけって言うのは何かあるんですか？ |
| 21            | I2 | 日本語ですか？日本語は、                                                                          |
| 22            | J2 | はい、語。                                                                                 |
| 23            | I2 | 多分言語、えっと、                                                                             |
| 24            | J2 | はい。                                                                                   |
| 25            | I2 | にほ、日本語の興味ですか？                                                                         |
| 26            | J2 | はい、日本語一、なに、ま、あのその一、学問に進まれた何か、理由とかは何か、                                                 |
| 27            | I2 | あー。                                                                                   |
| 28            | J2 | 興味を持った...                                                                             |
| 29            | I2 | まー、えーと、日本語の、                                                                          |
| 30            | J2 | はい。                                                                                   |
| 31            | I2 | 文法または、                                                                                |
| 32            | J2 | 文法。はい。                                                                                |
| 33            | I2 | 文字、それは、気になるんです。                                                                       |
| 34            | J2 | はい。                                                                                   |
| 35            | I2 | えーと、漢字は、えと、えっと、中国とは違って、                                                               |
| 36            | J2 | はい。                                                                                   |
| 37            | I2 | まあ難しいというか、                                                                            |
| 38            | J2 | はい。                                                                                   |
| 39            | I2 | 面白いだと思います。                                                                            |
| 40            | J2 | 面白い、おー、そうですか。その文、文字とかが面白いと思った。なんか、どこでその日本語を見、見たりするんですか？                               |
| 41            | I2 | んー。                                                                                   |



|    |    |                                                                |
|----|----|----------------------------------------------------------------|
| 42 | J2 | えーと、なんか町中に日本語とかあるんですか？                                         |
| 43 | I2 | 私の、時代ならありません。今は、                                               |
| 44 | J2 | はい。                                                            |
| 45 | I2 | えっとー、中学、または、                                                   |
| 46 | J2 | はい。                                                            |
| 47 | I2 | 高校生は**ます。                                                      |
| 48 | J2 | はい。高校生。                                                        |
| 49 | I2 | ***日本語。                                                        |
| 50 | J2 | 日本語を、ま、学ぶところが。                                                 |
| 51 | I2 | あ、はい。                                                          |
| 52 | J2 | あー、そうなんですか。ど、どういった、授業ですか？                                      |
| 53 | I2 | はい。                                                            |
| 54 | J2 | はい、どう、どういう授業になるんですかね？それは。                                      |
| 55 | I2 | んーと、高校生だったら、                                                   |
| 56 | J2 | はい。                                                            |
| 57 | I2 | もう普通の授業と同じです。半分カタカナひらがな混じりで、                                   |
| 58 | J2 | あー、はいはいはい。                                                     |
| 59 | I2 | えと、またはローマ字で。                                                   |
| 60 | J2 | あー、そうなんですか。                                                    |
| 61 | I2 | はい。                                                            |
| 62 | J2 | はー、ちょっと興味ありますね。はい。えーと、じゃあ次の質問、えーと、私あの全然インドネシア語が分からないんですよ。      |
| 63 | I2 | はい。                                                            |
| 64 | J2 | で、もしその日本人、その全然インドネシア語が分からない状態で、そのインドネシアに 来ることになりましたって、         |
| 65 | I2 | はい。                                                            |
| 66 | J2 | なったとき、これは覚えていたほうがいい言葉とかありますか？                                  |
| 67 | I2 | えー、言葉ですよ。                                                      |
| 68 | J2 | はい。何か。                                                         |
| 69 | I2 | んー、まああい、挨拶の、                                                   |
| 70 | J2 | 挨拶。                                                            |
| 71 | I2 | 言葉とか。えっと、***とか、“Selamat pagi”                                  |
| 72 | J2 | “Selamat pagi”、あー、聞いたことがあります。                                  |
| 73 | I2 | はい。                                                            |
| 74 | J2 | はい、挨拶。他には何かありますか？                                              |
| 75 | I2 | もしえーっと、んー、挨拶だったら“Selamat pagi”、“Selamat siang”、“Selamat malam” |
| 76 | J2 | あー。何か、】】                                                       |
| 77 | I2 | 【【えっと、朝だったら“Selamat pagi”。                                     |
| 78 | J2 | はい、はい、でー、                                                      |
| 79 | I2 | 昼になったら“Selamat siang”。                                         |
| 80 | J2 | はい、“siang”、えーと、夜になる】】                                          |
| 81 | I2 | 【【夜、えっと、夕方から、                                                  |
| 82 | J2 | 夕方に、あー、                                                        |
| 83 | I2 | “Selamat sore”                                                 |
| 84 | J2 | あ、“Selamat sore”、はい。で、夜】】                                      |
| 85 | I2 | 【【夜になったら“Selamat malam”                                        |
| 86 | J2 | “Selamat malam”、あー、はー、時間帯によって分かれ】】                             |
| 87 | I2 | 【【はい。                                                          |
| 88 | J2 | あ、日本語でもそう、おはようございます、こんにちとは分かれますもんね。それとおんなじ感じ】】                 |
| 89 | I2 | 【【はい。                                                          |
| 90 | J2 | あーそうですか。                                                       |

|     |    |                                                                    |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------|
| 91  | I2 | でもおはようございますは、はや、早めに来てくれてありがとう,,                                    |
| 92  | J2 | あー。                                                                |
| 93  | I2 | ございます、という感じがありますよね？                                                |
| 94  | J2 | あーそうですね、はい。                                                        |
| 95  | I2 | インドネシア語だったら,,                                                      |
| 96  | J2 | はい。                                                                |
| 97  | I2 | ただの,,                                                              |
| 98  | J2 | ただ。                                                                |
| 99  | I2 | えっと、朝,,                                                            |
| 100 | J2 | はい、朝だから。                                                           |
| 101 | I2 | “Selamat pagi”。                                                    |
| 102 | J2 | “Selamat pagi”。あー、そう、そういう違いがあるんですね。あー分かりました。他に何か言葉覚えるとしたらなんでしょう？   |
| 103 | I2 | んー、“Terima kasih”。                                                 |
| 104 | J2 | “Terima kasih”、あー。                                                 |
| 105 | I2 | ありがとうございます。                                                        |
| 106 | J2 | ありがとうございます、あー。                                                     |
| 107 | I2 | そして、えっと、んー、“Permisi”***                                            |
| 108 | J2 | “Permisi”                                                          |
| 109 | I2 | “Permisi”***“Permisi”                                              |
| 110 | J2 | “Permisi”                                                          |
| 111 | I2 | 失礼します。                                                             |
| 112 | J2 | あー、はいはいはい。                                                         |
| 113 | I2 | えっとー、*****                                                         |
| 114 | J2 | はい、あー、そうですか、はい、分かりました。そうですね、じゃあ、えっと、普段、えーっと、日本語とかどういう風に勉強しているんですか？ |
| 115 | I2 | 日本,,                                                               |
| 116 | J2 | はい。                                                                |
| 117 | I2 | 語ですか。                                                              |
| 118 | J2 | はい。                                                                |
| 119 | I2 | あの一、(笑い)、私の勉強仕方は,,                                                 |
| 120 | J2 | はい。                                                                |
| 121 | I2 | ちょっとユニークで、】】                                                       |
| 122 | J2 | 【【おーおーおー、聞きたいです。                                                   |
| 123 | I2 | (笑い)                                                               |
| 124 | J2 | (笑い)、ぜひぜひ。                                                         |
| 125 | I2 | えっと、最初は,,                                                          |
| 126 | J2 | はい。                                                                |
| 127 | I2 | えっとー、言葉を,,                                                         |
| 128 | J2 | はい。                                                                |
| 129 | I2 | 覚えて,,                                                              |
| 130 | J2 | はい。                                                                |
| 131 | I2 | 言葉を,,                                                              |
| 132 | J2 | はい。                                                                |
| 133 | I2 | 言うやり方で、たとえば、たとえばー...,,                                             |
| 134 | J2 | はい。                                                                |
| 135 | I2 | これです。                                                              |
| 136 | J2 | はい。                                                                |
| 137 | I2 | せん。                                                                |
| 138 | J2 | あー。せん。                                                             |
| 139 | I2 | ****                                                               |
| 140 | J2 | はい、さき。あー読み方が。                                                      |
| 141 | I2 | はい。                                                                |

|     |    |                                              |
|-----|----|----------------------------------------------|
| 142 | J2 | はい。                                          |
| 143 | I2 | これはインドネシア語の意味...                             |
| 144 | J2 | 意味を、はい書くんですね。あーちょっと見せて、あー。                   |
| 145 | I2 | “sebelum”。                                   |
| 146 | J2 | ど、どう読むんですか？                                  |
| 147 | I2 | はい、“sebelum”。                                |
| 148 | J2 | “sebelum”。へー。                                |
| 149 | I2 | でこれ。                                         |
| 150 | J2 | あー、はいはいはい。あー、そういった】】                         |
| 151 | I2 | 【【****、“sebelum”、さき,,                        |
| 152 | J2 | はい。                                          |
| 153 | I2 | “sebelum”。                                   |
| 154 | J2 | はー。                                          |
| 155 | I2 | せん。                                          |
| 156 | J2 | あー、どんだん。                                     |
| 157 | I2 | あー。はい、または、                                   |
| 158 | J2 | ちょっと、はい。                                     |
| 159 | I2 | こう。****                                      |
| 160 | J2 | あー、そう、そういうことですね。はい。あ、でも,,                    |
| 161 | I2 | ****                                         |
| 162 | J2 | 僕もなんか、えっと、他のこと、国の言葉やるとき,,                    |
| 163 | I2 | ****                                         |
| 164 | J2 | なんか単語を書いたリス、たとえば読み方を書いたり、日本語での意味を書いたりやってますね。 |
| 165 | I2 | ****そのあと,,                                   |
| 166 | J2 | はい。                                          |
| 167 | I2 | えっと、文法,,                                     |
| 168 | J2 | はい。                                          |
| 169 | I2 | 文法、えっと、正しい文法を勉強して,,                          |
| 170 | J2 | はい。                                          |
| 171 | I2 | 理解してると、文法,,                                  |
| 172 | J2 | はい。                                          |
| 173 | I2 | たとえば,,                                       |
| 174 | J2 | はい。                                          |
| 175 | I2 | んー、「なにに向け」とか。                                |
| 176 | J2 | はい。                                          |
| 177 | I2 | 「なにになに向け」の                                   |
| 178 | J2 | 「なにになに向け」、はー、はいはい。                           |
| 179 | I2 | 向けの、                                         |
| 180 | J2 | はい。はい、はい。                                    |
| 181 | I2 | 最初は意味を書いて,,                                  |
| 182 | J2 | はい。                                          |
| 183 | I2 | ***の意味、そして,,                                 |
| 184 | J2 | はい。                                          |
| 185 | I2 | やり方、ってやって、えっと、構成、とこの**の,,                    |
| 186 | J2 | はい。                                          |
| 187 | I2 | ***                                          |
| 188 | J2 | はい。                                          |
| 189 | I2 | あと、こども、こど、こどもむ、子供向け、とか。                      |
| 190 | J2 | 子供向け。はい。                                     |
| 191 | I2 | 子供向けの雑誌とか,,                                  |
| 192 | J2 | はい、はい。なんかね、例文とか,,                            |
| 193 | I2 | はい。                                          |

|     |     |                              |
|-----|-----|------------------------------|
| 194 | J2  | どういった感じですか？                  |
| 195 | I2  | 前は、えーっと,,                    |
| 196 | J2  | はい。                          |
| 197 | I2  | 名詞、とか。                       |
| 198 | J2  | はい。あー。                       |
| 199 | I2  | ***こと。                       |
| 200 | J2  | あー、そういうこと、はい。                |
| 201 | I2  | そして例文書いて,,                   |
| 202 | J2  | はい。                          |
| 203 | I2  | みっつとか。自分で。                   |
| 204 | J2  | はい。                          |
| 205 | I2  | そして,,                        |
| 206 | J2  | はい。                          |
| 207 | I2  | 見て開けたら,,                     |
| 208 | J2  | はい。は                         |
| 209 | I2  | あ、開けたら,,                     |
| 210 | J2  | はい。                          |
| 211 | I2  | 他に一漢字を書く。                    |
| 212 | J2  | あー。漢字って、難しくないですか？その】】        |
| 213 | I2  | 【【むずかし、難しい...というと、面白いだと思います。 |
| 214 | J2  | 面白い、あー、そうなんですか。              |
| 215 | 4I2 | はい。                          |
| 216 | J2  | えーっと、たとえばど、どんな所が面白いと感じますか？   |
| 217 | I2  | まあ、んー...。意味的は,,              |
| 218 | J2  | はい。                          |
| 219 | I2  | 面白いです。たとえば,,                 |
| 220 | J2  | はい。                          |
| 221 | I2  | こんな漢字。                       |
| 222 | J2  | はい。「天」。はい。                   |
| 223 | I2  | 「天」は「一」,,                    |
| 224 | J2  | はい。                          |
| 225 | I2  | 足す「大」。                       |
| 226 | J2  | はい。そうですね、「一」と「大」,,           |
| 227 | I2  | うん。                          |
| 228 | J2  | という字に分けられますね。                |
| 229 | I2  | だから,,                        |
| 230 | J2  | はい。                          |
| 231 | I2  | その一,,                        |
| 232 | J2  | うん。                          |
| 233 | I2  | 意味もありますねーって。                 |
| 234 | J2  | あー。そういう風に。な,,                |
| 235 | I2  | はい。                          |
| 236 | J2  | なんか、パズルみたいな,,                |
| 237 | I2  | はい。                          |
| 238 | J2  | 感じが確かに、なんかその、部首とかでも,,        |
| 239 | I2  | はい。                          |
| 240 | J2  | なんか意味があったりしますもんね。            |
| 241 | I2  | はい。                          |
| 242 | J2  | そう、そういったところが面白いと】】           |
| 243 | I2  | 【【はい。                        |
| 244 | J2  | あー。そうなんですか。はー。へー。            |
| 245 | I2  | 読み方もいろいろ,,                   |
| 246 | J2  | ありますね。                       |

|     |    |                                                     |
|-----|----|-----------------------------------------------------|
| 247 | I2 | ある。                                                 |
| 248 | J2 | 日本式の読み方と、中国,,                                       |
| 249 | I2 | はい。                                                 |
| 250 | J2 | 式の読み。なにか混乱したりしませんか？                                 |
| 251 | I2 | む難しいのは****                                          |
| 252 | J2 | あー。                                                 |
| 253 | I2 | でも漢字を見れば,,                                          |
| 254 | J2 | はい。                                                 |
| 255 | I2 | あ、この意味だ。                                            |
| 256 | J2 | あ、意味は分かる。あー。確かに読み方難しいかも,,                           |
| 257 | I2 | うん。                                                 |
| 258 | J2 | しれませんね。はい。あーでも、楽しいんですね。                             |
| 259 | I2 | はい。                                                 |
| 260 | J2 | あーそれはよかったよ】】                                        |
| 261 | I2 | 【【楽しいですー。                                           |
| 262 | J2 | (笑い) はい。じゃあぜひこれからも漢字,,                              |
| 263 | I2 | はい。                                                 |
| 264 | J2 | いっぱい学んでくださいね。えーっと、グナダルマさんはえっと、日本語能力試験とか受けたことはありますか。 |
| 265 | I2 | あります。                                               |
| 266 | J2 | はい。えっとなん】】                                          |
| 267 | I2 | 【【んと,,                                              |
| 268 | J2 | はい。                                                 |
| 269 | I2 | 昔の三級までです。                                           |
| 270 | J2 | 三、昔の三級を受けた。はい。                                      |
| 271 | I2 | はい、今はN2は,,                                          |
| 272 | J2 | うん。                                                 |
| 273 | I2 | まだ、受けません。                                           |
| 274 | J2 | 受けた、受けた、受けてない、と。                                    |
| 275 | I2 | はい。                                                 |
| 276 | J2 | これから受けたいとかは】】                                       |
| 277 | I2 | 【【はい。                                               |
| 278 | J2 | あー、考えている。日本語能力試験はその、どんな感じですか？僕よく分からないんですけど。なに】】     |
| 279 | I2 | 【【うーん。                                              |
| 280 | J2 | うん。                                                 |
| 281 | I2 | うーん。最初は,,                                           |
| 282 | J2 | はい。                                                 |
| 283 | I2 | 意味と,,                                               |
| 284 | J2 | はい。                                                 |
| 285 | I2 | 言葉。                                                 |
| 286 | J2 | はい。                                                 |
| 287 | I2 | 漢字はあんまり問題ありま,,                                      |
| 288 | J2 | はい。                                                 |
| 289 | I2 | あんまり,,                                              |
| 290 | J2 | はい。                                                 |
| 291 | I2 | 難しくない,,                                             |
| 292 | J2 | あー、はい。                                              |
| 293 | I2 | と思います。                                              |
| 294 | J2 | 意識が高い。                                              |
| 295 | I2 | あと一、文法は,,                                           |
| 296 | J2 | 文法。                                                 |
| 297 | I2 | ちょっと難しいです。                                          |

|     |    |                                                   |
|-----|----|---------------------------------------------------|
| 298 | J2 | あ一文法難しいですか。はい。                                    |
| 299 | I2 | はい。えーと、そして読解ももっと難しいです。                            |
| 300 | J2 | 読解があるんですね。                                        |
| 301 | I2 | うー。                                               |
| 302 | J2 | はい。                                               |
| 303 | I2 | んとう。                                              |
| 304 | J2 | はい。                                               |
| 305 | I2 | まあ、すこし***                                         |
| 306 | J2 | はい。                                               |
| 307 | I2 | ***多いですね。                                         |
| 308 | J2 | はい、大丈夫ですよ。                                        |
| 309 | I2 | たとえば,,                                            |
| 310 | J2 | はい。                                               |
| 311 | I2 | えっとー、えーっとー,,                                      |
| 312 | J2 | はい。                                               |
| 313 | I2 | 出たのが、銀行ですね。                                       |
| 314 | J2 | はい。                                               |
| 315 | I2 | えっとー、読解は,,                                        |
| 316 | J2 | はい。                                               |
| 317 | I2 | 1 ページとか。                                          |
| 318 | J2 | はい。                                               |
| 319 | I2 | 質問はただひとり,,                                        |
| 320 | J2 | あー。                                               |
| 321 | I2 | ひとつ。                                              |
| 322 | J2 | あー。                                               |
| 323 | I2 | ***                                               |
| 324 | J2 | すごい、読まされて、質問これだけ。                                 |
| 325 | I2 | (笑い)                                              |
| 326 | J2 | あー、そうなんですか。あー、はい。                                 |
| 327 | I2 | そういう感じです。                                         |
| 328 | J2 | あー、時間とか,,                                         |
| 329 | I2 | うん。                                               |
| 330 | J2 | 何分ぐらいですか？                                         |
| 331 | I2 | んとまあ、えーと、9時から、じゅう、12時または1時まで。                     |
| 332 | J2 | あー、すごい、疲れますね。                                     |
| 333 | I2 | あーでも、楽しいです。                                       |
| 334 | J2 | あー楽しい。あー、ほんとによかったです。いやー。                          |
| 335 | I2 | 1年に,,                                             |
| 336 | J2 | はい。                                               |
| 337 | I2 | 1回、1回または2回、                                       |
| 338 | J2 | はい。                                               |
| 339 | I2 | ***                                               |
| 340 | J2 | あー、そうなんですか。はい、じゃあ、そうですね。これからその日本語、その教育を学んでいるんですね。 |
| 341 | I2 | ええ。                                               |
| 342 | J2 | なんかその、この後、なんかになりたい、その仕事とかはありますか？                  |
| 343 | I2 | 今、私、博士になりたいです。                                    |
| 344 | J2 | 博士、おーおー。何】                                        |
| 345 | I2 | 【【えっと、言語学の...                                     |
| 346 | J2 | 言語学の博士。おー、なんか大学の先生,,                              |
| 347 | I2 | はい。                                               |
| 348 | J2 | をを目指す、】】                                          |
| 349 | I2 | 【【はい。                                             |

|     |    |                                                   |
|-----|----|---------------------------------------------------|
| 350 | J2 | あー。で、えっと、国内で教えますか？                                |
| 351 | I2 | 国内でも、外国でも大丈夫です。                                   |
| 352 | J2 | あー。                                               |
| 353 | I2 | どっちでも大丈夫です。                                       |
| 354 | J2 | はい。じゃあ、言語学について、】】                                 |
| 355 | I2 | 【【うん。                                             |
| 356 | J2 | あー、そうなんです。                                        |
| 357 | I2 | む、難しい...                                          |
| 358 | J2 | *** (笑い)、そうですか。えっと、じゃあ、今日の、あの発表会はなんか、どう、どうでした感想は？ |
| 359 | I2 | 今日の一、発表は、えっと新しい経験をもらいました。                         |
| 360 | J2 | あー、そうですか。                                         |
| 361 | I2 | あの一、共話とか。                                         |
| 362 | J2 | 共話。あ、はい。[人名(Y)]さんが】】                              |
| 363 | I2 | 【【今日初めて聞きました。                                     |
| 364 | J2 | あー、初めて。                                           |
| 365 | I2 | ****                                              |
| 366 | J2 | 僕もあんま詳しくないんですけど、あーそうです】】                          |
| 367 | I2 | 【【最初は,,                                           |
| 368 | J2 | はい。                                               |
| 369 | I2 | えっと質問も共話と,,                                       |
| 370 | J2 | はい。                                               |
| 371 | I2 | 共話に入られるだと思っ,,                                     |
| 372 | J2 | はい。                                               |
| 373 | I2 | 入られる,,                                            |
| 374 | J2 | はい。                                               |
| 375 | I2 | と思いましたが,,                                         |
| 376 | J2 | はい、はい。                                            |
| 377 | I2 | えっと、さっき言った***,,                                   |
| 378 | J2 | あ、はい。                                             |
| 379 | I2 | えっと質問はできません,,                                     |
| 380 | J2 | あ。                                                |
| 381 | I2 | ではない。                                             |
| 382 | J2 | 共話ではない。あーそうなんですネ。                                 |
| 383 | I2 | はい。                                               |
| 384 | J2 | はい、じゃあこの録音のデータも,,                                 |
| 385 | I2 | はい。                                               |
| 386 | J2 | [人名(Y)]さんの共話のデータになりますので。                          |
| 387 | I2 | はい。                                               |
| 388 | J2 | 貴重な貢献ですよ。(笑い)                                     |
| 389 | I2 | (笑い)***                                           |
| 390 | J2 | はい。誇っていいですよ、共話。なに、L先生の発表はどうでした？                   |
| 391 | I2 | L先生は、昔は,,                                         |
| 392 | J2 | はい。                                               |
| 393 | I2 | えーと、しご、仕事はえっとーEPAの教師だったので,,                       |
| 394 | J2 | はい。                                               |
| 395 | I2 | よくわかります。                                          |
| 396 | J2 | あー。そうなんです】】                                       |
| 397 | I2 | 【【****                                            |
| 398 | J2 | へー。やっぱそういった問題がある、なんか,,                            |
| 399 | I2 | はい。                                               |
| 400 | J2 | 翻訳と、】】                                            |
| 401 | I2 | 【【はい。                                             |

|     |    |                                                       |
|-----|----|-------------------------------------------------------|
| 402 | J2 | へー。なんか、実際に経験したんですか？                                   |
| 403 | I2 | はい。                                                   |
| 404 | J2 | はい。ど、どんな,,                                            |
| 405 | I2 | はい。                                                   |
| 406 | J2 | ことがありました？たとえば。                                        |
| 407 | I2 | たとえば,,                                                |
| 408 | J2 | はい。                                                   |
| 409 | I2 | んー、んー...、私は昔,,                                        |
| 410 | J2 | はい。                                                   |
| 411 | I2 | 漢字、漢字勉強の,,                                            |
| 412 | J2 | はい。                                                   |
| 413 | I2 | **でした。                                                |
| 414 | J2 | あ、はい。                                                 |
| 415 | I2 | えっと、漢字はむか、昔は,,                                        |
| 416 | J2 | はい。                                                   |
| 417 | I2 | えっと、えっと簡単な漢字からむ、難しい漢字までですよ？                           |
| 418 | J2 | あ、はいあります。                                             |
| 419 | I2 | それは,,                                                 |
| 420 | J2 | はい。                                                   |
| 421 | I2 | あー、この漢字。                                              |
| 422 | J2 | はい。                                                   |
| 423 | I2 | 「月」ですね。                                               |
| 424 | J2 | はい、そうですね。                                             |
| 425 | I2 | たとえば、えっとむか、えっと一教科書に書いてある例文は、「月」はたぶん「三月」,,             |
| 426 | J2 | はい、そうですね。                                             |
| 427 | I2 | とか、あと、まあ、「なにになに月」とか。                                  |
| 428 | J2 | はい。                                                   |
| 429 | I2 | でも、えーっと、看護の専門だっ、言語の専門だったら、「月経」とか。                     |
| 430 | J2 | あー、はいはいはい。あー、そっちの方が。                                  |
| 431 | I2 | はい。                                                   |
| 432 | J2 | っと。あーなるほど。あーそうですか。                                    |
| 433 | I2 | ***日本語だったら,,                                          |
| 434 | J2 | はい。                                                   |
| 435 | I2 | えーっと、「物忘れ」「忘れ物」。                                      |
| 436 | J2 | はい。あー、なるほど。そそ、そうだった。はい。                               |
| 437 | I2 | んー。                                                   |
| 438 | J2 | なんか、じょう、日本語の使われるその場面に,,                               |
| 439 | I2 | はい。                                                   |
| 440 | J2 | 合わせてなんかやっぱり作らないと,,                                    |
| 441 | I2 | はい。                                                   |
| 442 | J2 | やっぱりいけないですよ、はい。あーそうですか。なるほどなるほど。じゃあ、えーと、じゃあ最後に何か、今日,, |
| 443 | I2 | (笑い)                                                  |
| 444 | J2 | こんな、インタビューをせっかく、感想を聞かせてもらえますか？                        |
| 445 | I2 | おー、感想,,                                               |
| 446 | J2 | はい。                                                   |
| 447 | I2 | ですか？                                                  |
| 448 | J2 | へたくそでごめんなさい。(笑い)                                      |
| 449 | I2 | あ。(笑い) えーと,,                                          |
| 450 | J2 | はい。                                                   |
| 451 | I2 | 今日のインタビューは,,                                          |
| 452 | J2 | はい。                                                   |



|     |    |                                    |
|-----|----|------------------------------------|
| 453 | I2 | ま楽しかったです。                          |
| 454 | J2 | あはい。楽しかった。                         |
| 455 | I2 | えー。**                              |
| 456 | J2 | はい、僕の日本語大丈夫でした？                    |
| 457 | I2 | 大丈夫。                               |
| 458 | J2 | 分かりました？                            |
| 459 | I2 | 分かる。                               |
| 460 | J2 | あー、よかったよかった。はい。                    |
| 461 | I2 | ***でも私の日本語はあんまり、まあ、どうです、どうでした？     |
| 462 | J2 | あー、いや大丈夫ですよ。はい、ちゃんと、はい分かりましたよ、はい。  |
| 463 | I2 | えー。                                |
| 464 | J2 | はい。                                |
| 465 | I2 | ***                                |
| 466 | J2 | いいデータになると思いますよ。                    |
| 467 | I2 | はい。                                |
| 468 | J2 | (笑い) はい。                           |
| 469 | I2 | もしできな、できなかったら私はどう、私はどうしても、えっと,,    |
| 470 | J2 | はい。                                |
| 471 | I2 | 説明して,,                             |
| 472 | J2 | あー、あー紙に。                           |
| 473 | I2 | しまつて。                              |
| 474 | J2 | ん、んん、まあ、か、問題ないですよ。はい、ん。            |
| 475 | I2 | あー。えーと...                          |
| 476 | J2 | はい。とてもはい、協力してはい】】                  |
| 477 | I2 | 【【ありがとう。                           |
| 478 | J2 | はい、ありがとうございました。じゃあ、これではい、録音を終わります。 |
| 479 | I2 | はい。                                |

## (会話3)

| 時間：<br>17分29秒 |    | 話者記号<br>J3：20代日本語母語話者<br>I3：20代インドネシア学習者                     |
|---------------|----|--------------------------------------------------------------|
| 発話<br>文<br>番号 | 話者 | 発 話 内 容                                                      |
| 1             | J3 | はい。                                                          |
| 2             | I3 | はい (笑い)                                                      |
| 3             | J3 | じゃあ、まず、えっと、お名前を教えてください。                                      |
| 4             | I3 | はい、あの、私の名前は[人名(R)]です。                                        |
| 5             | J3 | [人名(R)]さんですねえ。                                               |
| 6             | I3 | はい。                                                          |
| 7             | J3 | はい。私は[人名(Tさん)]です。それはわかりますってね。                                |
| 8             | I3 | はい。                                                          |
| 9             | J3 | はい、えっと、最初にね、まず、あの、あ、なんだろうな、いや、別にね、なんか、自由な会話？普通に (***) すいません。 |
| 10            | I3 | すいません。(笑い)                                                   |
| 11            | J3 | 自由な、                                                         |
| 12            | I3 | はなし                                                          |
| 13            | J3 | あの、はなし                                                       |
| 14            | I3 | 会話                                                           |
| 15            | J3 | 会話でいいんだけど。                                                   |
| 16            | I3 | はいはい。                                                        |
| 17            | J3 | うん、えっとねえ、なんだろうな、日本には、まだ行ったことがないよね。                           |
| 18            | I3 | はい、まだ行ったことない。                                                |
| 19            | J3 | で、日本に行くとしたら、どこに行きたい？                                         |
| 20            | I3 | 日本に行くとしたら、えっと、東京に行きたい。                                       |
| 21            | J3 | 東京？ (はい) おお。東京の、東京のどことかある？                                   |
| 22            | I3 | 東京の、渋谷かな。                                                    |
| 23            | J3 | 渋谷？ (はい) なんで？                                                |
| 24            | I3 | あ、いやいやいや、あー、池袋の                                              |
| 25            | J3 | 池袋？                                                          |
| 26            | I3 | はい、池袋の                                                       |
| 27            | J3 | おお、なんで池袋に行きたい？                                               |
| 28            | I3 | だってアニメが、デュラララ見たときは (うん) いけぶ、いけぶ、池袋ってすごい (あっ) と思います。          |
| 29            | J3 | そうかそうか。デュラララのね、舞台                                            |
| 30            | I3 | デュラララの舞台                                                     |
| 31            | J3 | うん、池袋だから。                                                    |
| 32            | I3 | はい。                                                          |
| 33            | J3 | うん、そうかそうかそうか。へえ、じゃあ、えっと友だちとかで (うん) 日本に行ったことある人はいる？           |
| 34            | I3 | あー、日本人の友だちがいます。                                              |
| 35            | J3 | あっ、日本人の友だちが                                                  |
| 36            | I3 | ええ、日本人の友だちがいます。                                              |
| 37            | J3 | へえー、そっかそっか。                                                  |
| 38            | I3 | な、ネットで、でもやっ、...あー、会ったこともない。                                  |
| 39            | J3 | あー、そっか、ネットでね。                                                |
| 40            | I3 | ネットで                                                         |
| 41            | J3 | あー、なるほどなるほど。じゃあ、ここにいる三人は日本に行ったことがないということだったけど、               |
| 42            | I3 | はい、行ったことがない。                                                 |

|    |    |                                                          |
|----|----|----------------------------------------------------------|
| 43 | J3 | もし、この、あー、この三人だったらあれだな、(うん) あの、日本語があんまりわからない子が、日本に行くとしてね、 |
| 44 | I3 | うんうんうん。                                                  |
| 45 | J3 | 日本に行くならこの言葉は覚えてほしいなっていうのを、                               |
| 46 | I3 | うんうんうん。                                                  |
| 47 | J3 | こう、十個くらい (笑い)                                            |
| 48 | I3 | 十個くらい                                                    |
| 49 | J3 | あるー?                                                     |
| 50 | I3 | えーつとねえ、一年かな? いやいや、                                       |
| 51 | J3 | 一年?                                                      |
| 52 | I3 | 一年                                                       |
| 53 | J3 | 何が? あ、言葉?                                                |
| 54 | I3 | 言葉。                                                      |
| 55 | J3 | あー、なんで? 一年?                                              |
| 56 | I3 | あー、いやいやいやいや、(笑い) ちょっと待って。                                |
| 57 | J3 | うん、待って。                                                  |
| 58 | I3 | えーつとー、(うん) 簡単な言葉?                                        |
| 59 | J3 | うん、日本【【                                                  |
| 60 | I3 | 日本の、な、な、何、何ですか? ちょっと、もう一回もう一回、質問                         |
| 61 | J3 | もう一回ね、うん。あんね、えっと、(笑い) えっと、もし、そのあんまり日本語がわからない             |
| 62 | I3 | うんうん。                                                    |
| 63 | J3 | この[地名 2]とかインドネシアの友だちに                                    |
| 64 | I3 | 日本へ行って                                                   |
| 65 | J3 | そう。                                                      |
| 66 | I3 | 行くとしたら、                                                  |
| 67 | J3 | 日本に、行くときに、この日本語は覚えてた方がいいよっていう、                           |
| 68 | I3 | あーそっか、えっとえっと、あいさつとかかな?                                   |
| 69 | J3 | あー、なるほどね、たとえば?                                           |
| 70 | I3 | たとえば(うん) えっとー、こんにちはとかー                                   |
| 71 | J3 | こんにちは                                                    |
| 72 | I3 | おはようございますとかー                                             |
| 73 | J3 | おはようございます                                                |
| 74 | I3 | えっとー(うん) あの一こんばんはとか、                                     |
| 75 | J3 | こんばんは、おお                                                 |
| 76 | I3 | おやすみ                                                     |
| 77 | J3 | おやすみ(笑い) なるほどね、じゃあ挨拶以外には?                                |
| 78 | I3 | 挨拶以外(うん) 挨拶以外は一、えっとー、んー、道の                               |
| 79 | J3 | 道の...                                                    |
| 80 | I3 | 方法                                                       |
| 81 | J3 | あっ、道を聞く?                                                 |
| 82 | I3 | はい、道を聞くとか                                                |
| 83 | J3 | おー、たとえば?                                                 |
| 84 | I3 | たとえば、えっとねえ(うん)、渋谷はどこ、どこですか?                              |
| 85 | J3 | あー                                                       |
| 86 | I3 | う、み、左とか、みで、右とかー左とかー                                      |
| 87 | J3 | 右左、んー                                                    |
| 88 | I3 | あの、右左とか                                                  |
| 89 | J3 | どこですか?                                                   |
| 90 | I3 | 南、南の一、なんとかー                                              |
| 91 | J3 | あー、南、あー、なるほどね。                                           |
| 92 | I3 | それぞれ。                                                    |
| 93 | J3 | うんうん。そっかそっか。じゃあ、                                         |

|     |    |                                                                                  |
|-----|----|----------------------------------------------------------------------------------|
| 94  | I3 | それは必要です。(笑い)                                                                     |
| 95  | J3 | それともう一個(笑い)                                                                      |
| 96  | I3 | もう一個?(うん) やー、えっとー                                                                |
| 97  | J3 | うん、挨拶と道とー                                                                        |
| 98  | I3 | 道、挨拶、はい、そしてー(うん) えっと、道の聞く、道を聞く                                                   |
| 99  | J3 | 道を聞く、うん、                                                                         |
| 100 | I3 | そしてー、あとー、あー...や...み、右と左とかー                                                       |
| 101 | J3 | 右と左とか、(やあ) あー、オッケーオッケー、で、十個くらいあったかな                                              |
| 102 | I3 | はい(笑い) まだまだですよ                                                                   |
| 103 | J3 | まだまだ、まだ5分もしてない(笑い) なんだろうなあ、なんだろうなあ、んー、じゃ日本について何か、聞きたいことある?なんか(あー) こういうこと知りたいみたいな |
| 104 | I3 | あー、知りたい、それー、あの一、インドネシアはどう思う?どう思いますか?                                             |
| 105 | J3 | あー、インドネシア?(はい) インドネシアねー、なんか来る前は(うんうん) すごい暑いんだろうなあって(笑い)                          |
| 106 | I3 | ねえ                                                                               |
| 107 | J3 | で、あの、赤道?赤道分かる?                                                                   |
| 108 | I3 | 赤道、赤道                                                                            |
| 109 | J3 | えっと、地球の真ん中のさあ                                                                    |
| 110 | I3 | あー、はいはいはい、                                                                       |
| 111 | J3 | 地球って真ん中のほうが暑いから、だから日本よりもずっと                                                      |
| 112 | I3 | 暑い                                                                               |
| 113 | J3 | そう、暑いんだろうなって思ったら、                                                                |
| 114 | I3 | うんうんうん。                                                                          |
| 115 | J3 | [地名 2]に来たら                                                                       |
| 116 | I3 | うんうん。                                                                            |
| 117 | J3 | 涼しいじゃん(笑い)                                                                       |
| 118 | I3 | そっか                                                                              |
| 119 | J3 | うんうん、そうそうそうそう。                                                                   |
| 120 | I3 | じゃあ?[地名 2]に来たら?                                                                  |
| 121 | J3 | ん?(あ) [地名 2]に来て?                                                                 |
| 122 | I3 | うん、[地名 2]に来て                                                                     |
| 123 | J3 | どう                                                                               |
| 124 | I3 | どう思いますか?                                                                         |
| 125 | J3 | そうだねー、うん、まず涼しいし、あとね、あの一、だいたい毎日UPIに行ってるんだけど、すごくね、あの一、学生も先生もやさしい(笑い)               |
| 126 | I3 | あー                                                                               |
| 127 | J3 | すごく親切で、なんか、フレンドリーで、                                                              |
| 128 | I3 | うんうんうん。                                                                          |
| 129 | J3 | なんかこう、授業も積極的だなって(あー)思った。                                                         |
| 130 | I3 | そっかー。                                                                            |
| 131 | J3 | うん。...なんかその、うん。                                                                  |
| 132 | I3 | 次の一、質問はー、えっと(笑い) 次の質問                                                            |
| 133 | J3 | 次の質問は?                                                                           |
| 134 | I3 | ね、あー、うん、ちょっと、                                                                    |
| 135 | J3 | うん?                                                                              |
| 136 | I3 | インドネシアの食べものはどう思いますか?                                                             |
| 137 | J3 | あ、(はい) インドネシアの食べもの?そうだねー                                                         |
| 138 | I3 | さっき食べてるんです。                                                                      |
| 139 | J3 | さっき                                                                              |
| 140 | I3 | さっき食べた                                                                           |

|     |    |                                                         |
|-----|----|---------------------------------------------------------|
| 141 | J3 | さっき食べたのね、名前、名前なんて言うのあれ                                  |
| 142 | I3 | 名前って一、えっと、ランダ                                           |
| 143 | J3 | ランダ？                                                    |
| 144 | I3 | ランダ                                                     |
| 145 | J3 | ランダ                                                     |
| 146 | I3 | やー。                                                     |
| 147 | J3 | おー、スマトラの料理。                                             |
| 148 | I3 | スマトラの料理                                                 |
| 149 | J3 | うんうんうん。ね、おいしかったね。                                       |
| 150 | I3 | おいしかった（笑い）辛いでもおいしい？                                     |
| 151 | J3 | あ、おいしい。うん。ちょっと、あー辛い辛いとか言いながら（笑い）食べるのが、うん、おいしかったー。       |
| 152 | I3 | よかった、おいしいで。                                             |
| 153 | J3 | うん。                                                     |
| 154 | I3 | おいしいでよかった。（笑い）                                          |
| 155 | J3 | あ、でもね、でもでも、あの一、なんか、自分の大学の一年生の時に                         |
| 156 | I3 | うんうん。                                                   |
| 157 | J3 | なんか、えっと、大学祭ってわかるかな。                                     |
| 158 | I3 | 大学祭、はい。                                                 |
| 159 | J3 | うん。で、その、クラスでお店を出す、その、地域のひととか、いろんな人が大学に来るから、             |
| 160 | I3 | あ、はい。                                                   |
| 161 | J3 | あの、まあね、あの、ちっちゃいお店をみんなそれぞれのクラスが出すんだけど、その時に私たちのクラスはナシゴレンを |
| 162 | I3 | あー                                                      |
| 163 | J3 | 作って                                                     |
| 164 | I3 | ナシゴレン                                                   |
| 165 | J3 | そう。                                                     |
| 166 | I3 | そっか、じゃあナシゴレンはどう思いますか？                                   |
| 167 | J3 | ナシゴレンおいしいね（笑い）すごい好き、あれほんと好き、うん。                         |
| 168 | I3 | うん、チャーハンみたいな                                            |
| 169 | J3 | そうそうそう、（ですよ）チャーハンみたいな。だからね、あれ日本にもね、                     |
| 170 | I3 | あー、日本にもチャーハン                                            |
| 171 | J3 | あ、あの、ナシゴレン、売ってる店があんまりない                                 |
| 172 | I3 | え、ほんと                                                   |
| 173 | J3 | うん、チャーハンはあるけど                                           |
| 174 | I3 | あ、チャーハンはある                                              |
| 175 | J3 | うん、ナシゴレン売ってる店が、なんか探さないと、なんかなかないから                       |
| 176 | I3 | 見つからない                                                  |
| 177 | J3 | そう、もっといろんなお店で出せばいいのにとか思って                               |
| 178 | I3 | あー、はいはい                                                 |
| 179 | J3 | うーん。ねえ、あれほんとに、おいしいなあと思って                                |
| 180 | I3 | おいしいなナシゴレン                                              |
| 181 | J3 | おいしい。え、じゃあ逆に、逆に聞くけど（笑い）おすすめの、おすすめの、インドネシアの料理            |
| 182 | I3 | おすすめのインドネシアの【【                                          |
| 183 | J3 | 】】今まで言ったのじゃないやつ                                         |
| 184 | I3 | おー、それはね、えっと一、[地名 2]の（うん）料理はどうですか？                       |
| 185 | J3 | あ、[地名 2]の料理？                                            |
| 186 | I3 | 食べたことある？                                                |
| 187 | J3 | あ、なんか、...それ、あ、でもあんまりないかな。学食とかは                          |

|     |    |                                                               |
|-----|----|---------------------------------------------------------------|
| 188 | I3 | うんうんうん。                                                       |
| 189 | J3 | 大学の学食とかはあるけど、なんか、何も、名前とかわからずに (笑い) 食べてるから、なんかおすすりめがあったら       |
| 190 | I3 | あー、そっか。                                                       |
| 191 | J3 | うん。                                                           |
| 192 | I3 | じゃあ、えっとー、...インドネシアの料理？                                        |
| 193 | J3 | うん。                                                           |
| 194 | I3 | あー、イチゴケーキの、さっきのイチゴケーキはどうですか？                                  |
| 195 | J3 | あ、イチゴ、あー、あれ？あれ？                                               |
| 196 | I3 | はい、あれあれ                                                       |
| 197 | J3 | (笑い) あれおいしかった (笑い)                                            |
| 198 | I3 | おいしかった (笑い)                                                   |
| 199 | J3 | え、でもあれインドネシア料理じゃないじゃろ、じゃないでしょ                                 |
| 200 | I3 | じゃないじゃない、ないないないないない (笑い) インドネシアの料理はねえ、ちょっと、えっとー、なに、あー、グライ、グライ |
| 201 | J3 | グライ？                                                          |
| 202 | I3 | グライ                                                           |
| 203 | J3 | どんな料理？                                                        |
| 204 | I3 | インドネシ、あー、日本語のカレー、(カレー) い、インドネシアのカレー                           |
| 205 | J3 | あ、カレー                                                         |
| 206 | I3 | はい、インドネシアのカレー                                                 |
| 207 | J3 | あの一、今朝食べた、あ、今朝じゃないけど、お昼食べた                                    |
| 208 | I3 | 昼食べたやつ                                                        |
| 209 | J3 | あの一、                                                          |
| 210 | I3 | あの一                                                           |
| 211 | J3 | あれ？                                                           |
| 212 | I3 | はい。                                                           |
| 213 | J3 | あれか。あー、なるほどねー。                                                |
| 214 | I3 | あれはグライ。                                                       |
| 215 | J3 | グライ。おいしかったなー。確かにおいしかった。                                       |
| 216 | I3 | はい、おいしかったね。                                                   |
| 217 | J3 | うん。                                                           |
| 218 | I3 | おいしいでよかった。(笑い)                                                |
| 219 | J3 | ほんと、え、なんか、すごいインドネシアって、すごい島がいっぱい                               |
| 220 | I3 | はい                                                            |
| 221 | J3 | わかれてるから、その一、色んな島ごとに色んな料理が                                     |
| 222 | I3 | はい、色んな島ごとに色んな料理                                               |
| 223 | J3 | ある、んー、いいないないないない、でも[人名(R)]さんは[地名 2]                           |
| 224 | I3 | はい。                                                           |
| 225 | J3 | だよねー。                                                         |
| 226 | I3 | [地名 2]です。                                                     |
| 227 | J3 | [地名 2]で。うん。じゃインドネシア他、なんかどっか行ったことありますか？                        |
| 228 | I3 | えっと、リョー、えっと、スマトラ。                                             |
| 229 | J3 | スマトラ。                                                         |
| 230 | I3 | はい。                                                           |
| 231 | J3 | おー、                                                           |
| 232 | I3 | 行ったことある。                                                      |
| 233 | J3 | どんなとこでした？                                                     |
| 234 | I3 | あ、[人名(RA)]さんの家で、[地名 13]で (あー) [地名 13]で                        |
| 235 | J3 | へー                                                            |
| 236 | I3 | はい。                                                           |

|     |    |                                               |
|-----|----|-----------------------------------------------|
| 237 | J3 | じゃ[地名 2]と何が違う？                                |
| 238 | I3 | すごい暑い。                                        |
| 239 | J3 | 暑い？                                           |
| 240 | I3 | はい。                                           |
| 241 | J3 | へー。                                           |
| 242 | I3 | [地名 2]よりすごい暑い。                                |
| 243 | J3 | そうなんだー。                                       |
| 244 | I3 | でも料理はおいしかった。                                  |
| 245 | J3 | 料理はおいしかった。                                    |
| 246 | I3 | はい、料理おいしかった。(笑い)                              |
| 247 | J3 | あーそっかそっか、南だから                                 |
| 248 | I3 | はい、南                                          |
| 249 | J3 | んー、暑いんだー、へー、そっかそっか、え、海は近かった？                  |
| 250 | I3 | はい、海は近かった。                                    |
| 251 | J3 | そうねそうね、スマトラって聞いたら(うん)なんか多分日本人はだいたい、あのスマトラ沖地震？ |
| 252 | I3 | うんうん。                                         |
| 253 | J3 | 地震、わかる？                                       |
| 254 | I3 | 地震、地震                                         |
| 255 | J3 | あの、揺れ                                         |
| 256 | I3 | あー、はいはい                                       |
| 257 | J3 | うん、が、何年か前に、あったよね。スマトラで大きい地震が。                 |
| 258 | I3 | えっとねえ、何年、何年ねえ、あ、あんまり知らなかった                    |
| 259 | J3 | あ、ほんと？                                        |
| 260 | I3 | スマトラのこと、はい。                                   |
| 261 | J3 | なんか、あったよね、聞いちゃだめだ(笑い) そう                      |
| 262 | I3 | でもあったかもしれない。                                  |
| 263 | J3 | うん、なんかすごい、あの、水のさ、被害がすごかった。津波、津波ってわかる？         |
| 264 | I3 | 津波、はい、津波、津波はね、                                |
| 265 | J3 | うん                                            |
| 266 | I3 | アチェで                                          |
| 267 | J3 | アチェ？                                          |
| 268 | I3 | スマトラの                                         |
| 269 | J3 | うん                                            |
| 270 | I3 | もっと南(あ)南のほう                                   |
| 271 | J3 | そうなんだ。(はい) へー、なんかその被害が(あ)すごい大きかった。            |
| 272 | I3 | すごい大きい地震                                      |
| 273 | J3 | ねえ、そう、そういうイメージが                               |
| 274 | I3 | はい。                                           |
| 275 | J3 | 日本人は多分、みんなスマトラって聞くと、ああ、あの何年か前に【【              |
| 276 | I3 | 津波？                                           |
| 277 | J3 | っていう                                          |
| 278 | I3 | は、はい(笑い)                                      |
| 279 | J3 | うん。                                           |
| 280 | I3 | 津波、スマトラのこと。                                   |
| 281 | J3 | うん                                            |
| 282 | I3 | 津波の？                                          |
| 283 | J3 | うん、そう。                                        |
| 284 | I3 | だね、だよな。                                       |
| 285 | J3 | うん、でもあれだね、今津波って言ったら、あの、日本のほうだよな。知ってる？         |
| 286 | I3 | 知ってる。                                         |

|     |    |                                                       |
|-----|----|-------------------------------------------------------|
| 287 | J3 | あの、東日本大震災っていうあの大きな地震。津波が【【                            |
| 288 | I3 | 】】あ、はい。何年の                                            |
| 289 | J3 | 2011年かな                                               |
| 290 | I3 | にせん、はいはい、2011年                                        |
| 291 | J3 | うん、そう。                                                |
| 292 | I3 | あ、すっげえ、友だちがうん、えっと                                     |
| 293 | J3 | ん？友だち？                                                |
| 294 | I3 | はい、僕の私の友だち（うん）で、（うん）横浜                                |
| 295 | J3 | 横浜？                                                   |
| 296 | I3 | 横浜で（あ）バイク乗ったとき                                        |
| 297 | J3 | うん                                                    |
| 298 | I3 | 津波がいた                                                 |
| 299 | J3 | あ、へー、そうなんだ                                            |
| 300 | I3 | はい、津波があった                                             |
| 301 | J3 | 横浜で？                                                  |
| 302 | I3 | 横浜で。                                                  |
| 303 | J3 | へー、そうなんだ。え、知らなかった。あの地震の時私は福岡にいて                       |
| 304 | I3 | ああ                                                    |
| 305 | J3 | 福岡って、ちょっと遠い                                           |
| 306 | I3 | ちょっと遠い                                                |
| 307 | J3 | だから全然あの                                               |
| 308 | I3 | 大丈夫                                                   |
| 309 | J3 | 被害なにもなかった                                             |
| 310 | I3 | よかったね。                                                |
| 311 | J3 | うん。（笑い）でも東京の人たちは本当にあ、ちょうどその日って、その地震が起こった日、ってあの私のお父さんが |
| 312 | I3 | うんうん。                                                 |
| 313 | J3 | 単身赴任ってわかるかな？                                          |
| 314 | I3 | 単身赴任？                                                 |
| 315 | J3 | えっとー、か、もともと家族と一緒にみんなで住んでたんだけど、お父さんだけ仕事で、あの、東京に        |
| 316 | I3 | いた                                                    |
| 317 | J3 | 行く、うん、（あー）行くってなって、東京に行ったその日に（えー）起こって、                 |
| 318 | I3 | えーえー                                                  |
| 319 | J3 | そう、だからなんか、引っ越して、なんか、ベットも届かないとか言って（笑い）                 |
| 320 | I3 | そうか                                                   |
| 321 | J3 | で、電気もつかないとか言ってー                                       |
| 322 | I3 | うんうん。                                                 |
| 323 | J3 | わーどうしようみたいな。                                          |
| 324 | I3 | うんうん。                                                 |
| 325 | J3 | なっててー。                                                |
| 326 | I3 | でも今大丈夫？                                               |
| 327 | J3 | 今はもう                                                  |
| 328 | I3 | よかったね。                                                |
| 329 | J3 | 大丈夫。うん。（笑い）よかったー。                                     |
| 330 | I3 | だってすごい地震だ。                                            |
| 331 | J3 | すごい地震だったー。私もなんか修学旅行、修学旅行ってわかる？                        |
| 332 | I3 | 修学旅行、はい。                                              |
| 333 | J3 | うん、修学旅行で、うんあの、その、被害があったところ、津波ががきたところを見に               |
| 334 | I3 | 見に行く                                                  |



|     |    |                                         |
|-----|----|-----------------------------------------|
| 335 | J3 | 行った                                     |
| 336 | I3 | 見に行った                                   |
| 337 | J3 | うん。                                     |
| 338 | I3 | あー。そっか。                                 |
| 339 | J3 | そう。                                     |
| 340 | I3 | だってだってすごいあれね。                           |
| 341 | J3 | ね、すごいねー。                                |
| 342 | I3 | 車が飛んでるとか                                |
| 343 | J3 | そー                                      |
| 344 | I3 | だよねー。                                   |
| 345 | J3 | ほんとに。だから、えっとね、その、行ったのが、その津波があってから一年後ぐらい |
| 346 | I3 | あー                                      |
| 347 | J3 | うん、だったんだけど、まだ、全然もう、瓦礫もあるままで、車も、車とか船？    |
| 348 | I3 | あー船船。                                   |
| 349 | J3 | 船が道の真ん中に                                |
| 350 | I3 | あー、道の                                   |
| 351 | J3 | 残ったまんまで、えーとか思って、全然まだね、まだまだ              |
| 352 | I3 | でも、今はもう大丈夫？                             |
| 353 | J3 | いや、今もまだ                                 |
| 354 | I3 | あ、今もまだ？                                 |
| 355 | J3 | うん、なんか、                                 |
| 356 | I3 | そっかー。                                   |
| 357 | J3 | 全然あの片付けは終わってないし、                        |
| 358 | I3 | あー                                      |
| 359 | J3 | うん。全然。                                  |
| 360 | I3 | に、2011、から                               |
| 361 | J3 | 2011年から、今2014年                          |
| 362 | I3 | 今にせん、もう、さん、3年                           |
| 363 | J3 | 3年                                      |
| 364 | I3 | 3年くらいね。                                 |
| 365 | J3 | うん、うん、でもまだ片付いてないっていう。で、そう、              |
| 366 | I3 | 大変ねー。                                   |
| 367 | J3 | そこに住んでた人とかも、家がまだ、新しい家が見つかってないっていう人が     |
| 368 | I3 | えー。                                     |
| 369 | J3 | 多くって                                    |
| 370 | I3 | そっかー。                                   |
| 371 | J3 | そう。まだまだ終わってないっていうね。                     |
| 372 | I3 | まだまだ全然                                  |
| 373 | J3 | うん。そう。なんか暗い話になっちゃった（笑い）                 |
| 374 | I3 | 暗い話になったな。（笑い）                           |
| 375 | J3 | そう、じゃあ、さあ、もうそろそろ最後だから、最後はまずアニメの話で       |
| 376 | I3 | （笑い）やあ、アニメの話                            |
| 377 | J3 | うん、もう、今これハマってるっていうやつ                    |
| 378 | I3 | あー、今ハマってるやつはね、女性の、女性からの                 |
| 379 | J3 | 女性から？                                   |
| 380 | I3 | 女性のなかで、えっと、フリーかな。                       |
| 381 | J3 | あー、フリーね。                                |
| 382 | I3 | 今ハマってるの。（ねー）フリー                         |
| 383 | J3 | （笑い）フリーねえ。                              |
| 384 | I3 | 男性は、アルドノアゼロかな。知ってる？                     |

|     |    |                                                                                |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------|
| 385 | J3 | あー、ある、ある、ある、アルノドアゼロ？                                                           |
| 386 | I3 | アルノアゼロ、はいはい。                                                                   |
| 387 | J3 | うんうんうん、そっちは見たことないけど。                                                           |
| 388 | I3 | そっちは男子                                                                         |
| 389 | J3 | うん、フリーはねえ、                                                                     |
| 390 | I3 | めっちゃ、めっちゃの                                                                     |
| 391 | J3 | うーん。(笑い) ね、じゃあ、フリーだと                                                           |
| 392 | I3 | 月刊少女野崎君かな。                                                                     |
| 393 | J3 | あー、月刊少女野崎君                                                                     |
| 394 | I3 | すごく面白い                                                                         |
| 395 | J3 | あ、その話について聞きたいんだけど、                                                             |
| 396 | I3 | あ、はい。野崎                                                                        |
| 397 | J3 | ど、どういう話？                                                                       |
| 398 | I3 | 野崎はねえ、えっとー、野崎君は(うん)あの、漫画家の                                                     |
| 399 | J3 | 漫画家？                                                                           |
| 400 | I3 | 先生。                                                                            |
| 401 | J3 | 先生？                                                                            |
| 402 | I3 | 先生。                                                                            |
| 403 | J3 | ふーん。                                                                           |
| 404 | I3 | で、えっと、さくらちよって少女が(うん)いた。                                                        |
| 405 | J3 | うん。                                                                            |
| 406 | I3 | あー、彼女は(うん)野崎君のこと好きで、好きで                                                        |
| 407 | J3 | おうおうおうおうおう、なるほど。                                                               |
| 408 | I3 | だから、付き合ってください(笑い)より、私はファンでした、って言った。                                            |
| 409 | J3 | ファンでした？                                                                        |
| 410 | I3 | はい。(あー)だから野崎君は、サインが...あー、えっと、さ、さくらちゃんに、(うん)届いた。えー、届いたじゃない、あの一、何とかこれ、これは、さくらちよの |
| 411 | J3 | うん。                                                                            |
| 412 | I3 | さくらちよー                                                                         |
| 413 | J3 | うん。                                                                            |
| 414 | I3 | あ、なな、なに？                                                                       |
| 415 | J3 | サイン？                                                                           |
| 416 | I3 | さくらに、はい、サインに、                                                                  |
| 417 | J3 | サイン？                                                                           |
| 418 | I3 | さくらは(うん)野崎君のサインもらった。                                                           |
| 419 | J3 | あーあーもらったのね。                                                                    |
| 420 | I3 | でも、。さ、さくらね、(うん)野崎君のこと好き。                                                       |
| 421 | J3 | あ、付き合っほしかった？                                                                   |
| 422 | I3 | さ、はい、付き合っほしかった。                                                                |
| 423 | J3 | ほんとは付き合っほしかったけど、野崎君のほうは                                                        |
| 424 | I3 | さくらはファンで、                                                                      |
| 425 | J3 | ファンだと思った。                                                                      |
| 426 | I3 | はい、ファンだと思った。                                                                   |
| 427 | J3 | なるほどね。                                                                         |
| 428 | I3 | はい。                                                                            |
| 429 | J3 | そこからちょっとこう話が(笑い)                                                               |
| 430 | I3 | はい(笑い)                                                                         |
| 431 | J3 | なるほどねー。そういうことか。                                                                |
| 432 | I3 | はい。                                                                            |
| 433 | J3 | あー、念の、念の為もうちょっと伸ばしとこ(笑い)                                                       |
| 434 | I3 | はいはいはいはい。(笑い)いいんです。                                                            |

|     |    |                                                        |
|-----|----|--------------------------------------------------------|
| 435 | J3 | えー、そっかそっかそっか。じゃあ、じゃあ、フリーは (笑い)                         |
| 436 | I3 | フリーはねえ                                                 |
| 437 | J3 | フリーの話がしたいだけ (笑い)                                       |
| 438 | I3 | フリーフリー、フリーはすごい、イケメンがいる。                                |
| 439 | J3 | だれ、誰が好き？                                               |
| 440 | I3 | 凜。                                                     |
| 441 | J3 | 凜ちゃん、やっぱりー。 (笑い)                                       |
| 442 | I3 | 凜が好き。えー、だってまもちゃん。 (笑い)                                 |
| 443 | J3 | まもだ (笑い)                                               |
| 444 | I3 | 凜が好き。                                                  |
| 445 | J3 | ちょっと、外野からちょっと、                                         |
| 446 | I3 | ちょっとちょっと (笑い) 凜、凜が好き。                                  |
| 447 | J3 | やっぱねー、うん。                                              |
| 448 | I3 | だってまもるみやの。                                             |
| 449 | J3 | ねー。                                                    |
| 450 | I3 | ねー。                                                    |
| 451 | J3 | かつ、やっぱかつこいい。                                           |
| 452 | I3 | やっぱかつこいい。                                              |
| 453 | J3 | 凜ちゃんがね。                                                |
| 454 | I3 | ツンデレで、                                                 |
| 455 | J3 | ツンデレでねー                                                |
| 456 | I3 | かつこいいでねー。                                              |
| 457 | J3 | うん、そう。うん。でもねー、真琴も捨てられない。                               |
| 458 | I3 | あー、真琴もね、宗介も                                            |
| 459 | J3 | 真琴、宗介ねー。あー。                                            |
| 460 | J3 | うん。                                                    |
| 461 | J3 | 宗介ねー、                                                  |
| 462 | I3 | 宗介。                                                    |
| 463 | J3 | もう、                                                    |
| 464 | I3 | 優しいお兄ちゃんが欲しいよね、宗介                                      |
| 465 | J3 | うんうんうん。                                                |
| 466 | I3 | ま、真琴も。                                                 |
| 467 | J3 | ね。ほんと。やっぱ、そう、もう、二期になってから、シーズン2になってから、(うんうん) またね、面白くなって |
| 468 | I3 | はい。                                                    |
| 469 | J3 | ねー。あー、じゃそのくらいにしよっかな。                                   |
| 470 | I3 | そのくらい、はい、もう (笑い) ...                                   |
| 471 | J3 | じゃあ、終わります。                                             |
| 472 | I3 | はい、じゃあ。ありがとうございます。                                     |
| 473 | J3 | ありがとうございます。                                            |

## (会話4)

| 時間：<br>13分27秒 |    | 話者記号<br>J4：20代日本語母語話者<br>I4：30代インドネシア学習者                                                                                 |
|---------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発話<br>文<br>番号 | 話者 | 発 話 内 容                                                                                                                  |
| 1             | J4 | えーつとじゃよろしくお願いします。                                                                                                        |
| 2             | I4 | よろしくお願いします。                                                                                                              |
| 3             | J4 | えと、あ今日初めましてですよね。                                                                                                         |
| 4             | I4 | 初めまして。                                                                                                                   |
| 5             | J4 | あのさっきもちよっと私自己紹介したんですけども (はい) 私はえと (はい) [人名(A)]と言います。えーと[T大学大学院]の修士えー一年生です。<br>(はい) はい。えーとよろしくお願いします。                     |
| 6             | I4 | よろしくお願いします。あ初めまして。私は[人名(U)]と申します。あー[U大学]の修士の2年生です。[地名 2]出身です。よろしくお願いします。                                                 |
| 7             | J4 | よろしくお願いします。じゃあ2年生だから先輩ですね。                                                                                               |
| 8             | I4 | <笑い>はい。                                                                                                                  |
| 9             | J4 | 先輩だ。そうなんだ、[地名 2]出身なんですね。                                                                                                 |
| 10            | I4 | はい、そうです。                                                                                                                 |
| 11            | J4 | 私は、あの一、[地名 11]ていう県て<聞いたことありますか。> {<}                                                                                     |
| 12            | I4 | <[地名 11]> {>} [地名 11]はあの一、(はい) どこにありますか。東京から。(うん) ,,                                                                     |
| 13            | J4 | えっと一、[地名 11]は (はい) 、東京があるじゃないですか。えと (はい) その一、えっと、上,,                                                                     |
| 14            | I4 | その上                                                                                                                      |
| 15            | J4 | ですかね。こう日本がなって (はい) 、これちょっと適当ですけどすみません本州の日本海があるじゃないですか。日本海はわかりますか。(はい) 日本海沿いの県なんですよ。(ええ) 石川てわかりますか、金沢か<石川県>{<}            |
| 16            | I4 | <あつ、金沢>{>}、はい                                                                                                            |
| 17            | J4 | はい。その石川県のすぐ横が[地名 11]                                                                                                     |
| 18            | I4 | あそうですか                                                                                                                   |
| 19            | J4 | はい。私の、あの一 (あ一) 、出身,,                                                                                                     |
| 20            | I4 | 出身                                                                                                                       |
| 21            | J4 | 'の場所なんですよ。                                                                                                               |
| 22            | I4 | そうですか、はい。                                                                                                                |
| 23            | J4 | はい。なので、えーつと、はい、[地名 11]出身の、えー、者で、今はあの、大学がある、あの、[地名 14]のそばに住んでますね。                                                         |
| 24            | I4 | あ、そうですか                                                                                                                  |
| 25            | J4 | はい、そうなんです、やっぱり、この辺りにご実家があるんですか。                                                                                          |
| 26            | I4 | この辺りではなく (はい) 、あのここから一時間半ぐらい、かかります。あの一、アンコットで。                                                                           |
| 27            | J4 | えー、一時間半 (はい) えっ凄い (はい) 、凄い遠くないですか。                                                                                       |
| 28            | I4 | あ一、一時間、もう一時間ぐらいです。                                                                                                       |
| 29            | J4 | えーじゃいつも一時間かけてアンコットで学校まで来てるんですか。                                                                                          |
| 30            | I4 | はい、そのぐらいです。もしあの一渋滞が、渋滞あであればもっと長くなります。(あつ、へー) 一時間半とか二時間までもありました。(えー) でも早いときは45分ぐらい、あの一 (はい) 、朝は車がまだ少ないから、まっ、40分ぐらいかかりました。 |
| 31            | J4 | あつ、そうなんですね。(はい) えー、じゃあ渋滞あるとき凄い,,                                                                                         |
| 32            | I4 | そうですね。                                                                                                                   |
| 33            | J4 | えーじゃ渋滞あるときすごい、大変じゃないですか、こっちまで来るの。                                                                                        |
| 34            | I4 | はい、結構、あの、渋滞が,,                                                                                                           |

|    |    |                                                       |
|----|----|-------------------------------------------------------|
| 35 | J4 | 渋滞が、[地名 2]で渋滞が多いですよ。                                  |
| 36 | I4 | はい。あの、週末の時に（うん）はい。                                    |
| 37 | J4 | あ週末、あー、土日がやっぱり一番。                                     |
| 38 | I4 | はい、土日、はい、金曜日時々、金曜日の夜から、                               |
| 39 | J4 | やっぱりそうですよね。（はい）でも東京もなんかやっぱり土日とか金曜の夜が凄く混みますね。          |
| 40 | I4 | はい、そうです。                                              |
| 41 | J4 | そうなんです、あ、日本に来られたことは、                                  |
| 42 | I4 | あの一、一回だけです。                                           |
| 43 | J4 | あ一回                                                   |
| 44 | I4 | 一回                                                    |
| 45 | J4 | えっ、どこ、どこへ行ったんですか。                                     |
| 46 | I4 | んと[地名 12]でした。                                         |
| 47 | J4 | [地名 12]。                                              |
| 48 | I4 | はい。                                                   |
| 49 | J4 | えーなんで[地名 12]なんですか。                                    |
| 50 | I4 | あー、仕事の関係で、                                            |
| 51 | J4 | あっ、お仕事の関係。                                            |
| 52 | I4 | 研修生の指導員として行きました。                                      |
| 53 | J4 | あっ、そうなんですか。介護系の。                                      |
| 54 | I4 | あっ、違います。あの一、工場で働いている研修生です、はい。                         |
| 55 | J4 | その日本語指導という形ですか。                                       |
| 56 | I4 | はい、そうです                                               |
| 57 | J4 | あ、そうなんですか。（はい）どうでしたか、日本は。                             |
| 58 | I4 | あー、また行きたいです。                                          |
| 59 | J4 | あー、ぜひ来てください。（はい）ぜひ、あの、[T大学]にも（はい）遊びに、                 |
| 60 | I4 | ぜひ                                                    |
| 61 | J4 | はい、あの一、皆でL先生とかあの、皆さんで（はい）お待ちしているので（はい）ぜひぜひ、遊びに来てください。 |
| 62 | I4 | はい、ぜひ、ありがとうございます。                                     |
| 63 | J4 | はい、あそうなんですか。日本に行ったことあるんですね。へー。                        |
| 64 | I4 | あの、たった三ヶ月ぐらいです。                                       |
| 65 | J4 | あっ、三ヶ月間                                               |
| 66 | I4 | はい、三ヶ月間ぐらい。                                           |
| 67 | J4 | へーあじゃホテル、[地名 12]のその一市内のホテル、に泊まってたことですか。><             |
| 68 | I4 | <あっ、いえ></>、あの一、寮                                      |
| 69 | J4 | あっ、そうか                                                |
| 70 | I4 | 研修生と一緒に（へー）住んでいました。                                   |
| 71 | J4 | そうなんですか。（はい）えーなんか日本に行って驚いたこととかありますか。                  |
| 72 | I4 | 驚いた・・・最初は雪を見ました。                                      |
| 73 | J4 | あっ、何月行ったんですか。                                         |
| 74 | I4 | あー、3月でした。（あっ）3月の中旬（うん）                                |
| 75 | J4 | 中旬、雪あるんで、す、                                           |
| 76 | I4 | まだ少し、はい（あー）、そのとき初めて見ました。はい。                           |
| 77 | J4 | え[地名 12]て、え...                                        |
| 78 | I4 | あ、上です。北海道の下、埼玉、[地名 12]、でもまだ本州                         |
| 79 | J4 | えー、結構じゃ寒い                                             |
| 80 | I4 | 結構寒いんですね。                                             |
| 81 | J4 | あー、そうなんですか。私行ったことがちょっと（はい）無くて（はい）よくわかんない、あー、そうなんですか。  |

|     |    |                                                                                                                                      |
|-----|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 82  | I4 | …ことは、あのとても寒くて骨も痛くなりました。                                                                                                              |
| 83  | J4 | えー、骨が                                                                                                                                |
| 84  | I4 | はい、骨、はい、あの一、足の骨が、はい。                                                                                                                 |
| 85  | J4 | 大丈夫、なんかあの病気とかされな。                                                                                                                    |
| 86  | I4 | あの、いいえ、朝起きたときに、痛く、痛くてびっくりしました。で【【                                                                                                    |
| 87  | J4 | 暖房は、                                                                                                                                 |
| 88  | I4 | あー、暖房は、あのつけました。                                                                                                                      |
| 89  | J4 | つけても                                                                                                                                 |
| 90  | I4 | つけても朝起きた時に、あの一、痛いでした。あの一うんはい。(へー)そして私だけではなく他の人も(ほー)何人か、あの一、同じ、はい、痛いです。                                                               |
| 91  | J4 | えー、やっぱり、インドネシアは暖かい国だから【【                                                                                                             |
| 92  | I4 | はい、そうです。一年中いつも暖かいので初めてそんなに(うん)寒いところに、はい                                                                                              |
| 93  | J4 | 凄く暖かいから(はい)凄く寒い                                                                                                                      |
| 94  | I4 | そうです                                                                                                                                 |
| 95  | J4 | 大きな違い、ジャンプですね。(はい) あっ、<そうなんですね。><>                                                                                                   |
| 96  | I4 | <そうです><>                                                                                                                             |
| 97  | J4 | 日本に(はい)行ったことがある経験者の方なので、もし、あの、インドネシア人だったり、他の、なんか、国の外国人の方が(はい)日本に行くってなるとどういう風に日本語が(はい)必要というか、どういう日本語を覚えたら、その、日本の滞在が上手に(うーん)円滑に<上手く><> |
| 98  | I4 | <そうですか。><>                                                                                                                           |
| 99  | J4 | できると思いますか。                                                                                                                           |
| 100 | I4 | そうですね。最初は、あー、挨拶と                                                                                                                     |
| 101 | J4 | 挨拶、うーん                                                                                                                               |
| 102 | I4 | <単語><>                                                                                                                               |
| 103 | J4 | <単語が><>                                                                                                                              |
| 104 | I4 | 単語が一番、あの一、必要だと思います。                                                                                                                  |
| 105 | J4 | 単語ってどういう(あー)単語が大事だと<思いますか。><>                                                                                                        |
| 106 | I4 | <言葉><>、あの一たくさん覚えると(うん)あの、それはいいと思います。                                                                                                 |
| 107 | J4 | 沢山、なんか、たとえば(あー)あまり<その一日本><>...                                                                                                       |
| 108 | I4 | <助詞><>                                                                                                                               |
| 109 | J4 | 助詞、うん                                                                                                                                |
| 110 | I4 | あー、助詞はあまり、あの一、気づかなくて、あの単語が沢山覚えたら(うん、はい)、まっ、それは最初に役に立つと思います。(はい)役に立つと思いました。                                                           |
| 111 | J4 | たとえばどういう言葉                                                                                                                           |
| 112 | I4 | うーん、ご飯食べるとか、をは気づかなくて、まっ、そのぐらい、あー、あの、話す、(はい) あっ、意見を表すことが出来れば、まあ、いいと思います。                                                              |
| 113 | J4 | うーん、ご飯を食べる。                                                                                                                          |
| 114 | I4 | ご飯を食べたいを、                                                                                                                            |
| 115 | J4 | 食べたい                                                                                                                                 |
| 116 | I4 | 'を、あの、言わなくても、(うんうん)相手も、ちゃんと分かる(うんうん)と思います。                                                                                           |
| 117 | J4 | 他はなんかありますか。覚えの方がいい言葉は、                                                                                                               |
| 118 | I4 | うーん、あっ、あの言葉(はい)単語で以外ですか、                                                                                                             |
| 119 | J4 | はい、何でも日本語でなんかこれは大事だなんて思うのがあったら(あー)教えて欲しいんですけど                                                                                        |
| 120 | I4 | うーん、挨拶と(はい)そして、あー、自己紹介も                                                                                                              |
| 121 | J4 | あー、自己紹介、はい                                                                                                                           |

|     |    |                                                                                                                         |
|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 122 | I4 | 自己紹介はやっぱり（うん）大事と思います。（うんうん）自己紹介と、んー、何でしょうね、まあ、研修生としては（はい）きっと、あの、最初は慣れていません。                                             |
| 123 | J4 | はい、そうですね                                                                                                                |
| 124 | I4 | はい、でも時間がたつと（うん）あーまあ、あー慣れている、慣れて来ました（はい）んー、ちょっと、思います。はい。                                                                 |
| 125 | J4 | あつ、でもそうですよね。やっぱり挨拶とか自己紹介<て>{<}、                                                                                         |
| 126 | I4 | <自己紹介はい>{>}                                                                                                             |
| 127 | J4 | '一番最初にすることなので大事ですよ。（はい）なんか他になんかたとえ（はい）研修生の子が研修中に（はい）街に行こうみたいななんかちょっと、遊びに行くみたいな時になったら（あー、はい）どういう言葉がなんか必要、                |
| 128 | I4 | そうですね                                                                                                                   |
| 129 | J4 | 'だと思えますか。                                                                                                               |
| 130 | I4 | そうしましたら、あの一、道を聞く、                                                                                                       |
| 131 | J4 | うん、あー、道を聞く                                                                                                              |
| 132 | I4 | 'と値段（うん）あーの確認（うん）とか、そしてほとんどイスラム教なので（はい）あー、買う買い物の時にたとえば（うん）、あー、食べ物（あー、はい）を買う時にちゃんとポークや豚が入ってるかどうかの確認が必要になると思います（うーん）。はい。  |
| 133 | J4 | あー、そうですよね。（ええ）日本は結構ポークが入ってる（はい）多いですよ。（はい、そう）困りましたか。向こうで                                                                 |
| 134 | I4 | あー、いえ、全然。あの一、食べる前に確認しましたら大丈夫と思います。                                                                                      |
| 135 | J4 | あ、そうなんです。でもレストランとかだったらどうしてるんですか。                                                                                        |
| 136 | I4 | んー、まあ、そこまでは、難しいですね。（あー）はい。まっ、ただ、あの、それは牛肉であれば（うん）、まあ、大丈夫と思います。                                                           |
| 137 | J4 | あー、そうですよね。なんかよく日本のご飯で、食べ物は（はい）あの、油だけでも、<そのポークの>{<}【【                                                                    |
| 138 | I4 | <そうですね>{>}（はい）それはそこまで確認するの、ま<難しいです。はい。>{<}                                                                              |
| 139 | J4 | <そうですね>{>}、難しいですよ。（はい）なんかお菓子にも、                                                                                         |
| 140 | I4 | えっ、お菓子にもですか                                                                                                             |
| 141 | J4 | 'はい、なんか、お菓子にも、あの、ポークのその（はい）なんですか油を使って、お菓子を作ったり日本するんですよ。                                                                 |
| 142 | I4 | そうですか。                                                                                                                  |
| 143 | J4 | はい、なんか、なので、ちょっと、お菓子も危ないところが（おーはい）あってだから凄くあのイスラムの方（はい）は大変なんだろうなと思って、日本て本当に（はい）何でも結構こうポーク豚油とか使うので（うん）ラーメンとかもそうじゃないですか（はい） |
| 144 | I4 | もし野菜ラーメンならどうでしょうか                                                                                                       |
| 145 | J4 | 野菜、うーん、でも、やっぱりスープに、                                                                                                     |
| 146 | I4 | そうですか                                                                                                                   |
| 147 | J4 | 'はい、スープにあの何て言うか、                                                                                                        |
| 148 | I4 | 調味料                                                                                                                     |
| 149 | J4 | '調味料もですし、その（はい）骨を煮込んだり、その（おー）スープを作るのに（はい）豚を使ったりすると思（そうですね）ますね。                                                          |
| 150 | I4 | うん、そうしましたら、多分あの、食べちゃったかもしれませんね。<笑い>                                                                                     |
| 151 | J4 | <笑い>本当ですか。                                                                                                              |
| 152 | I4 | 分かりませんでしたから。                                                                                                            |
| 153 | J4 | 何ラーメンですか。                                                                                                               |
| 154 | I4 | あー、ラーメンではなく、あの一、バーガー、（あ）ステーキ、ステーキ                                                                                       |
| 155 | J4 | ステーキ                                                                                                                    |
| 156 | I4 | あー・・・牛肉のバーガー                                                                                                            |

|     |    |                                                                                          |
|-----|----|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 157 | J4 | 牛肉バーガーですか                                                                                |
| 158 | I4 | 牛肉ですが調味料は分かりませんです。たですね。                                                                  |
| 159 | J4 | あー、そうですよね。調味料ってなんか、あのいろんな動物とかなんかいろんな物を（はい）使っているじゃないですか。                                  |
| 160 | I4 | そうですね                                                                                    |
| 161 | J4 | なんか、お店の人に聞いてもちょっと                                                                        |
| 162 | I4 | はい、そうですね、お店の人にも、あのーたぶん、困ら・・・                                                             |
| 163 | J4 | 困りますよね。（はい）お店の人も（はい）えって言う                                                                |
| 164 | I4 | 多分あの基本の（うん）肉だけ聞けばいいと（ああ）思いますが。                                                           |
| 165 | J4 | ああなるほど。                                                                                  |
| 166 | I4 | ま、個人の意見ですが。                                                                              |
| 167 | J4 | そうなんです。じゃちょっと（はい）その、豚が入ってても大丈夫ですか。そのエキスとして、それもダメですか。                                     |
| 168 | I4 | もし知らないままに（はい）食べたら大丈夫です。                                                                  |
| 169 | J4 | 知らない時は                                                                                   |
| 170 | I4 | はい、知らない時に、はい                                                                             |
| 171 | J4 | あ、そうなんです。じゃあ大丈夫ですね。知らなかったんだからね【【                                                         |
| 172 | I4 | 牛肉でしたからね。                                                                                |
| 173 | J4 | ・・・牛肉バーガーです。                                                                             |
| 174 | I4 | はい、牛肉バーガーです、セーフです                                                                        |
| 175 | J4 | セーフ、そう、そう信じて、（はい）大丈夫                                                                     |
| 176 | I4 | そうですね                                                                                    |
| 177 | J4 | そうですよね、はーそうなんですか、でも                                                                      |
| 178 | I4 | あーそうですか、ほどんど、んー                                                                          |
| 179 | J4 | 私は日本人で（はい）日本で育ってるんですけど、お菓子里にその、豚の油を使ってるという、実は知らなくて、最近まで                                  |
| 180 | I4 | あ、そうですか                                                                                  |
| 181 | J4 | はい、なのでちょっと最近それを聞いて（はい）私は凄くびっくりしました。                                                      |
| 182 | I4 | あー、私も初耳です。                                                                               |
| 183 | J4 | はい、多分日本のその、お米を使ったお菓子あるじゃないですか。（あー、はい）おかきとか、おかきって<知ってますか。><>                              |
| 184 | I4 | <あー分かりません>>>お餅ですか。                                                                       |
| 185 | J4 | なんかあの、お米を使ったなんか揚げた、揚げた、んー揚げたお菓子ですかね。（はい）なんか（ふーん）そういうのがあるんですけども、そういうのは多分油を使うじゃないですか。揚げ物で。 |
| 186 | I4 | そうですか                                                                                    |
| 187 | J4 | それで豚を使ったりするみたいで。はい。私も全然知らなくて食べてたので（んー）びっくりなんですよ。                                         |
| 188 | I4 | はい、でも、飲み物は、                                                                              |
| 189 | J4 | あ飲みのもはさすがに                                                                               |
| 190 | I4 | 'アルコール（はい）だけ注意ですね（あっ）豚の、あー、何ですか、油は（んー）飲み物にはありませんですね。                                     |
| 191 | J4 | ないと思いますね。                                                                                |
| 192 | I4 | ただアルコールには注意しないとイケないです。                                                                   |
| 193 | J4 | あっ、アルコール飲めないですよ。はい）イスラム（教）あっ、じゃあ日本のあの味醂であるじゃないですか。あの味醂とか酒とか（はい）調味料用の酒、                   |
| 194 | I4 | ああ、そうですね・・・                                                                              |
| 195 | J4 | 'もだめなんですか。                                                                               |
| 196 | I4 | うーん、そうです                                                                                 |
| 197 | J4 | あのよく日本食はあの、酒という（うーん）その料理用のお酒があって（はい）、それを使って<よくあの料理するんですよ。><>                             |
| 198 | I4 | <あそうですね。>>>                                                                              |



|     |    |                                       |
|-----|----|---------------------------------------|
| 199 | J4 | んで、それもだめですか。                          |
| 200 | I4 | 実はだめですが【【                             |
| 201 | J4 | あ、そうなんだ。じゃ結構日本食は食べれない                 |
| 202 | I4 | そうですね                                 |
| 203 | J4 | あー、そうなんですね。                           |
| 204 | I4 | ですから知らないときには<笑い>                      |
| 205 | J4 | <笑い>あーそうなんですね。                        |
| 206 | I4 | うん、はい。                                |
| 207 | J4 | あーそうか。結構あじゃあ、ちょっと時間がないもので、ありがとうございます。 |
| 208 | I4 | ありがとうございました。はい。                       |

## (会話5)

| 時間：<br>12分45秒 |    | 話者記号<br>J1：30代日本語母語話者<br>I55：30代インドネシア学習者                                                              |
|---------------|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 発話<br>文<br>番号 | 話者 | 発 話 内 容                                                                                                |
| 1             | J1 | はい、あ、じゃ、すみません、え、じゃあ、自己紹介というか、お名前を教えてくださいてもいいですか。                                                       |
| 2             | I5 | はい、はじめまして。[人名(M)]と申します。                                                                                |
| 3             | J1 | [人名(M)]さん。                                                                                             |
| 4             | I5 | はい。                                                                                                    |
| 5             | J1 | あ、なんか、私ちょっと、[人名(M)]さんとか(はい)、[人名(D)]さんとか、ちょっと英語っぽい名前の人が多いですね。それはなんかその、最近のインドネシアのなんか流行りなんですか。            |
| 6             | I5 | そう、そうなんです。(へー)今、なんか子供たちは、なんか英語っぽい名前<笑い>,...                                                            |
| 7             | J1 | [人名(M)]さんと、[人名(D)]さんと、あとね                                                                              |
| 8             | I5 | [人名(M)]とか、えん、とか、えっとー                                                                                   |
| 9             | J1 | えっと、[人名(T)]さん                                                                                          |
| 10            | I5 | [人名(T)]さんとか、もすごく流行っています                                                                                |
| 11            | J1 | へーでも(はい)、やっぱなんかその、覚えやすいからね、                                                                            |
| 12            | I5 | そう、そうですね、なんか国際名前                                                                                       |
| 13            | J1 | うん、そうそうそう(はい)、だから、私の名前もあんまり覚えてもらえないんですよ、人名(W)って。だから、あの、子どもには(はい)ちょっとどこの国でも(はい)通じる(はい)名前が、[人名(M)]は日本でも、 |
| 14            | I5 | はい、日本にも                                                                                                |
| 15            | J1 | 日本の名前でもあるのすごいわかりやすいですね。                                                                                |
| 16            | I5 | そうですね。                                                                                                 |
| 17            | J1 | へーえっと[人名(M)]さんはあのもともと[地名2]の人ですか。                                                                       |
| 18            | I5 | いや私は、あの、えっと、[地名2]から2時間(うん)、で、出身は[地名10]という町。                                                            |
| 19            | J1 | スマラン？                                                                                                  |
| 20            | I5 | [地名10]。                                                                                                |
| 21            | J1 | [地名10]。                                                                                                |
| 22            | I5 | はい(へー)、2時間。[地名2]からバスで2時間。                                                                              |
| 23            | J1 | 2時間くらい、あじゃえっと、学部の時も[U大学]だったんですか。                                                                       |
| 24            | I5 | はい、そうなんです、はい。                                                                                          |
| 25            | J1 | じゃあ、えともう、このまま(はい)学部から(はい)日本語やっていたということ                                                                 |
| 26            | I5 | そうです                                                                                                   |
| 27            | J1 | あー日本に行かれたことはあるんですか                                                                                     |
| 28            | I5 | はい                                                                                                     |
| 29            | J1 | おー、どこに？                                                                                                |
| 30            | I5 | 大阪<笑い>                                                                                                 |
| 31            | J1 | えーそれはなんか留学で？                                                                                           |
| 32            | I5 | いえ、仕事で(うん)なんか3回目日本に行って                                                                                 |
| 33            | J1 | 3回も                                                                                                    |
| 34            | I5 | はい、3回                                                                                                  |
| 35            | J1 | へー、えじゃ3回とも大阪                                                                                           |
| 36            | I5 | 大阪(あー)、でもなんかみ短い滞在で、一週間                                                                                 |
| 37            | J1 | 一週間とか                                                                                                  |
| 38            | I5 | さ三週間、とか                                                                                                |
| 39            | J1 | あー、へー                                                                                                  |

|    |    |                                                                                                                                                                                                                                                          |
|----|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 40 | I5 | うん、それぐらい                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 41 | J1 | じゃあ、東京にはまだ,,                                                                                                                                                                                                                                             |
| 42 | I5 | まだ、遠いですね、大阪から（うーん）もし新幹線で【【                                                                                                                                                                                                                               |
| 45 | J1 | そうね、一時間半、二時間くらいですかね。                                                                                                                                                                                                                                     |
| 46 | I5 | でも高い。＜笑い＞                                                                                                                                                                                                                                                |
| 47 | J1 | あー、そうですね。私、東京なんで（あー）今度東京来るときは是非教えてください。                                                                                                                                                                                                                  |
| 48 | I5 | あ、はい、ありがとうございます。                                                                                                                                                                                                                                         |
| 49 | J1 | へーえ、じゃ、ちょっと聞きたいんですけどね、もしね、[人名(M)]さんの（はい）友だちで（はい）日本語がわからない人がいたとします（うん）。うん、でその人に、あの一その人が日本に仕事で行くことになりました。で、あの一その人は全く日本語がわからないんですけど（はい）、[人名(M)]さんに、あの、10個だけ、ね、覚えられるだけ、ちょっと日本語教えてほしい。で、便利な、日本に行って（はい）、これを覚えて行ったら便利だよーって思う（うん）日本語を教えてくださいって言われた時に（はい）何を教えますか。 |
| 50 | I5 | 挨拶（うん）。「こんにちは」。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 51 | J1 | 「こんにちは」。                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 52 | I5 | 「私の名前は（うん）なにになにです。」                                                                                                                                                                                                                                      |
| 53 | J1 | 「私の名前は[人名(M)]です。」とかね。                                                                                                                                                                                                                                    |
| 54 | I5 | はい、「インドネシアから来ました。」                                                                                                                                                                                                                                       |
| 55 | J1 | 「インドネシアから来ました。」                                                                                                                                                                                                                                          |
| 56 | I5 | えとーあの一「仕事は？えっと会社員です。」                                                                                                                                                                                                                                    |
| 57 | J1 | あー「仕事は会社員です。」                                                                                                                                                                                                                                            |
| 58 | I5 | そして、えー、うーん、趣味（あー）、はい「趣味は読書」                                                                                                                                                                                                                              |
| 59 | J1 | 「趣味は読書です。」（はい）うんうんうん                                                                                                                                                                                                                                     |
| 60 | I5 | えっとそして、えー日本語のえ、勉強を（うん）始めたきっかけ。は、（あー）えーはい、そして、あと4つですか。えーと                                                                                                                                                                                                 |
| 61 | J1 | なんか[人名(M)]さんが日本に行って、あ、この言葉を覚えててすごい役に立ったなという感じでもいいですよ                                                                                                                                                                                                     |
| 62 | I5 | うーん                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 63 | J1 | よく使うなーとか                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 64 | I5 | よく使う、ですね、んと「すみません」                                                                                                                                                                                                                                       |
| 65 | J1 | あー「すみません」                                                                                                                                                                                                                                                |
| 66 | I5 | 「すみません」そしてー、えとーうーんたとえばね、駅に、えー駅に、なんか駅に、え「私は東京に行きたいっていう...                                                                                                                                                                                                 |
| 67 | J1 | あ、道を聞く？あー東京駅に行きたい                                                                                                                                                                                                                                        |
| 68 | I5 | 道を聞くときに、はい、東京駅に行きたいですか,,                                                                                                                                                                                                                                 |
| 69 | J1 | どうやっていったらいいですかみたいな（はい）、ああ                                                                                                                                                                                                                                |
| 70 | I5 | そして、「ありがとうございます」。                                                                                                                                                                                                                                        |
| 71 | J1 | あー「ありがとうございます。」                                                                                                                                                                                                                                          |
| 72 | I5 | そしてもうひとつは、「よろしくおねがいします。」                                                                                                                                                                                                                                 |
| 73 | J1 | あーよろしくおねがいします、え、やっぱり「よろしくおねがいします」は,,                                                                                                                                                                                                                     |
| 74 | I5 | 注文する時                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 75 | J1 | 大事,,                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 76 | I5 | はい、で、まあえーと人と（うん）なんか紹介する時                                                                                                                                                                                                                                 |
| 77 | I5 | あーあの挨拶の時。                                                                                                                                                                                                                                                |
| 78 | J1 | はい、挨拶の時                                                                                                                                                                                                                                                  |
| 79 | J1 | それはあの一、3回おお大阪に行ったじゃないですか。（はい）その時にやっぱりよく使いましたか。                                                                                                                                                                                                           |
| 80 | I5 | はい、（あー）よく使いました。                                                                                                                                                                                                                                          |
| 81 | J1 | その前は？その、インドネシアにいて、日本語勉強した時は「よろしくおねがいします」は（うーん）、あの一使い、よく,,                                                                                                                                                                                                |
| 82 | I5 | よく、はい、よく使いました。                                                                                                                                                                                                                                           |

|     |    |                                                                                                                                                       |
|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 83  | J1 | 使ってました、会話の練習とかにも (はい) ああ出てきました？                                                                                                                       |
| 84  | I5 | はい、出てきました                                                                                                                                             |
| 85  | J1 | あーじゃあ、その「よろしくおねがいします」が日本人にとって結構大切なのは、                                                                                                                 |
| 86  | I5 | はい、そう、そうですね                                                                                                                                           |
| 87  | J1 | けっこう知ってたんですね                                                                                                                                          |
| 88  | I5 | そうそう                                                                                                                                                  |
| 89  | J1 | あー、でもインドネシア語にはないですよ。                                                                                                                                  |
| 90  | I5 | インドネシア語、うん、ない。                                                                                                                                        |
| 91  | J1 | 私、この前 <i>balai bahasa</i> の先生に会って、紹介されて、いやすみません「よろしくおねがいしますってインドネシア語でなんて言うんですか」って聞いて、「インドネシア語でないです」(はいはい) って言われて。なんか、すごくて、                            |
| 92  | I5 | そう、そうですね、気持ち                                                                                                                                          |
| 93  | J1 | 気持ち悪い感じ、言いたくてしょうがないですね                                                                                                                                |
| 94  | I5 | そうそうそう、そうですね                                                                                                                                          |
| 95  | J1 | やっぱりそうなんだ (はい)、でもその気持ちはわかりますかね、インドネシアの人にもわかりますかね、そのよろしくおねがいしますっていう気持ちは                                                                                |
| 96  | I5 | 気持ちは、わかりますけど (うん)、なんかでもえっと、なんか <i>bahasa</i> って通訳するとなかなか (あー) 適当な訳は                                                                                   |
| 97  | J1 | ない                                                                                                                                                    |
| 98  | I5 | 翻訳はない                                                                                                                                                 |
| 99  | J1 | なるほど、へーあ、でもそれはおもしろいな。なんかその今の、いろんな人に聞いてるんですけど、やっぱり日本に行ったことある人は「何が大事ですか」って言うて出て来るんですけど、行ったことない人からはあんまり出てこないから、(うん) やっぱりそれって、ね、日本に行くとやっぱりよく使うから (そう) 耳に、 |
| 100 | I5 | よく耳に、はい慣れてきました                                                                                                                                        |
| 101 | J1 | あーなるほど、でもやっぱり、大阪だったら大阪独特のとかもあるかな。まあ大阪でも「よろしくおねがいします」ですかね。                                                                                             |
| 102 | I5 | 「よろしくおねがいします」                                                                                                                                         |
| 103 | J1 | じゃあ、その仕事っていうのは通訳か何か                                                                                                                                   |
| 104 | I5 | いや、経理担当                                                                                                                                               |
| 105 | J1 | 経理？                                                                                                                                                   |
| 106 | I5 | 全然、なんか<笑い>                                                                                                                                            |
| 107 | J1 | あ、その、大学院に入る前に？                                                                                                                                        |
| 108 | I5 | いや、大学であの日本語専門してて、職場で経理担当がいらないみたい。だいたいみんなえと英語しか (はあ) それで、まあ、日本語が                                                                                       |
| 109 | J1 | じゃあ、今も？                                                                                                                                               |
| 110 | I5 | 今も経理担当 (あーじゃ)。今、働きながら                                                                                                                                 |
| 111 | J1 | へー、あじゃ結構、この人たちみんなそうなんですか                                                                                                                              |
| 112 | I5 | そうそうですね、働きながら                                                                                                                                         |
| 113 | J1 | そうなんですか                                                                                                                                               |
| 114 | I5 | [人名(SR)]さんみたい                                                                                                                                         |
| 115 | J1 | あじゃあ、みんなまだ 22 歳とかの若い人たちだと思ったんですけど (そうそう) けっこうじゃあ年齢上の人も多いんですね                                                                                          |
| 116 | I5 | そうですね                                                                                                                                                 |
| 117 | J1 | へーあそうなんだ、じゃ金曜日は休みなんですか？                                                                                                                               |
| 118 | I5 | 金曜日は休み                                                                                                                                                |
| 119 | J1 | あー、授業は金曜日だけ？大学院は                                                                                                                                      |
| 120 | I5 | 金曜日と土曜日、                                                                                                                                              |
| 121 | J1 | だからいっしょにできるんですね                                                                                                                                       |
| 122 | I5 | はい、だから一緒に...                                                                                                                                          |
| 123 | J1 | あーなるほど、じゃあこれからじゃその日本の会社なんですか。それも                                                                                                                      |

|     |    |                                                                                     |
|-----|----|-------------------------------------------------------------------------------------|
| 124 | I5 | そうなんです、日本の会社です                                                                      |
| 125 | J1 | で、本社が大阪？                                                                            |
| 126 | I5 | 本社が、本社は大阪です                                                                         |
| 127 | J1 | あー、あそういうこと                                                                          |
| 128 | I5 | まだ新しい                                                                               |
| 129 | J1 | な、なん何系の会社なんですか                                                                      |
| 130 | I5 | えっとー大阪では不動産                                                                         |
| 131 | J1 | へー、で、インドネシアでは...                                                                    |
| 132 | I5 | インドネシアでは、まあ不動産と留学エージェント                                                             |
| 133 | J1 | へえ、留学？                                                                              |
| 134 | I5 | 留学、そしてつーあ、マネージメントコンサルト                                                              |
| 135 | J1 | はあ、あじゃあ、結構そのインドネシアから日本に学生を送る？                                                       |
| 136 | I5 | うん、そうそう                                                                             |
| 137 | J1 | 逆は有るんですか                                                                            |
| 138 | I5 | あ日本からはない。インドネシアから                                                                   |
| 139 | J1 | へーあーでも最近インドネシア語勉強したい人って増えてると思いますよ（はい、そうそう）、日本でも。だから逆もね。これから日本人の留学生も（うん）増えると思いますけどね。 |
| 140 | I5 | うん、そうですね、                                                                           |
| 141 | J1 | あそうなんですか                                                                            |
| 142 | I5 | 前は慶応大学（うん）から、あの                                                                     |
| 143 | J1 | 学生を？                                                                                |
| 144 | I5 | うちの事務所は一年間かな（あー）、インターンシップ                                                           |
| 145 | J1 | あ、（はい）へー、そうなんですか。                                                                   |
| 146 | I5 | インターンシップしました                                                                        |
| 147 | J1 | へーあ、なるほどね、あ、時間大丈夫かな、あ、やばい、もう時間ですかね、え、じゃちょっと連絡先を、・・・のでぜひ                             |
| 148 | I5 | あ、残念ですけど、名刺持ってない                                                                    |
| 149 | J1 | そうなんですよ、ごめんなさい。私も名刺持って来ればよかった、ごめんなさい。ほんとに。やっぱりあれですね、あの仕事している人は「名刺が」ってやっぱり<笑い>       |
| 150 | I5 | 「名刺が」<笑い>                                                                           |
| 151 | J1 | ちょっとじゃあ私も、すみません、じゃ、私の電話番号とか書いておくので、facebookも、でも                                     |
| 152 | I5 | あ、facebook やっています。                                                                  |
| 153 | J1 | やってます。たぶん[人名(W)]で出てくるとおもうんですけど。たくさんいるから。                                            |
| 154 | I5 | あーはい、ローマ字で？                                                                         |
| 155 | J1 | えーと、ローマ字でも出てきますし、メールアドレスでも出てくる、出てくるので                                               |
| 156 | I5 | あ、わかりました。                                                                           |
| 157 | J1 | (人名(W))ドットまゆこでもなんかおもしろいですね、いろんな人がいて、大学院。                                            |
| 158 | I5 | そうそうですね。                                                                            |
| 159 | J1 | じゃああの日本の電話番号も書いとくので、もし東京に来るときは（はい）連絡ください。                                           |
| 160 | I5 | はい、ありがとうございます                                                                       |
| 161 | J1 | すみません、ありがとうございます。忙しいのに。（いえいえいえいえ）じゃ、授業がんばってください。                                    |
| 162 | I5 | はい、頑張ります。                                                                           |
| 163 | J1 | ありがとうございます                                                                          |
| 164 | I5 | じゃ、失礼します。                                                                           |
| 165 | J1 | はい、すみません                                                                            |

## 各章と既発表論文との関係

### 1. 本論 4 章

李舜炯(2015. 6.) 「対人関係によるあいづち表現の使用傾向の違い—シラバス構築の一助として—」『日本語研究』35、pp. 179-192、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会. (査読付き)

### 2. 本論 5 章

李舜炯(2015. 11.) 「対話相手との年齢差・性差に応じた聞き手言語行動の使用実態」『日本学報』105、pp. 147-164、韓国日本学会. (査読付き)

### 3. 本論 6 章

李舜炯(2015. 11.) 「対人関係に応じた『共話的反応の型』の使い分け」『日語日文学研究(日本語学・日本語教育学篇)』95-1pp. 223-242、韓国日語日文学会. (査読付き)

### 4. 本論 7 章

- 1) 李舜炯(2014. 6.) 「韓国語日本語学習者の聞き手言語行動の使用機能」『日本語教育学会春季大予稿集』 pp. 217-22、日本語教育学会、口頭発表. (審査有)
- 2) 李舜炯(2014. 8.) 「韓国語母語日本語学習者の聞き手言語行動—段階別聞き手言語行動のシラバス設計に向けて—」『日語日文学』63、pp. 75-92、大韓日語日文学会. (査読付き)

### 5. 本論 8 章

- 1) 李舜炯(2014. 7.) 「韓国人日本語学習者の聞き手言語行動の運用における問題点」2014 SYDNEY-ICJLE日本語教育国際研究大会. ポスター発表.
- 2) 李舜炯(2014. 8.) 「韓国人日本語学習者の聞き手言語行動の運用における問題点とその背景」『東北亜文化研究』34、pp. 433-454、東北アジア文化学会. (査読付き)

### 6. 本論 9 章

李舜炯(2016. 5.) 「韓国人日本語学習者の習得レベル別にみた『共話的反応の型』の使用実態」『日本語教育学会春季大予稿集』pp. 201-206、日本語教育学会. 口頭発表. (審査有)

7. 本論 10 章

李舜炯(2015. 5.) 「自然談話における『共話』の展開形式と機能」『日本語学会 2015年度春季大会予稿集』 pp. 97-104、日本語学会. 口頭発表. (審査有)

8. 本論 11 章

李舜炯・沼里聡・渡辺真由子・船根明日美・山崎史輝・富田あかね(2015. 6.) 「日本語母語話者とインドネシア人日本語学習者の異文化間コミュニケーションにおける「共話」の運用」『日本語研究』35、pp. 99-112、首都大学東京・東京都立大学 日本語・日本語教育研究会. (査読付き)

9. 本論 12 章

李舜炯・Dianni Rinda(2015. 11.) 「日・尼接触場面における談話展開を支える聞き手言語行動」『ジャーナル日本語』7-2、pp. 16-30、インドネシア日本語教育学会. (査読付き)

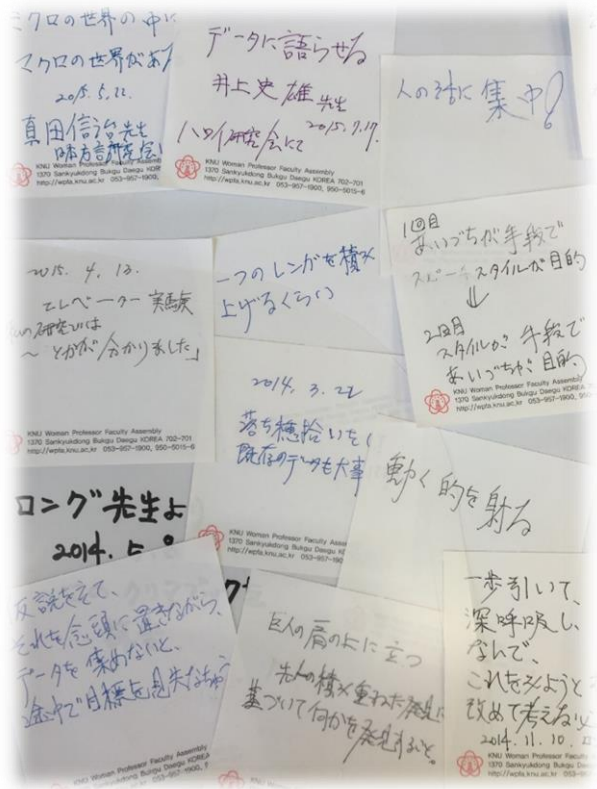
## 謝辞

首都大学東京大学院の博士後期課程に入学してから2年半の年月が経過した。「アジア人材育成基金」という経済的な支援に恵まれた研生活であったが、その分、博士課程3年で必ず博士論文を提出しなければならないという負担も大きかった。幸いなことに私が所属した日本語教育学教室には学生の研究のために情熱を燃やす西郡仁朗先生、ダニエル・ロング先生、神田明延先生、浅川哲也先生、長谷川守寿先生、奥野由紀子先生がいらした。また、「顔色悪いけど大丈夫?」「なんか手伝うことあったら…」と心配の声をかけてくれた助教の劉志偉さん、小口悠紀子さんと、素敵な仲間たちがいた。そういう方々の関心と応援のおかげで本研究を博士論文として提出することができた。

末筆でありながら感謝の気持ちを記して残す。

まず、指導教官であり、本論文の主査を務めていただいたダニエル・ロング先生に感謝したい。本研究の内容は、すでに学会誌に投稿・掲載・発表されたものがほとんどである。その陰には「研究はひとつのレンガを積み上げるくらいのもんだ」、「研究発表と投稿を重ねていけばそれが結果的には博論の章立てになるんだ」というロング先生のご指導があった。週一の博士論文指導とゼミの授業で研究進捗状況を報告し、コメントをいただき、議論しながら積み上げてきた結果が本研究になった。入学当初はコミュニケーションに役立つ日本語教育がやりたいという漠然とした研究計画で、あいつち表現を中心とした「聞き手言語行動」はそのひとつの章としか考えていなかった。しかし、面白いテーマだと関心を持っていただき、日本語特有の特徴として提唱されていた「共話」が日本語独特の現象ではないことに気づき、結果的に「聞き手言語行動」という論題で博士論文がまとめられたのは先生のご指導のおかげである。

投稿した論文が通らなかった時は、長時間に渡り丁寧に指導くださり、研究に関する疑問や質問にはいつも真剣に対応していただき、「この論文読んでますか」、「日本





語学、再来月の特集は『言いさし』など、つねに研究の情報と動向を教えていただき、論文の投稿が決まったという報告には「よかった」と喜んでくださった。聞き手の言語行動が研究テーマでありながら、人の話に集中できず自分の言いたいことばかりしゃべる私を幸抱強く見守ってくださった。先生の信頼と励ましがなければ、こうして博士論文を執筆することはできなかった。ロング先生に主査・指導教官を引き受けていただいたことを心から幸せに思う。

また、本論文の副査を務めてくださった奥野由紀子先生に感謝したい。奥野先生の授業に参加し、日本語教育のためのコミュニケーションを考える機会を得た。授業中に話題になった「言い訳」について授業参加者同士で共同研究を進め、先生からは会話の質的分析の基本的な手法を教わった。また、本研究では公開されている会話データを使用しているが、BTSJの資料と上村コーパスの資料は先生のおかげで入手できた。論文の下書きが完成した後、学務でお忙しいなか全章にわたり目を通していただいた。先生の優しいご指導のおかげで論文の完成度を高めることができた。

さらに、本論文の副査を務めてくださった西尾純二先生にも感謝したい。学期中のお忙しいなか遠方からいらっしゃり副査を務めていただき恐縮するところである。西尾先生には本章の内容につき貴重なコメントをいただいた。多様性の問題を日本語教育に生かそうとする挑みに深く共感していただき、先行研究の扱い、分析方法・考察の仕方について教わった。そのおかげで議論を広げていく自信が持てた。

また、私がロング先生のもとで修学の機会を得るように橋渡しをしてくださった中井精一先生にも感謝したい。10年ほど前、世界優秀学者招へいプログラムで韓国の慶北大学に半年間いらしたことがご縁で、科研の共同研究員、共同研究への誘いなど継続的な支援をいただいた。海外でも日本語の方言で授業と講演をされていた先生からは、日本語がひとつではないこと、多様性があることを教わった。いつも博士論文が完成できるように温かいことばで励ましてくださった。厳しいけれど心優しい先生にこれを機に感謝の気持ちを伝えたい。

そして、韓国の慶北大学の元指導教官である高正道先生に感謝したい。2年半前、日本語教育を勉強するチャンスに恵まれたという話をした時、全面的な支持をしてくださった。ご本人のもとで博士学位を取った弟子がまた違う学位に挑戦するというのに、快く、あのロング先生なら絶対、期間内に博士論文が書けるように指導してくださるはずだと、後押ししてくださった。博士論文を提出する今、先生のおっしゃたことは正しかったような気がする。

それから、この首都大学東京の留学生研究支援のアカデミックライティング支援員の福

田裕之さん、渡辺真由子さんには日本語のネイティブチェックで大変お世話になった。また、日本語教育学教室の先輩、後輩の皆さんには、公私にわたって私の研究活動を支えていただいた。あいづちや共話の判定でご協力してくださった井上正子さん、斎藤敬太さん、沼里聡さん、水谷梢太さん、柏倉裕美さん、渡辺真由子さんに感謝したい。人文科学研究科の外国人留学生への日本語論文作成指導プログラムの一環として実施されたバウチャー制度のおかげで井手剛平さん、小澤貴之さん、武内博子さん、花井愛さん、志喜屋カロリーナさんには日本語のチェックや資料の整理でご協力をいただいた。また、ロングゼミの後輩の新垣李加子さん、甲賀真広さん、崔スンジンさんには誤字脱字の最終チェックのお願いにご協力いただいた。

そして、博士論文作成スペースで共通の目的のもとで、走ってきた精神的支えになった渡辺真由子さん、張鋭さん、趙レイブンさんにも感謝したい。彼女たちと共に過ごす楽しい時間があったからこそ私は今こうして博士論文の提出ができたと思う。特に、この4月からモンゴルのウランバートル大学の先生になった渡辺真由子さんには、本研究の13章のコラム教材例の作成の際、より自然な会話文になるように最初から最後まで度重なるチェックをしていただいた。

教室の皆さんのご協力がなければ、私はこうして博士論文を完成させることはできなかった。心より感謝する。

最後に、博士論文執筆期間中、私の心身の健康を心配してくれた家族に感謝したい。どんな時も変わらない姿勢で私を支え続けてくれた両親、夫、息子に感謝したい。家族のお祈りと変わらぬ信頼のおかげで私は研究に専念することができた。特に、同じ研究者の道を歩んでいる夫には感謝の気持ちで胸がいっぱいである。2年半前、「いい年をして」という周りの反対に、「一生勉強一生青春」ということばで私の背中を押し「いい年かもしれないが素晴らしい研究の機会に恵まれたあなたがかえって羨ましい」と応援してくれた。夫には数えきれないほど励まされてきたが、博士論文提出の今、思い浮かぶのは「春先に咲く桜もきれいだ。でも、年の最後に咲く菊は、長く咲いて香りもいい」ということばである。こうした厚い信頼のおかげで博士論文提出の日を迎えることができたと思う。

本研究の対象のひとつである共話は2人以上の話者が共同でひとつの発話をつくりあげることでポジティブ・ポライトネスの発話意図を持つ。私の博士論文はここに書いた数多くの方々の支えによって作り上げることができた共同作業の産物であると思う。こうした貴重な出会いに恵まれたことを、心から幸せだと感じている。